第６回資料３
令和５年２月21日
男女平等推進審議会資料

最終校

武　蔵　野　市
男女平等に関する意識調査
報告書

令和5(2023)年３月

武　蔵　野　市

目　次

第１章　調査概要 ･･ 1

1　調査の目的 ･･ 3
2　調査の設計 ･･ 3
3　回収状況 ･･ 3
4　調査の内容 ･･ 3
5　調査結果を見る上での注意事項 ･･ 4
6　比較した調査の概要 ･･ 5
7　主な調査結果 ･･ 6

第２章　調査結果 ･･ 9

1　あなた自身について ･･ 11
（１）自認する性別 ･･ 11
（２）年齢 ･･ 11
（３）職業 ･･ 12
（４）結婚の有無 ･･ 12
（４-１）共働きの状況 ･･ 13
（５）世帯構成 ･･ 13
2　日頃の生活について ･･ 14
（１）育児・介護・家事について ･･ 14
（２）職業以外の活動について ･･ 23
（３）参加できていない理由 ･･ 24
3　ワーク・ライフ・バランスについて ･･････････････････････････････････････ 27
（１）性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと ･･････････････････ 27
（２）仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（理想と現実） ･･････････････ 31
（３）理想の生活に近づくための考え ･･････････････････････････････････････ 35
（４）男性が家事等に参加するために必要なこと ･･････････････････････････ 36
（５）職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの･････････ 40
4　男女平等意識について ･･ 43
（１）男女の地位の平等感 ･･ 43
（２）男女平等に関する考え方 ･･ 58
（３）男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み ･･････････････ 64
（４）性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと ･･････････････････ 68
5　コロナ禍での行動変化について ･･ 70
（１）コロナ禍での生活や行動の変化 ･･････････････････････････････････････ 70

６　性の多様性について ･･ 77
（１）自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどの悩みの有無･････････････････ 77
（２）性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策 ･････････････････････ 78
７　暴力やハラスメントについて ･･ 80
（１）暴力にあたると思うことと被害の経験 ･･････････････････････････････････････ 80
（２）ハラスメントを受けた経験 ･･ 112
（３）受けた暴力やハラスメントについて相談をしたか ･･････････････････････････････ 114
（４）相談しなかった理由 ･･ 115
（５）知っている相談窓口 ･･ 117
（６）配偶者間での暴力（ＤＶ）やデートＤＶの対策や防止のために必要な施策･････････ 119
８　市の施策について ･･ 122
（１）知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み ･･････････････････････････････ 122
（２）男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと ･･････････････････････････････ 131
（３）自由意見 ･･ 134

第３章　調査票及び集計結果 ･･ 139

第１章　調査概要

１　調査の目的

男女平等に関する市民の意識を把握し、武蔵野市第五次男女平等推進計画の策定のための基礎資料を得ることを目的とする。

２　調査の設計

（１）調査対象者：武蔵野市内在住の満18歳以上の市民　2,000人
（２）抽 出 方 法：住民基本台帳からの無作為抽出
（３）調 査 方 法：郵送配布-郵送・ＷＥＢ回収併用
（４）調 査 期 間：令和４(2022)年８月31日（水）から９月21日（水）まで

３　回収状況

（１）配　布　数：2,000人
（２）有効回収数：908人（女性：534人　男性：364人　それ以外：１人　回答しない：４人　無回答：５人）
（３）有効回収率：45.4%（前回調査：35.6%）
（４）回収方法内訳：郵送　578人（63.7%）、WEB 330人（36.3%）

４　調査の内容

ブロック	質問項目　★印は今回調査で新たに設けた項目			
あなた自身について	F1	自認する性別		
	F2	年齢		
	F3	職業		
	F4	結婚の有無		
	F4-1	共働きの状況		★
	F5	世帯構成		
日頃の生活について	問１	【ア　育児】	しているか	
			１日の平均時間	
		【イ　介護】	しているか	
			１日の平均時間	
		【ウ　家事】	しているか	
			１日の平均時間	
	問２	職業以外の活動について		
	問２-１	参加できていない理由		
ワーク･ライフ･バランスについて	問３	性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと		
	問４	仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（理想）		
		仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（現実）		
	問４-１	理想の生活に近づくための考え		★
	問５	男性が家事等に参加するために必要なこと		
	問６	職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの		★
男女平等意識について	問７	男女の地位の平等感		
	問８	男女平等に関する考え方		
	問９	男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み		
	問10	性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと		
コロナ禍での行動変化について	問11	コロナ禍での生活や行動の変化		★

ブロック	質問項目　★印は今回調査で新たに設けた項目		
性の多様性について	問 12	自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどの悩みの有無	
	問 13	性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策	★
暴力やハラスメントについて	問 14	暴力にあたると思うことと被害の経験	
	問 15	ハラスメントを受けた経験	★
	問 16	受けた暴力やハラスメントについて相談をしたか	
	問 16-1	相談しなかった理由	
	問 17	知っている相談窓口	
	問 18	配偶者間での暴力（DV）やデートDVの対策や防止のために必要な施策	
市の施策について	問 19	知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み	
	問 20	男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと	
	問 21	自由意見	

５　調査結果を見る上での注意事項

①本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数のこと。

②性別、年代別などは、無回答があるため合計が全体と一致しないことがある。また、性別が「それ以外」・「回答しない」及び「無回答」の回答者はごく少数であるため全体に含め、グラフでの表記はしていない。

③第２章及び第３章で取り扱う「女性」は、「あなた自身について」の項目及び「経年比較」、「類似調査との比較」においては性別クロス集計結果を掲載するため年齢無回答者２名を含みｎを534とし、それ以外の調査結果はすべて性・年代別クロス集計結果を掲載するため、年齢無回答者２名を除きｎを532とする。（「男性」の性別無回答者はいないため同数）

④百分率（％）の計算は、小数点以下第２位を四捨五入し、小数点以下第１位までを表示した。したがって、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。

⑤複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。

⑥本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

⑦回答者数が 30 未満の場合、統計上の優位性が低いため、傾向を見るにとどめ、本文中ではふれていない場合がある。

⑧本文中では、調査結果の数値は「％」、比較によるパーセントの差は「ポイント」という単位で表記をしている。

⑨統計数値の傾向をまとめて表現する場合には、おおむね以下のとおりとした。

例	表現
17.0～19.9％	約２割
20.0～20.9％	２割
21.0～22.9％	２割を超える
23.0～26.9％	２割台半ば
27.0～29.9％	約３割

６　比較した調査の概要

本調査の分析にあたり、比較・引用した調査等は以下のとおりである。

（１）武蔵野市：武蔵野市男女平等に関する意識調査（平成29(2017)年）
調査対象：武蔵野市内在住の満18歳以上の市民　1,500人
調査期間：平成29(2017)年10月２日から10月16日まで
有効回収数（率）：534人（35.6%）
本報告書では「平成29年調査」と表記している。

（２）武蔵野市：武蔵野市男女共同参画に関する意識調査（平成24(2012)年）
調査対象：武蔵野市内在住の満18歳以上の市民　1,500人
調査期間：平成24(2012)年11月30日から12月14日まで
有効回収数（率）：485人（32.3%）
本報告書では「平成24年調査」と表記している。

（３）武蔵野市：武蔵野市男女共同参画に関する意識調査（平成20(2008)年）
調査対象：武蔵野市内在住の満20歳以上の市民　1,500人
調査期間：平成20(2008)年７月17日から７月28日まで
有効回収数（率）：546人（36.4%）
本報告書では「平成20年調査」と表記している。

（４）内 閣 府：男女共同参画社会に関する世論調査（令和元(2019)年）
調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有するもの　5,000人
調査期間：令和元(2019)年９月５日から９月22日まで
有効回収数（率）：2,645人（52.9%）
本報告書では「国調査」と表記している場合がある。

（５）東 京 都：男女平等参画に関する世論調査（令和２(2020)年）
調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人　4,000人
調査期間：令和２(2020)年11月13日から12月13日まで
有効回収数（率）：1,990人（49.8%）
本報告書では「東京都調査」と表記している場合がある。

７　主な調査結果

（１）日頃の生活について

育児への従事の状況について、「している」と答えた人は女性が男性を6.6ポイント上回っている。育児への従事の平均時間を性別でみると、女性は「８時間以上」が27.1％と最も多い。男性は「１時間未満」と「１～２時間未満」がともに29.9％と最も多い。

介護への従事の状況について、「している」と答えた人は女性が男性を4.0ポイント上回っている。

家事への従事の状況について、「している」と答えた人は女性が男性を11.8ポイント上回っている。家事への従事の平均時間を性別でみると、女性は「２～３時間未満」が26.0％と最も多い。男性は「１時間未満」が41.8％と最も多い。

職業以外の活動について、女性は「参加している」が35.2％と最も多く、男性は「参加するつもりがない」が38.5％と最も多い。「参加している」では、女性が男性を6.1ポイント上回っている。

参加できていない理由は、男女ともに「仕事が忙しいから」（女性45.3％、男性58.3％）が最も多く、男性が女性を13.0ポイント上回っている。

（２）ワーク・ライフ・バランスについて

性別にかかわらず働きやすくなるために必要だと思うことは、男女ともに「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」（女性66.0％、男性58.8％）という回答が最も多く、女性が男性を7.2ポイント上回っている。

仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度は、男女ともに「「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて」（女性38.7％、男性34.3％）が最も多い一方、現実の優先度は、女性は「「家庭生活」を優先」が26.1％と最も多く、男性は「「仕事」を優先」が34.1％と最も多い。

男性が家事等に参加するために必要なことは、男女ともに「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」（女性58.1％、男性56.9％）が最も多い。

職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは、男女ともに「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」（女性61.8％、男性42.6％）が最も多く、女性が男性を19.2ポイント上回っている。

（３）男女平等意識について

男女の地位の平等感は、「男女の地位は平等になっている」という回答が最も多いのは「学校教育の場で」（43.6％）である。次いで、「地域社会（町会、自治会など）で」（25.1％）、「家庭生活の場で」（24.2％）、「法律や制度の上で」（22.8％）となっている。

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した＜男性優遇＞の回答は、「政治の場で」（81.7％）、「社会通念・習慣・しきたりなどで」（80.0％）、「社会全体で」（76.5％）、「職場で」（61.2％）、「法律や制度の上で」（52.1％）で過半数である。

男女平等に関する考え方は、全体で＜反対意見＞が多いのは、「夫は働き、妻は家庭を守るべきである」（65.8％）と「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」（53.7％）となっている。一方、＜賛成意見＞が多いのは、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」（67.5％）と「男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」（58.2％）となっている。

男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組みは、男女ともに「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」（女性76.5%、男性67.3%）が最も多い。

性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なことは、男女ともに「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」（女性79.3%、男性62.6%）が最も多く、女性が男性を16.7ポイント上回っている。

（４）コロナ禍での行動変化について

コロナ禍での生活や行動の変化で、＜悪化＞の回答が多いのは「精神的な不安やイライラすること」（55.7%）、「家事（食事の準備や掃除等）の負担」（31.6%）、「仕事の負担」（28.8%）である。「家族との関係」は＜悪化＞(9.6%)より＜好転＞（17.7%）の回答が多い。

（５）性の多様性について

自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどで悩んだことがある人は、全体で3.3%である。

性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策は、男女ともに「学校における性の多様性を理解するための教育」（女性56.8%、男性49.5%）が最も多く、女性が男性を7.3ポイント上回っている。

（６）暴力やハラスメントについて

親密な間柄で起きる行動が暴力にあたると思うかについて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が全体で最も多い項目は「ＳＮＳやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為」（84.8%）であり、続いて「相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない」（82.2%）、「「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう」（75.0%）、「平手で打つ」（71.4%）、「なぐるふりをしておどす」（70.4%）、「生活費を十分に渡さない」（65.5%）となっている。

されたことがある行動について、全体で＜されたことがある＞が多い項目は、「大声でどなる」（44.6%）、「何を言っても無視する」（24.9%）である。

ハラスメントを受けた経験は、全体では「受けた経験はない」が55.3%で最も多い。

被害内容では、女性は「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」が28.3%と最も多く、男性は「モラル・ハラスメントを受けたことがある」が22.8%と最も多い。一方、「受けた経験はない」では男性が女性を16.1ポイント上回っている。

受けた暴力やハラスメントについて相談をしたかは、男女ともに「相談しなかった」（女性62.7%、男性73.4%）が最も多く、男性が女性を10.7ポイント上回っている。

相談しなかった理由は、男女ともに「相談するほどのことではないと思った」（女性47.4%、男性51.5%）が最も多く、男性が女性を4.1ポイント上回っている。

知っている相談窓口は、男女ともに「警察」（女性60.9%、男性60.4%）が最も多く、次いで「法律相談（市民活動推進課）」（女性33.6%、男性31.0%）となっている。

配偶者間での暴力（ＤＶ）やデートＤＶの対策や防止のために必要だと思う武蔵野市の施策については、性別でみると、女性では「被害者の自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う」が57.3%、男性では「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」が47.0%とそれぞれ多くなっている。

（７）市の施策について

知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組みについて、武蔵野市の取り組みの＜認知度＞については「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」が31.6%、「武蔵野市パートナーシップ制度」が29.2%、「男女平等推進情報誌『まなこ』」が19.5%「武蔵野市立男女平等推進センターヒューマンあい」が15.2%、「武蔵野市第四次男女平等推進計画」が13.6%である。言葉の＜認知度＞については、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が35.7%、「配偶者暴力防止法」が19.1%である。

男女平等社会を実現するために市の施策に望むことは、男女ともに「保育・介護制度の充実」（女性57.3%、男性40.4%）が最も多く、女性が男性を16.9ポイント上回っている。次いで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」（女性49.8%、男性38.7%）では、女性が男性を11.1ポイント上回り、「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」（女性46.8%、男性29.1%）では、女性が男性を17.7ポイント上回っている。

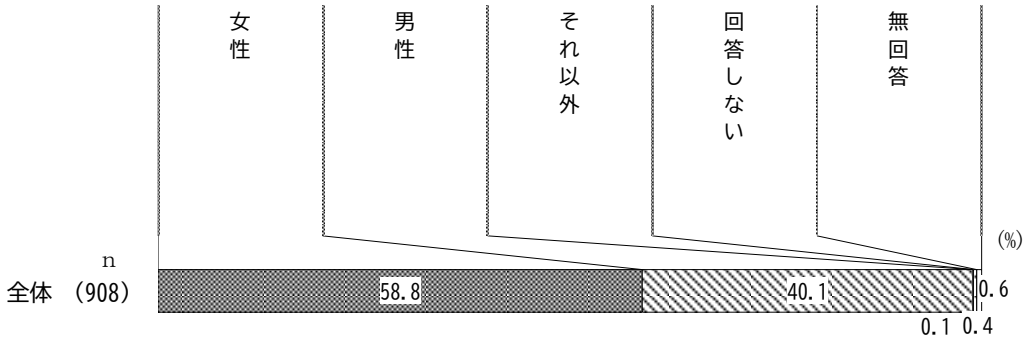
第２章　調査結果

１　あなた自身について

（１）自認する性別

「女性」が58.8%、「男性」が40.1%、「それ以外」が0.1%、「回答しない」が0.4%となっている。

図表　性別(全体)

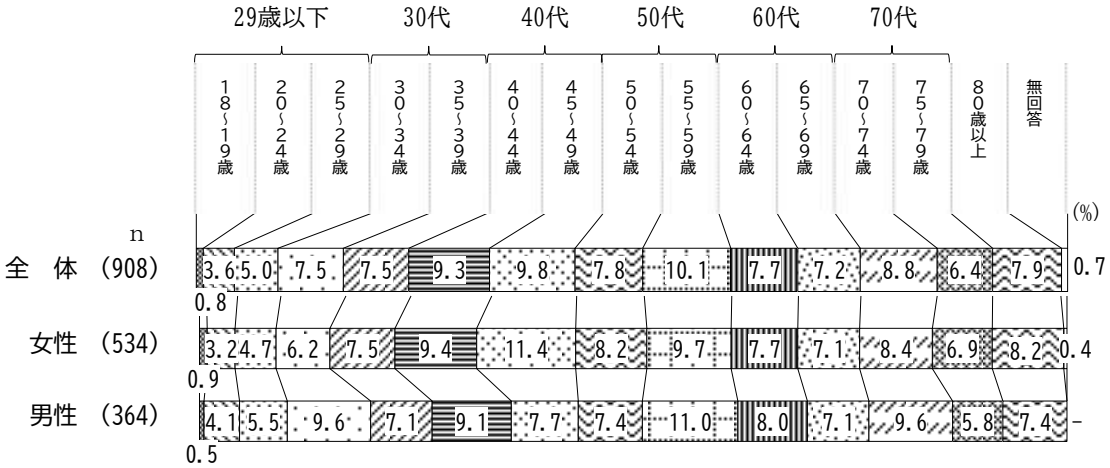


（２）年齢

全体では、「55～59歳」が10.1%と最も多く、次いで「45～49歳」(9.8%)、「40～44歳」(9.3%)、「70～74歳」(8.8%）と続いている。

性別でみると、女性は「45～49歳」が11.4%と最も多く、男性は「55～59歳」が11.0%と最も多い。

図表　年齢(性別)

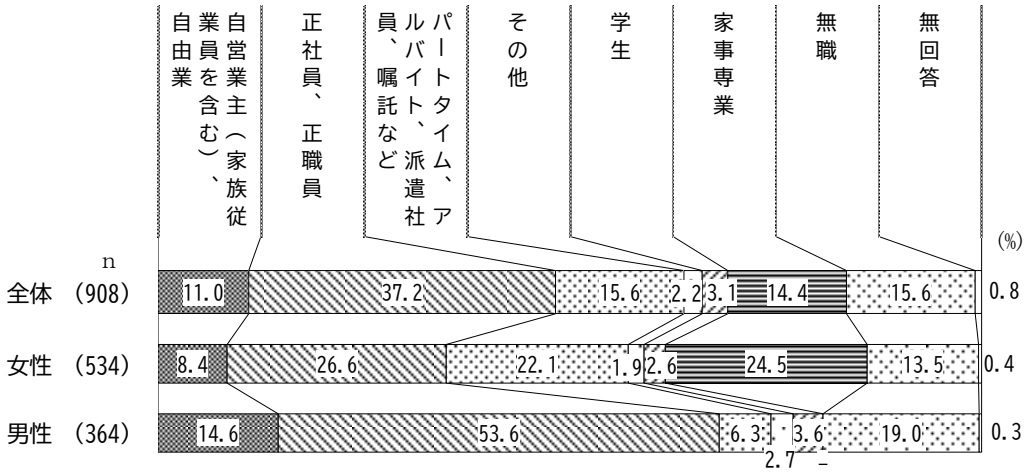


（３）職業

全体では、「正社員、正職員」が37.2％と最も多く、次いで「パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など」、「無職」（いずれも15.6％）、「家事専業」（14.4％）、「自営業主（家族従業員を含む）、自由業」（11.0％）と続いている。

性別でみると、男女ともに「正社員、正職員」（女性26.6％、男性53.6％）という回答が最も多く、男性が女性を27.0ポイント上回っている。

図表　職業(性別)

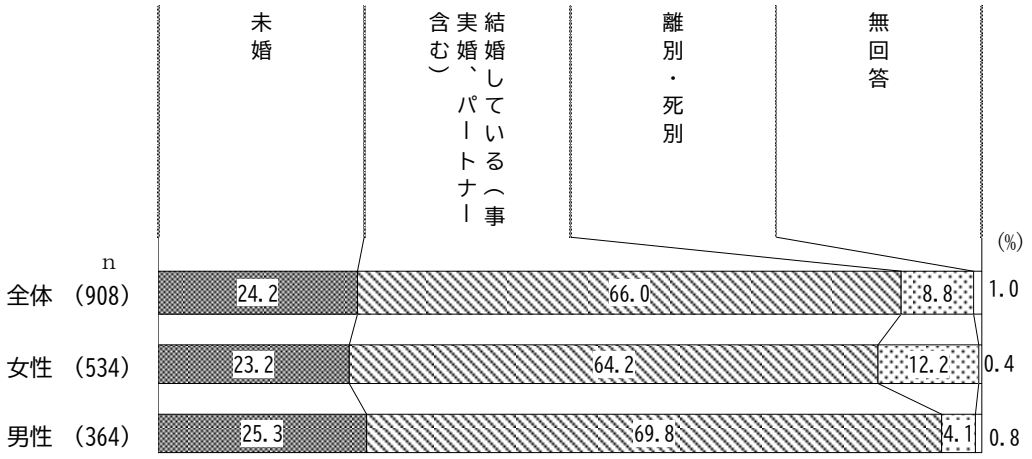


（４）結婚の有無

全体では、「未婚」が24.2％、「結婚している（事実婚、パートナー含む）」が66.0％、「離別・死別」が8.8％となっている。

性別でみると、男女ともに「結婚している（事実婚、パートナー含む）」（女性64.2％、男性69.8％）という回答が最も多く、男性が女性を5.6ポイント上回っている。

図表　結婚の有無(性別)

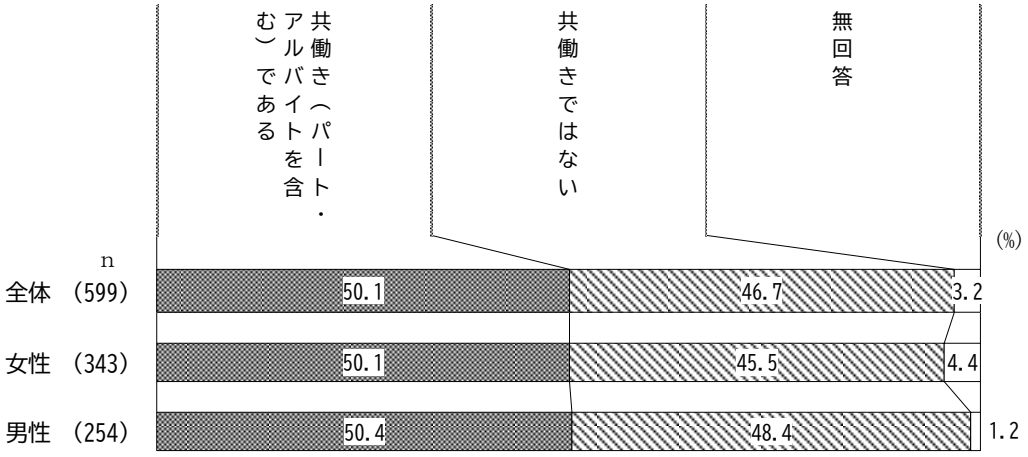


Ｆ４で「２　結婚している（事実婚、パートナー含む）」と回答した方のみ
（４-１）共働きの状況

全体では、「共働き（パート・アルバイトを含む）である」が50.1％と最も多く、「共働きではない」が46.7％となっている。

性別でみると、男女ともに「共働き（パート・アルバイトを含む）である」（女性50.1％、男性50.4％）という回答が最も多くなっている。

図表　共働きの状況(性別)

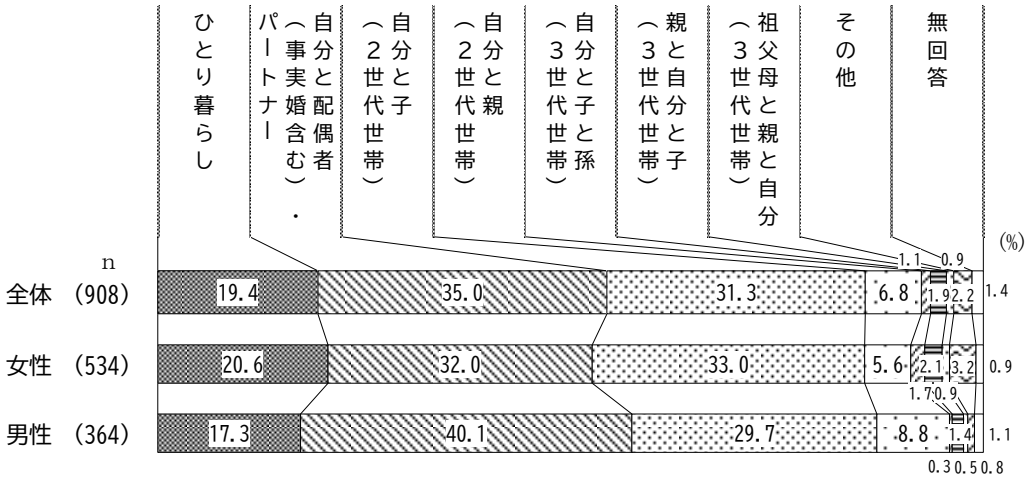


（５）世帯構成

全体では、「自分と配偶者（事実婚含む）・パートナー」が35.0％と最も多く、次いで「自分と子（２世代世帯）」(31.3％)、「ひとり暮らし」(19.4％)、「自分と親（２世代世帯）」(6.8％）と続いている。

性別でみると、女性は「自分と子（２世代世帯）」が33.0％と最も多い。男性は「自分と配偶者（事実婚含む）・パートナー」が40.1％と最も多い。

図表　世帯構成(性別)



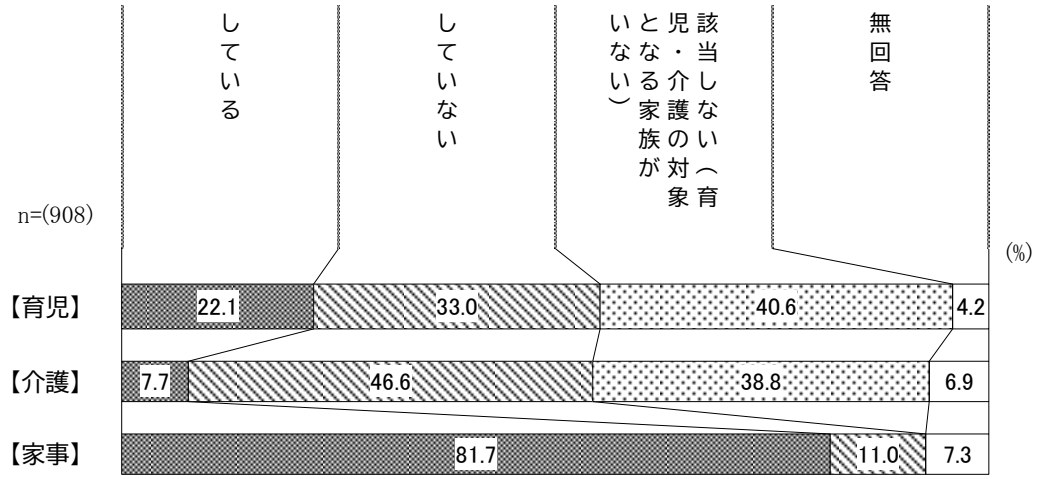
２　日頃の生活について

（１）育児・介護・家事について

問１　あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護をしていますか。また、している場合は、どの程度時間をかけていますか。（○はそれぞれ１つずつ）

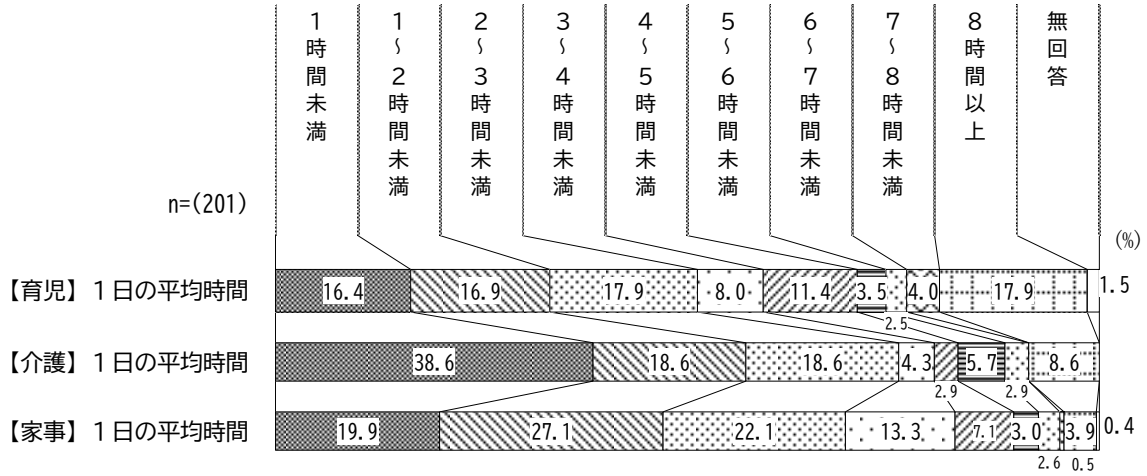
育児・介護・家事の従事状況は、育児は「している」が22.1%、「していない」が33.0%、介護は「している」が7.7%、「していない」が46.6%、家事は「している」が81.7%、「していない」が11.0%となっている。

図表　育児･介護･家事の従事状況(全体)



１日の平均時間では、育児は「２～３時間未満」と「８時間以上」がともに17.9%と最も多い。介護は「１時間未満」が38.6%、家事は「１～２時間未満」が27.1%と最も多くなっている。

図表　育児･介護･家事の平均時間(全体)



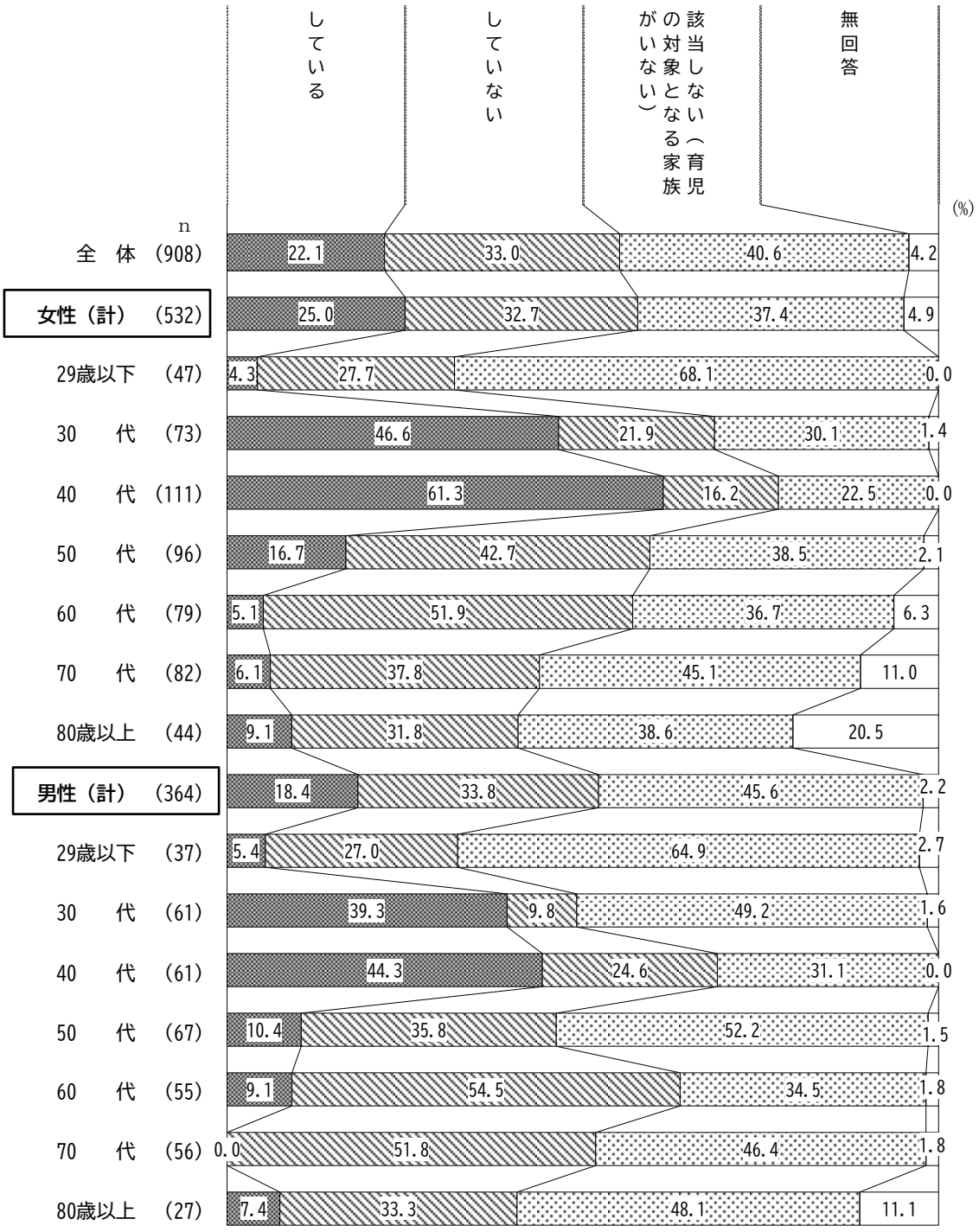
２　日頃の生活について

ア　育児の従事状況（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

育児への従事状況を性別でみると、「している」は、女性25.0%、男性18.4%と、女性が男性を6.6ポイント上回っている。

性・年代別では、男女ともに30代（女性46.6%、男性39.3%）、40代（女性61.3%、男性44.3%）で「している」の比率が高くなっている。

図表　育児の従事状況(全体、性別、性・年代別)



ア　育児の平均時間

育児への従事の平均時間を性別でみると、女性は「８時間以上」が27.1％と最も多い。男性は「１時間未満」と「１～２時間未満」がともに29.9％と最も多い。

性・年代別では、女性の30代で「８時間以上」が52.9％と多い。

性・職業別をみると、男性正社員、正職員の「１～２時間未満」が35.3％と多く、女性は家事専業の「８時間以上」が33.3％と多い。

図表　育児の平均時間（全体、性別、性・年代別、性・職業別）

（％）

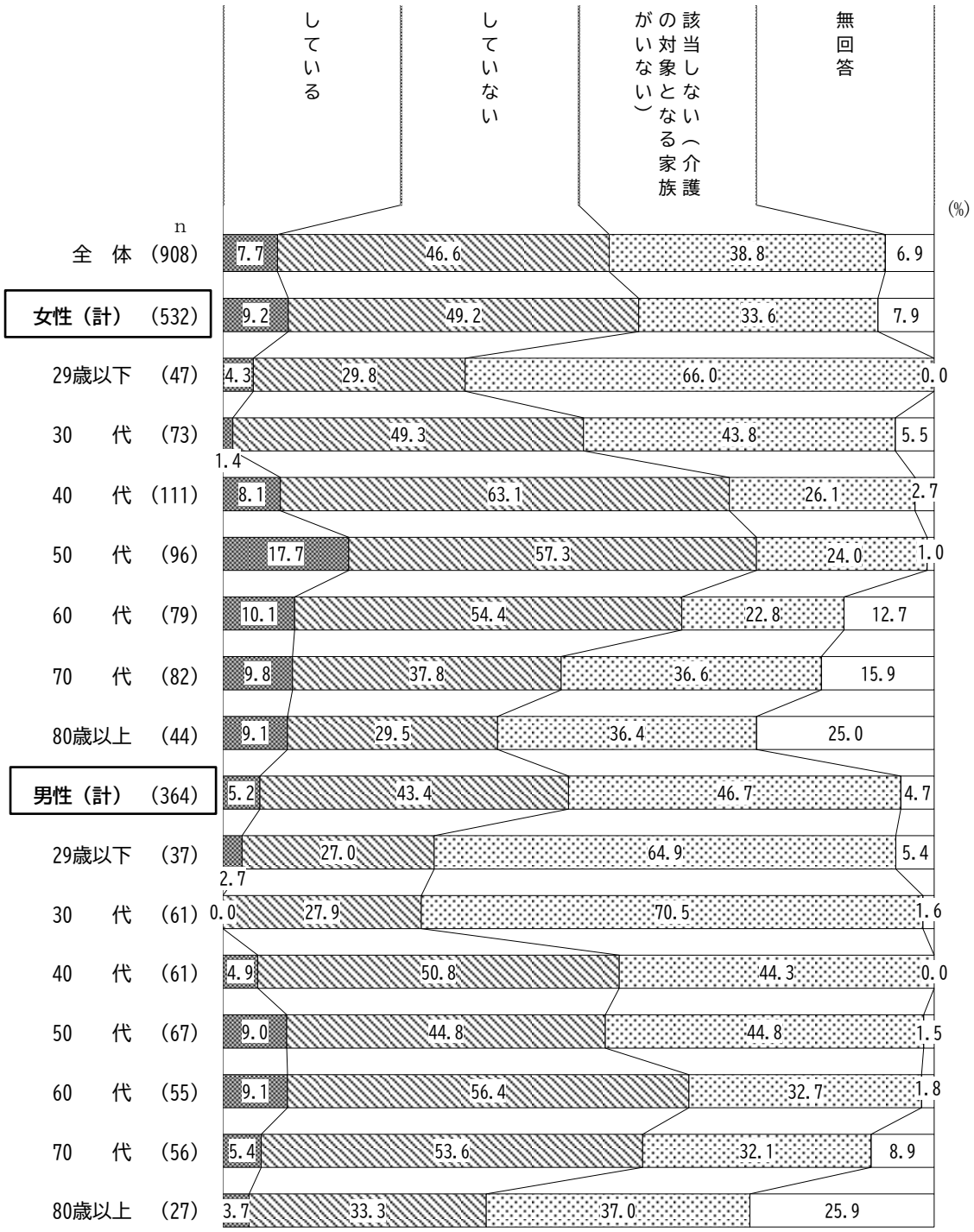
			調査数（ｎ）	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答
全体			201	16.4	16.9	17.9	8.0	11.4	3.5	2.5	4.0	17.9	1.5
性別	女性		133	9.8	10.5	15.0	8.3	14.3	4.5	3.8	6.0	27.1	0.8
性別	男性		67	29.9	29.9	22.4	7.5	6.0	1.5	－	－	－	3.0
性・年代別	女性	29歳以下	2	50.0	－	－	－	－	－	－	－	50.0	－
性・年代別	女性	30　代	34	－	2.9	2.9	5.9	20.6	2.9	－	11.8	52.9	－
性・年代別	女性	40　代	68	8.8	10.3	17.6	8.8	13.2	5.9	7.4	5.9	22.1	－
性・年代別	女性	50　代	16	25.0	18.8	25.0	12.5	6.3	6.3	－	－	6.3	－
性・年代別	女性	60　代	4	25.0	25.0	－	－	25.0	－	－	－	25.0	－
性・年代別	女性	70　代	5	20.0	40.0	20.0	－	－	－	－	－	－	20.0
性・年代別	女性	80歳以上	4	－	－	50.0	25.0	25.0	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	29歳以下	2	50.0	－	50.0	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	30　代	24	16.7	29.2	29.2	12.5	8.3	4.2	－	－	－	－
性・年代別	男性	40　代	27	22.2	40.7	22.2	7.4	7.4	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	50　代	7	57.1	28.6	－	－	－	－	－	－	－	14.3
性・年代別	男性	60　代	5	80.0	－	－	－	－	－	－	－	－	20.0
性・年代別	男性	70　代	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	80歳以上	2	50.0	－	50.0	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	女性	自営業主、自由業	10	10.0	－	20.0	10.0	30.0	10.0	10.0	－	10.0	－
性・職業別	女性	正社員、正職員	41	12.2	7.3	14.6	7.3	17.1	4.9	7.3	4.9	24.4	－
性・職業別	女性	パートタイム、アルバイトなど	39	10.3	17.9	10.3	12.8	7.7	5.1	－	7.7	28.2	－
性・職業別	女性	その他	1	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
性・職業別	女性	学生	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	女性	家事専業	36	8.3	11.1	16.7	5.6	13.9	2.8	－	8.3	33.3	－
性・職業別	女性	無職	6	－	－	33.3	－	16.7	－	16.7	－	16.7	16.7
性・職業別	男性	自営業主、自由業	7	42.9	14.3	28.6	－	14.3	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	正社員、正職員	51	25.5	35.3	21.6	9.8	5.9	2.0	－	－	－	－
性・職業別	男性	パートタイム、アルバイトなど	3	33.3	－	33.3	－	－	－	－	－	－	33.3
性・職業別	男性	その他	2	－	50.0	－	－	－	－	－	－	－	50.0
性・職業別	男性	学生	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	家事専業	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	無職	4	75.0	－	25.0	－	－	－	－	－	－	－

イ　介護の従事状況（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

介護への従事状況を性別でみると、「している」は、女性9.2％、男性5.2％と、女性が男性を4.0ポイント上回っている。

性・年代別では、女性の50代（17.7％）、60代（10.1％）で「している」という比率が高い。

図表　介護の従事状況(全体、性別、性・年代別)



イ　介護の平均時間

介護への従事の平均時間を性別でみると、「２～３時間未満」（女性22.4%、男性5.3%）では、女性が男性を17.1ポイント上回っている。「１～２時間未満」（女性16.3%、男26.3%）では、男性が女性を10.0ポイント上回り、「１時間未満」（女性36.7%、男性47.4%）では、男性が女性を10.7ポイント上回っている。

※調査数が少ないため、性・年代別及び性・職業別は図表を提示するにとどめる。

図表　介護の平均時間（全体、性別、性・年代別、性・職業別）

(%)

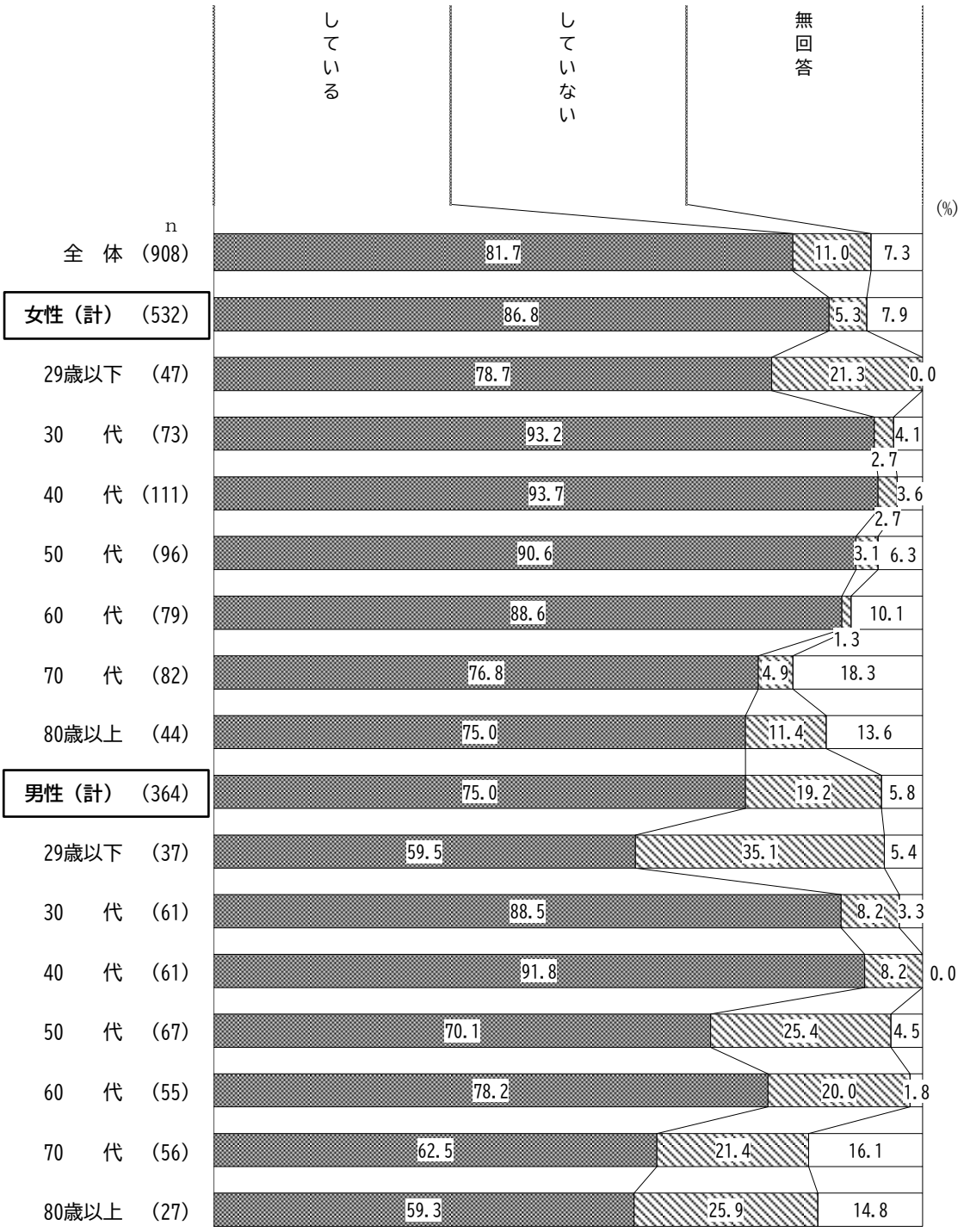
			調査数（n）	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答
全　体			70	38.6	18.6	18.6	4.3	2.9	5.7	2.9	－	8.6	－
性別	女性		49	36.7	16.3	22.4	6.1	－	6.1	2.0	－	10.2	－
性別	男性		19	47.4	26.3	5.3	－	10.5	5.3	－	－	5.3	－
性・年代別	女性	29歳以下	2	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	女性	30　代	1	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	女性	40　代	9	66.7	11.1	11.1	11.1	－	－	－	－	－	－
性・年代別	女性	50　代	17	41.2	17.6	23.5	5.9	－	5.9	－	－	5.9	－
性・年代別	女性	60　代	8	25.0	12.5	12.5	－	－	12.5	－	－	37.5	－
性・年代別	女性	70　代	8	12.5	12.5	37.5	12.5	－	12.5	－	－	12.5	－
性・年代別	女性	80歳以上	4	－	50.0	25.0	－	－	－	25.0	－	－	－
性・年代別	男性	29歳以下	1	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	30　代	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	40　代	3	66.7	33.3	－	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	50　代	6	33.3	16.7	16.7	－	16.7	－	－	－	16.7	－
性・年代別	男性	60　代	5	80.0	20.0	－	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	70　代	3	33.3	66.7	－	－	－	－	－	－	－	－
性・年代別	男性	80歳以上	1	－	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－
性・職業別	女性	自営業主、自由業	4	50.0	25.0	－	－	－	25.0	－	－	－	－
性・職業別	女性	正社員、正職員	7	85.7	14.3	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	女性	パートタイム、アルバイトなど	9	22.2	22.2	44.4	11.1	－	－	－	－	－	－
性・職業別	女性	その他	1	－	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－
性・職業別	女性	学生	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	女性	家事専業	21	28.6	9.5	19.0	9.5	－	4.8	4.8	－	23.8	－
性・職業別	女性	無職	7	28.6	28.6	42.9	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	自営業主、自由業	4	50.0	25.0	－	－	25.0	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	正社員、正職員	8	50.0	25.0	12.5	－	12.5	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	パートタイム、アルバイトなど	2	50.0	－	－	－	－	－	－	－	50.0	－
性・職業別	男性	その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	学生	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	家事専業	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性・職業別	男性	無職	5	40.0	40.0	－	－	－	20.0	－	－	－	－

ウ　家事（食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れなど）

家事への従事状況を性別でみると、「している」は、女性86.8%、男性75.0%と、女性が男性を11.8ポイント上回っている。

性・年代別では、女性の30～60代では「している」比率が高い。一方、男性では、29歳以下と50代以上で「していない」が高くなっている。

図表　家事の従事状況（全体、性別、性・年代別）



ウ　家事の平均時間

家事への従事の平均時間を性別でみると、女性は「２～３時間未満」が26.0％と最も多い。男性は「１時間未満」が41.8％と最も多い。

性・年代別では、女性の29歳以下と30代では「１～２時間未満」、50～70代では「２～３時間未満」と「３～４時間未満」が多い。男性の29歳以下から40代では「１～２時間未満」、50～70代では「１時間未満」が多くなっている。

性・職業別をみると、男女ともに正社員、正職員では「１～２時間未満」が最も多くなっている。次いで、男性正社員、正職員では「１時間未満」、女性正社員、正職員では「２～３時間未満」が多い。

図表　家事の平均時間（全体、性別、性・年代別、性・職業別）

（%）

			調査数（n）	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答
全体			742	19.9	27.1	22.1	13.3	7.1	3.0	2.6	0.5	3.9	0.4
性別	女性		462	7.4	21.0	26.0	18.8	11.0	4.8	3.9	0.9	5.8	0.4
	男性		273	41.8	37.7	15.4	4.0	0.7	－	－	－	－	0.4
性・年代別	女性	29歳以下	37	24.3	45.9	21.6	5.4	－	－	2.7	－	－	－
		30　代	68	11.8	30.9	22.1	8.8	7.4	5.9	2.9	1.5	8.8	－
		40　代	104	4.8	21.2	23.1	19.2	15.4	6.7	3.8	－	5.8	－
		50　代	87	5.7	13.8	29.9	20.7	9.2	5.7	5.7	－	9.2	－
		60　代	70	2.9	17.1	25.7	21.4	15.7	4.3	4.3	1.4	5.7	1.4
		70　代	63	1.6	14.3	27.0	33.3	14.3	1.6	4.8	1.6	1.6	－
		80歳以上	33	12.1	12.1	36.4	15.2	6.1	6.1	－	3.0	6.1	3.0
	男性	29歳以下	22	31.8	59.1	9.1	－	－	－	－	－	－	－
		30　代	54	35.2	38.9	20.4	5.6	－	－	－	－	－	－
		40　代	56	37.5	42.9	14.3	5.4	－	－	－	－	－	－
		50　代	47	51.1	34.0	10.6	2.1	－	－	－	－	－	2.1
		60　代	43	51.2	32.6	14.0	－	2.3	－	－	－	－	－
		70　代	35	48.6	25.7	17.1	8.6	－	－	－	－	－	－
		80歳以上	16	25.0	37.5	25.0	6.3	6.3	－	－	－	－	－
性・職業別	女性	自営業主、自由業	40	5.0	25.0	27.5	27.5	10.0	2.5	2.5	－	－	－
		正社員、正職員	132	14.4	37.1	29.5	8.3	5.3	2.3	1.5	－	1.5	－
		パートタイム、アルバイトなど	108	4.6	17.6	26.9	22.2	11.1	9.3	4.6	0.9	2.8	－
		その他	9	－	22.2	22.2	22.2	22.2	－	－	－	－	11.1
		学生	8	50.0	25.0	12.5	12.5	－	－	－	－	－	－
		家事専業	114	－	7.9	17.5	23.7	19.3	4.4	7.9	2.6	15.8	0.9
		無職	50	6.0	12.0	36.0	22.0	6.0	6.0	2.0	－	10.0	－
	男性	自営業主、自由業	35	51.4	28.6	14.3	5.7	－	－	－	－	－	－
		正社員、正職員	162	39.5	41.4	15.4	3.7	－	－	－	－	－	－
		パートタイム、アルバイトなど	16	31.3	50.0	18.8	－	－	－	－	－	－	－
		その他	8	37.5	50.0	－	－	－	－	－	－	－	12.5
		学生	3	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－
		家事専業	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		無職	49	49.0	22.4	18.4	6.1	4.1	－	－	－	－	－

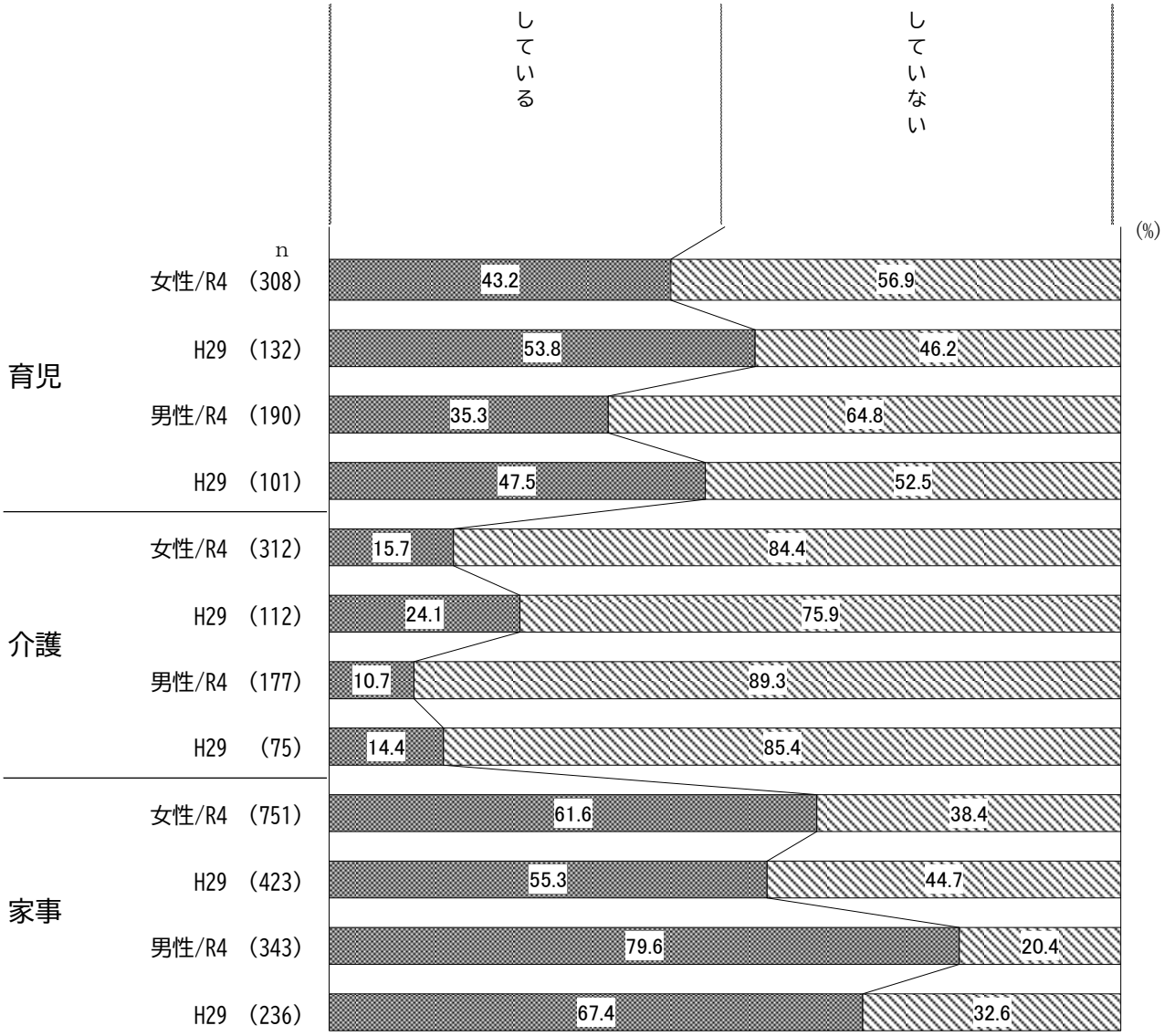
経年比較（従事状況のみ）

育児（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）について、平成29年調査と比較すると、「している」では女性は10.6ポイント、男性は12.2ポイント減少している。

介護（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）について、平成29年調査と比較すると、「している」では女性は8.4ポイント、男性は3.7ポイント減少している。

家事（食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れなど）について、平成29年調査と比較すると、「している」では女性は6.3ポイント、男性は12.2ポイント増加している。

図表　育児･介護･家事の平均時間(経年比較)



（２）職業以外の活動について

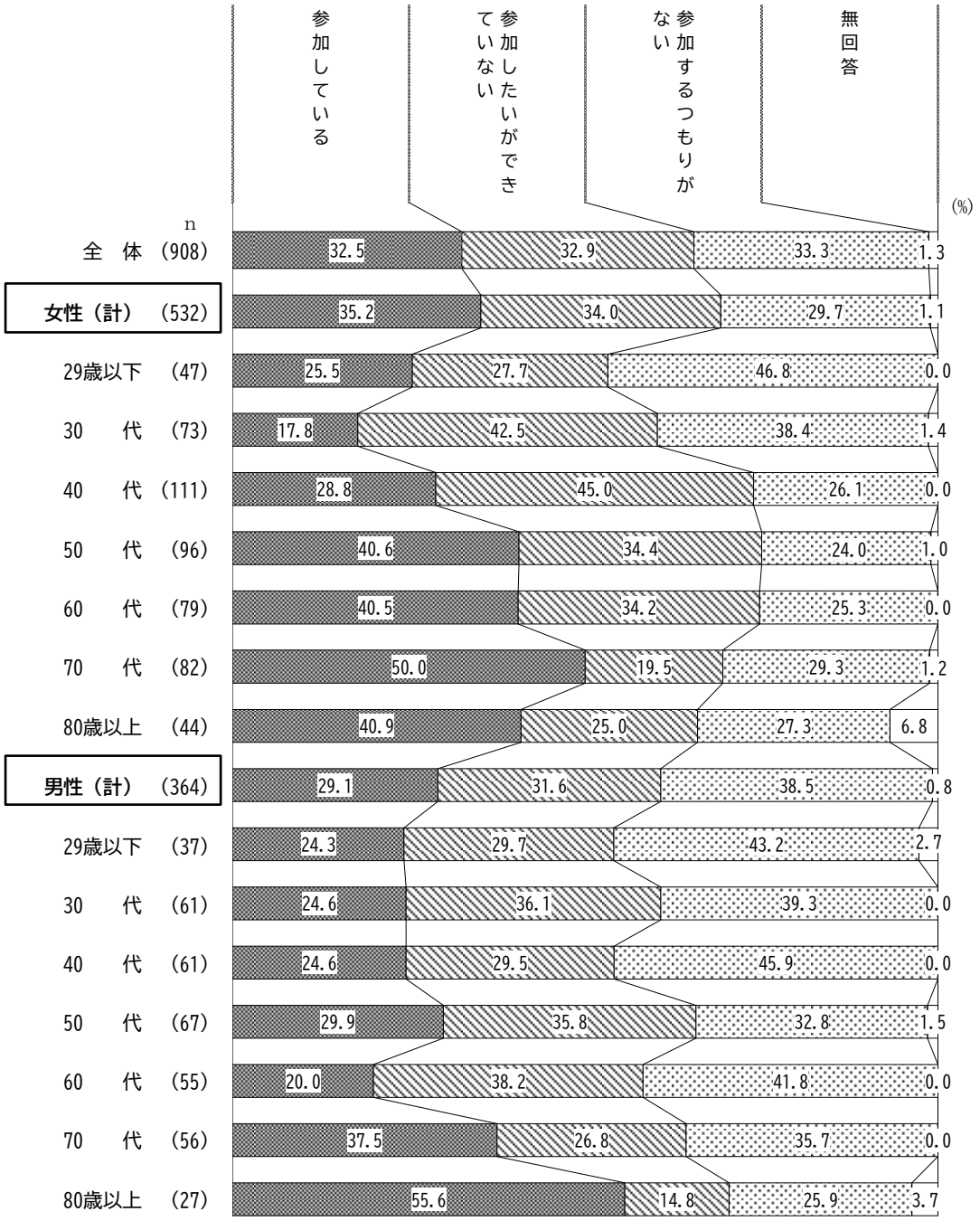
問２　あなたは、職業以外の社会活動、地域活動（ボランティア、NPO、コミュニティセンター、PTA、趣味・サークル・スポーツ等の活動）に参加していますか。（○は１つ）

職業以外の活動について、全体では「参加するつもりがない」が33.3%と最も多く、「参加したいができていない」が32.9%、「参加している」が32.5%となっている。

性別でみると、女性は「参加している」が35.2%と最も多く、男性は「参加するつもりがない」が38.5%と最も多い。「参加している」では、女性が男性を6.1ポイント上回っている。

性・年代別では、女性70代（50.0%）、男性80歳以上（55.6%）で「参加している」が高く、女性30代（42.5%）と40代（45.0%）で「参加したいができていない」が高い。また、男女ともに30代以下、男性の40代、60代では「参加するつもりがない」の回答率が高い。

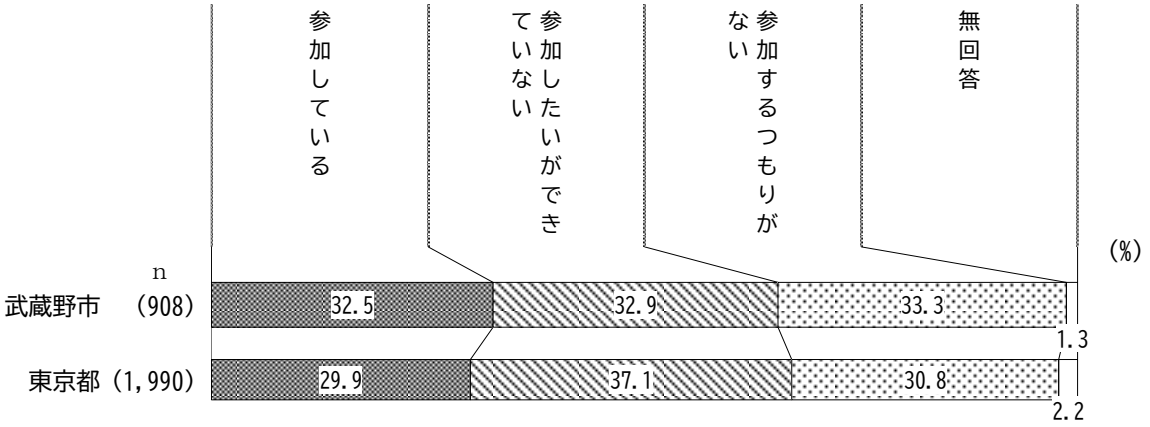
図表　職業以外の活動について（全体、性別、性・年代別）



類似調査との比較

東京都の「男女平等参画に関する世論調査（令和２(2020)年)」と比較すると、「参加している」と「参加するつもりがない」という回答は都より市の方が多く、「参加したいができていない」という回答は、都より市の方が少ない。

図表　職業以外の活動について(東京都調査比較)



（３）参加できていない理由

問２で「２.参加したいができていない」と回答した方にお聞きします。
問２-１　あなたが参加できていないのはなぜですか。（○はいくつでも）

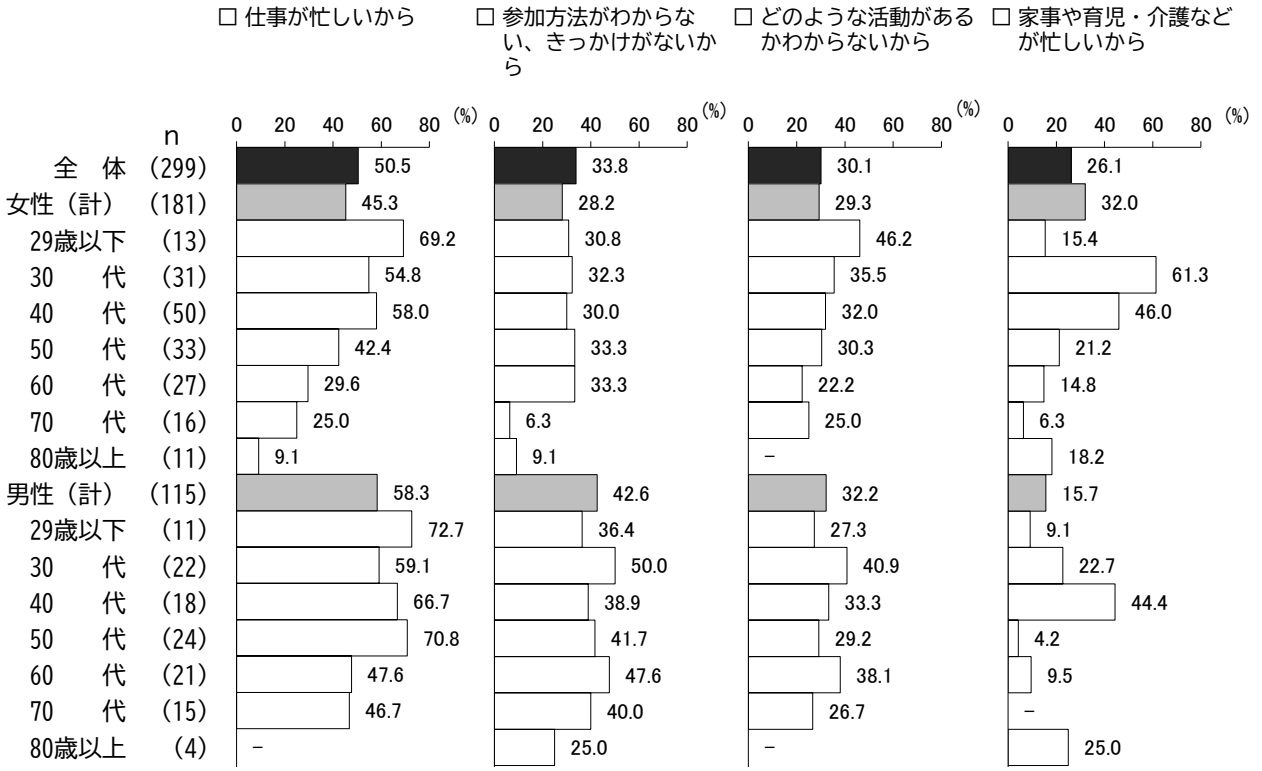
参加できていない理由は、全体では「仕事が忙しいから」が50.5%と最も多く、次いで「参加方法がわからない、きっかけがないから」(33.8%)、「どのような活動があるかわからないから」(30.1%)、「家事や育児・介護などが忙しいから」(26.1%）と続いている。

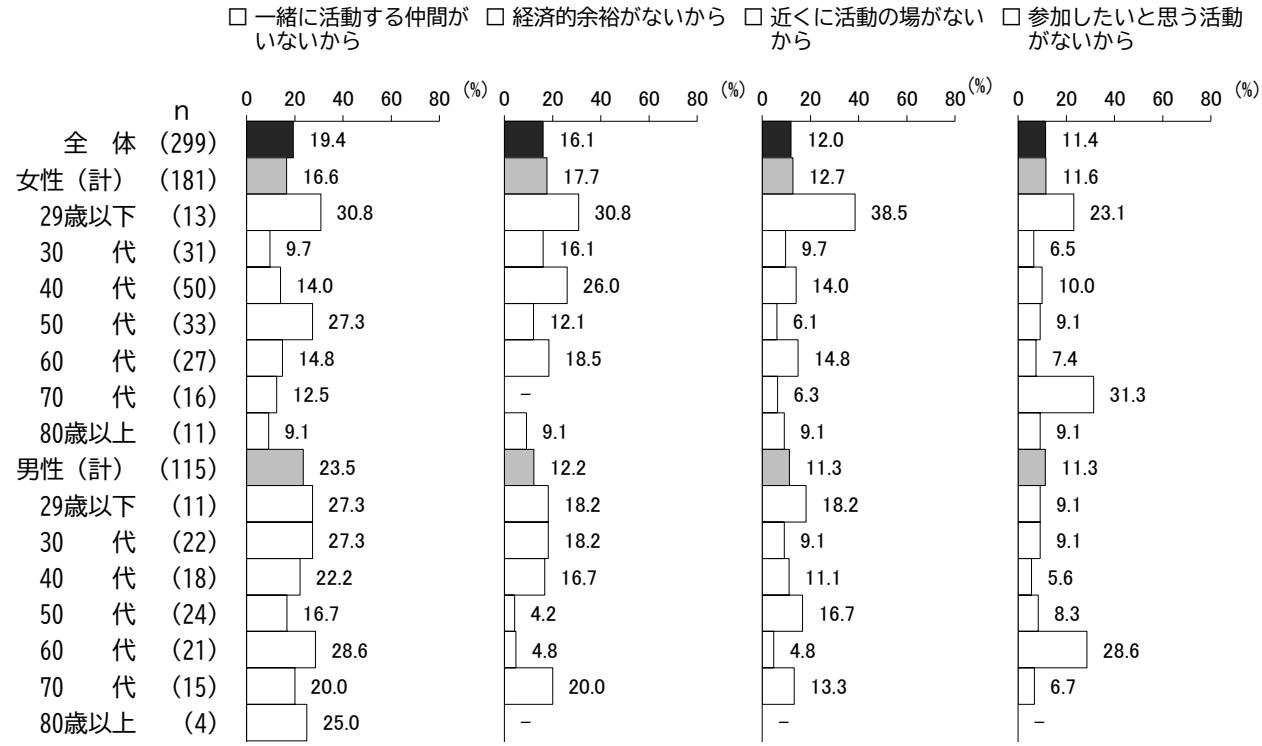
性別でみると、男女ともに「仕事が忙しいから」(女性45.3%、男性58.3%）という回答が最も多く、男性が女性を13.0ポイント上回っている。続いて女性では「家事や育児・介護などが忙しいから」が32.0%、男性では「参加方法がわからない、きっかけがないから」が42.6%とそれぞれ多い。

性・年代別では、女性は「仕事が忙しいから」が30代（54.8%)、40代（58.0%）で多く、30代では「家事や育児・介護などが忙しいから」も61.3%となっている。

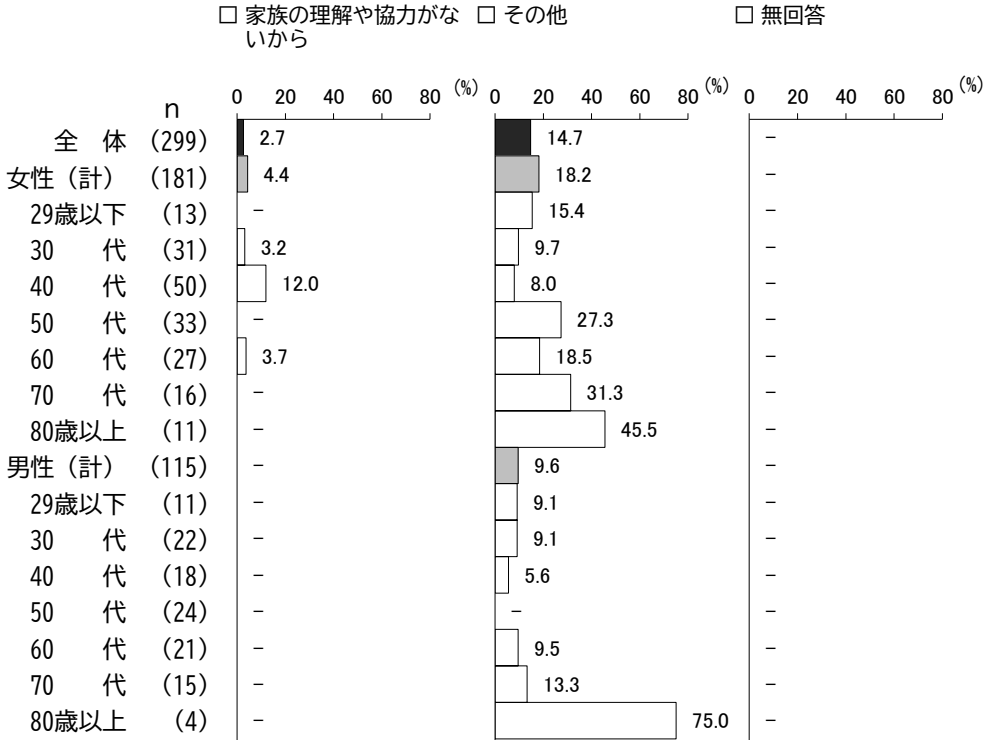
「その他」の記述回答の内訳としては、「コロナ禍で外出をやめている」「体力に自信がないから」「体調に問題があるから」等、感染予防や健康面を理由にした回答が多かった。

図表　参加できていない理由(全体、性別、性・年代別)①





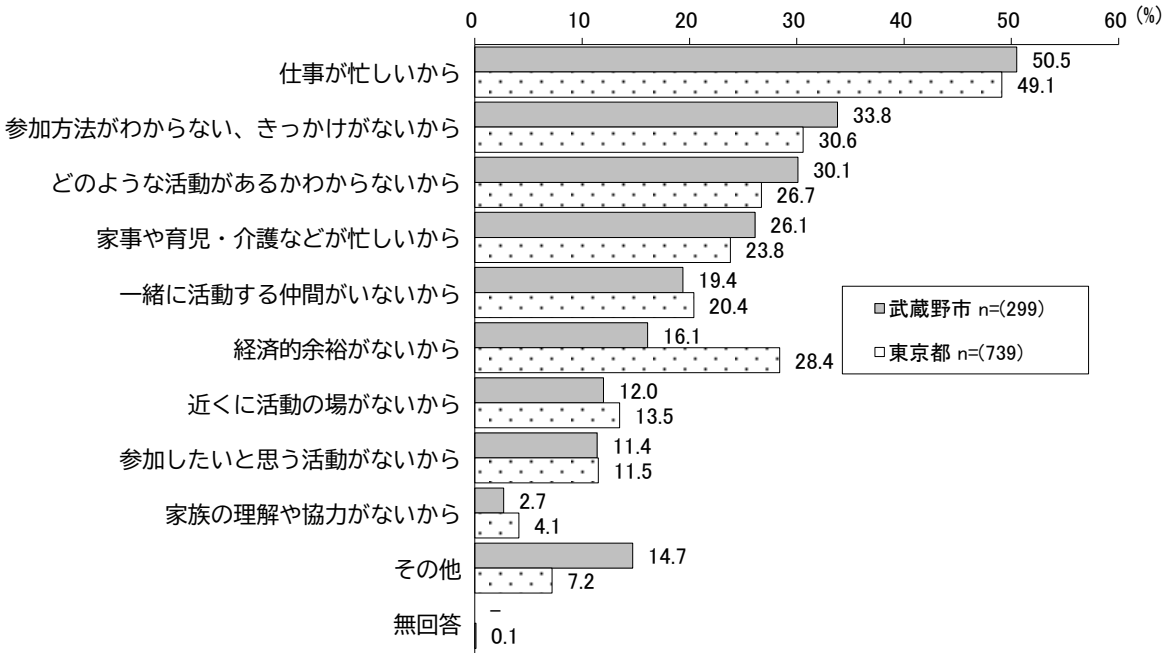
図表　参加できていない理由(全体、性別、性・年代別)②



類似調査との比較

東京都の「男女平等参画に関する世論調査（令和２(2020)年)」と比較すると、上位の選択肢の順位については両調査ともに同じ傾向となっている。「経済的余裕がないから」では、市は都に比べて12.3ポイント少ない。

図表　参加できていない理由(東京都調査比較)



３　ワーク・ライフ・バランスについて

（１）性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと

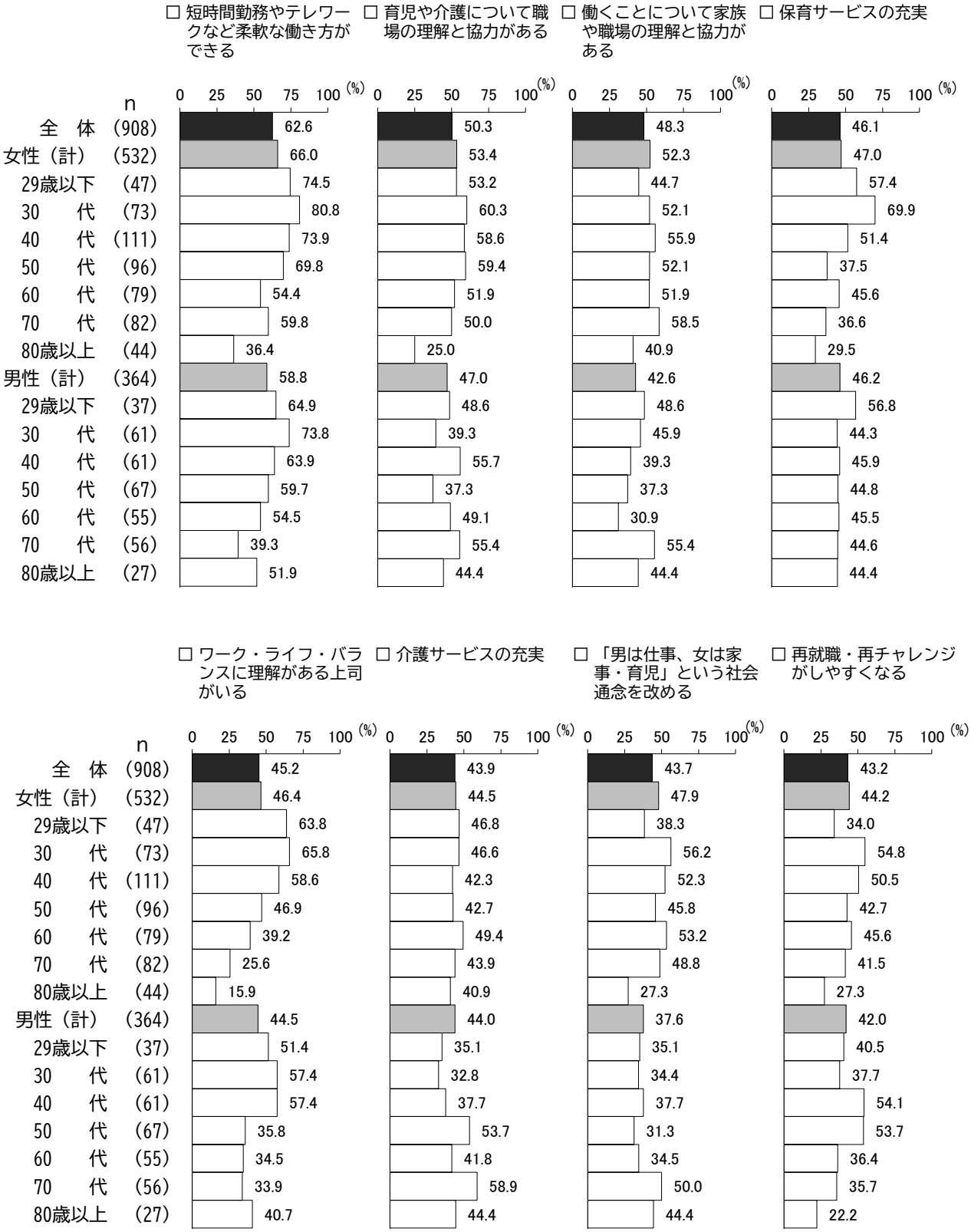
問３　あなたは、性別にかかわらず、すべての人がともに働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

性別にかかわらず働きやすくなるために必要なことは、全体では「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」が62.6％と最も多く、次いで「育児や介護について職場の理解と協力がある」（50.3％）、「働くことについて家族や職場の理解と協力がある」（48.3％）、「保育サービスの充実」（46.1％）と続いている。

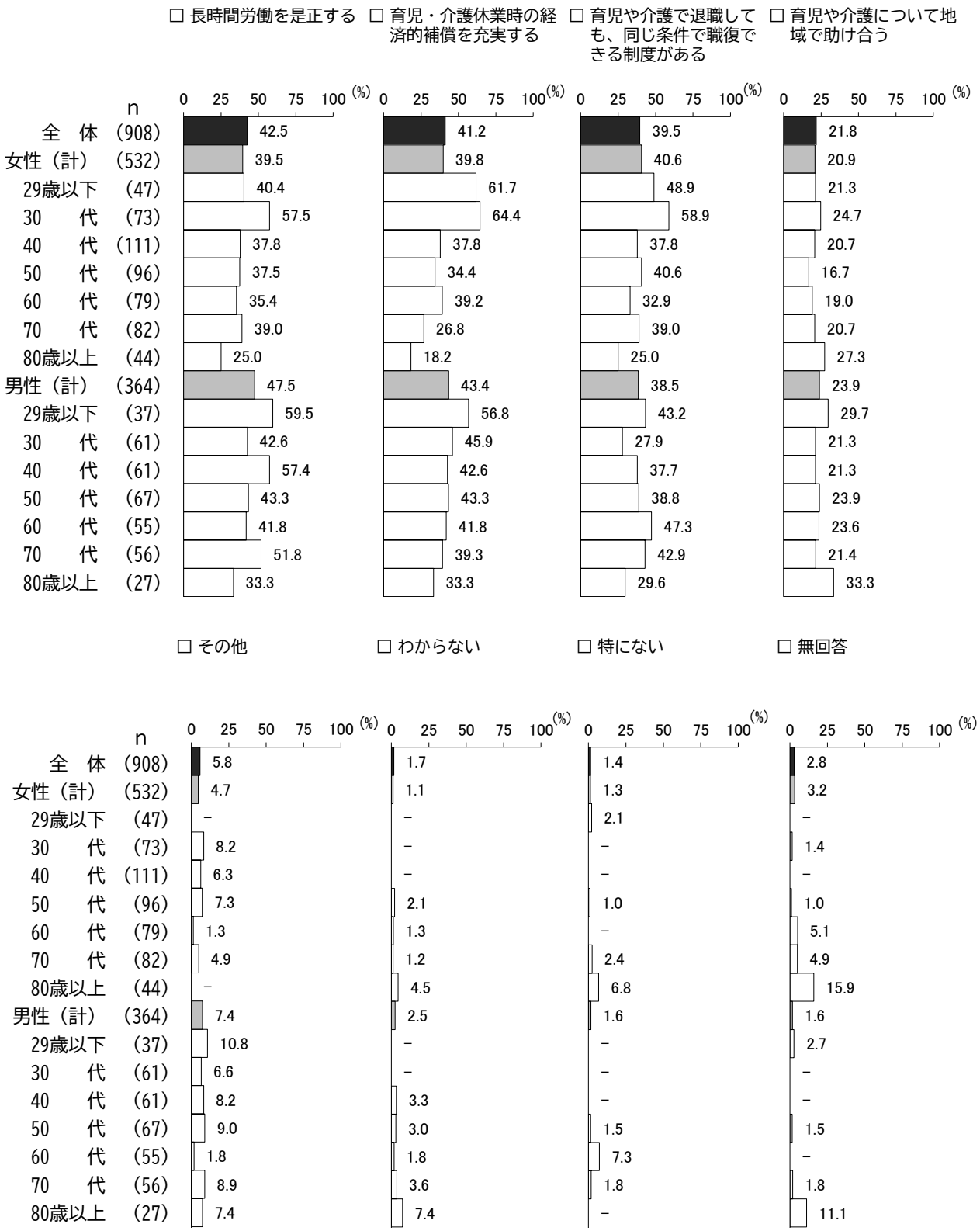
性別でみると、男女ともに「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」（女性66.0％、男性58.8％）という回答が最も多く、女性が男性を7.2ポイント上回っている。

性・年代別では、男女ともに「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」が29歳以下から40代で６割以上と多く、女性30代では「保育サービスの充実」（69.9％）、「ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる」（65.8％）も多い。

図表　性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと（全体、性別、性・年代別）①



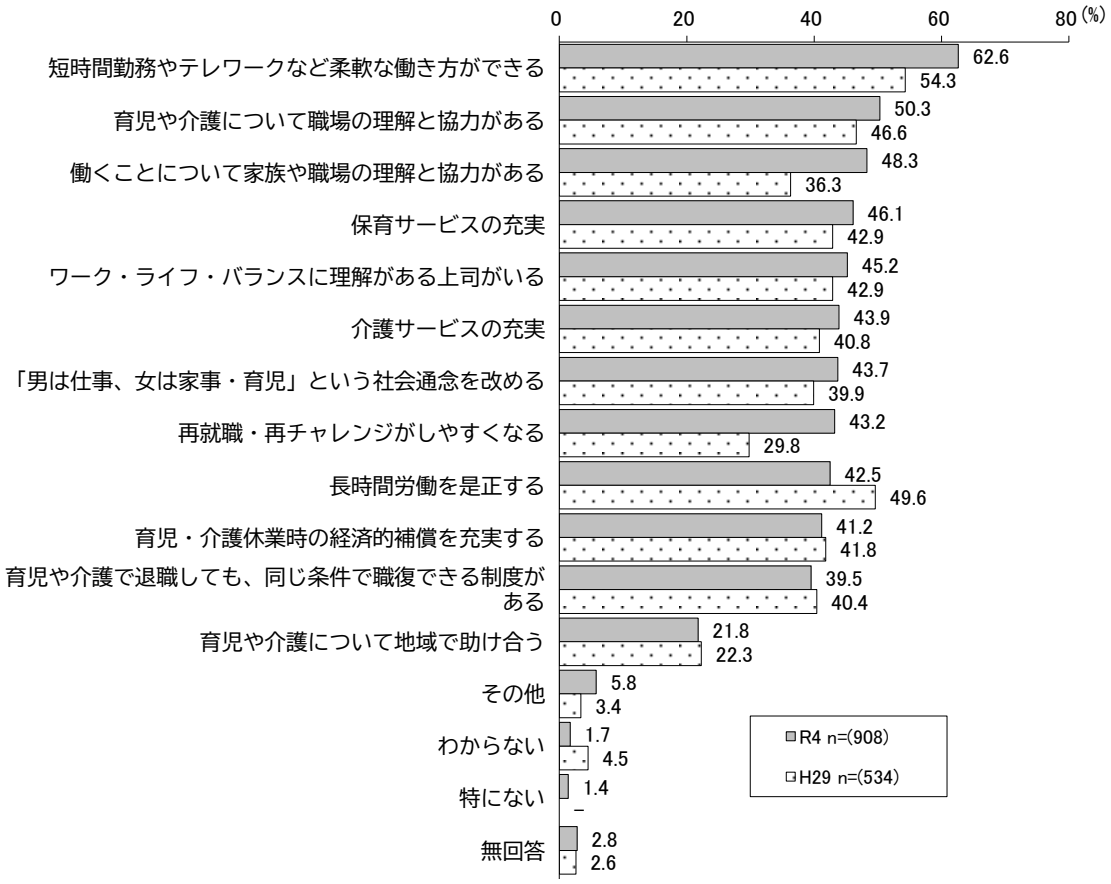
図表　性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと（全体、性別、性・年代別）②



経年比較

平成29年調査と比較すると、全体では「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」（平成29年54.3%、令和４年62.6%）は8.3ポイント、「働くことについて家族や職場の理解と協力がある」（平成29年36.3%、令和４年48.3%）は12.0ポイント、「再就職・再チャレンジがしやすくなる」（平成29年29.8%、令和４年43.2%）は13.4ポイント増加している。「長時間労働を是正する」（平成29年49.6%、令和４年42.5%）は7.1ポイント減少している。

図表　性別にかかわらず働きやすくなるために必要なこと(経年比較)



（２）仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（理想と現実）

問４　あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

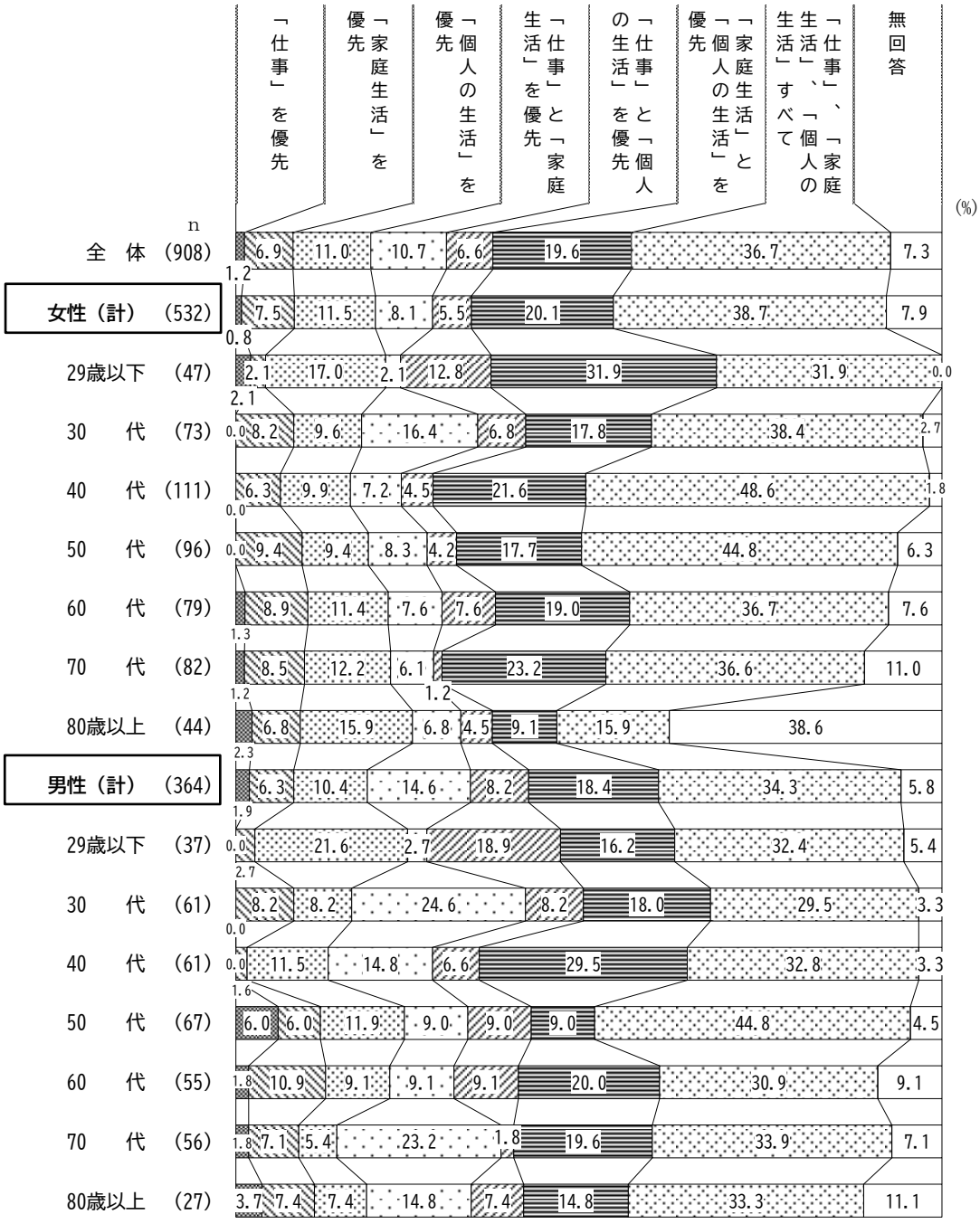
（１）理想の優先度

仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度は、全体では、「「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて」という回答が36.7％で最も多く、次いで「「家庭生活」と「個人の生活」を優先」（19.6％）、「「個人の生活」を優先」（11.0％）、「「仕事」と「家庭生活」を優先」（10.7％）となっている。

性別でみると、男女ともに「「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて」（女性38.7％、男性34.3％）が最も多く、次いで「「家庭生活」と「個人の生活」を優先」（女性20.1％、男性18.4％）が多い。

性・年代別では、男女ともに29歳以下から70代で「「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて」が最も多く、女性29歳以下では「「家庭生活」と「個人の生活」を優先」も同率で最も多い。

図表　仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度（全体、性別、性・年代別）



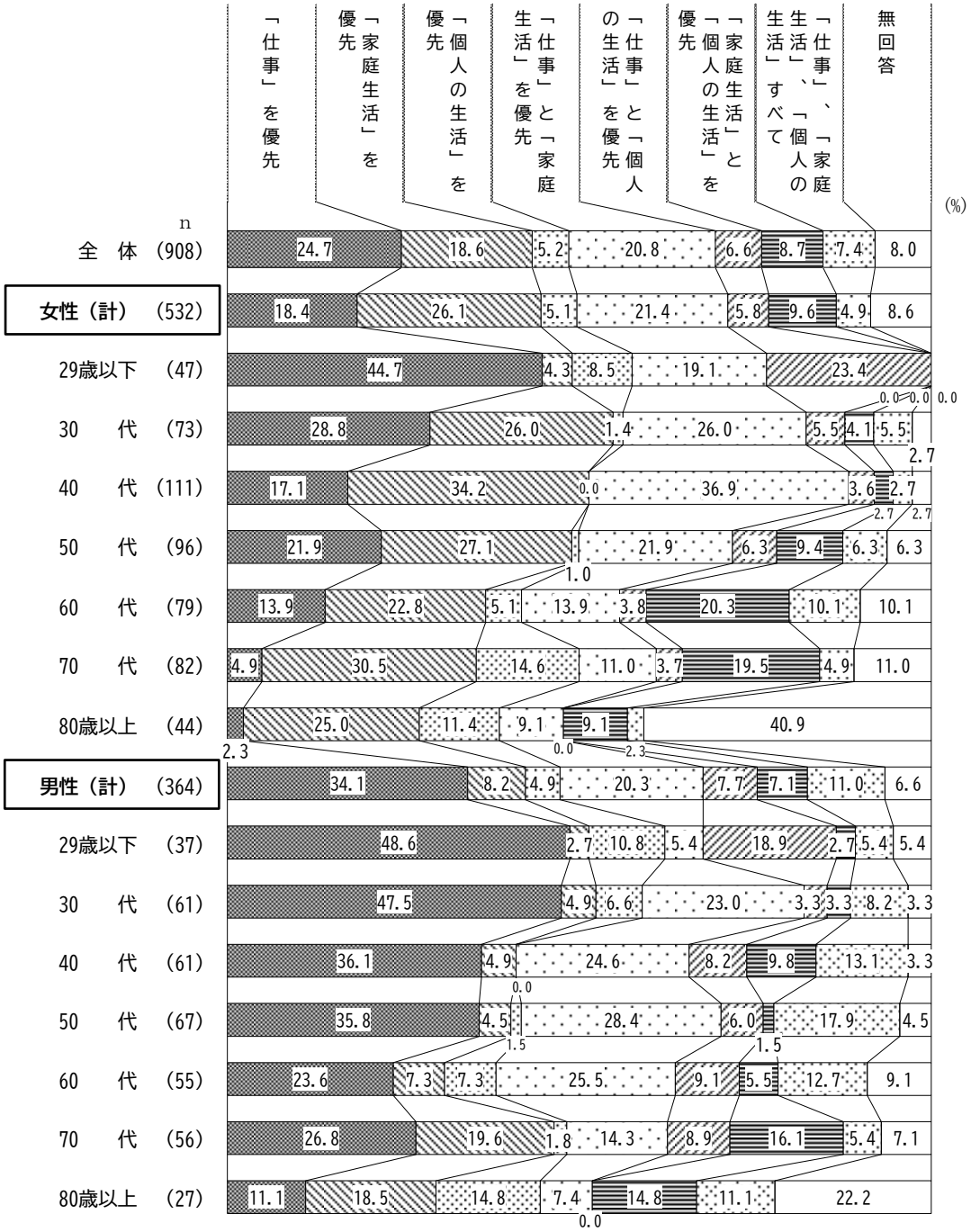
（２）現実の優先度

仕事、家庭生活、個人の生活の現実の優先度は、全体では、「「仕事」を優先」という回答が24.7％と最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」を優先」（20.8％）、「「家庭生活」を優先」（18.6％）となっている。

性別でみると、女性は「「家庭生活」を優先」が26.1％と最も多く、男性は「「仕事」を優先」が34.1％と最も多い。次いで、男女ともに「「仕事」と「家庭生活」を優先」（女性21.4％、男性20.3％）が多い。

性・年代別では、女性は29歳以下と30代で「「仕事」を優先」、40代で「「仕事」と「家庭生活」を優先」、50代から70代で「「家庭生活」を優先」が最も多い。男性は29歳以下から50代、70代で「「仕事」を優先」、60代で「「仕事」と「家庭生活」を優先」が最も多い。

図表　仕事、家庭生活、個人の生活の現実の優先度（全体、性別、性・年代別）

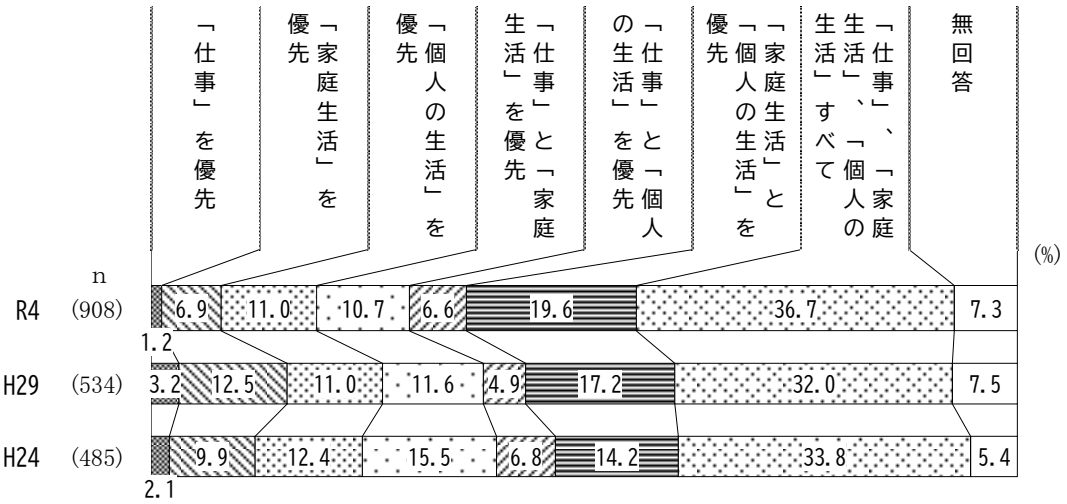


経年比較

（１）理想の優先度

平成24年調査からの変化をみると、「「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて」については、平成29年調査より4.7ポイント増加している。「「家庭生活」と「個人の生活」を優先」（平成24年14.2%、平成29年17.2%、令和４年19.6%）は年々増加傾向となっている。一方、「「家庭生活」を優先」は、平成29年調査よりは5.6ポイント減少している。

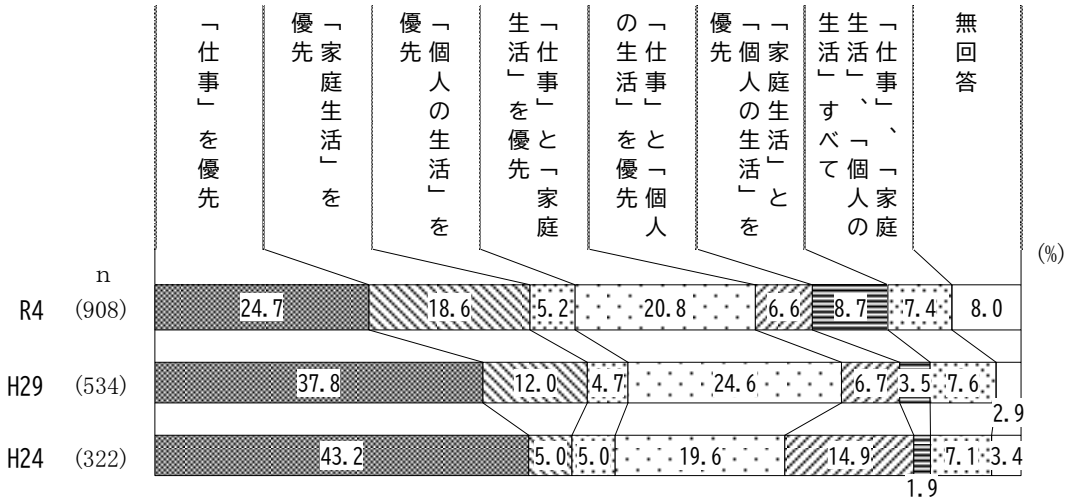
図表　仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度（経年比較）



（２）現実の優先度

平成24年調査からの変化をみると、「「仕事」を優先」（平成24年43.2%、平成29年37.8%、令和４年24.7%）は年々減少傾向となっている。一方、「「家庭生活」を優先」（平成24年5.0%、平成29年12.0%、令和４年18.6%）は年々増加傾向となっている。

図表　仕事、家庭生活、個人の生活の現実の優先度（経年比較）

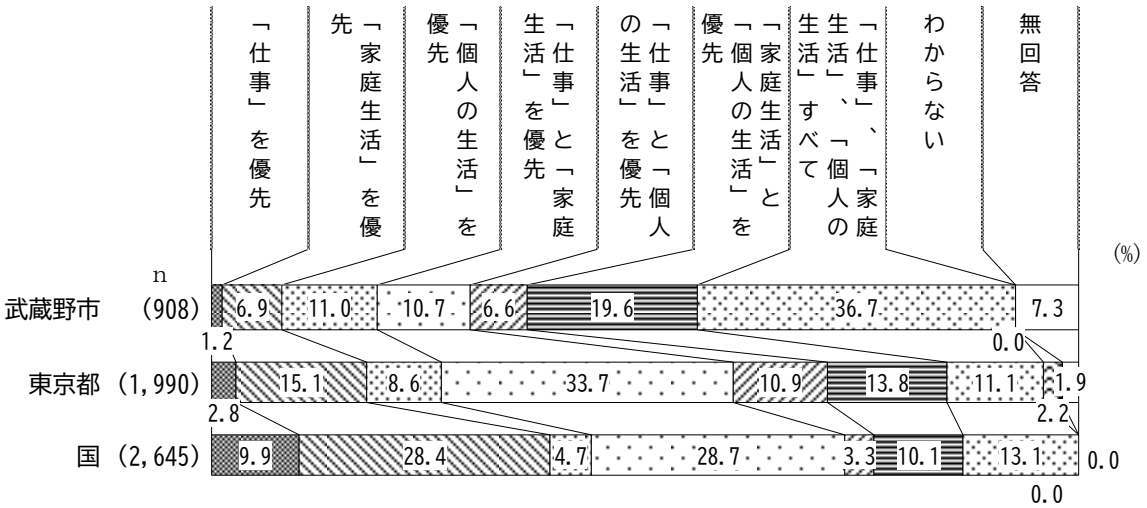


類似調査との比較

（１）理想の優先度

国の「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元(2019)年)」及び東京都の「男女平等参画に関する世論調査（令和２(2020)年)」と比較すると、理想の優先度は国、都よりも市の方が「「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて」、「「家庭生活」と「個人の生活」を優先」が多くなっている。一方、「「仕事」と「家庭生活」を優先」、「「家庭生活」を優先」は国、都よりも市の方が少なくなっている。

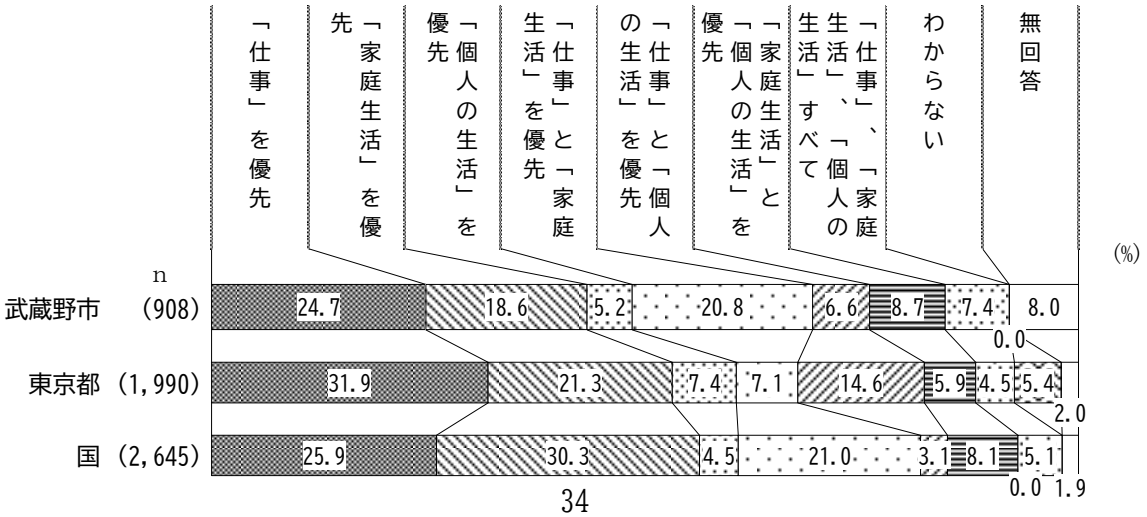
図表　仕事、家庭生活、個人の生活の理想の優先度(国調査・東京都調査比較)



（２）現実の優先度

現実の優先度は、「「仕事」を優先」、「「個人の生活」を優先」、「「仕事」と「家庭生活」を優先」は国調査と同様の傾向となっている。「「家庭生活」を優先」は国、都に比べて市の方が少なくなっている。

図表　仕事、家庭生活、個人の生活の現実の優先度(国調査・東京都調査比較)



（３）理想の生活に近づくための考え

問４で理想と現実が異なっている方にお聞きします。
問４－１　理想に近づくにはどうしたら良いか、あなたのお考えがあればご記入ください。
（なければ記入は不要です）

理想と現実の優先度が異なっている方に理想の生活に近づくための考えを聞いたところ、回答者 240 名から延べ 302 件の意見があった。

主な意見内容は、「収入の確保、昇給」に関する意見が 38 件と最も多く、「会社や社会の意識改革（特に男性）」（36 件）、「会社の組織、働き方改革」（31 件）、「社会制度の改革」（23 件）と続いている。

No.	理想に近づくにはどうしたらよいか(自由記入回答の分類)	件数
1	収入の確保、昇給	38 件
2	会社や社会の意識改革（特に男性）	36 件
3	会社の組織、働き方改革	31 件
4	社会制度の改革	23 件
5	周囲の理解、理解者を得る	21 件
6	仕事の効率化、時短	19 件
7	時間の確保	18 件
8	休暇取得、残業回避のしやすさ	14 件
9	家事や買い物の簡略化、家族協力	14 件
10	家事、育児サポート	13 件
11	出産、育児に関する支援金、サービスの充実	12 件
12	会社選び、転職	10 件
13	自立、自活（自身や家族）	9 件
14	健康維持	9 件
15	継続できる仕事がある	6 件
16	地域活動の活性化、イベント、交流	5 件
17	自身のスキルアップ	5 件
18	進学・退職	4 件
19	高齢層が若年層をサポートする	3 件
20	その他	12 件
	計	302 件

（４）男性が家事等に参加するために必要なこと

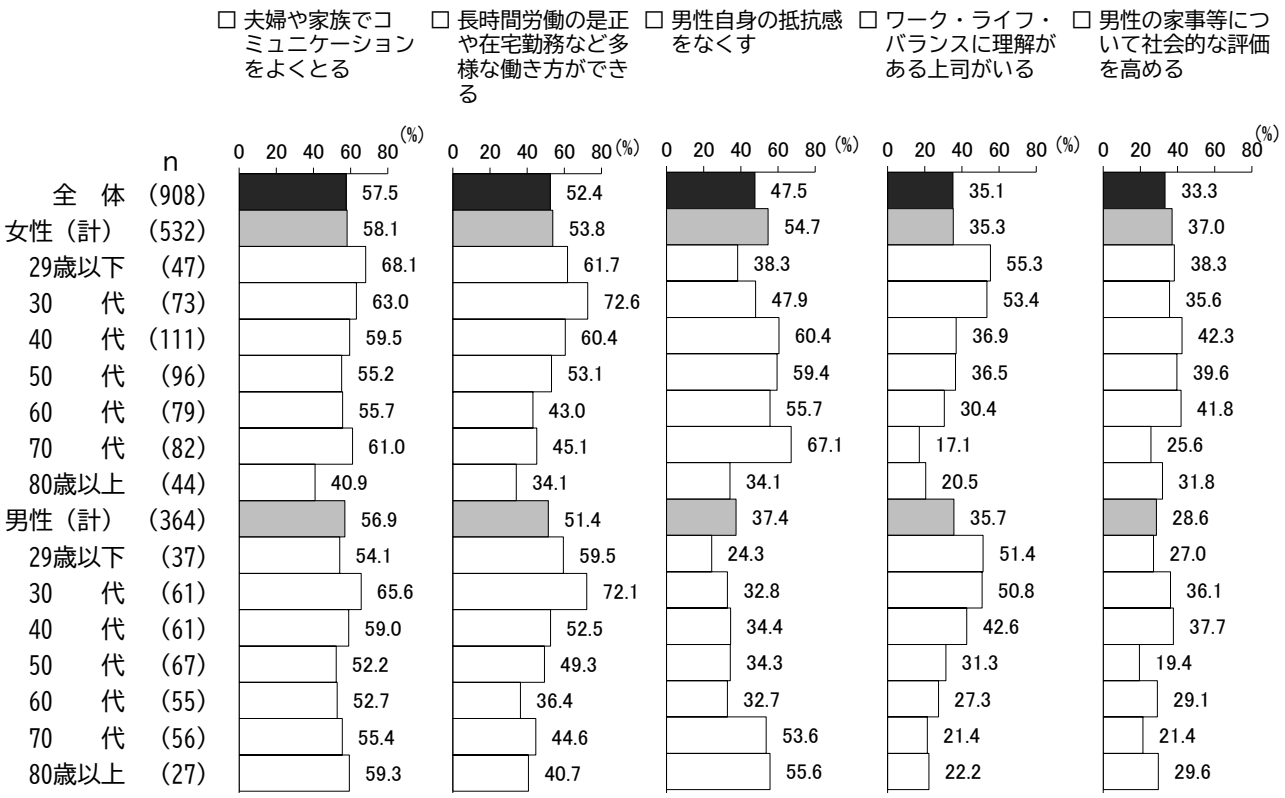
問５　あなたは、男性が家事等（家事・育児・介護・地域活動）に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

男性が家事等に参加するために必要なことは、全体では、「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」という回答が57.5％で最も多く、次いで、「長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができる」（52.4％）、「男性自身の抵抗感をなくす」（47.5％）、「ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる」（35.1％）となっている。

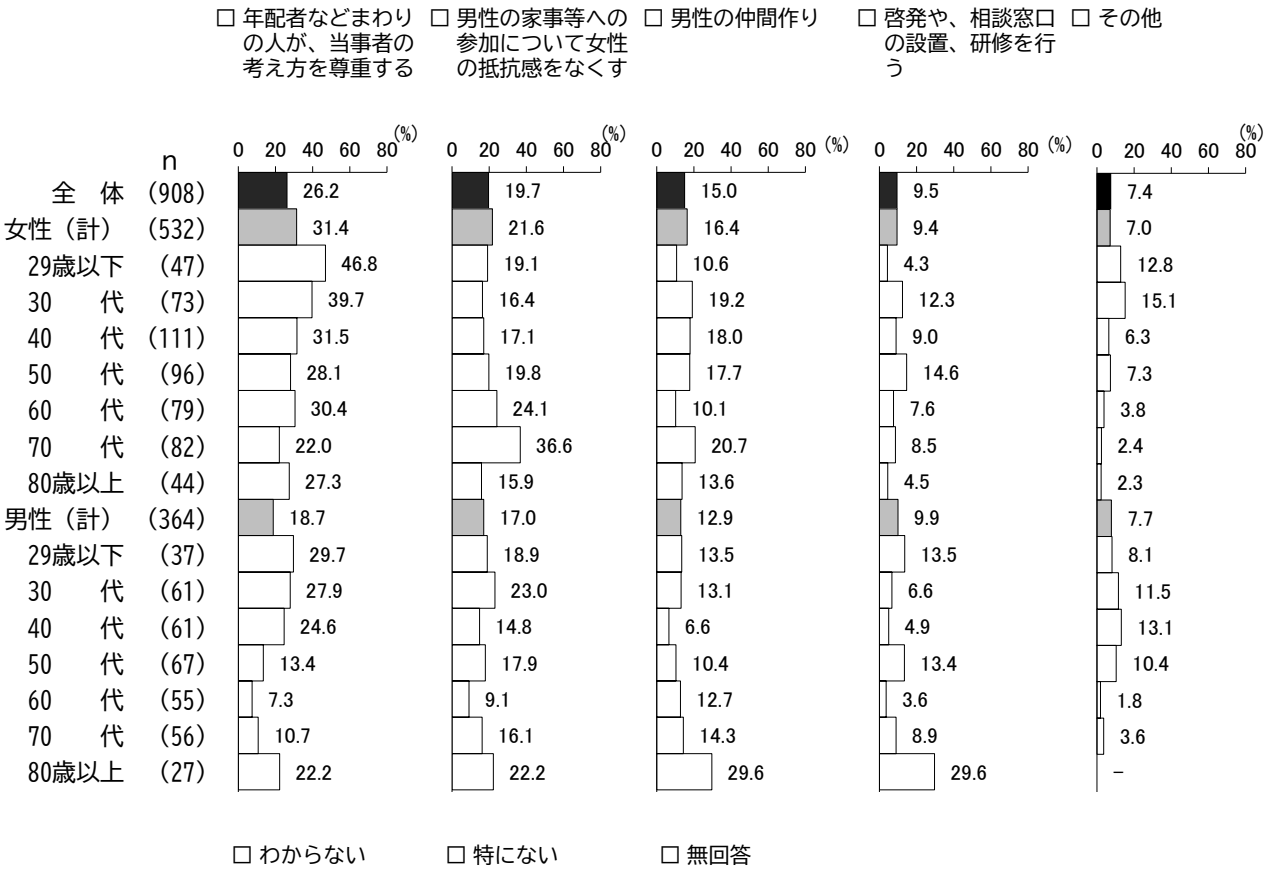
性別でみると、男女ともに「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」（女性58.1％、男性56.9％）が最も多い。「男性自身の抵抗感をなくす」（女性54.7％、男性37.4％）では、女性が男性を17.3ポイント上回っている。

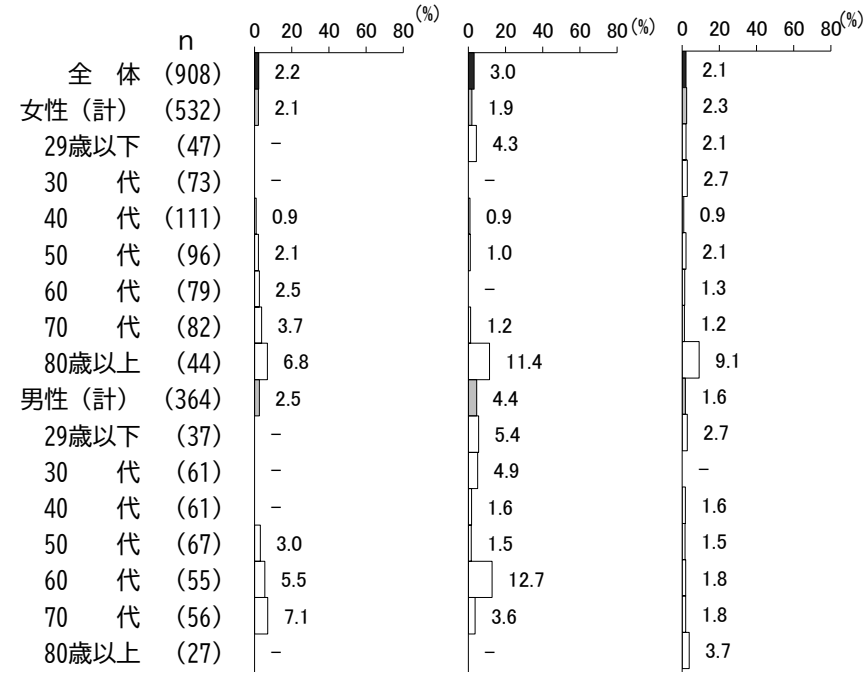
性・年代別では、「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」は女性29歳以下（68.1％）で多い。「長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができる」が男女ともに30代（女性72.6％、男性72.1％）で最も多く、「男性自身の抵抗感をなくす」は女性70代（67.1％）で最も多い。

図表　男性が家事等に参加するために必要なこと（全体、性別、性・年代別）①



図表　男性が家事等に参加するために必要なこと（全体、性別、性・年代別）②

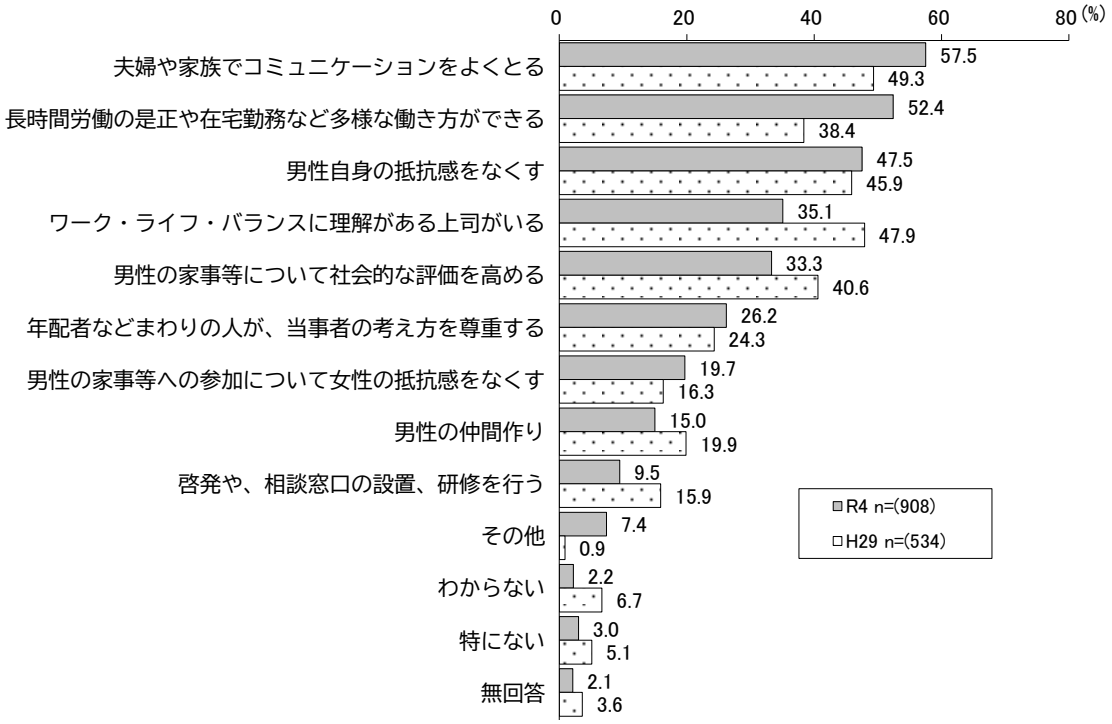




経年比較

平成29年調査と比較すると、「長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができる」（平成29年38.4%、令和４年52.4%）は14.0ポイント、「夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる」（平成29年49.3%、令和４年57.5%）は8.2ポイント増加している。「ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる」（平成29年47.9%、令和４年35.1%）は12.8ポイント減少している。

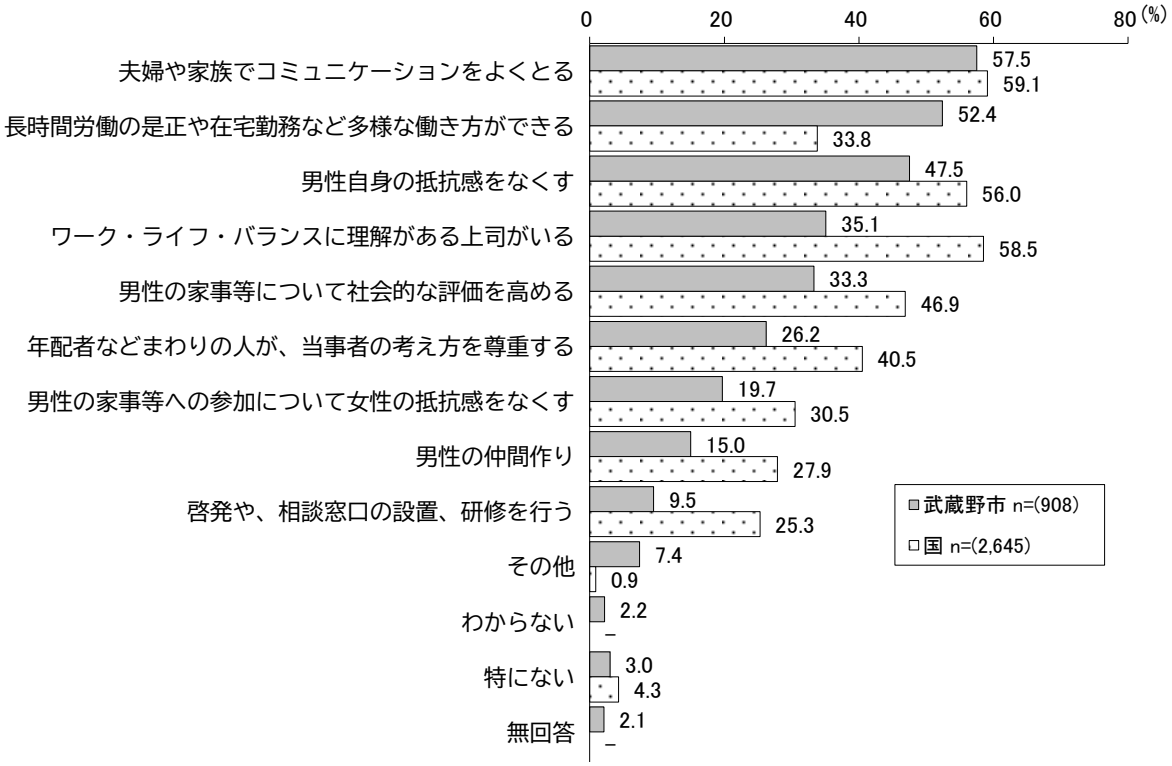
図表　男性が家事等に参加するために必要なこと（経年比較）



類似調査との比較

国の「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元(2019)年)」と比較すると、「長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができる」を除くすべての選択肢で市の方が国より回答割合が少なくなっている。「長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができる」は市が国を18.6ポイント上回る。

図表　男性が家事等に参加するために必要なこと(国調査比較)



（５）職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの

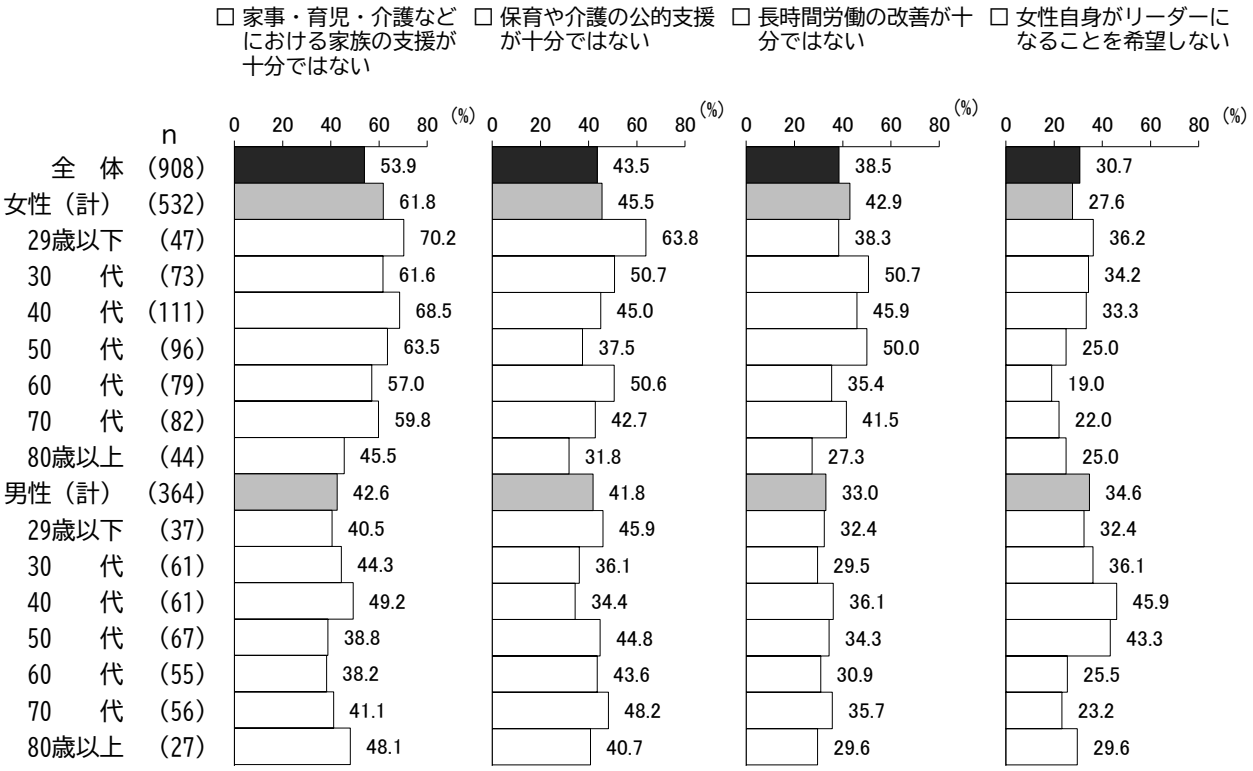
問６　あなたは、職場や地域の団体などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。（○はいくつでも）

職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは、「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」という回答が53.9%で最も多く、次いで「保育や介護の公的支援が十分ではない」（43.5%）、「長時間労働の改善が十分ではない」（38.5%）、「女性自身がリーダーになることを希望しない」（30.7%）となっている。

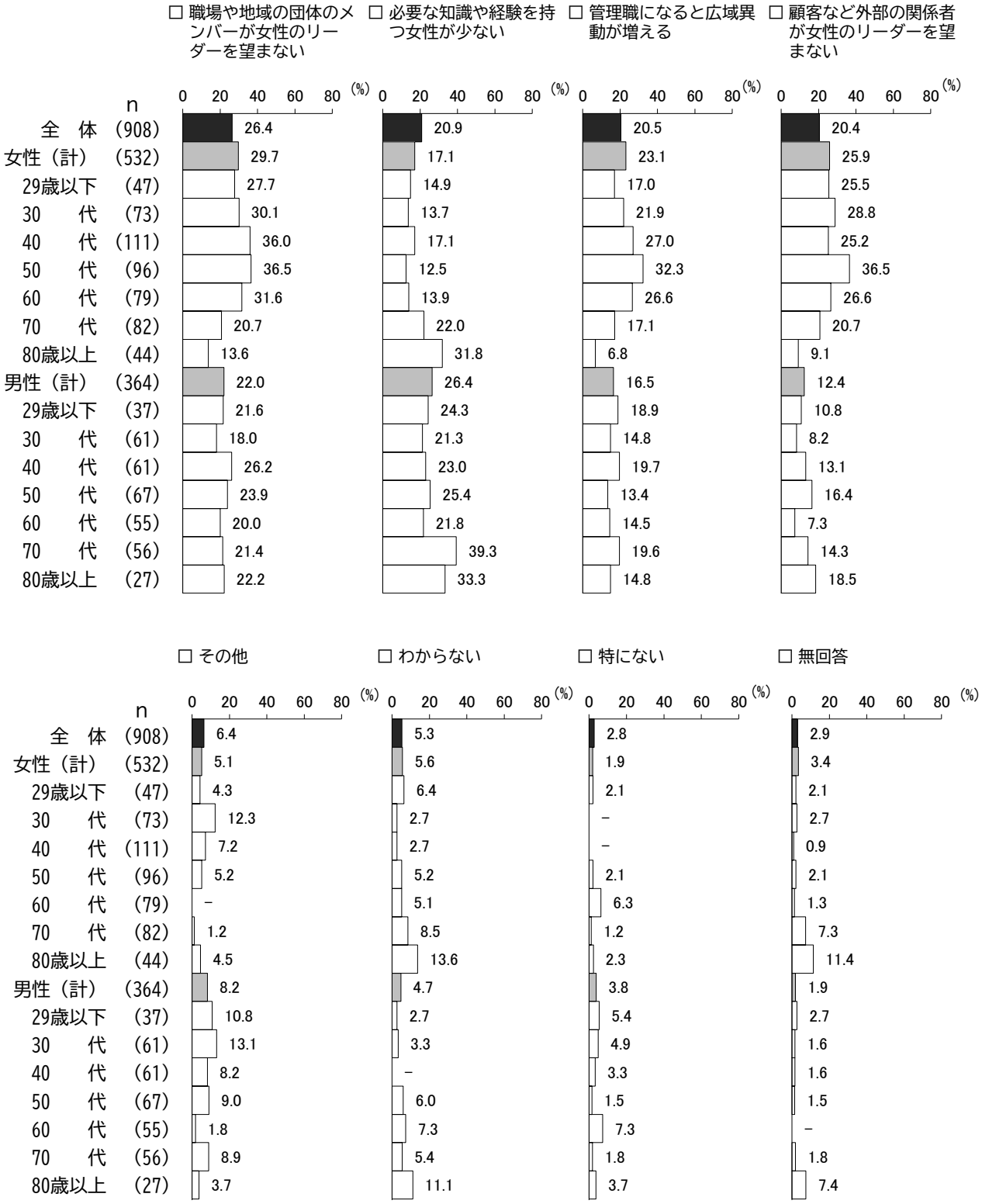
性別でみると、男女ともに「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」（女性61.8%、男性42.6%）が最も多く、女性が男性を19.2ポイント上回っている。また、「女性自身がリーダーになることを希望しない」（女性27.6%、男性34.6%）では、男性が女性を7.0ポイント上回る一方で、「顧客など外部の関係者が女性のリーダーを望まない」（女性25.9%、男性12.4%）では、女性が男性を13.5ポイント上回っている。

性・年代別では、「家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない」は女性29歳以下（70.2%）で最も多く、次いで40代（68.5%）である。「保育や介護の公的支援が十分ではない」は女性29歳以下（63.8%）で最も多く、「長時間労働の改善が十分ではない」は女性30代（50.7%）と50代（50.0%）で多い。

図表　職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの（全体、性別、性・年代別）①



図表　職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの（全体、性別、性・年代別）②



性・職業・地域活動参加の有無別でみると、「女性自身がリーダーになることを希望しない」では男性/無職/地域活動に参加したいができていない層が45.2%と最も多くなっている。「職場や地域の団体メンバーが女性のリーダーを望まない」、「顧客など外部の関係者が女性のリーダーを望まない」では女性/無職/地域活動に参加したいができていない層の回答が多くなっている。

なお、「有職」は職業を尋ねる設問Ｆ３の「自営業主（家族従業員を含む）、自由業」、「正社員、正職員」、「パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など」、「その他」をまとめたもの、「無職」は「学生」、「家事専業」、「無職」をまとめたものとした。

図表　職場や地域の団体などで女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの
（全体、性・職業・地域活動参加の有無別）

(%)

			調査数（ｎ）	必要な知識や経験を持つ女性が少ない	女性自身がリーダーになることを希望しない	職場や地域の団体のメンバーが女性のリーダーを望まない	顧客など外部の関係者が女性のリーダーを望まない	長時間労働の改善が十分ではない	管理職になると広域異動が増える	家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない	保育や介護の公的支援が十分ではない	その他	わからない	特にない	無回答
全　体			908	20.9	30.7	26.4	20.4	38.5	20.5	53.9	43.5	6.4	5.3	2.8	2.9
女性	有職	参加している	56	8.9	28.6	28.6	28.6	53.6	30.4	71.4	46.4	7.1	5.4	1.8	－
		参加したいができていない	66	10.6	30.3	27.3	21.2	60.6	39.4	68.2	37.9	4.5	1.5	－	1.5
		参加するつもりがない	50	12.0	32.0	28.0	20.0	40.0	14.0	66.0	40.0	6.0	4.0	4.0	－
	無職	参加している	66	13.6	30.3	18.2	15.2	28.8	19.7	60.6	47.0	3.0	4.5	1.5	6.1
		参加したいができていない	46	13.0	19.6	34.8	32.6	50.0	23.9	63.0	54.3	4.3	2.2	2.2	2.2
		参加するつもりがない	42	14.3	16.7	23.8	26.2	40.5	28.6	59.5	50.0	2.4	14.3	4.8	4.8
男性	有職	参加している	38	23.7	42.1	18.4	10.5	26.3	13.2	47.4	39.5	13.2	2.6	5.3	－
		参加したいができていない	46	15.2	23.9	26.1	17.4	37.0	19.6	43.5	43.5	13.0	2.2	4.3	2.2
		参加するつもりがない	43	25.6	27.9	32.6	14.0	34.9	14.0	44.2	32.6	4.7	2.3	7.0	2.3
	無職	参加している	39	33.3	25.6	20.5	20.5	43.6	25.6	51.3	51.3	7.7	2.6	－	－
		参加したいができていない	42	31.0	45.2	9.5	7.1	38.1	16.7	42.9	50.0	9.5	2.4	－	－
		参加するつもりがない	44	29.5	40.9	18.2	11.4	25.0	25.0	38.6	40.9	4.5	9.1	9.1	－

４　男女平等意識について

（１）男女の地位の平等感

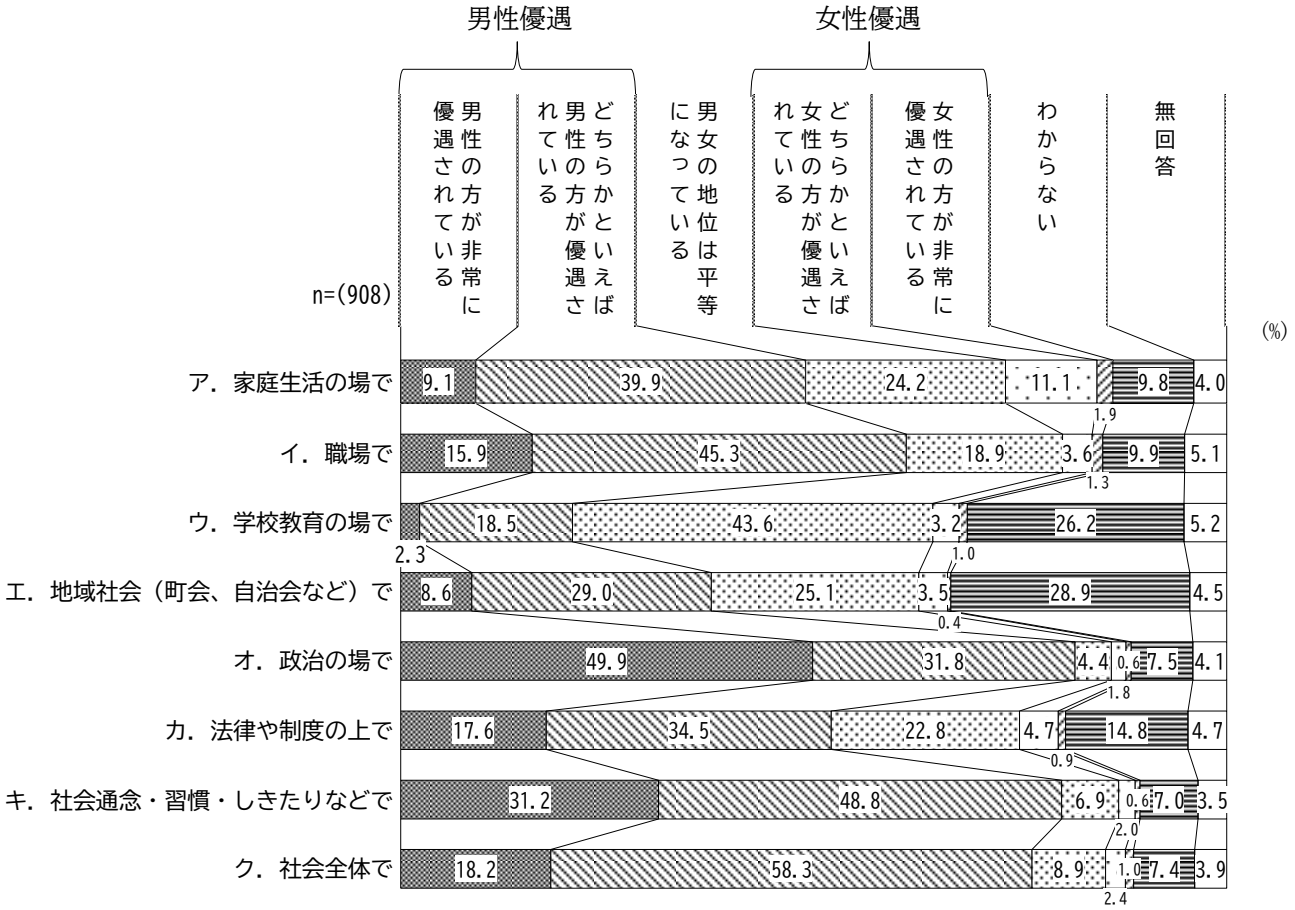
問７　あなたは、次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

男女の地位の平等感は、「男女の地位は平等になっている」という回答が最も多いのは「学校教育の場で」(43.6%）である。次いで、「地域社会（町会、自治会など）で」(25.1%)、「家庭生活の場で」(24.2%)、「法律や制度の上で」(22.8%）となっている。

＜男性優遇※＞の割合は、「政治の場で」(81.7%)、「社会通念・習慣・しきたりなどで」(80.0%)、「社会全体で」(76.5%)、「職場で」(61.2%)、「法律や制度の上で」(52.1%）で半数以上である。

※「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

図表　男女の地位の平等感(全体)



４　男女平等意識について

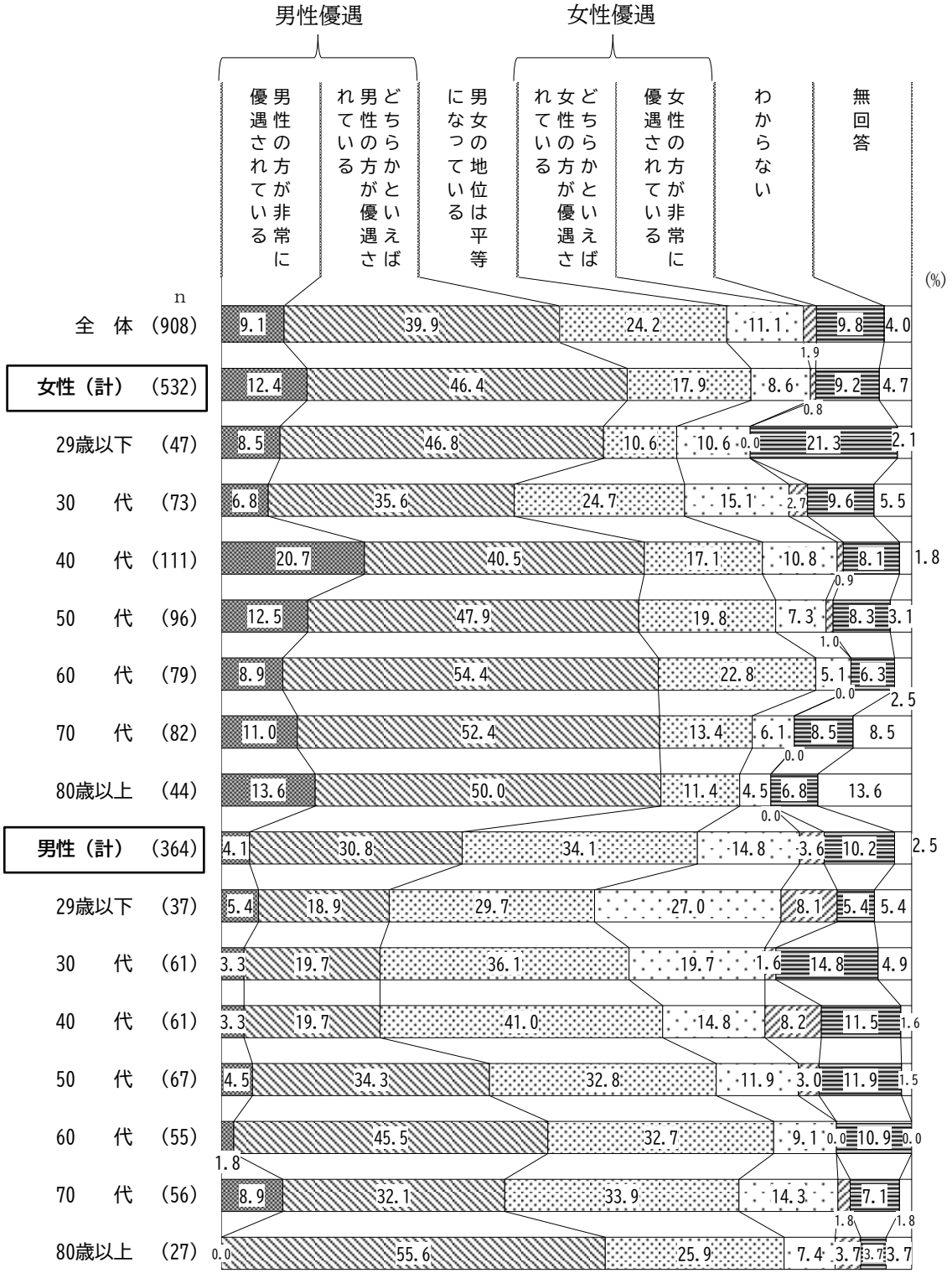
ア　家庭生活の場で

性別でみると、「男女の地位は平等になっている」と回答したのは、男性（34.1%）が女性（17.9%）を16.2ポイント上回っている。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性40代（41.0%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、女性の40代から80歳以上で６割以上と多い。＜女性優遇※＞の割合は、男性29歳以下で35.1%と多くなっている。

※「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

図表　男女の地位の平等感「ア　家庭生活の場で」（全体、性別、性・年代別）

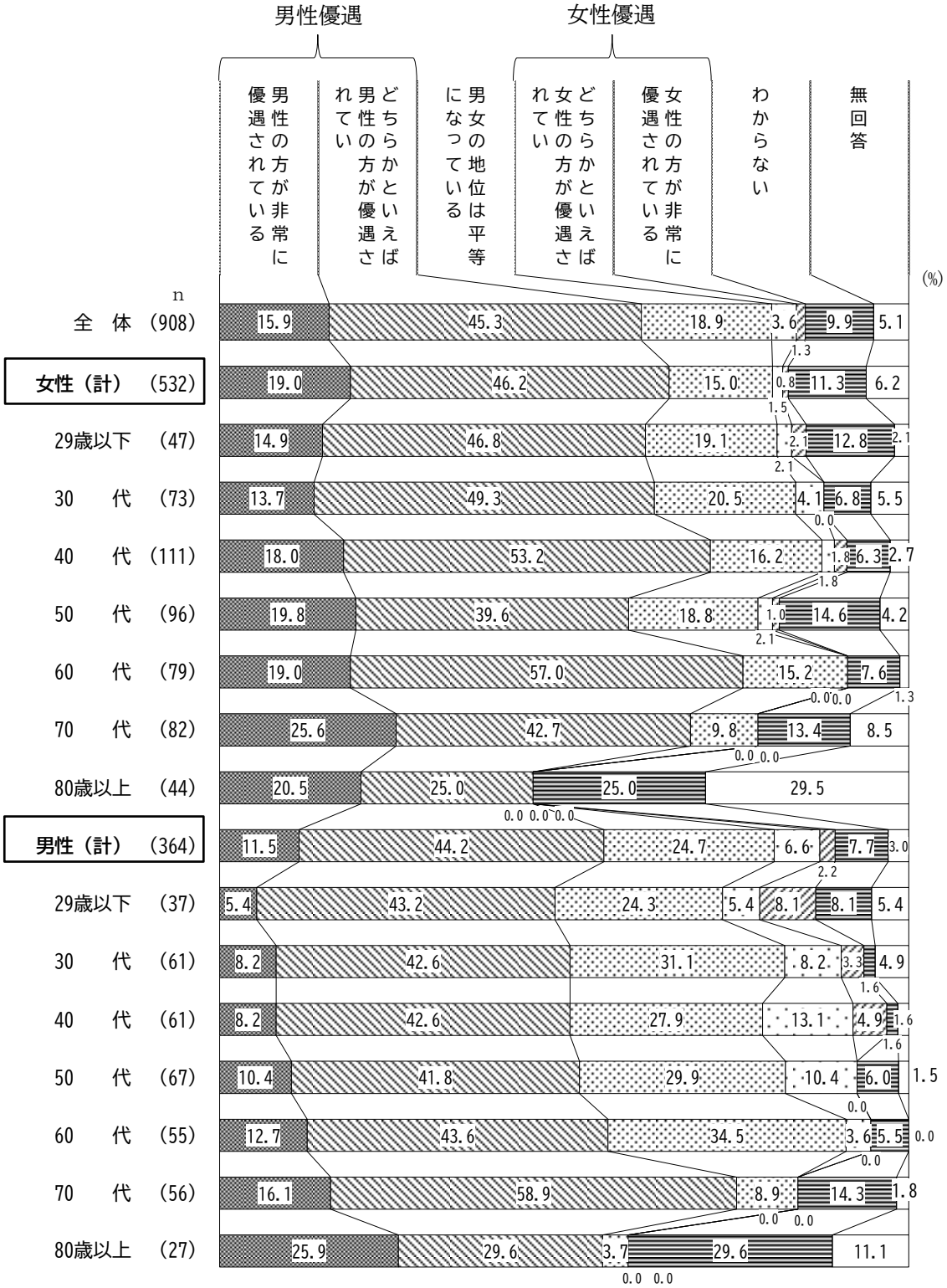


イ　職場で

性別でみると、男女ともに＜男性優遇＞（女性65.2%、男性55.7%）の割合が多い。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性60代（34.5%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、女性の40代（71.2%）と60代（76.0%）、男性の70代（75.0%）で７割以上と多い。＜女性優遇＞の割合は、男性40代で18.0%と多くなっている。

図表　男女の地位の平等感「イ　職場で」（全体、性別、性・年代別）

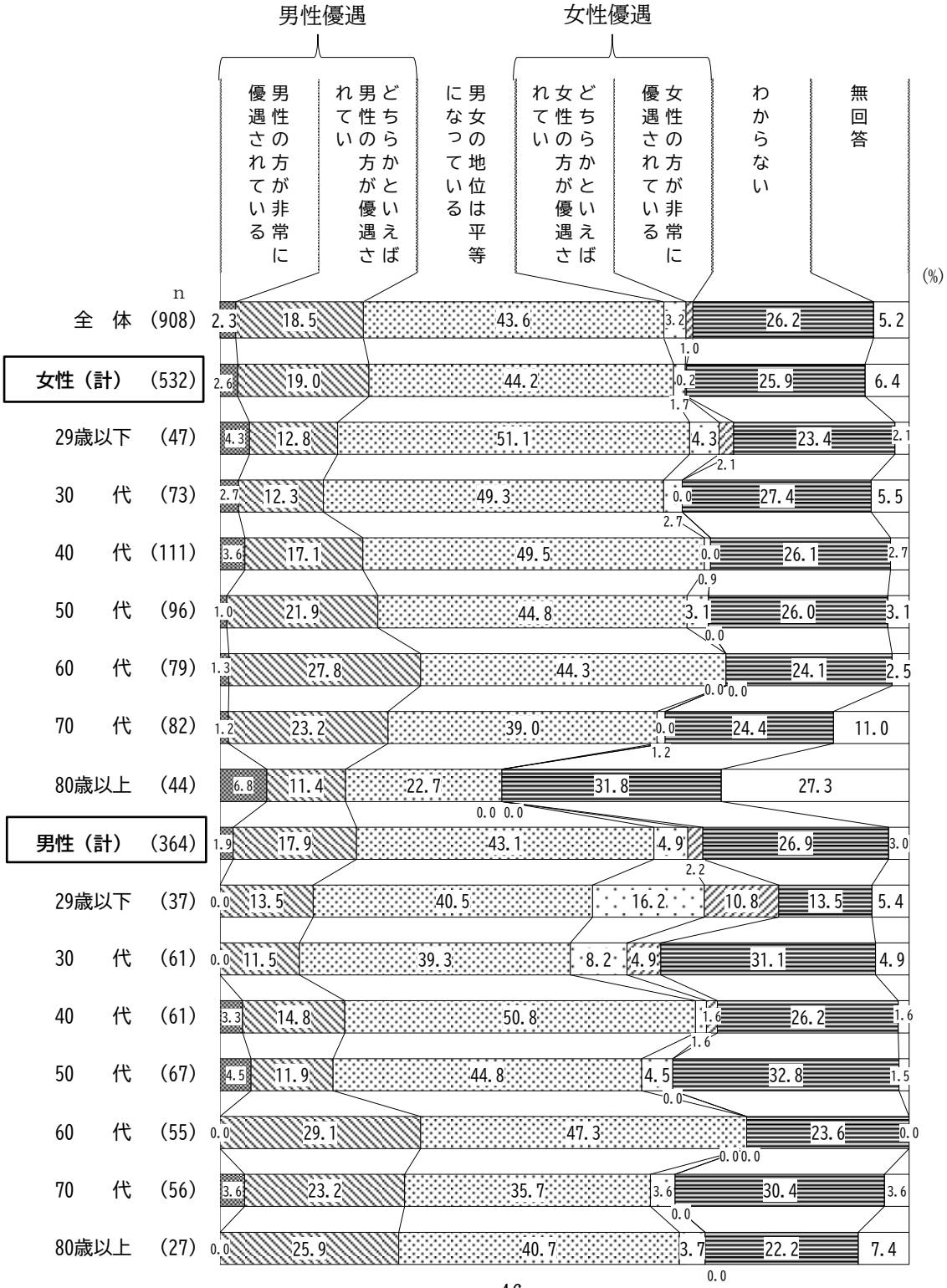


ウ　学校教育の場で

性別でみると、男女ともに「男女の地位は平等になっている」（女性44.2%、男性43.1%）の割合が多い。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は女性29歳以下（51.1%）と男性40代（50.8%）で多い。＜男性優遇＞の割合は、男女ともに60代（ともに29.1%）で最も多い。＜女性優遇＞の割合は、男性29歳以下で27.0%と多くなっている。

図表　男女の地位の平等感「ウ　学校教育の場で」（全体、性別、性・年代別）

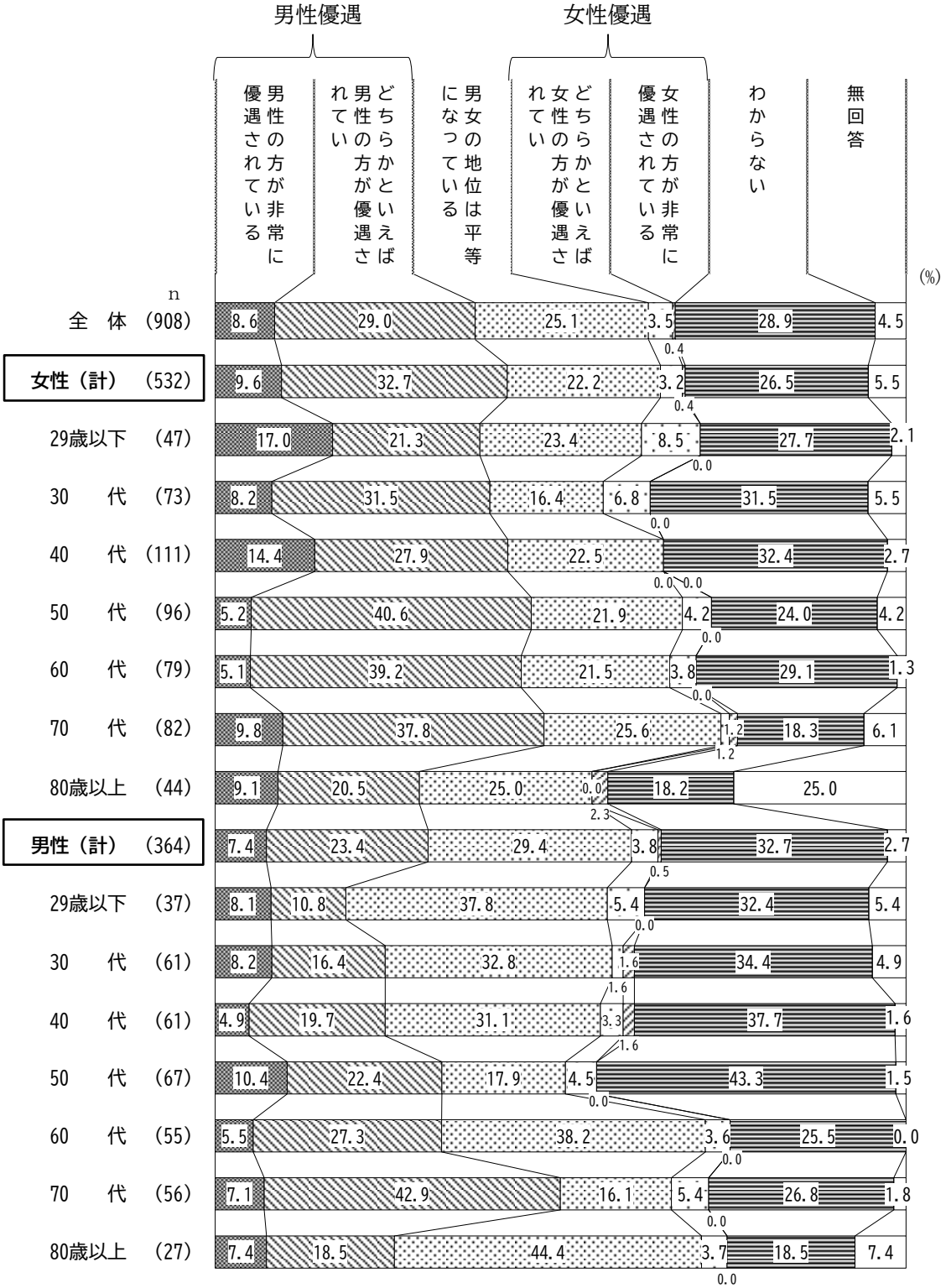


エ　地域社会（町会、自治会など）で

性別でみると、女性は＜男性優遇＞（42.3%）、男性は「わからない」（32.7%）の割合が多い。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性60代（38.2%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、男女ともに70代（女性47.6%、男性50.0%）で多い。

図表　男女の地位の平等感「エ　地域社会(町会、自治会など)で」(全体、性別、性・年代別)

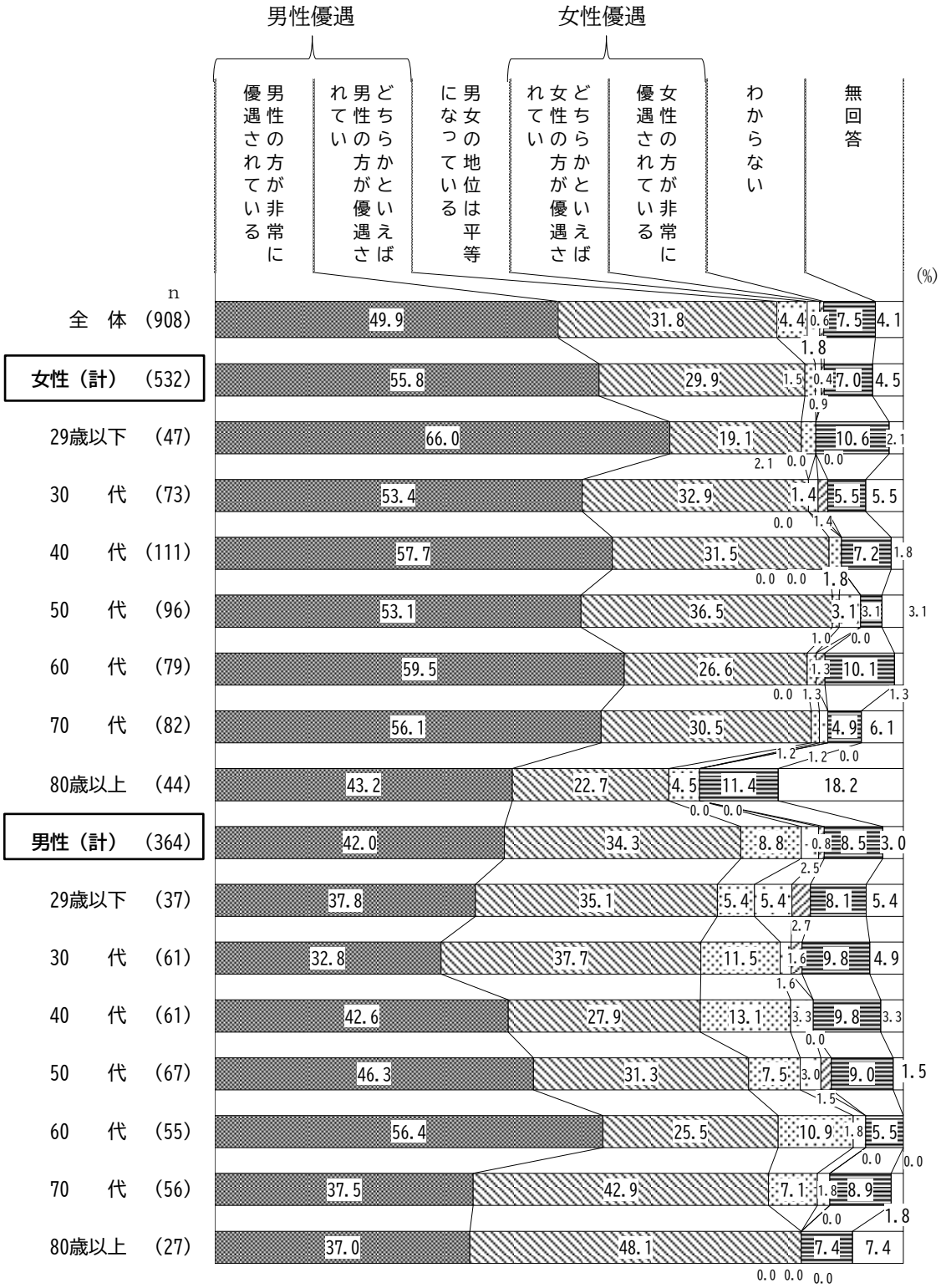


オ　政治の場で

性別でみると、男女ともに＜男性優遇＞（女性85.7%、男性76.3%）の割合が多い。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性40代（13.1%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、女性の29歳以下から70代、男性の60代以上で８割以上と多い。

図表　男女の地位の平等感「オ　政治の場で」（全体、性別、性・年代別）

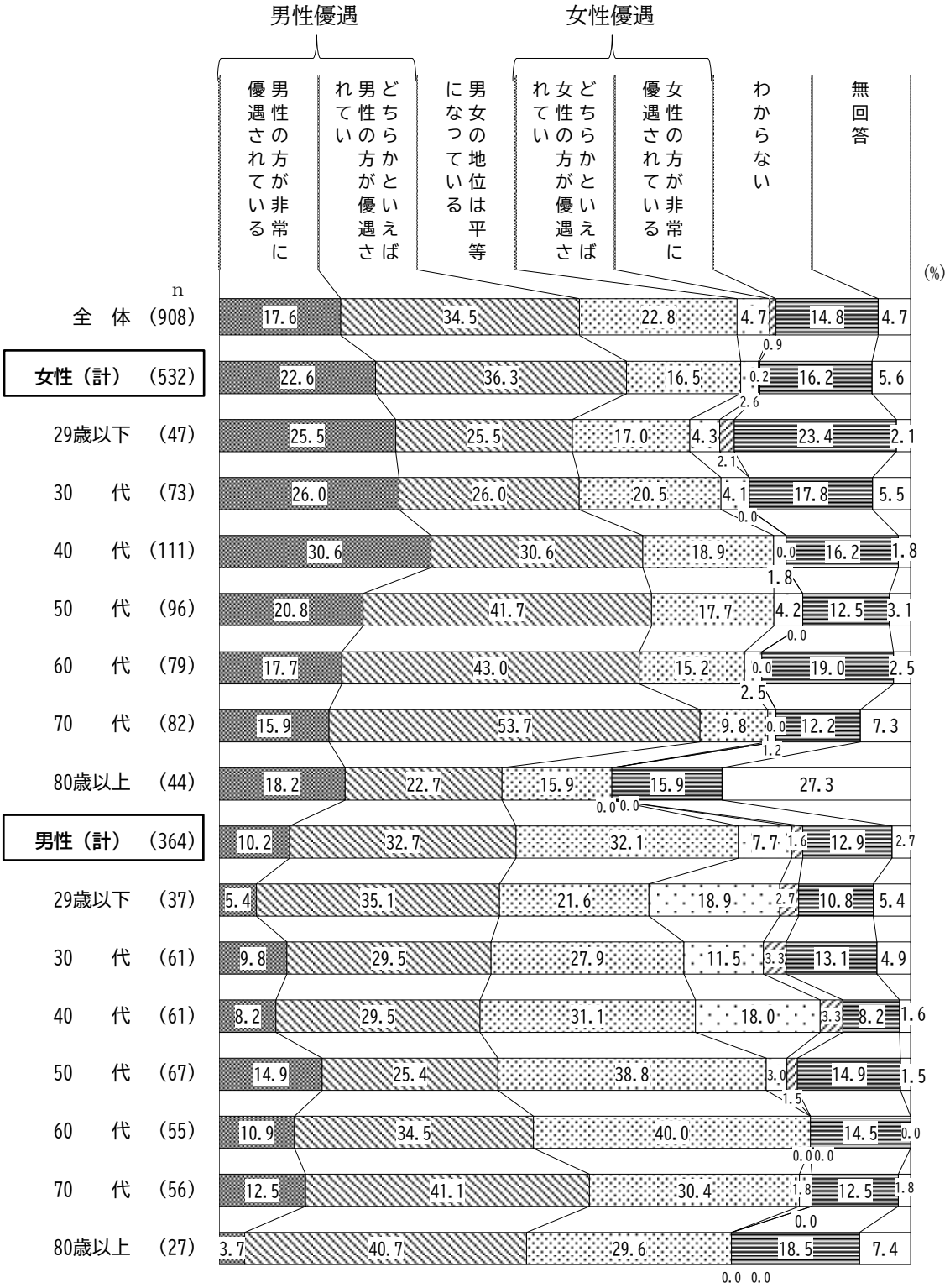


カ　法律や制度の上で

性別でみると、「男女の地位は平等になっている」と回答したのは、男性（32.1%）が女性（16.5%）を15.6ポイント上回っている。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性60代（40.0%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、女性の40代から70代で６割以上と多い。

図表　男女の地位の平等感「カ　法律や制度の上で」（全体、性別、性・年代別）

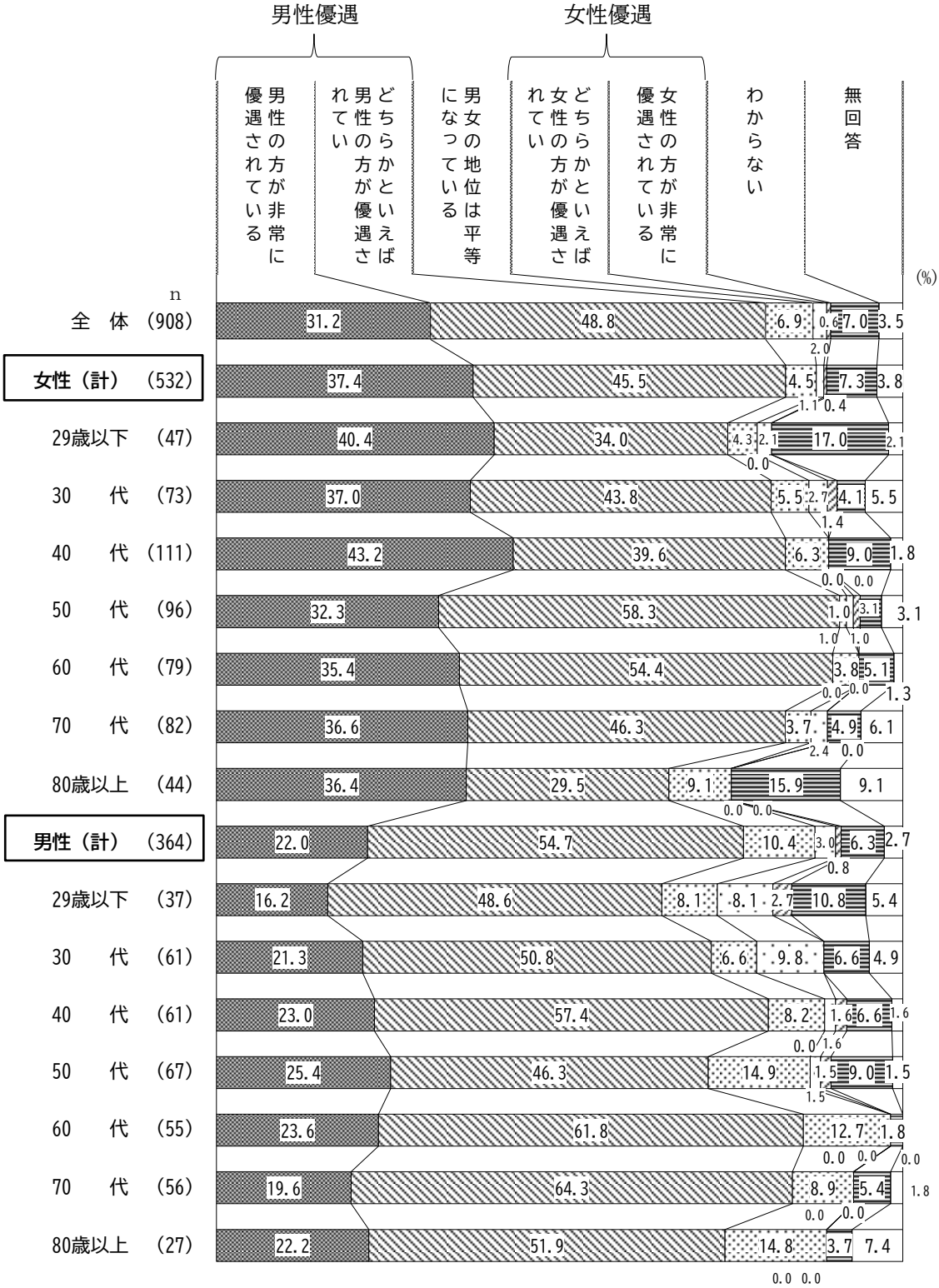


キ　社会通念・習慣・しきたりなどで

性別でみると、男女ともに＜男性優遇＞（女性82.9%、男性76.7%）の割合が多い。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性50代（14.9%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、女性の30代から70代、男性の40代、60代と70代で８割以上と多い。

図表　男女の地位の平等感「キ　社会通念・習慣・しきたりなどで」（全体、性別、性・年代別）

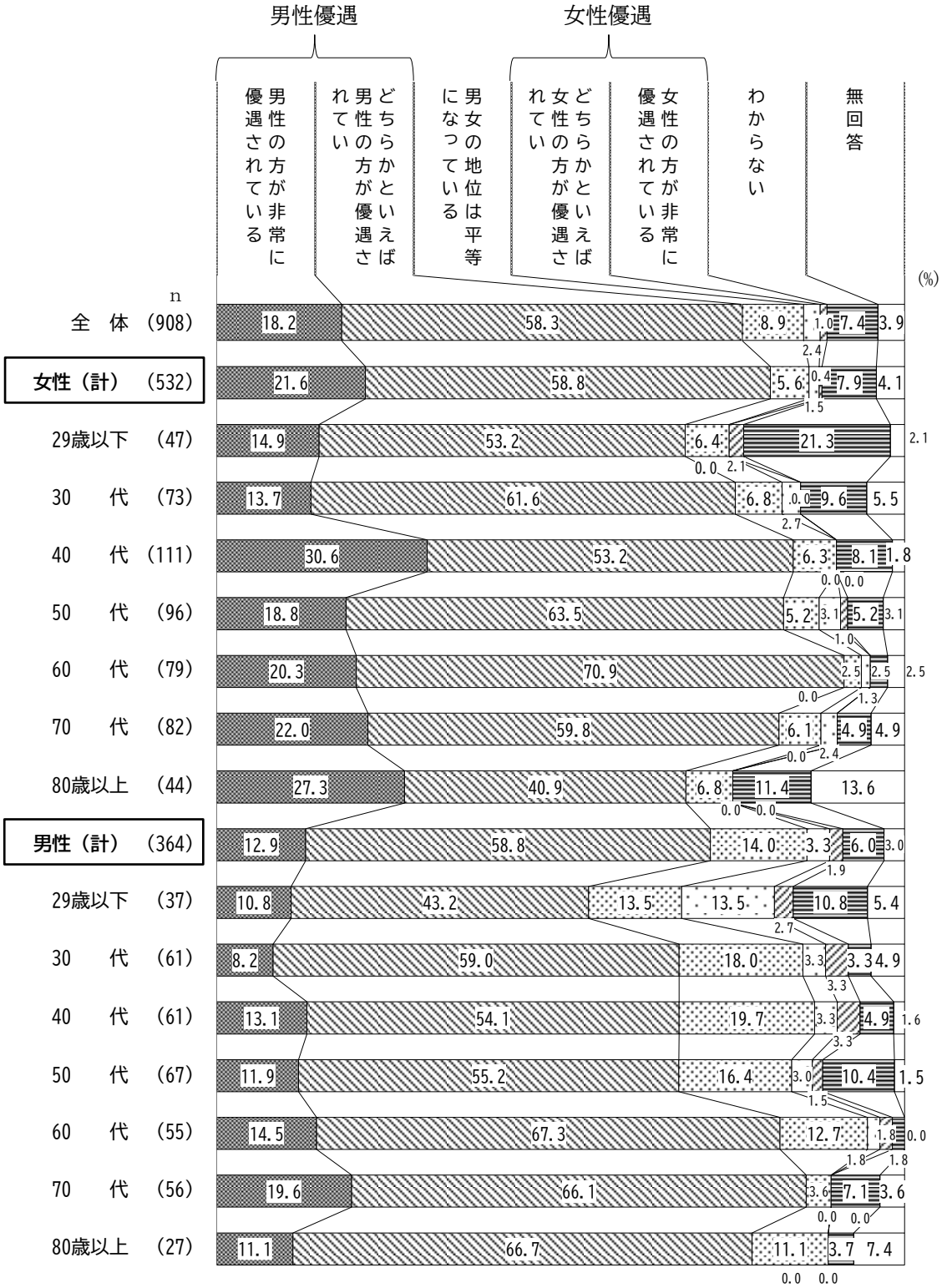


ク　社会全体で

性別でみると、男女ともに＜男性優遇＞（女性80.4%、男性71.7%）の割合が多い。

性・年代別では、「男女の地位は平等になっている」は男性40代（19.7%）で最も多い。＜男性優遇＞の割合は、女性の40代から70代、男性の60代と70代で８割以上と多い。

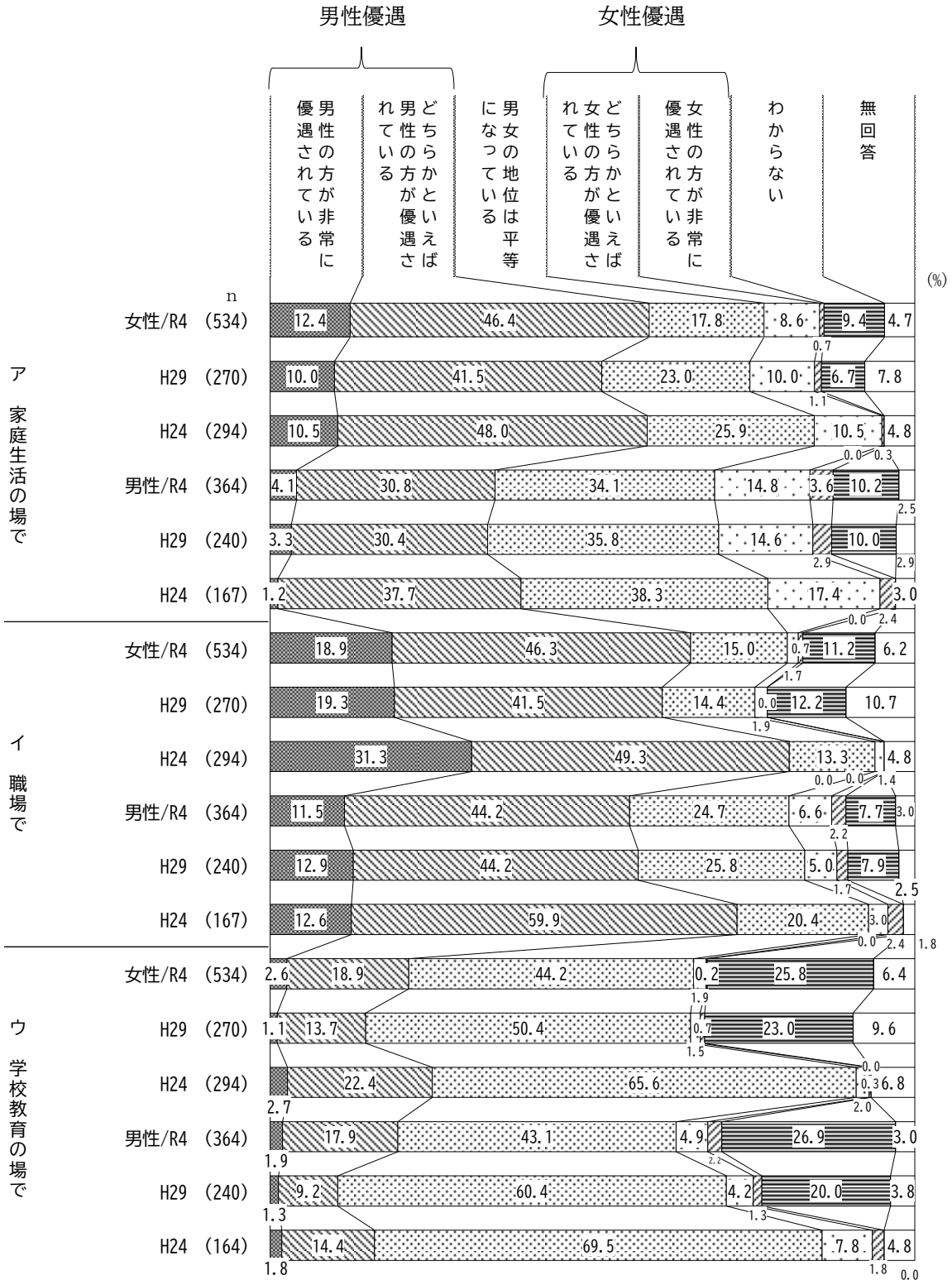
図表　男女の地位の平等感「ク　社会全体で」（全体、性別、性・年代別）



経年比較

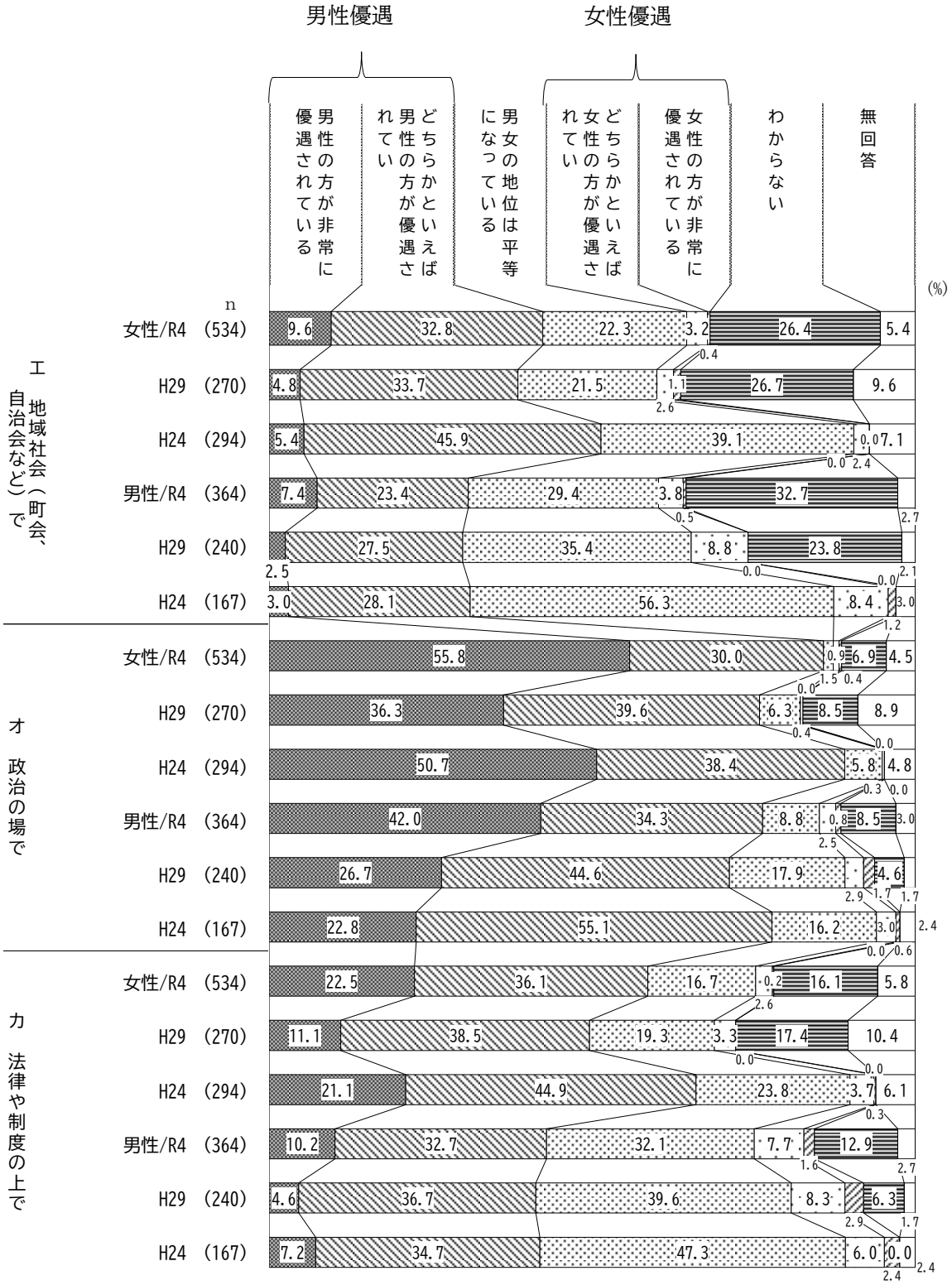
＜男性優遇＞は、平成29年調査と比較すると男性の「イ　職場で」以外の全てで増加している。平成24年調査と比較すると、おおむね減少傾向であり、男性と女性の「イ　職場で」、女性の「エ　地域社会（町会、自治会など）で」、「カ　法律や制度の上で」、「ク　社会全体で」で６ポイント以上の減少がみられる。

図表　男女の地位の平等感（経年比較）



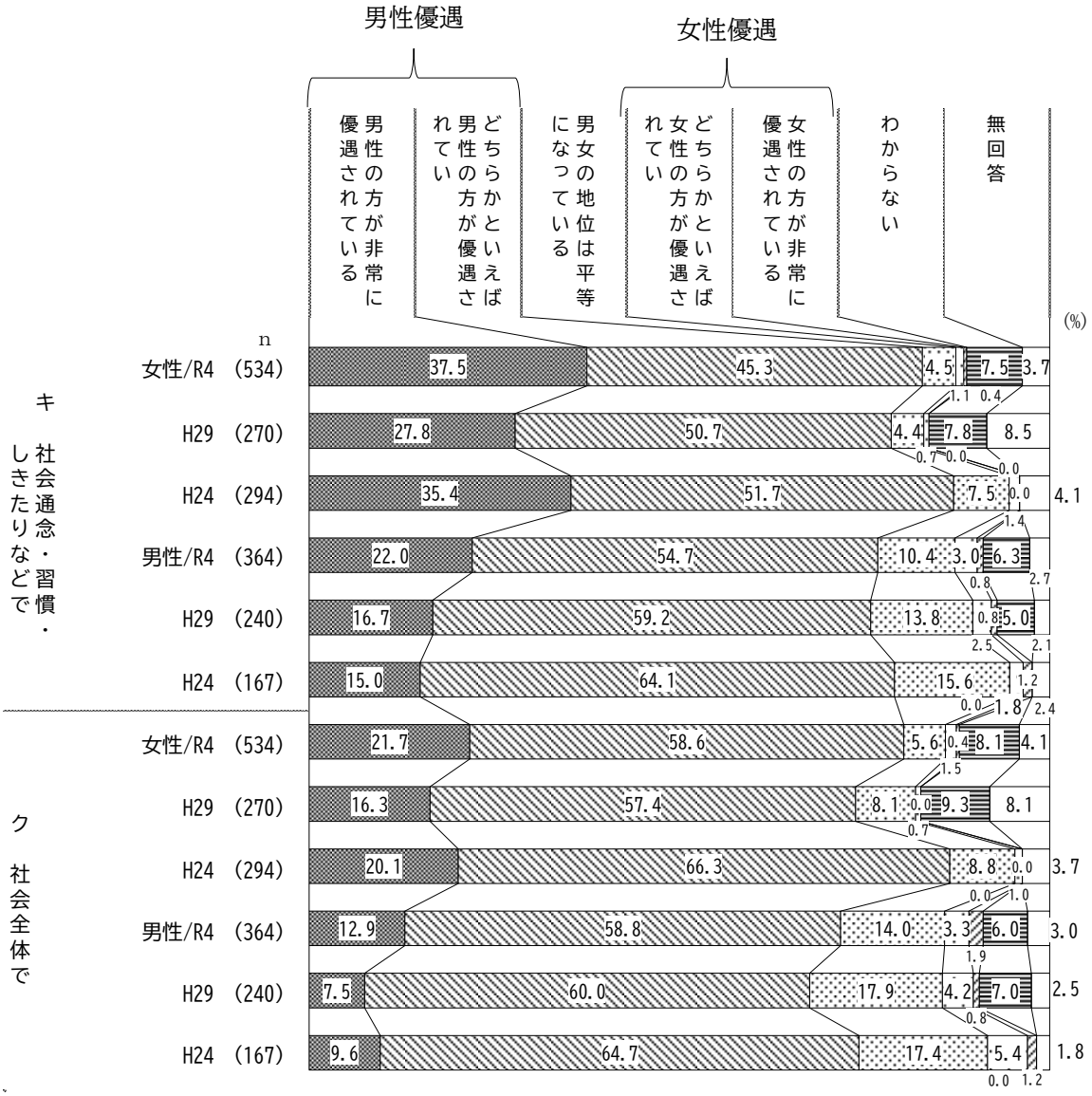
経年比較

図表　男女の地位の平等感（経年比較）



経年比較

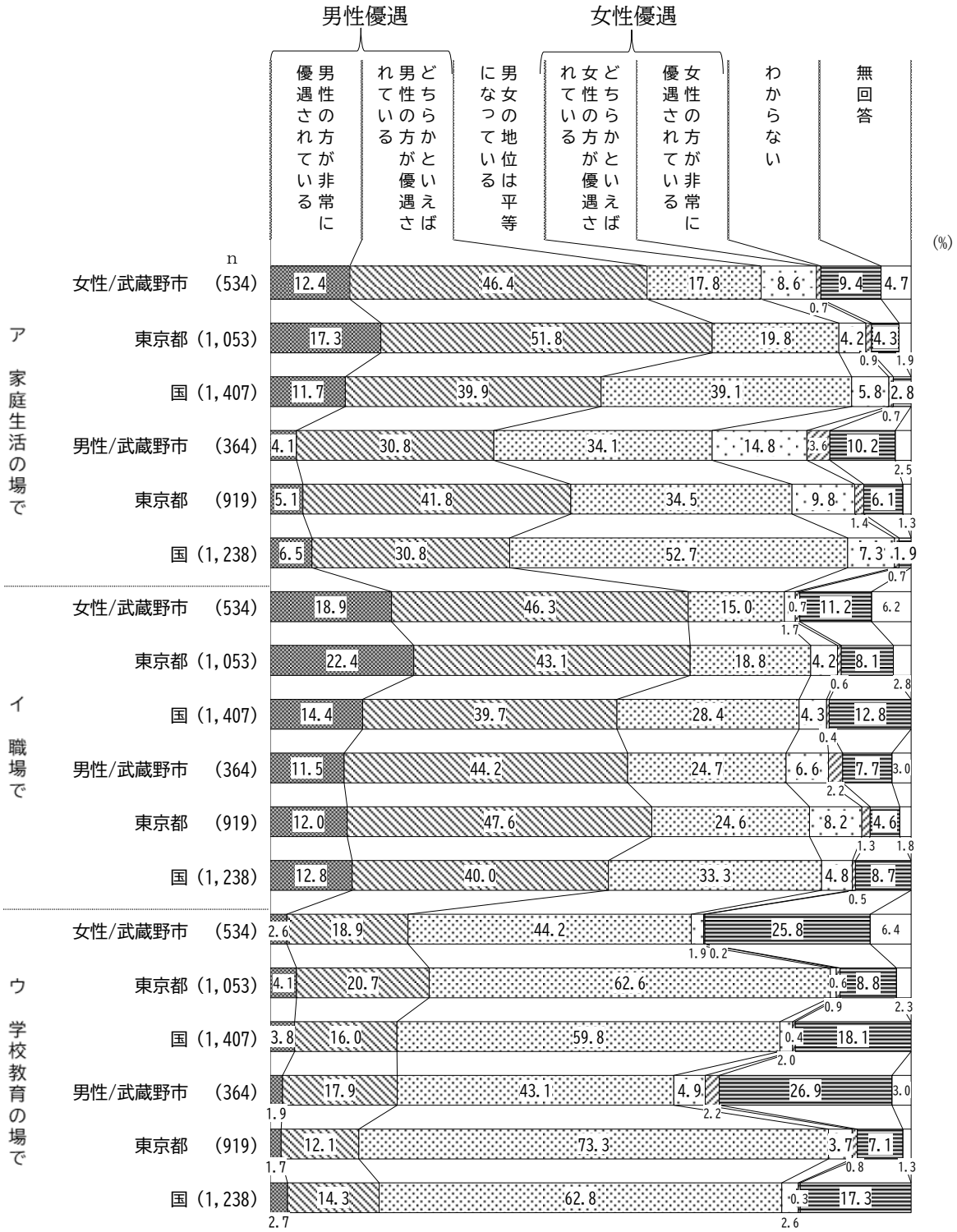
図表　男女の地位の平等感（経年比較）



類似調査との比較

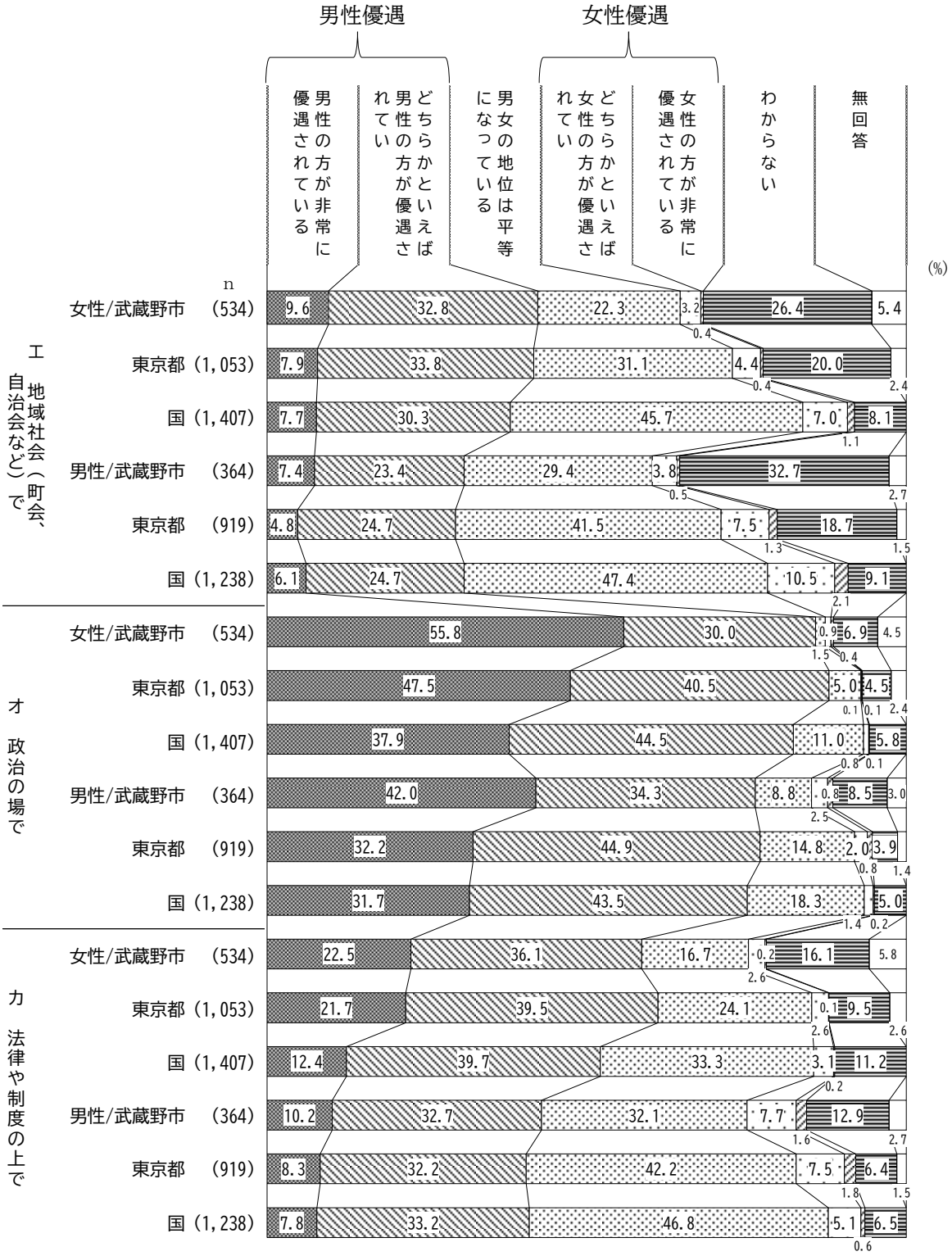
国の「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元(2019)年)」及び東京都の「男女平等参画に関する世論調査（令和２(2020)年)」と比較すると、「ア　家庭生活の場で」「エ　地域社会（町会、自治会など）で」「オ　政治の場で」「カ　法律や制度の上で」「キ　社会通念・習慣・しきたりなどで」は「男女の地位は平等になっている」が国より都、都より市の方が少なくなっている。

図表　男女の地位の平等感(国調査･東京都調査比較)



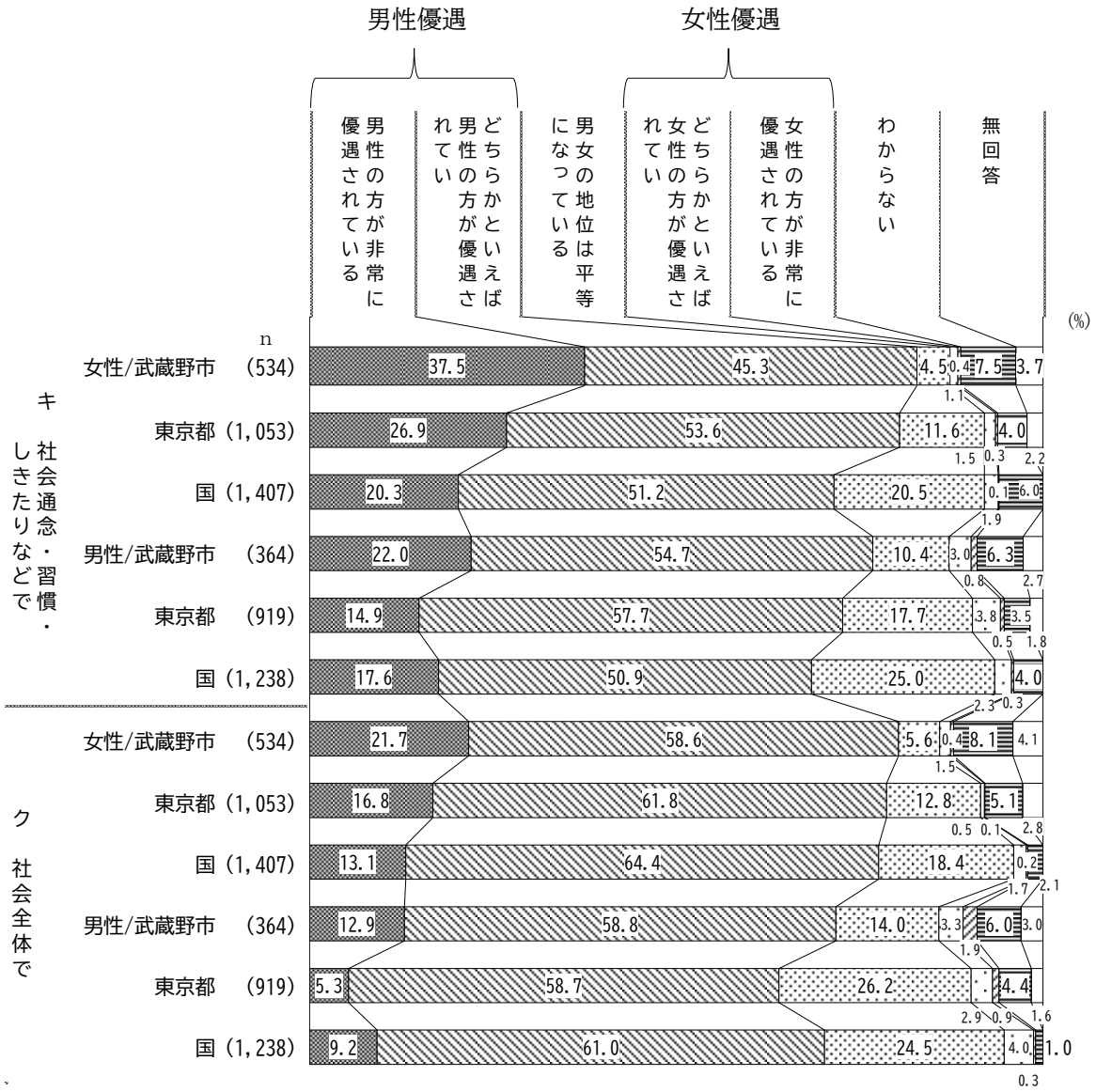
類似調査との比較

図表　男女の地位の平等感（国調査・東京都調査比較）



類似調査との比較

図表　男女の地位の平等感（国調査・東京都調査比較）



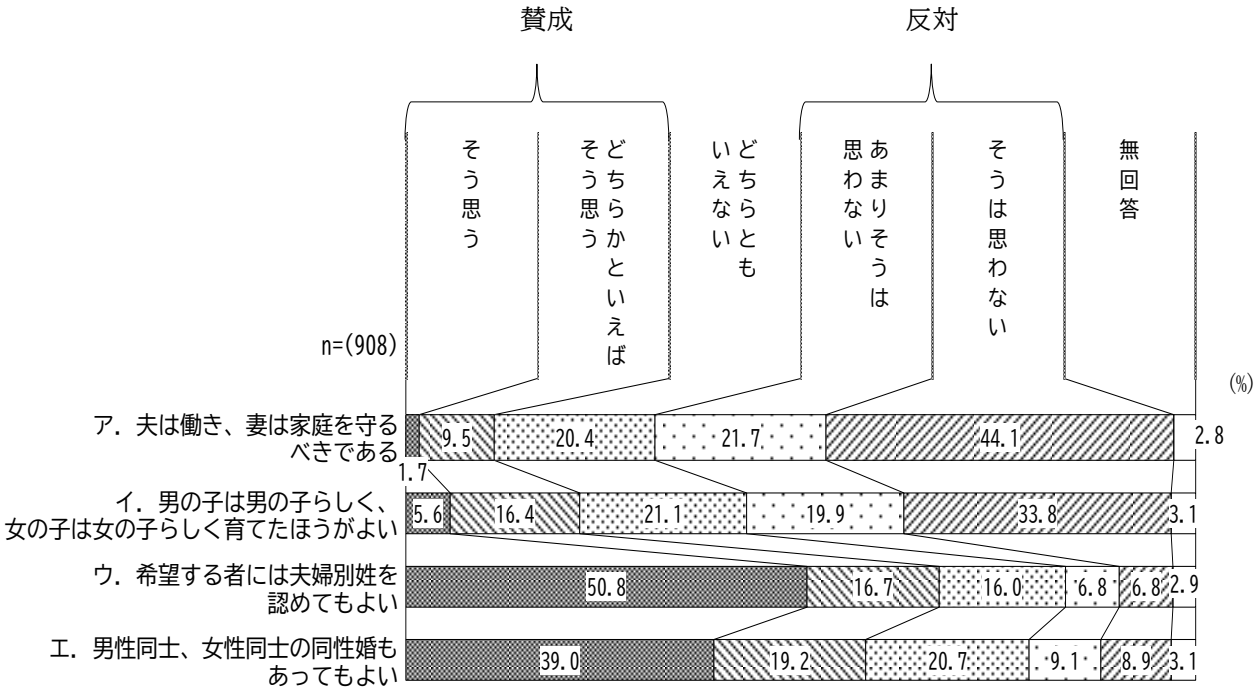
（２）男女平等に関する考え方

問８　あなたは、次にあげるような考え方について、どのように思いますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

男女平等に関する考え方は、全体では＜反対意見※１＞が多いのは、「夫は働き、妻は家庭を守るべきである」（65.8%）と「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」（53.7%）となっている。一方、＜賛成意見※２＞が多いのは、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」（67.5%）と「男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」（58.2%）となっている。

※１「あまりそうは思わない」と「そうは思わない」の合計
※２「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

図表　男女平等に関する考え方（全体）

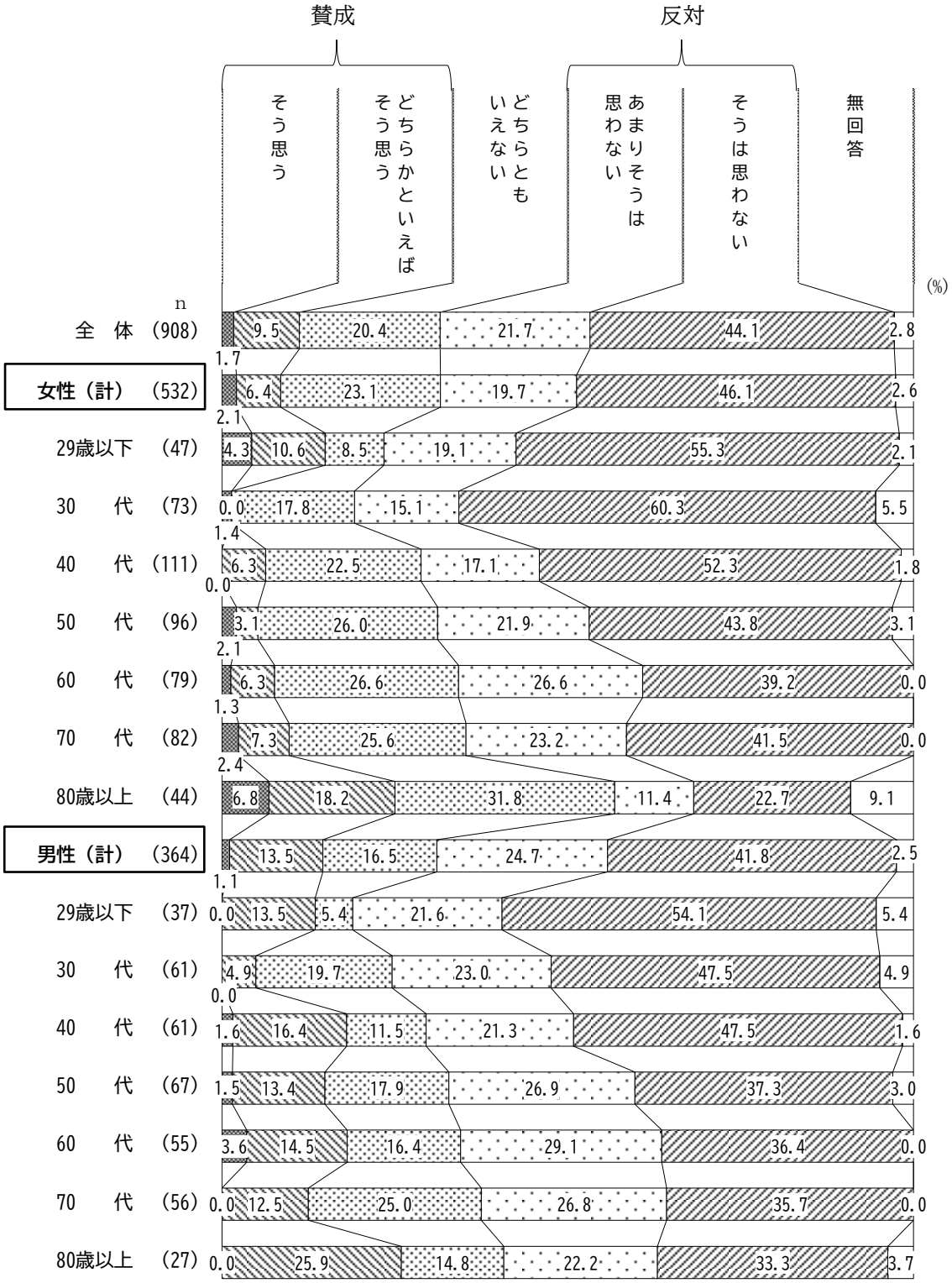


ア　夫は働き、妻は家庭を守るべきである

性別でみると、男女ともに＜反対意見＞（女性65.8%、男性66.5%）の割合が多い。

性・年代別では、＜反対意見＞の割合は、男女ともに29歳以下（女性74.4%、男性75.7%）と30代（女性75.4%、男性70.5%）で７割以上と多い。

図表　男女平等に関する考え方「ア　夫は働き、妻は家庭を守るべきである」（全体、性別、性・年代別）



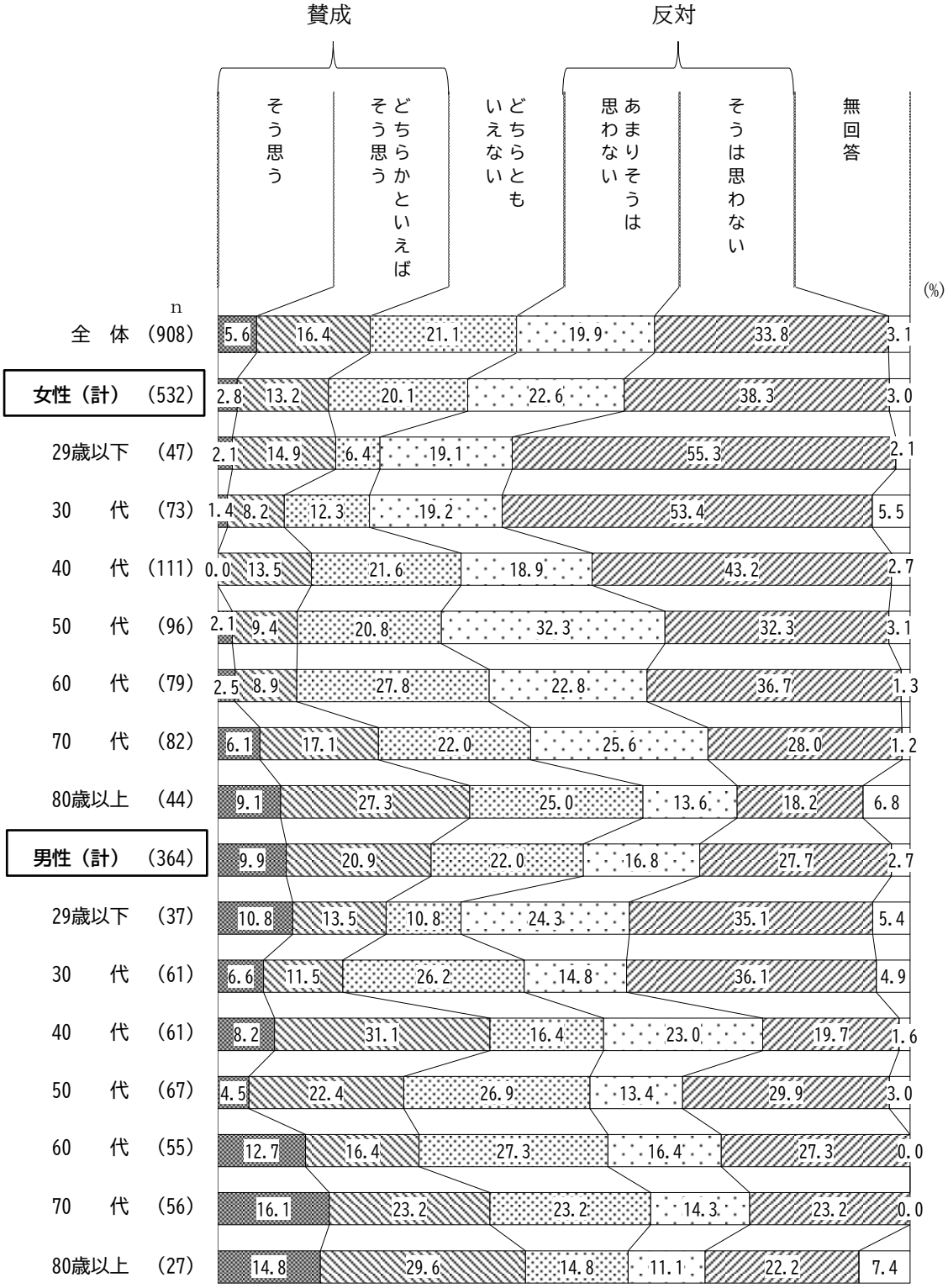
４　男女平等意識について

イ　男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい

性別でみると、男女ともに＜反対意見＞（女性60.9%、男性44.5%）の割合が多い。

性・年代別では、＜反対意見＞の割合は、女性の29歳以下（74.4%）と30代（72.6%）で７割以上と多い。

図表　男女平等に関する考え方「イ　男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」（全体、性別、性・年代別）

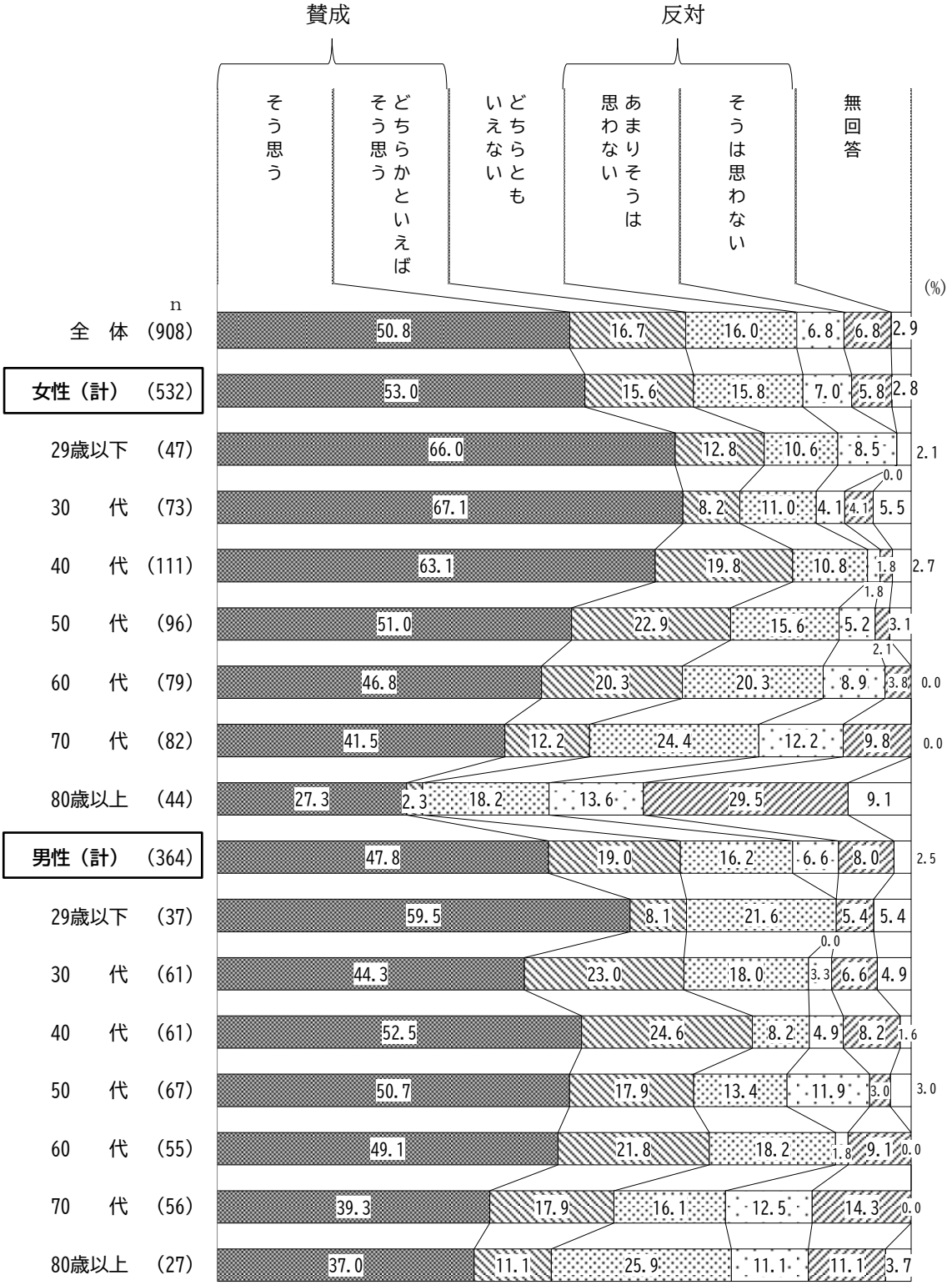


ウ　希望する者には夫婦別姓を認めてもよい

性別でみると、男女ともに＜賛成意見＞（女性68.6％、男性66.8％）の割合が多い。

性・年代別では、＜賛成意見＞の割合は、女性の29歳以下から50代、男性の40代と60代で７割以上と多い。

図表　男女平等に関する考え方「ウ　希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」（全体、性別、性・年代別）

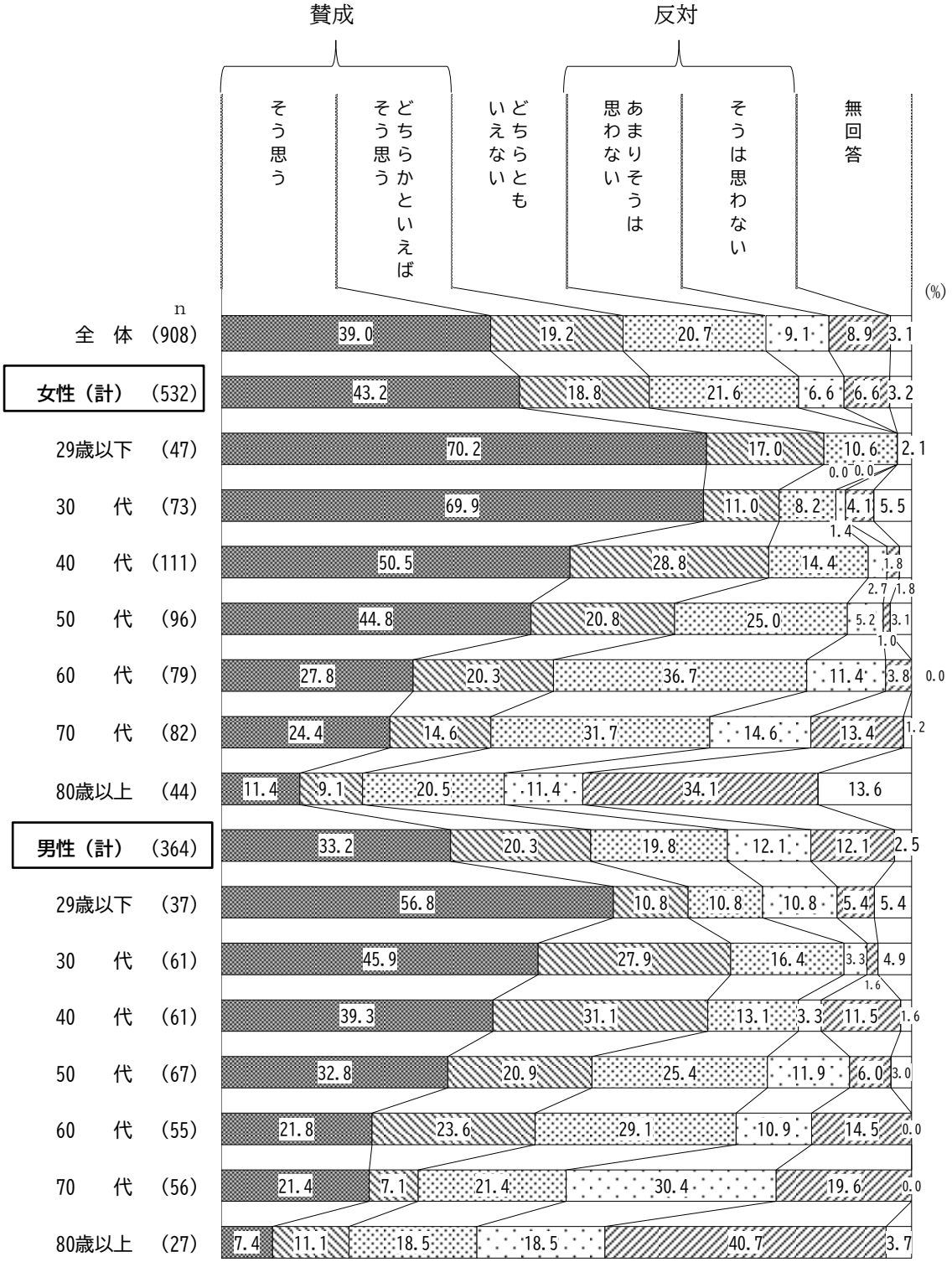


エ　男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい

性別でみると、男女ともに＜賛成意見＞（女性62.0%、男性53.5%）の割合が多い。

性・年代別では、＜賛成意見＞の割合は、女性の29歳以下から40代、男性の30代と40代で７割以上と多い。

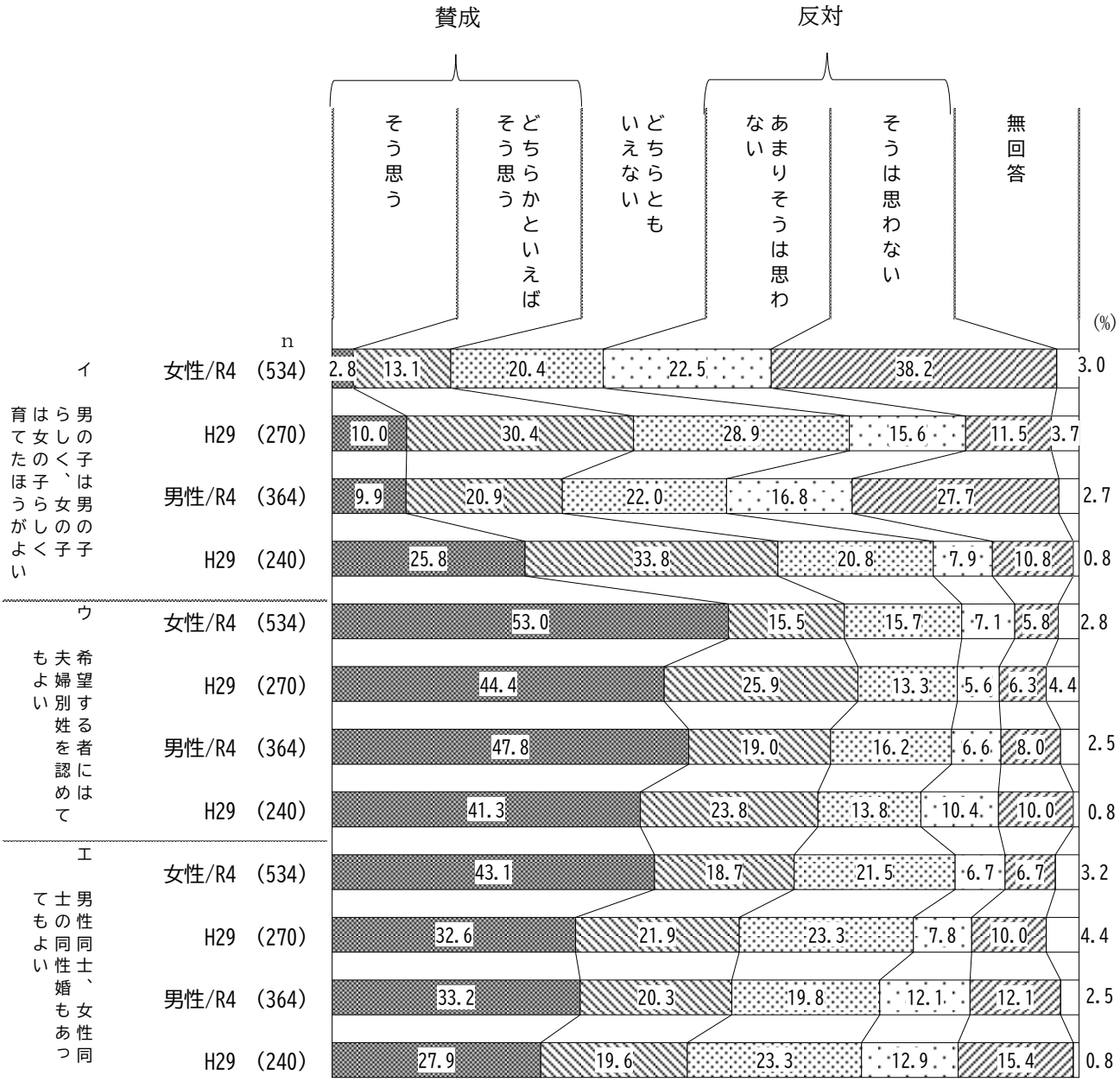
図表　男女平等に関する考え方「エ　男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」
（全体、性別、性・年代別）



経年比較

平成29年調査と比較すると、「イ　男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」では男女ともに＜反対意見＞が大幅に増加している。「ウ　希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」は＜賛成意見＞が男性では微増、女性では微減している。「エ　男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」では男女ともに＜賛成意見＞が増加している。

図表　男女平等に関する考え方(経年比較)



（３）男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み

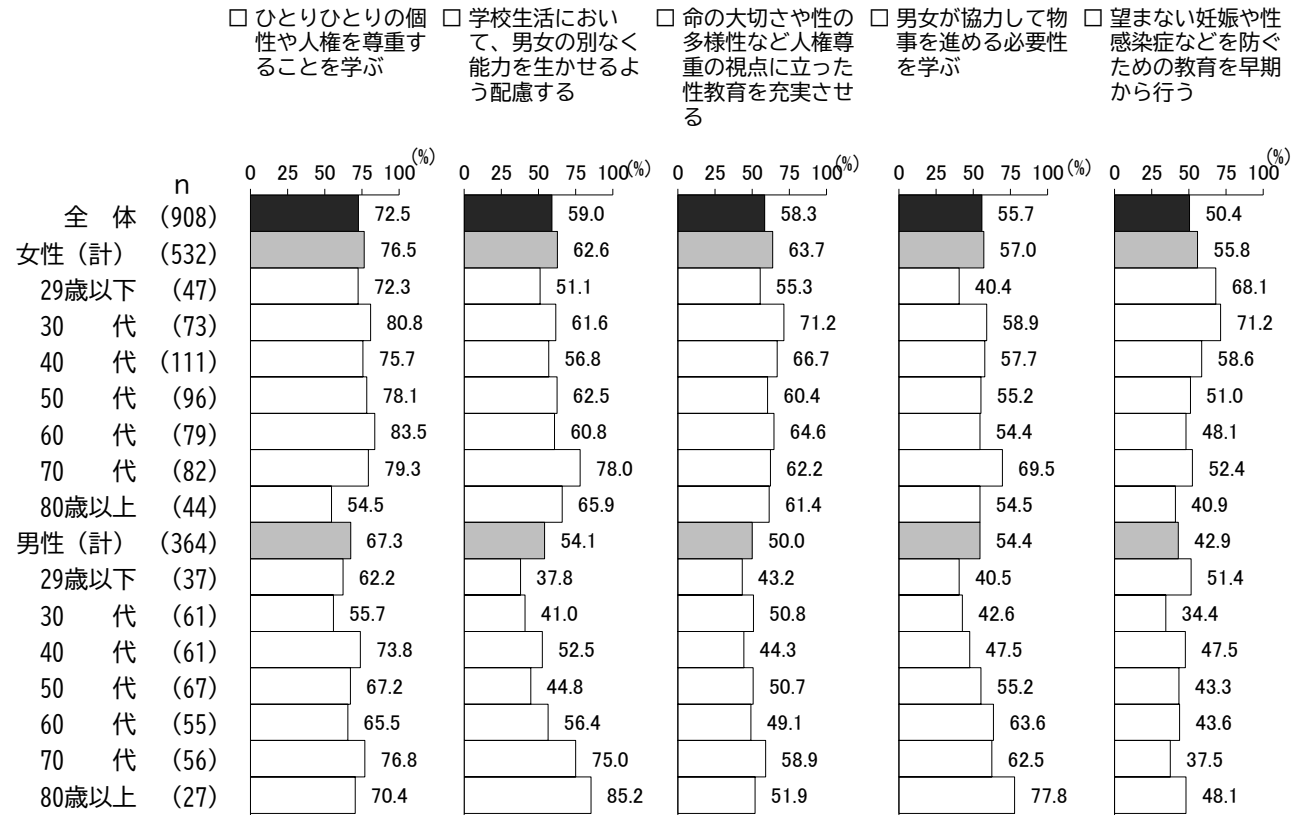
問９　あなたは、児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思いますか。（○はいくつでも）

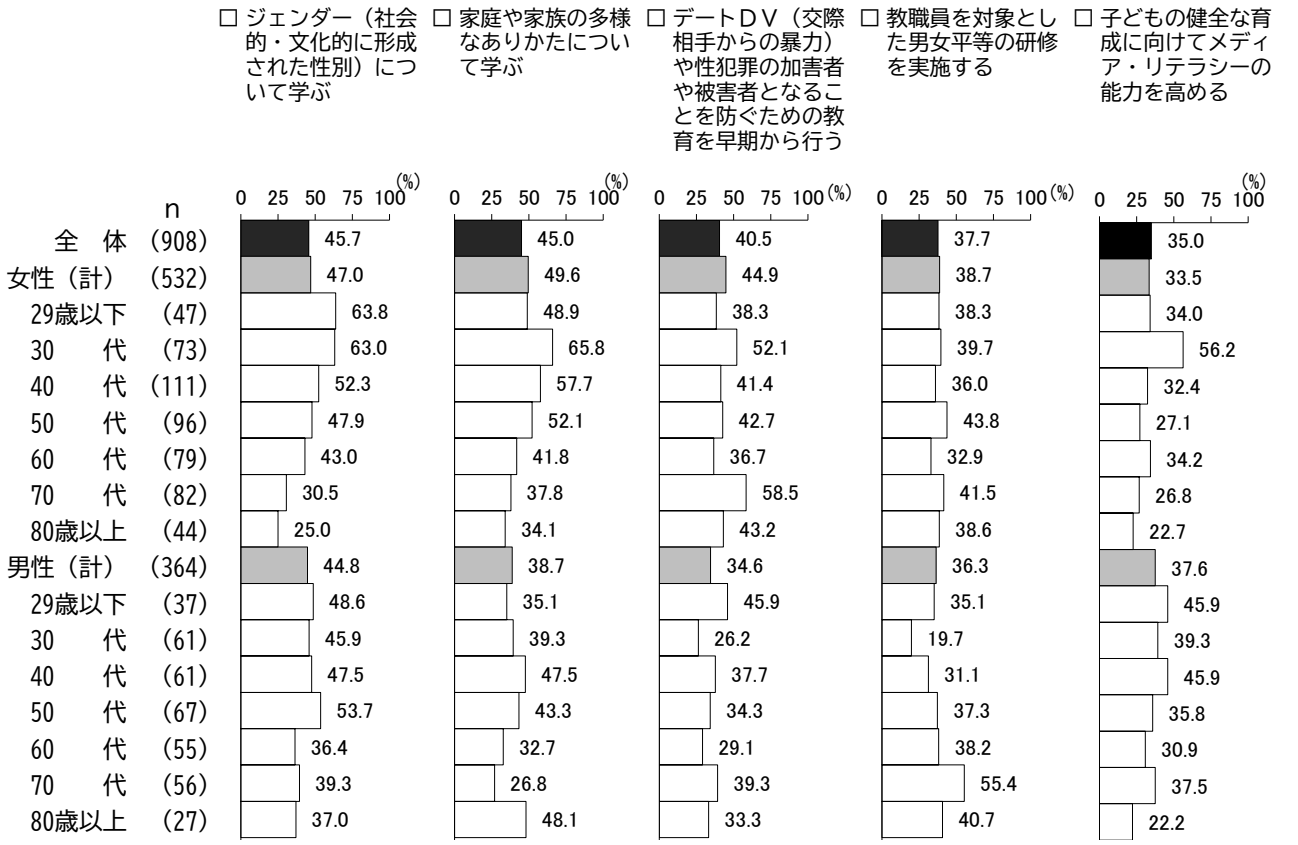
男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組みは、全体では「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」という回答が72.5%で最も多く、次いで「学校生活において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」(59.0%)、「命の大切さや性の多様性など人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」(58.3%)、「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」(55.7%）となっている。

性別でみると、男女ともに「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」(女性76.5%、男性67.3%）が最も多い。「命の大切さや性の多様性など人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」(女性63.7%、男性50.0%）では、女性が男性を13.7ポイント上回っている。

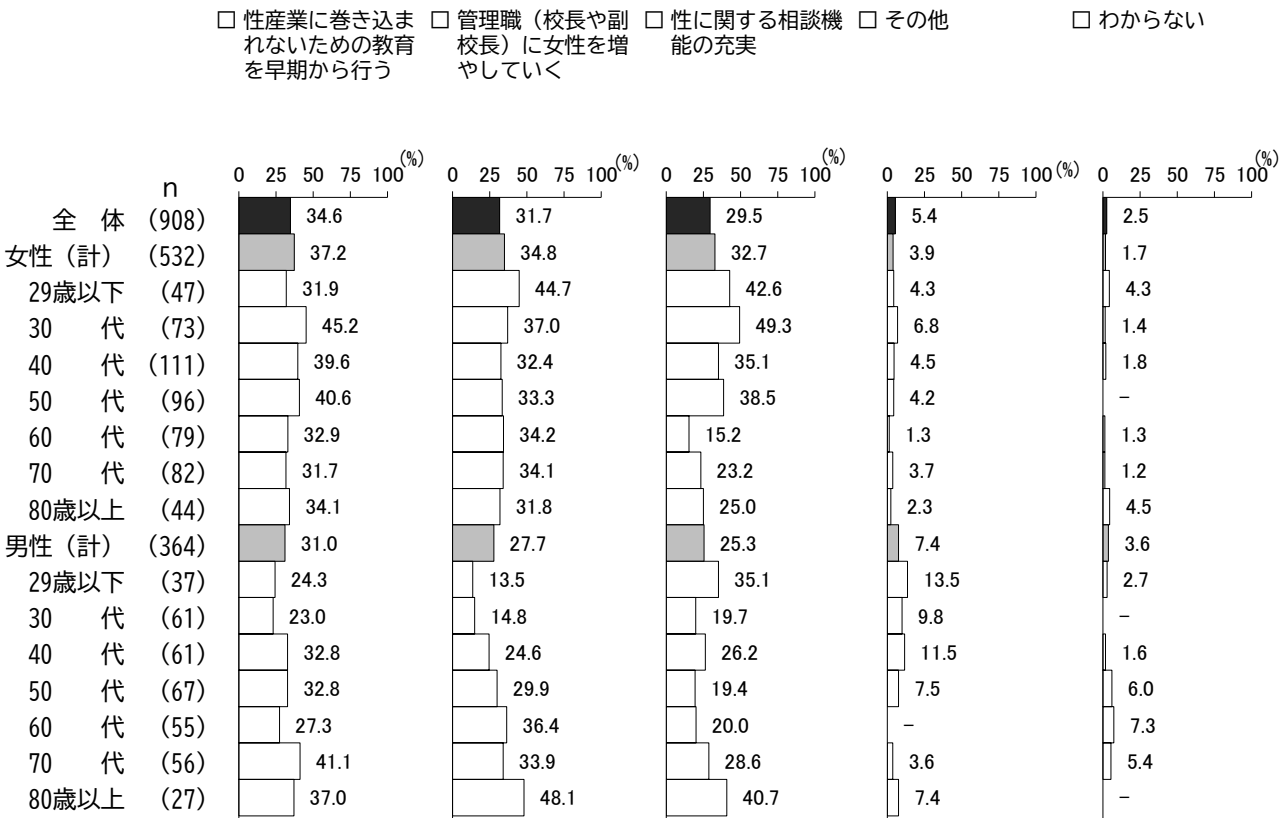
性・年代別では、「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」が女性30代（80.8%）と60代（83.5%）で８割以上と多く、女性30代では「命の大切さや性の多様性など人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」と「望まない妊娠や性感染症などを防ぐための教育を早期から行う」(いずれも71.2%）も多い。「学校生活において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」は女性70代（78.0%）で多い。

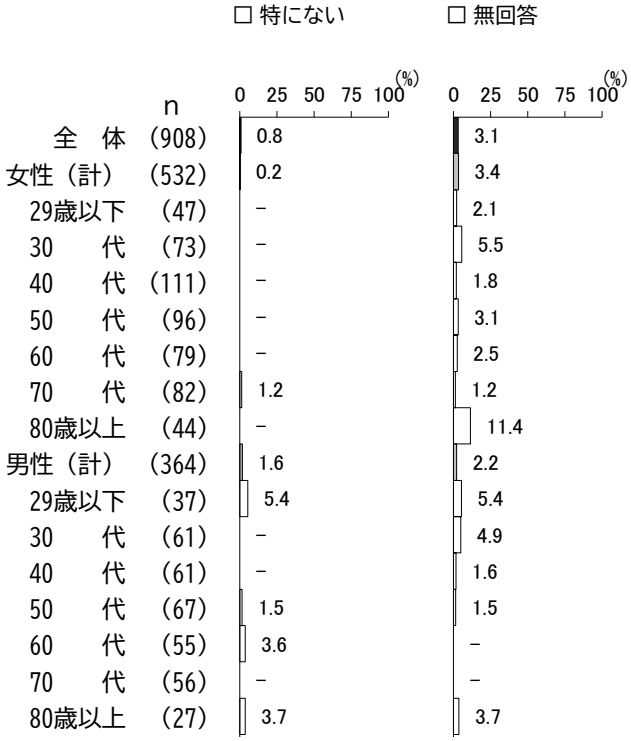
図表　男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み（全体、性別、性・年代別）①





図表　男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み
（全体、性別、性・年代別）②

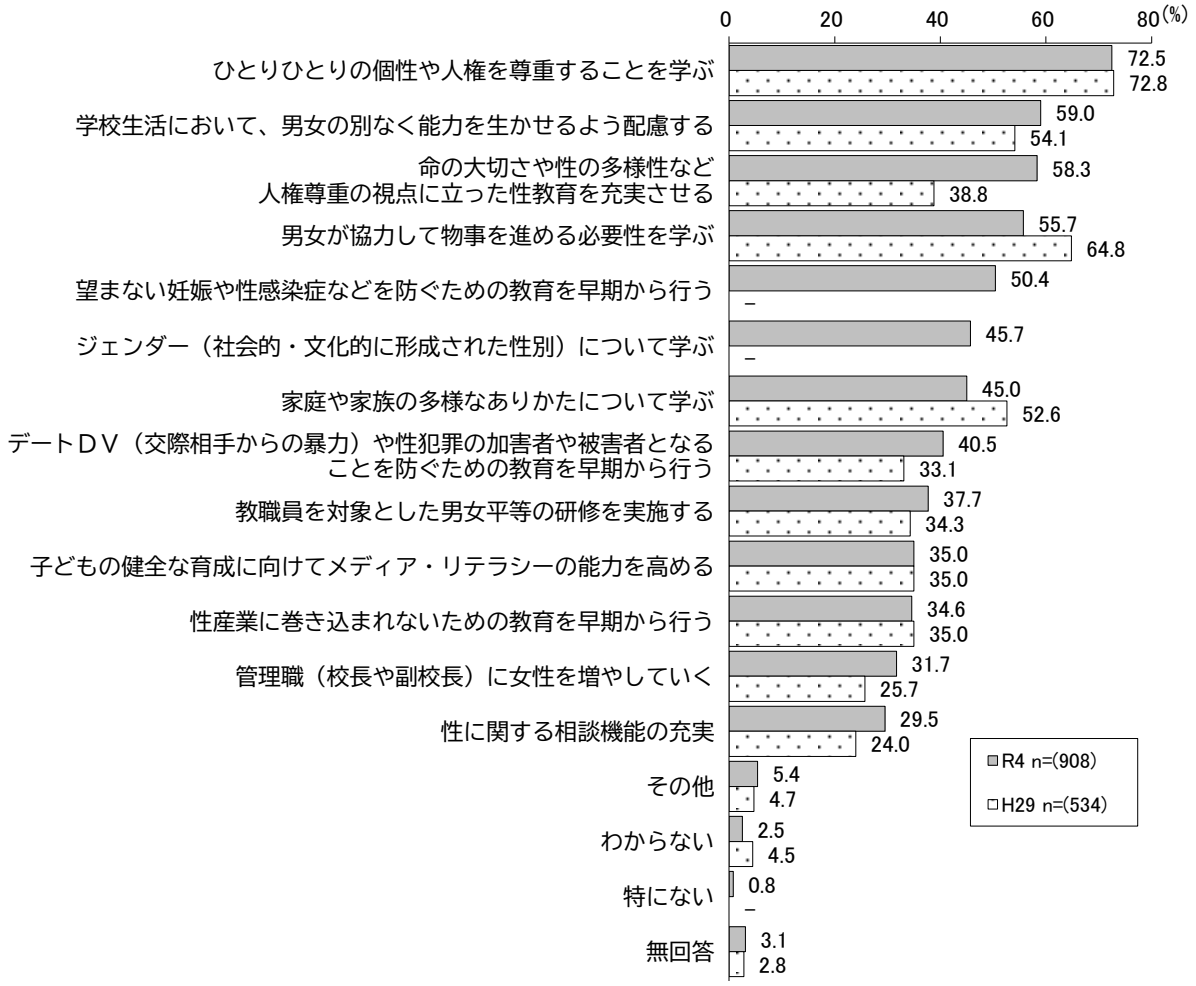




経年比較

平成29年調査と比較すると、「命の大切さや性の多様性など人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」（平成29年38.8%、令和４年58.3%）は19.5ポイント、「デートＤＶ(交際相手からの暴力)や性犯罪の加害者や被害者となることを防ぐための教育を早期から行う」（平成29年33.1%、令和４年40.5%)は7.4ポイント増加している。「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」（平成29年64.8%、令和４年55.7%）は9.1ポイント、「家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ」（平成29年52.6%、令和４年45.0%）は7.6ポイント減少している。

図表　男女平等の意識を育てるために学校教育で特に必要な取り組み(経年比較)



（４）性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと

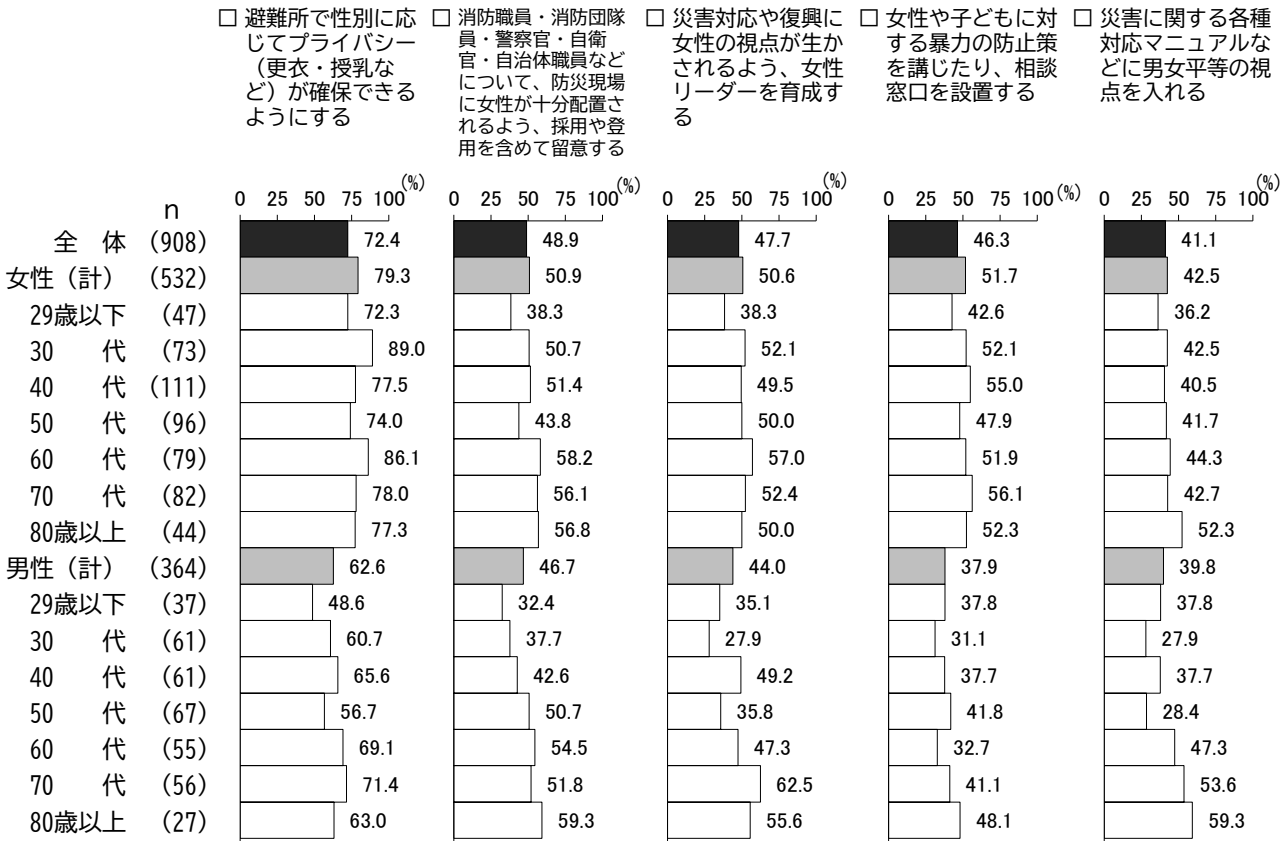
問10　あなたは、性別にとらわれない災害対策を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。（○はいくつでも）

性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なことは、全体では「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」という回答が72.4％で最も多く、次いで「消防職員・消防団隊員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分配置されるよう、採用や登用を含めて留意する」（48.9％）、「災害対応や復興に女性の視点が生かされるよう、女性リーダーを育成する」（47.7％）、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する」（46.3％）となっている。

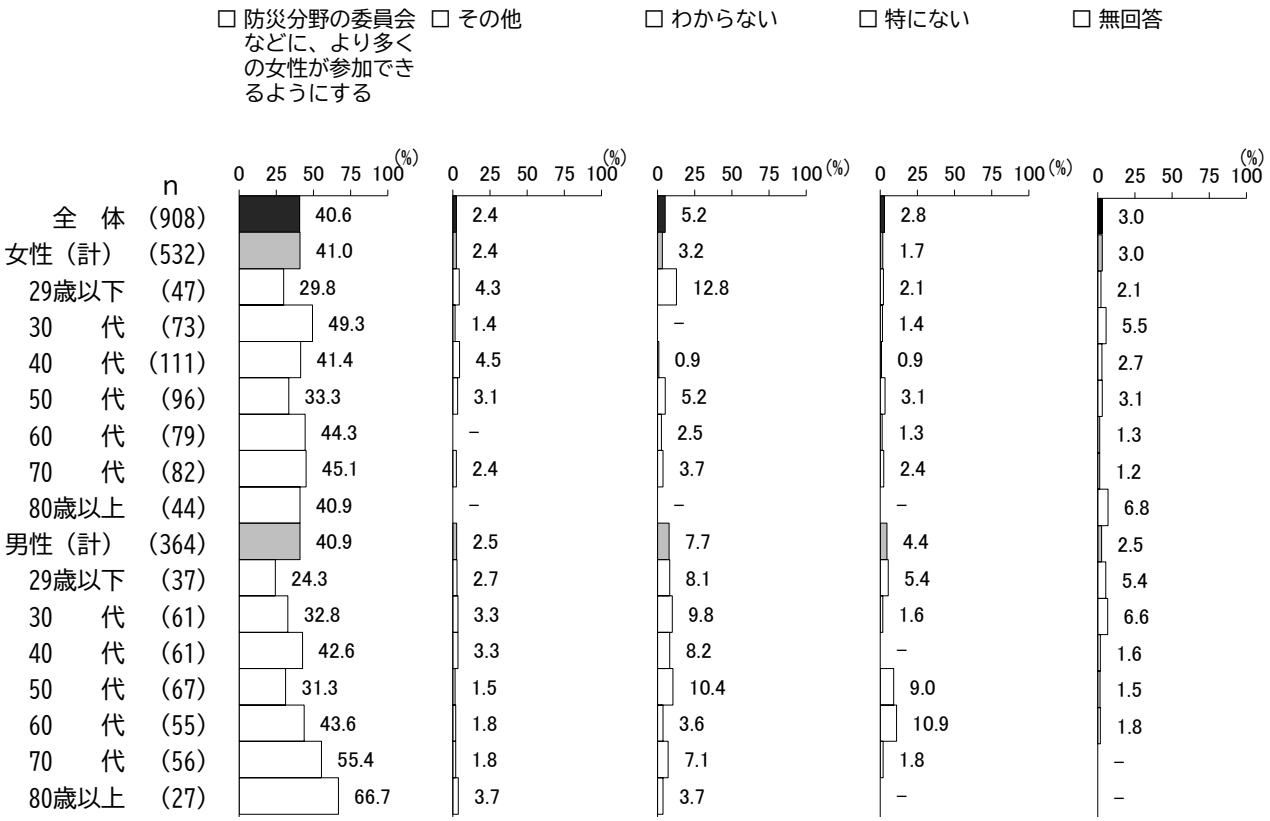
性別でみると、男女ともに「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」（女性79.3％、男性62.6％）が最も多く、女性が男性を16.7ポイント上回っている。

性・年代別では、「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」が女性30代（89.0％）と60代（86.1％）で８割以上と多く、「災害対応や復興に女性の視点が生かされるよう、女性リーダーを育成する」は男性70代（62.5％）で多い。

図表　性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと
（全体、性別、性・年代別）①



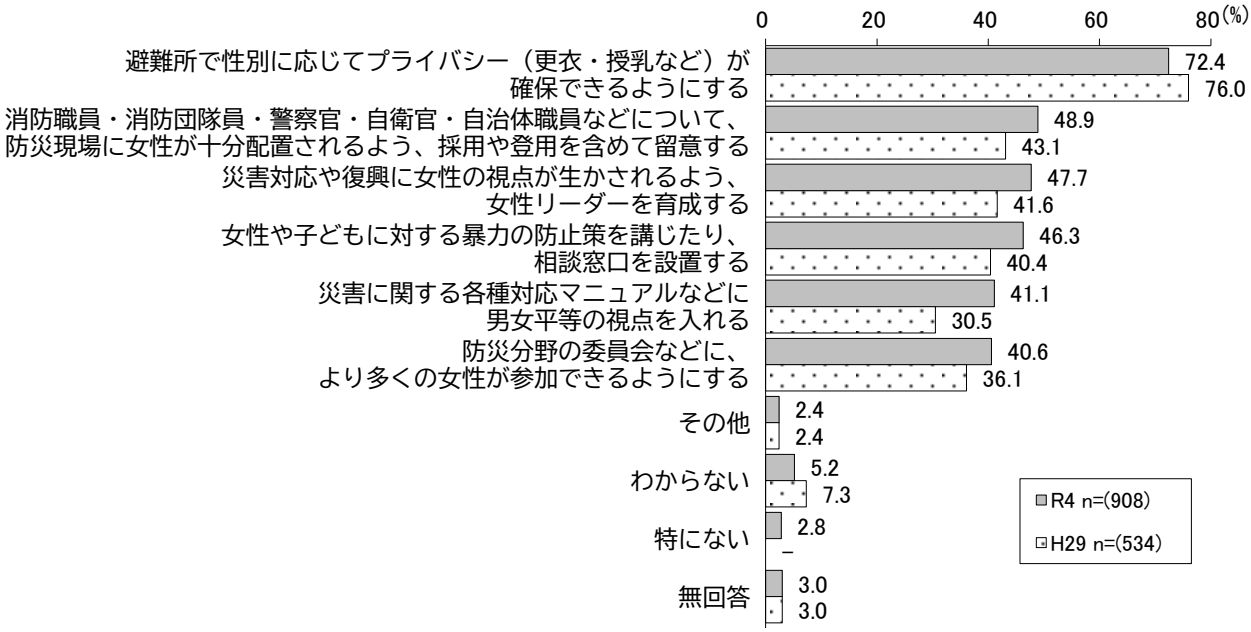
図表　性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと
（全体、性別、性・年代別）②



経年比較

平成29年調査と比較すると、「避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする」を除いたすべての項目が増加している。

図表　性別にとらわれない災害対策を進めるために重要なこと（経年比較）



５　コロナ禍での行動変化について

（１）コロナ禍での生活や行動の変化

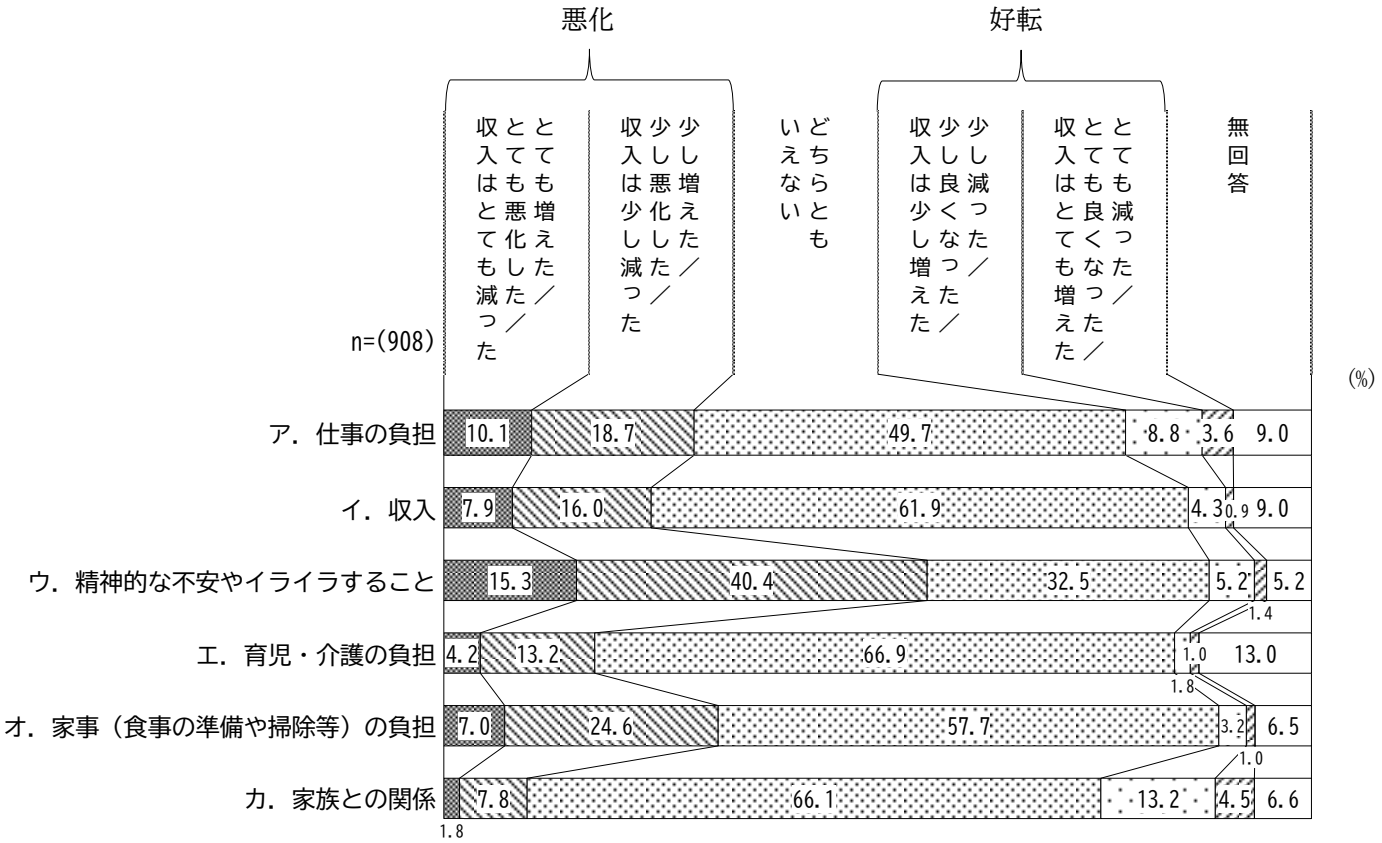
問11　あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大により、生活や行動に次のような変化がありましたか。（○はそれぞれ１つずつ）

コロナ禍での生活や行動の変化は、「精神的な不安やイライラすること」以外のすべての項目で「どちらともいえない」が最も多い。

＜悪化※１＞の回答が最も多いのは「精神的な不安やイライラすること」（55.7%）であり、続いて「家事（食事の準備や掃除等）の負担」（31.6%）、「仕事の負担」（28.8%）である。「家族との関係」は＜悪化＞(9.6%)より＜好転※２＞（17.7%）の回答が多い。

※1「とても増えた／とても悪化した」と「少し増えた／少し悪化した」の合計
（イ　収入のみ「少し減った」と「とても減った」の合計）
※2「少し減った／少し良くなった」と「とても減った／とても良くなった」の合計
（イ　収入のみ「とても増えた」と「少し増えた」の合計）

図表　コロナ禍での生活や行動の変化(全体)

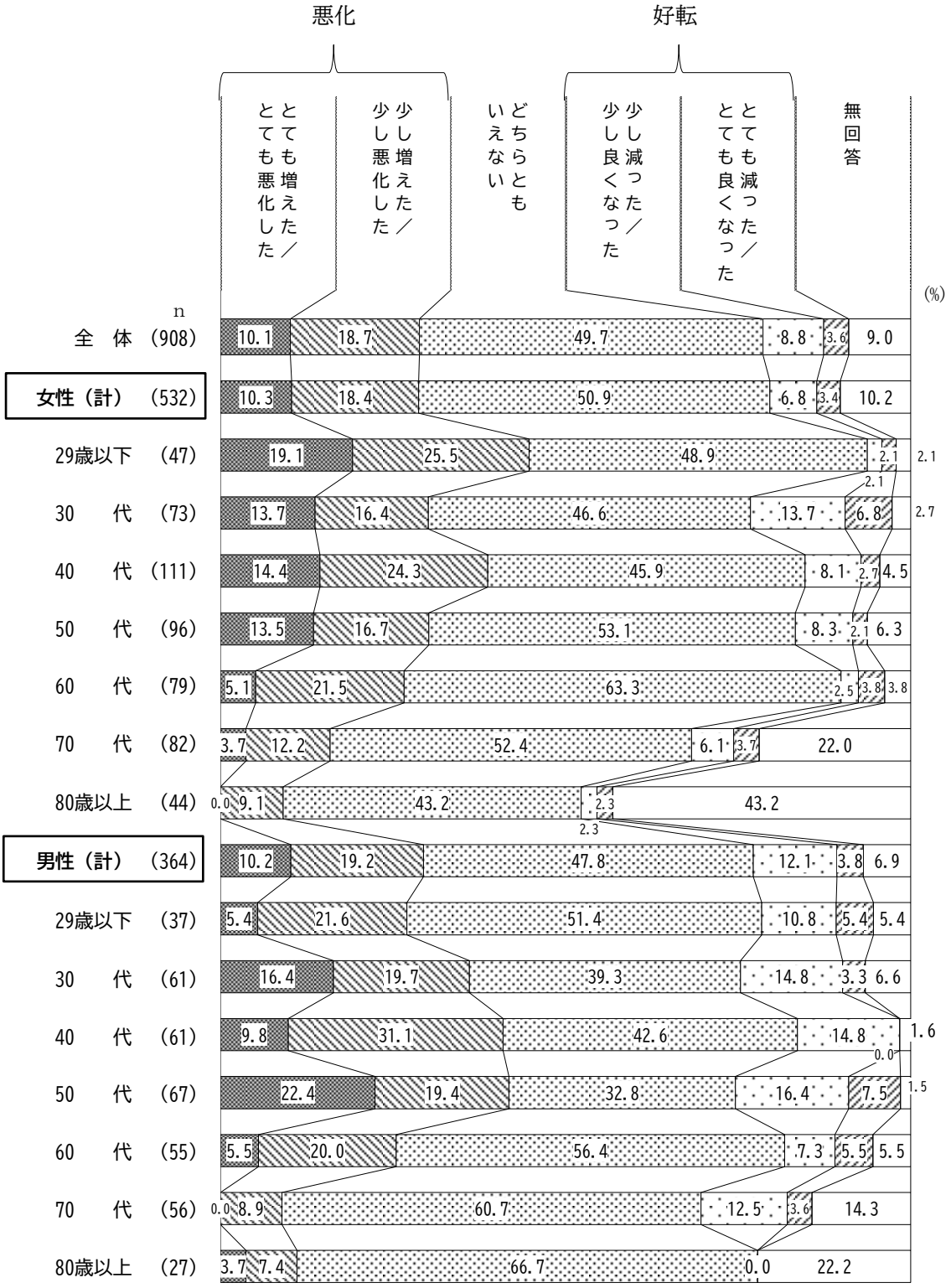


ア　仕事の負担

性別でみると、＜悪化＞の割合は女性が28.7%、男性が29.4%である。

性・年代別では、＜悪化＞の割合は、女性の29歳以下（44.6%）、男性の40代（40.9%）と50代（41.8%）で４割以上と多い。

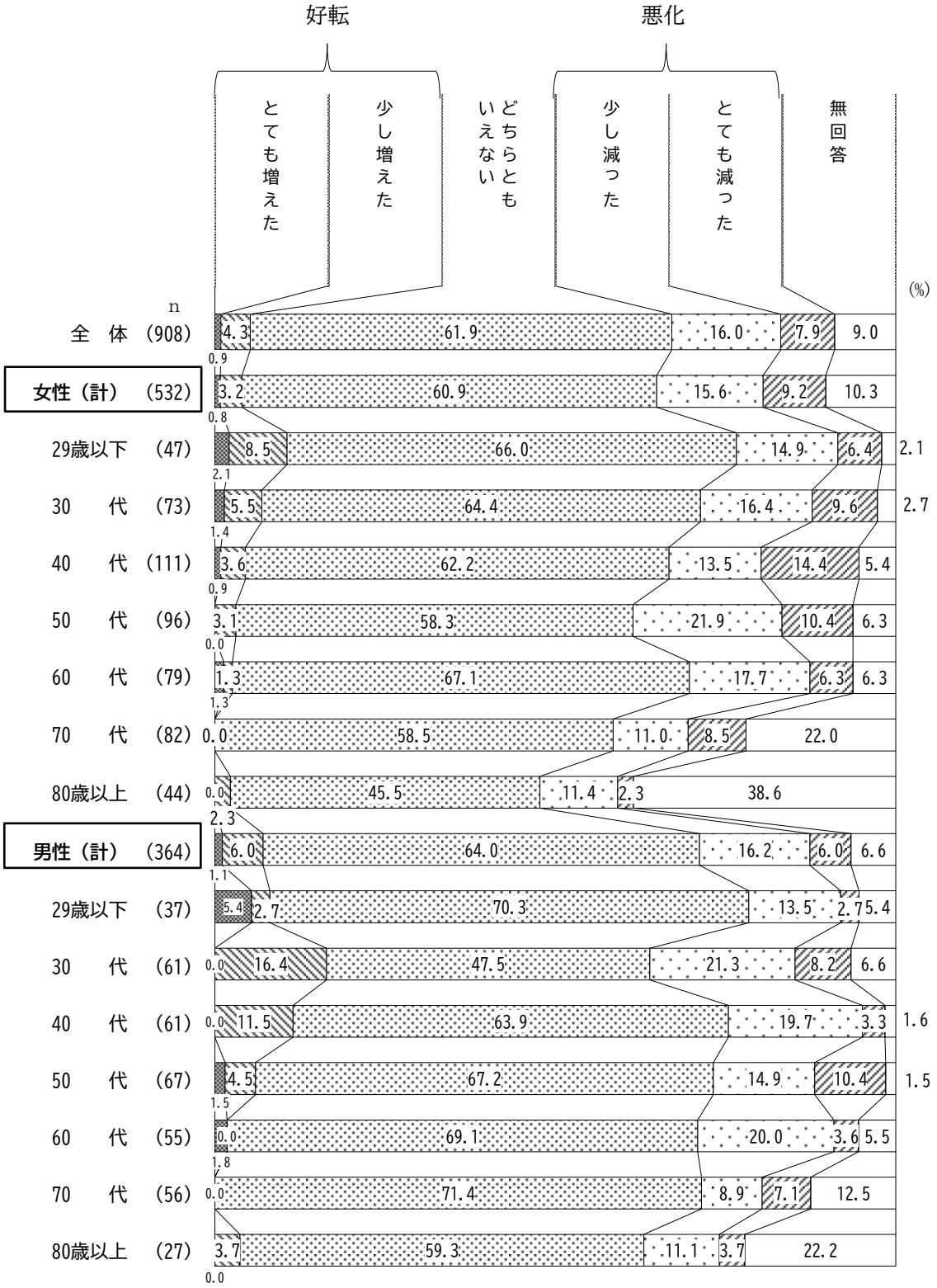
図表　コロナ禍での生活や行動の変化「ア　仕事の負担」（全体、性別、性・年代別）



イ　収入

性別でみると、＜悪化＞の割合は、女性が24.8%、男性が22.2%である。
性・年代別では、＜悪化＞の割合は、女性50代で32.3%と最も多い。

図表　コロナ禍での生活や行動の変化「イ　収入」(全体、性別、性・年代別)

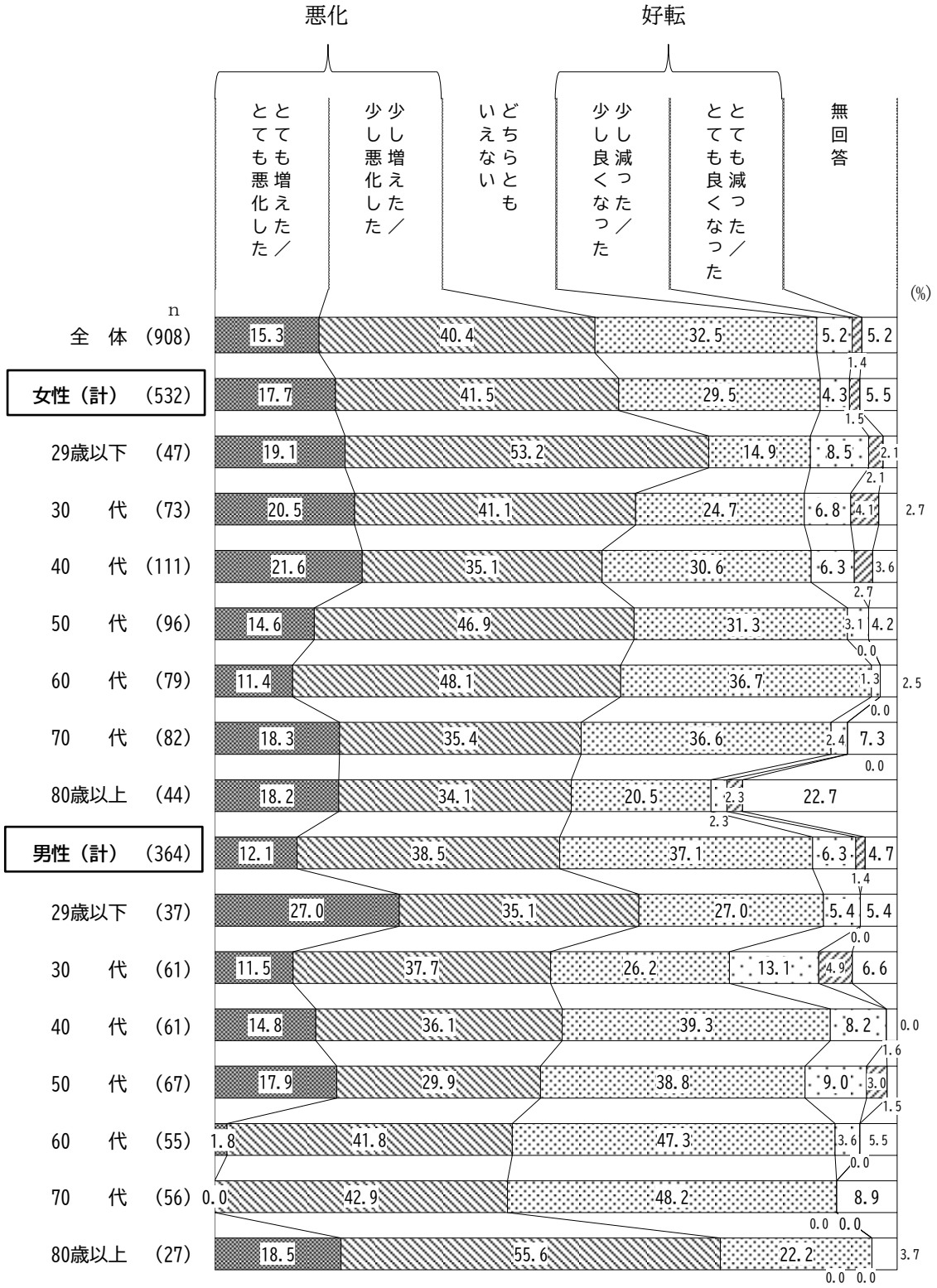


ウ　精神的な不安やイライラすること

性別でみると、男女ともに＜悪化＞（女性59.2%、男性50.6%）の割合が多く、女性が男性を8.6ポイント上回っている。

性・年代別では、＜悪化＞の割合は、男女ともに29歳以下（女性72.3%、男性62.1%）で最も多い。

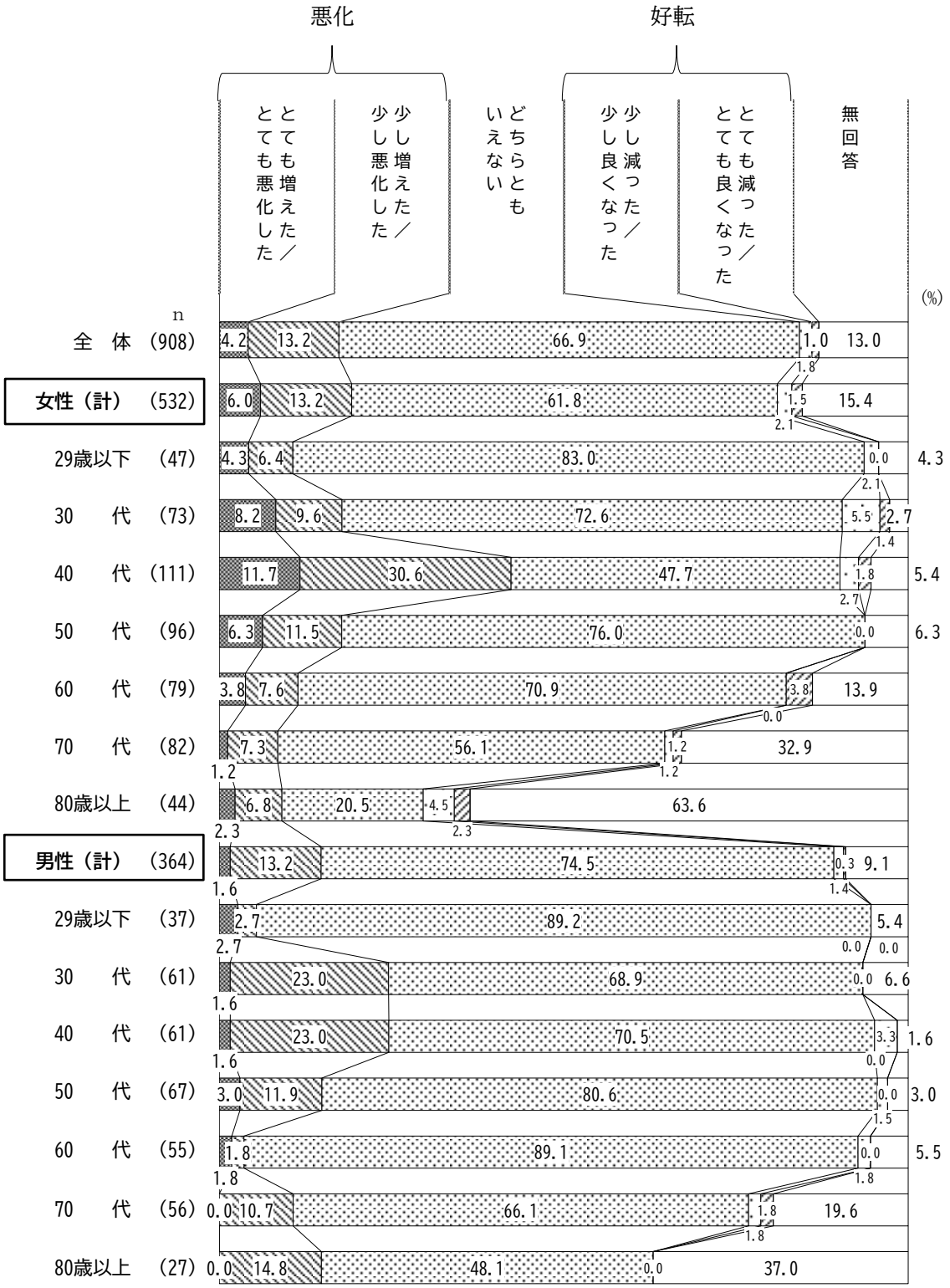
図表　コロナ禍での生活や行動の変化「ウ　精神的な不安やイライラすること」（全体、性別、性・年代別）



エ　育児・介護の負担

性別でみると、＜悪化＞の割合は、女性が19.2%、男性が14.8%である。
性・年代別では、＜悪化＞の割合は、女性40代で42.3%と最も多い。

図表 コロナ禍での生活や行動の変化「エ　育児・介護の負担」（全体、性別、性・年代別）

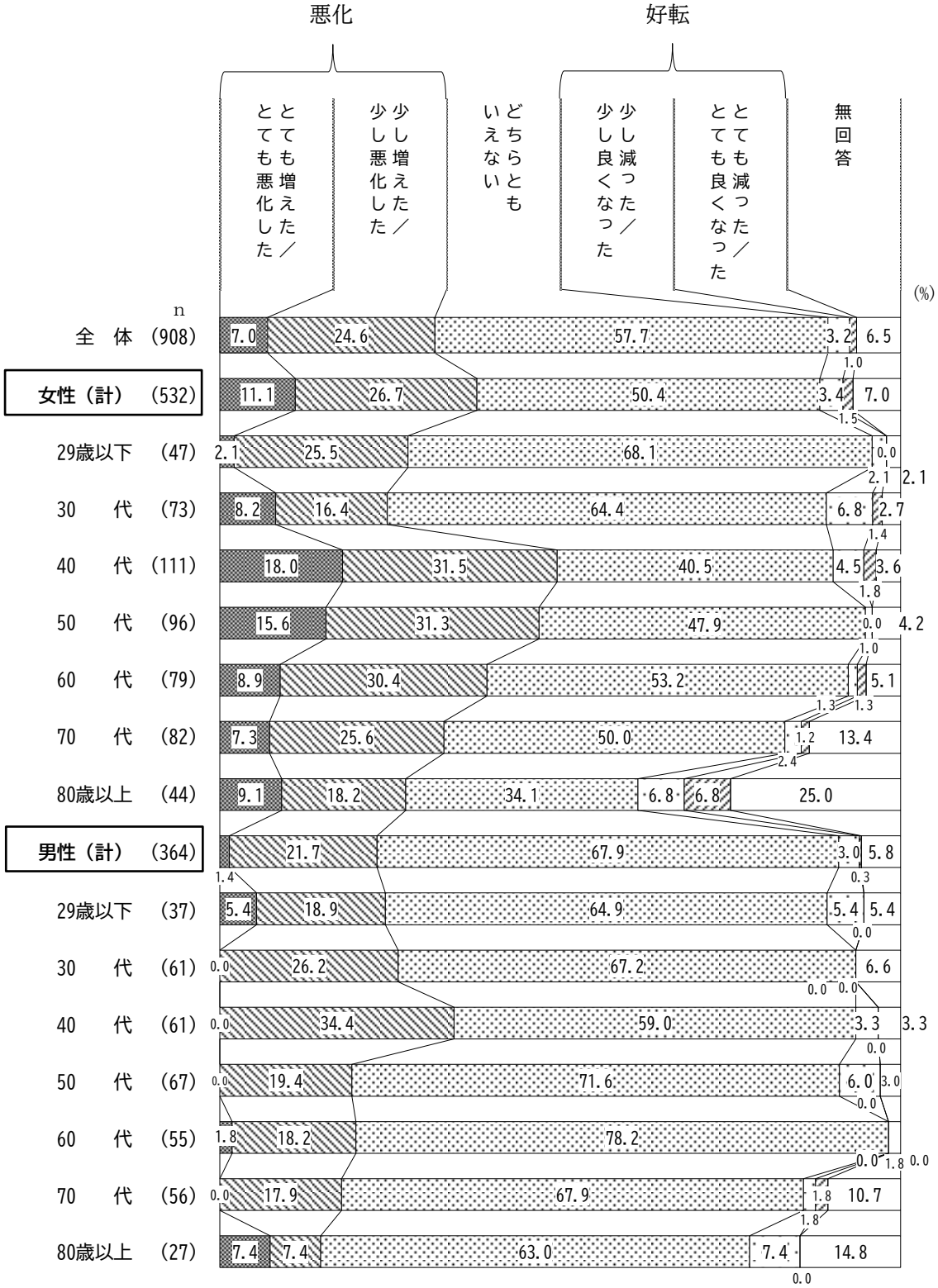


オ　家事（食事の準備や掃除等）の負担

性別でみると、＜悪化＞の割合は、女性が37.8%、男性が23.1%であり、女性が男性を14.7ポイント上回っている。

性・年代別では、＜悪化＞の割合は、女性40代（49.5%）と50代（46.9%）で４割以上と多い。

図表 コロナ禍での生活や行動の変化「オ　家事(食事の準備や掃除等)の負担」(全体・性別・性年代別)

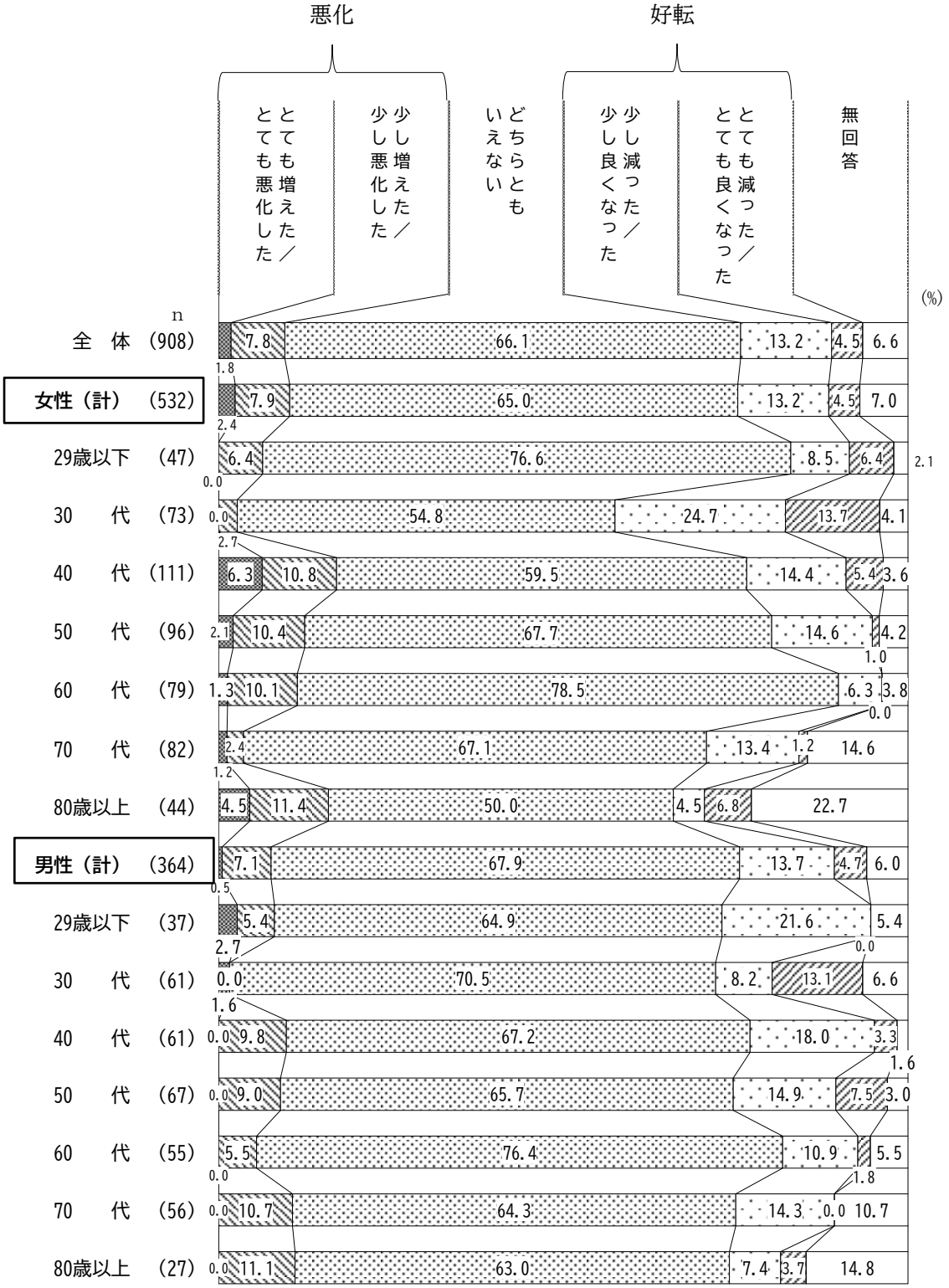


カ　家族との関係

性別でみると、＜悪化＞の割合は、女性が10.3%、男性が7.6%である。＜好転＞の割合は、女性が17.7%、男性が18.4%であり、男女ともに＜悪化＞よりも＜好転＞が多い。

性・年代別では、＜好転＞の割合は、女性30代（38.4%）で最も多く、＜悪化＞の割合は、女性40代（17.1%）で最も多い。

図表　コロナ禍での生活や行動の変化「カ　家族との関係」（全体・性別・性年代別）



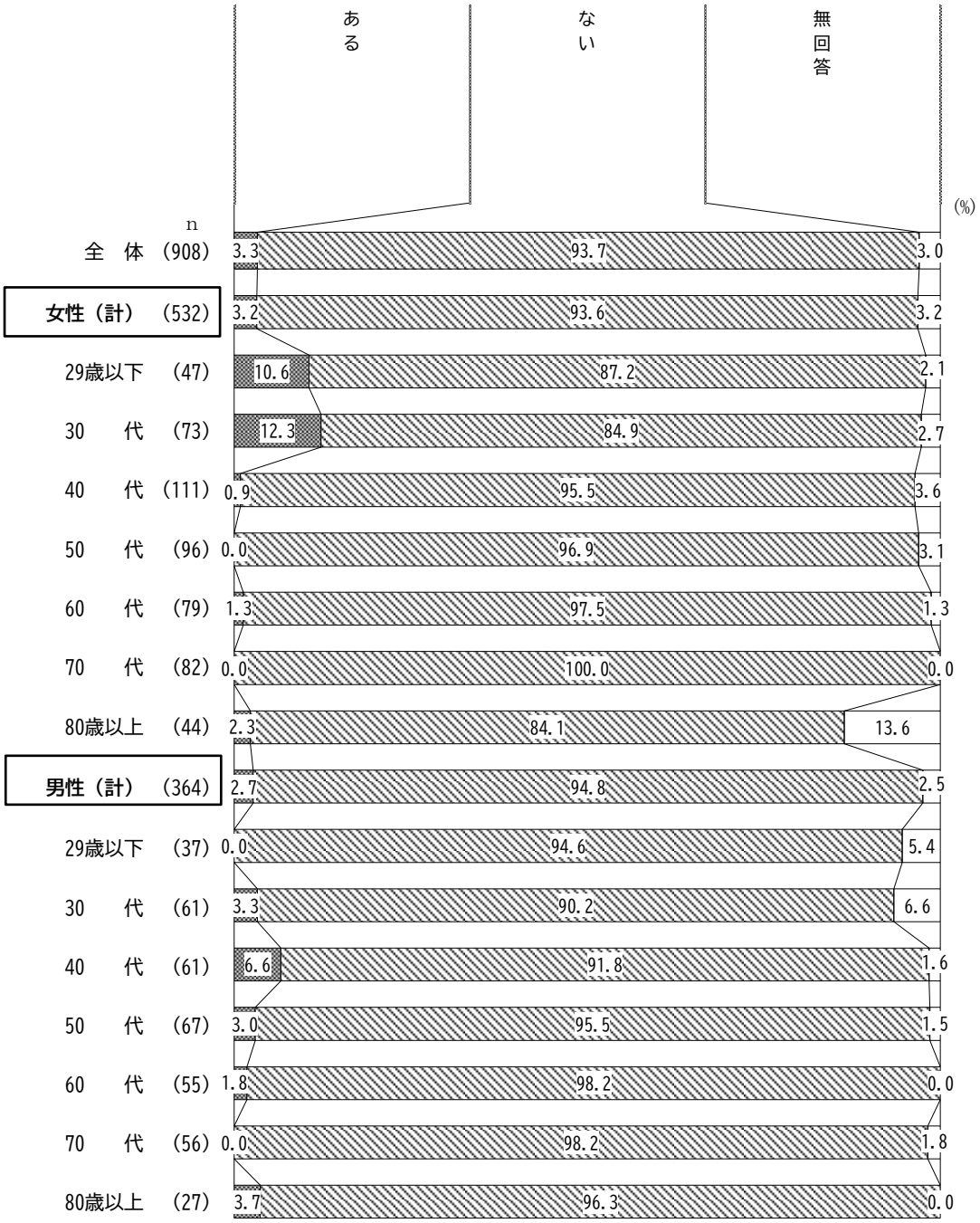
６　性の多様性について

（１）自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどの悩みの有無

問12　あなたは、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなどで悩んだことがありますか。（○は１つ）

自分の性別への違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなどで悩んだことが「ある」という回答は全体で3.3%である。性別でみると、悩んだことがある人は、女性3.2%、男性2.7%である。性・年代別では、悩んだことがある人は、女性の30代で12.3%、29歳以下で10.6%である。

図表　自分の性別への違和感や恋愛感情が同性に向かうなどの悩みの有無（全体、性別、性・年代別）



（２）性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策

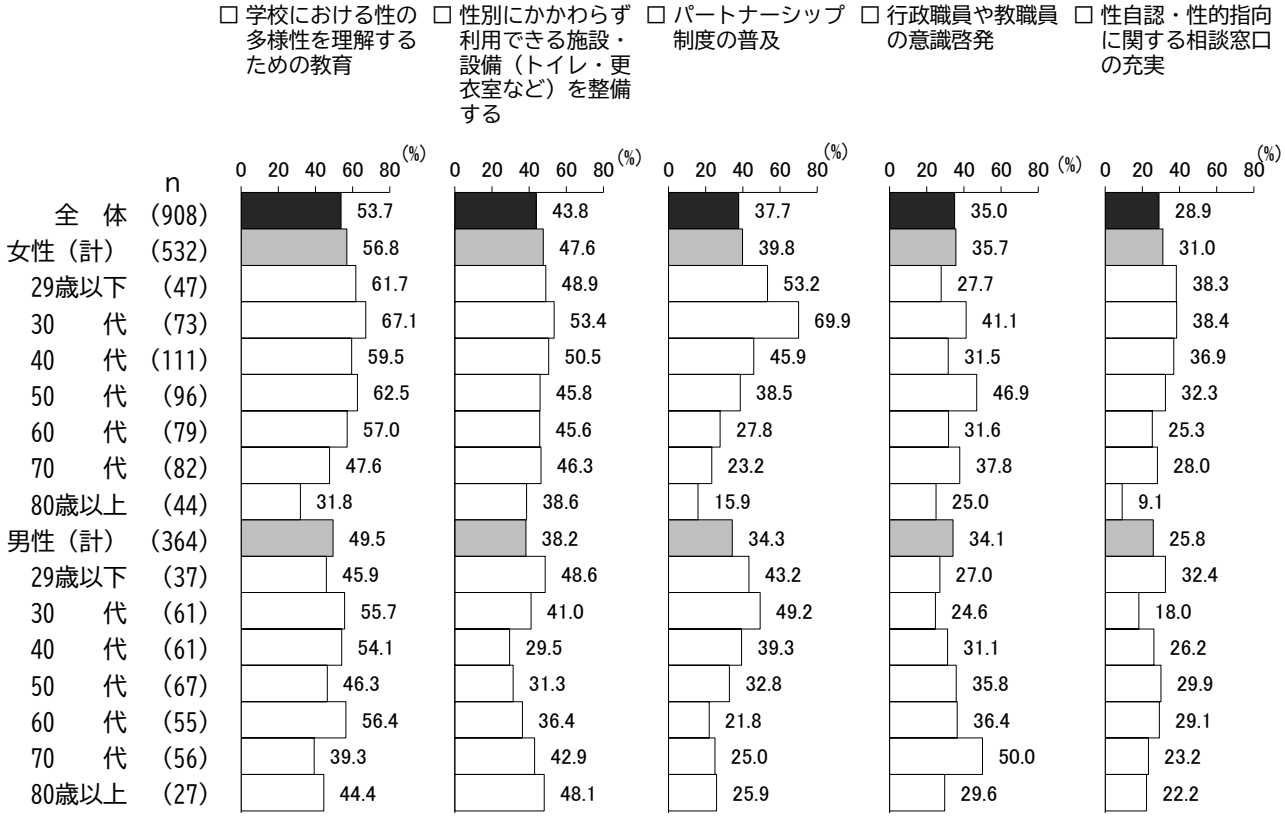
問13　あなたは、性の多様性を認め合う社会をつくるために、市にどのような施策を期待しますか。（○はいくつでも）

性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策は、全体では「学校における性の多様性を理解するための教育」という回答が53.7％と最も多く、次いで「性別にかかわらず利用できる施設・設備（トイレ・更衣室など）を整備する」（43.8％）、「パートナーシップ制度の普及」（37.7％）、「行政職員や教職員の意識啓発」（35.0％）となっている。

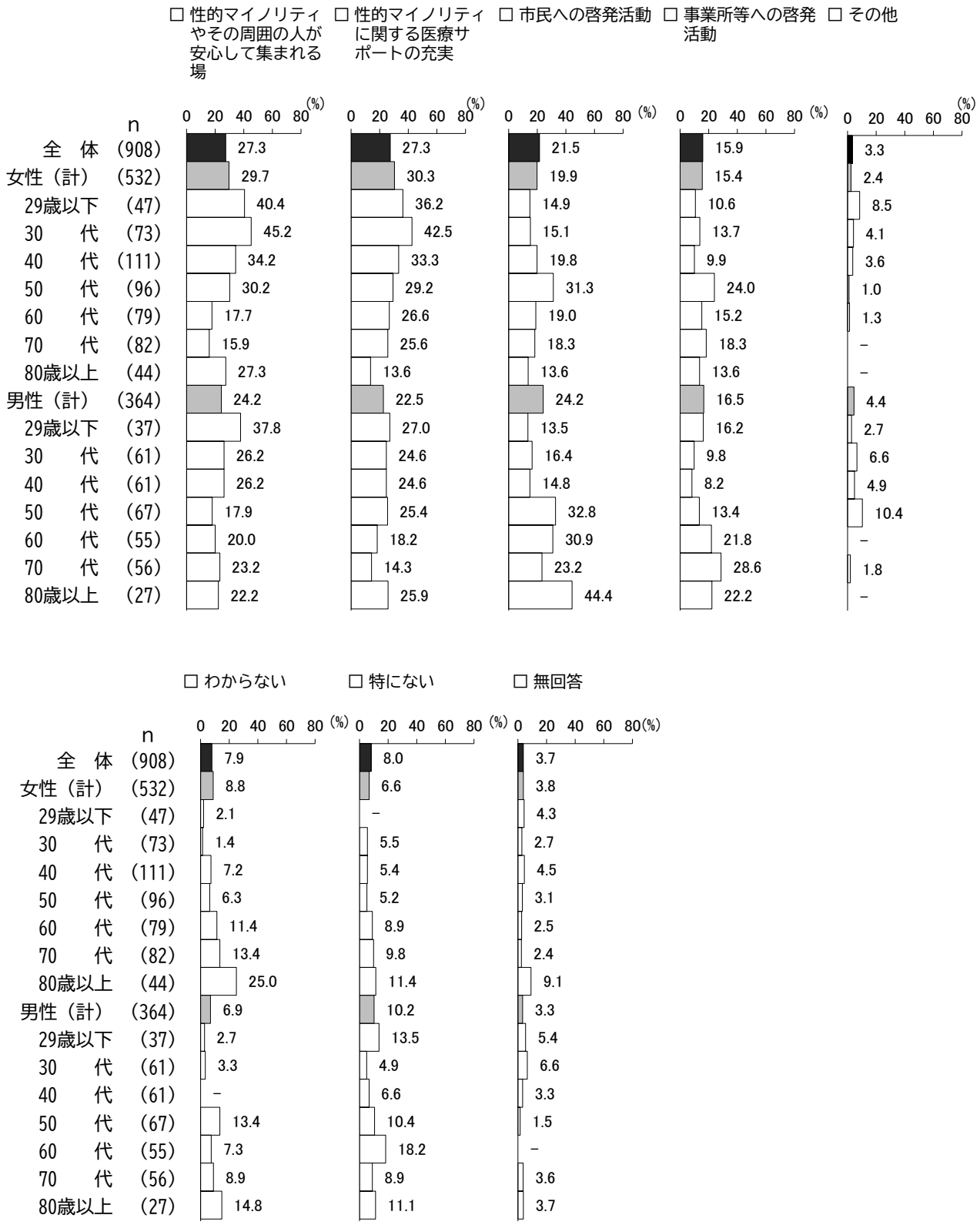
性別でみると、男女ともに「学校における性の多様性を理解するための教育」（女性56.8％、男性49.5％）が最も多く、女性が男性を7.3ポイント上回っている。「性別にかかわらず利用できる施設・設備（トイレ・更衣室など）を整備する」（女性47.6％、男性38.2％）では、女性が男性を9.4ポイント上回っている。「市民への啓発活動」（女性19.9％、男性24.2％）では、男性が女性を4.3ポイント上回っている。

性・年代別では、「学校における性の多様性を理解するための教育」は女性30代（67.1％）で最も多く、29歳以下（61.7％）と50代（62.5％）でも６割以上である。「パートナーシップ制度の普及」は女性30代（69.9％）で最も多く、女性29歳以下（53.2％）でも５割以上である。

図表　性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策
（全体、性別、性･年代別）①



図表　性の多様性を認め合う社会をつくるために市に期待する施策
（全体、性別、性・年代別）②



７　暴力やハラスメントについて

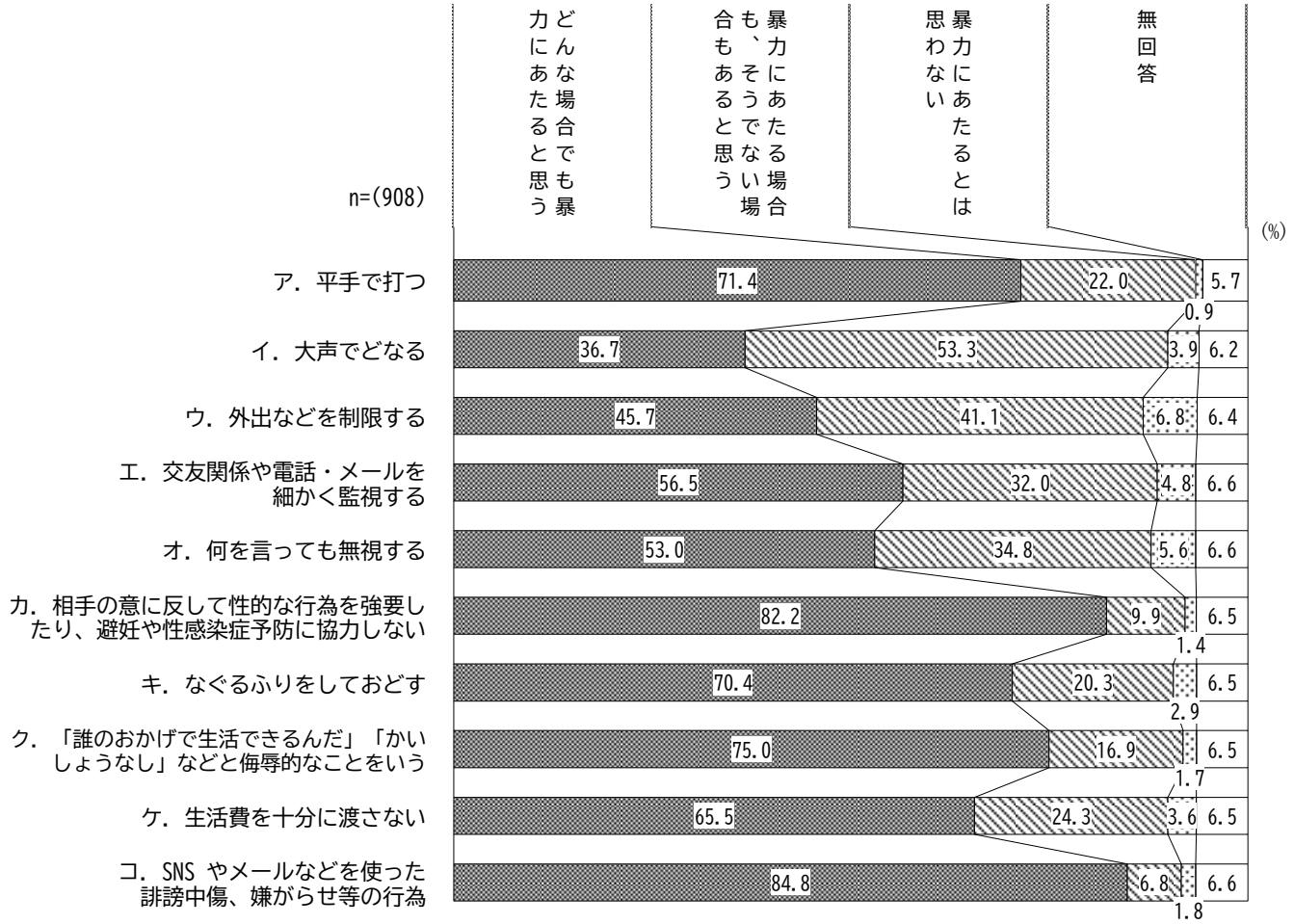
（１）暴力にあたると思うことと被害の経験

問 14　あなたは、親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。（○はそれぞれの数字に１つずつ）
　また、これまでに配偶者（事実婚や元配偶者を含む）や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（○はそれぞれのアルファベットに１つずつ）

■ どう思うか（認識する暴力）

親密な間柄で起きる行動が暴力にあたると思うかについて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が全体で最も多い項目は「ＳＮＳやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為」（84.8%）であり、続いて「相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない」（82.2%）、「「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう」（75.0%）、「平手で打つ」（71.4%）、「なぐるふりをしておどす」（70.4%）、「生活費を十分に渡さない」（65.5%）となっている。

図表　暴力にあたると思うこと（全体）

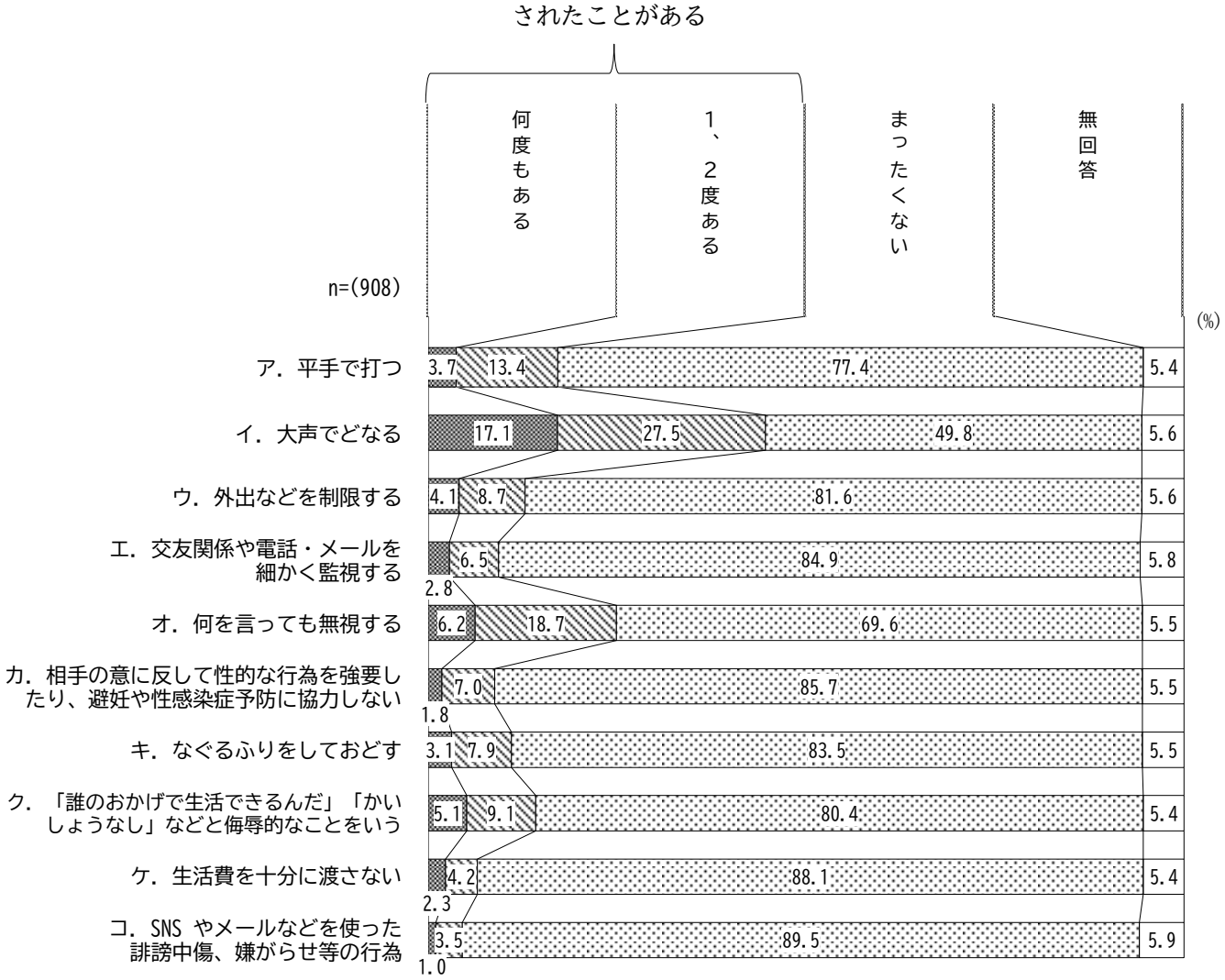


■ されたことがあるか（暴力被害の経験）

されたことがある行動は、全体では＜されたことがある※＞が多い項目は、「大声でどなる」(44.6%)、「何を言っても無視する」(24.9%）である。

※「何度もある」と「１、２度ある」の合計

図表　暴力被害の経験(全体)

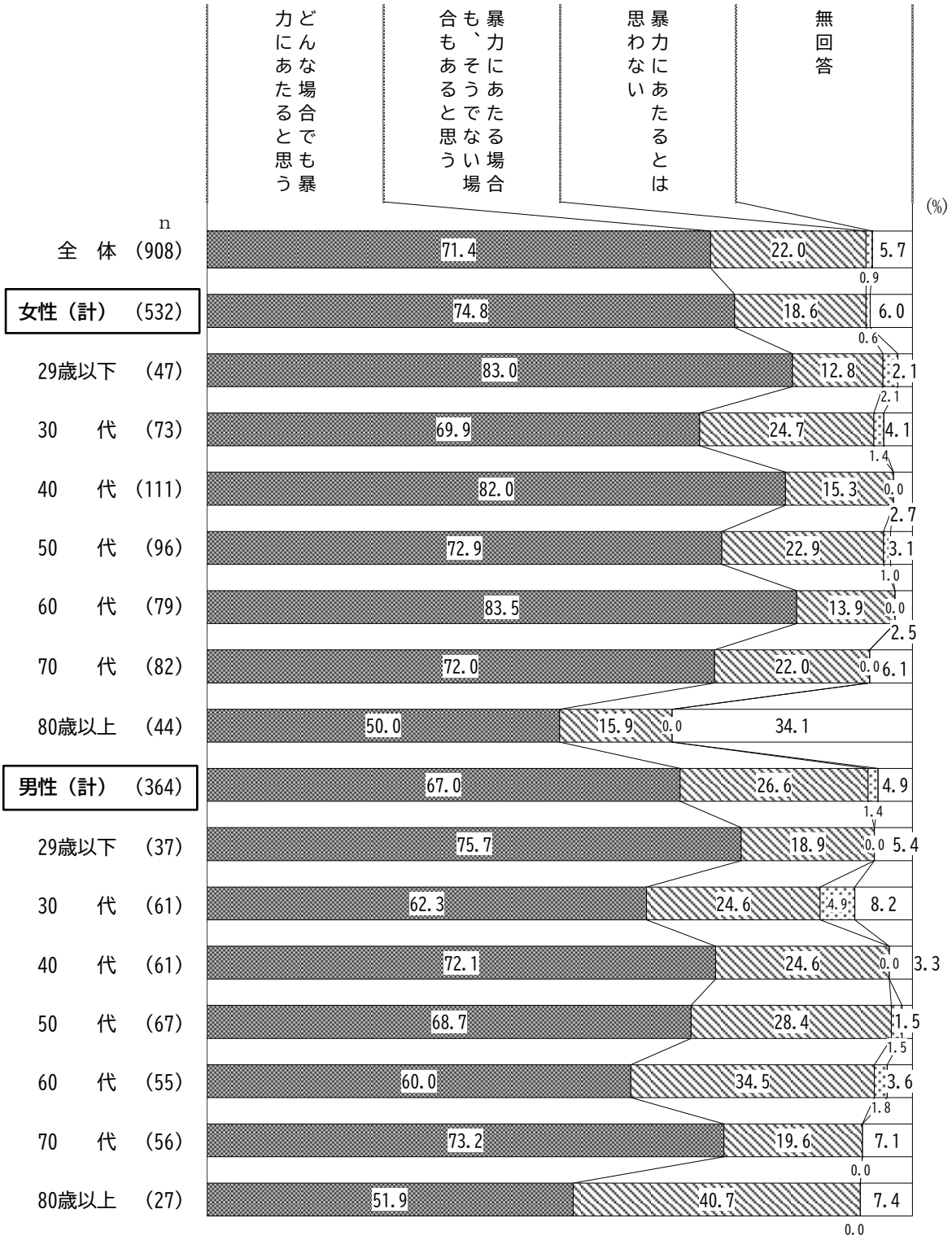


ア　平手で打つ（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性74.8%、男性67.0%）の割合が多い。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の29歳以下（83.0%）、40代（82.0%）、60代（83.5%）で８割以上と多い。

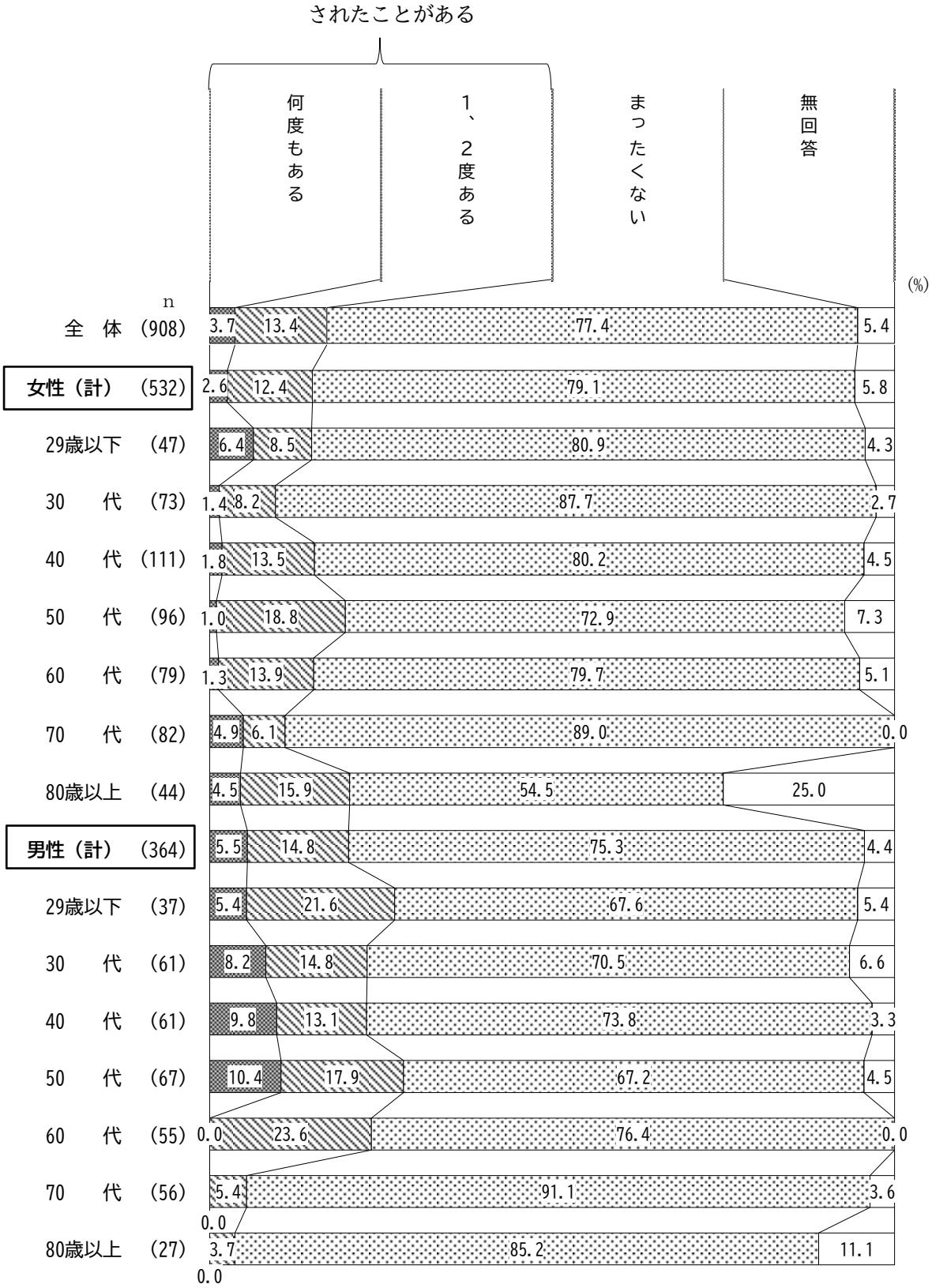
図表　暴力にあたると思うこと「ア　平手で打つ」（全体、性別、性・年代別）



ア　平手で打つ（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が15.0%、男性が20.3%である。
性・年代別では、＜されたことがある＞は男性29歳以下（27.0%）と50代（28.3%）で多い。

図表　暴力被害の経験「ア　平手で打つ」（全体、性別、性・年代別）

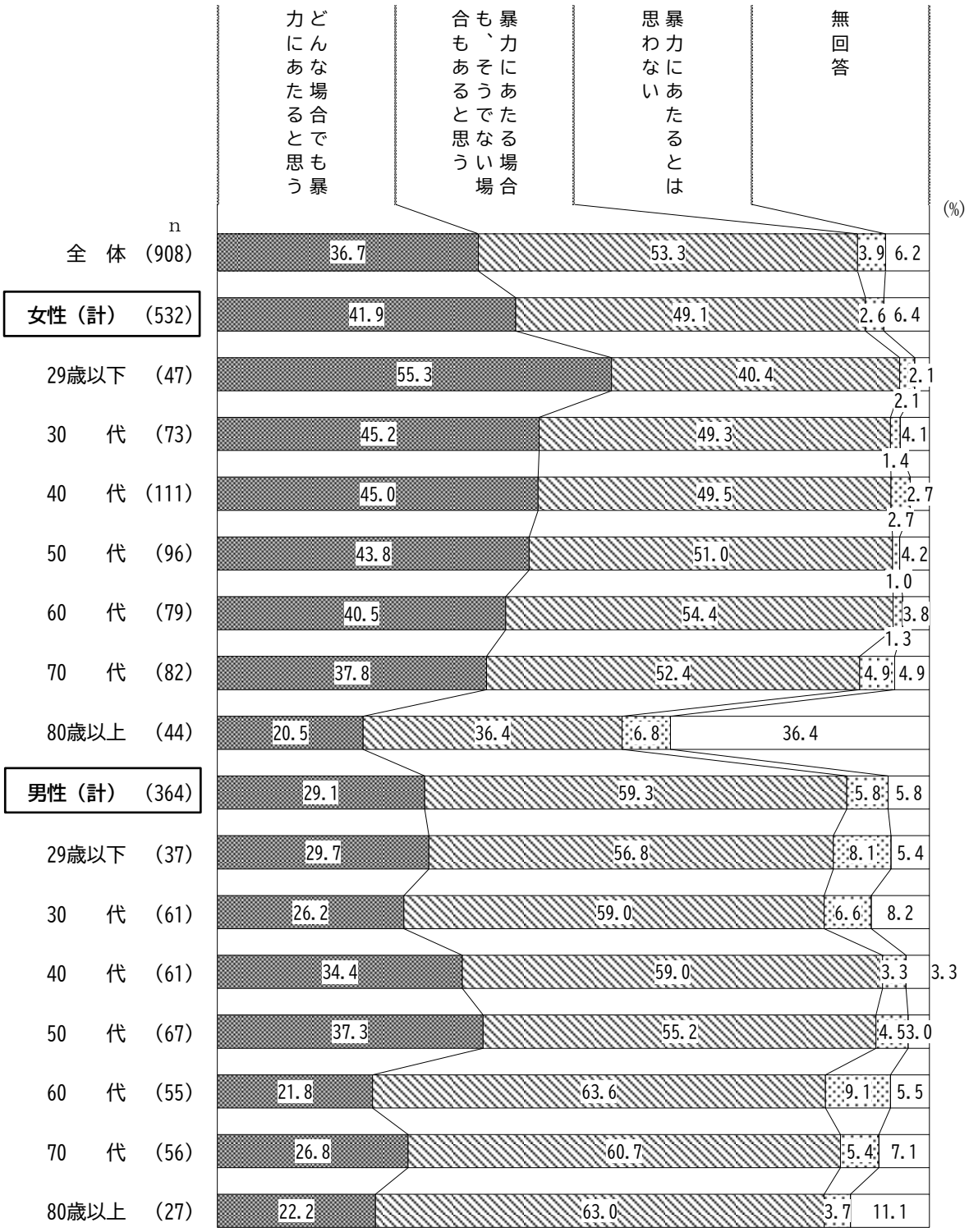


イ　大声でどなる（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（女性49.1%、男性59.3%）の割合が多く、男性が女性を10.2ポイント上回っている。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性29歳以下で55.3%と最も多い。「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性の60代（63.6%）と70代（60.7%）で６割以上と多い。

図表　暴力にあたると思うこと「イ　大声でどなる」（全体、性別、性・年代別）

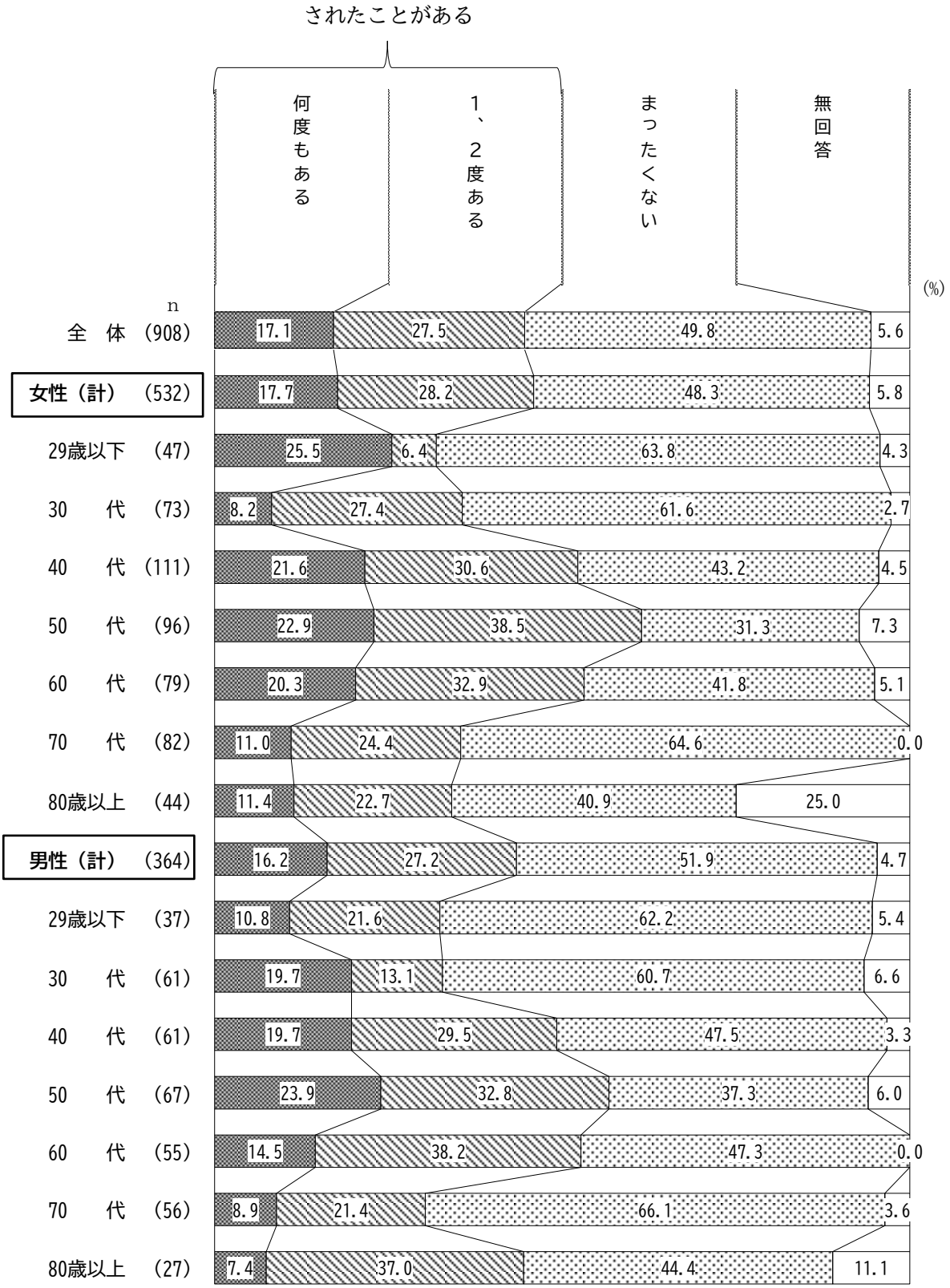


イ　大声でどなる（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が45.9％、男性が43.4％である。

性・年代別では、＜されたことがある＞は女性の40代から60代、男性の50代から60代で５割以上となっており、男女ともに50代（女性61.4％、男性56.7％）で最も多い。

図表　暴力被害の経験「イ　大声でどなる」（全体、性別、性・年代別）

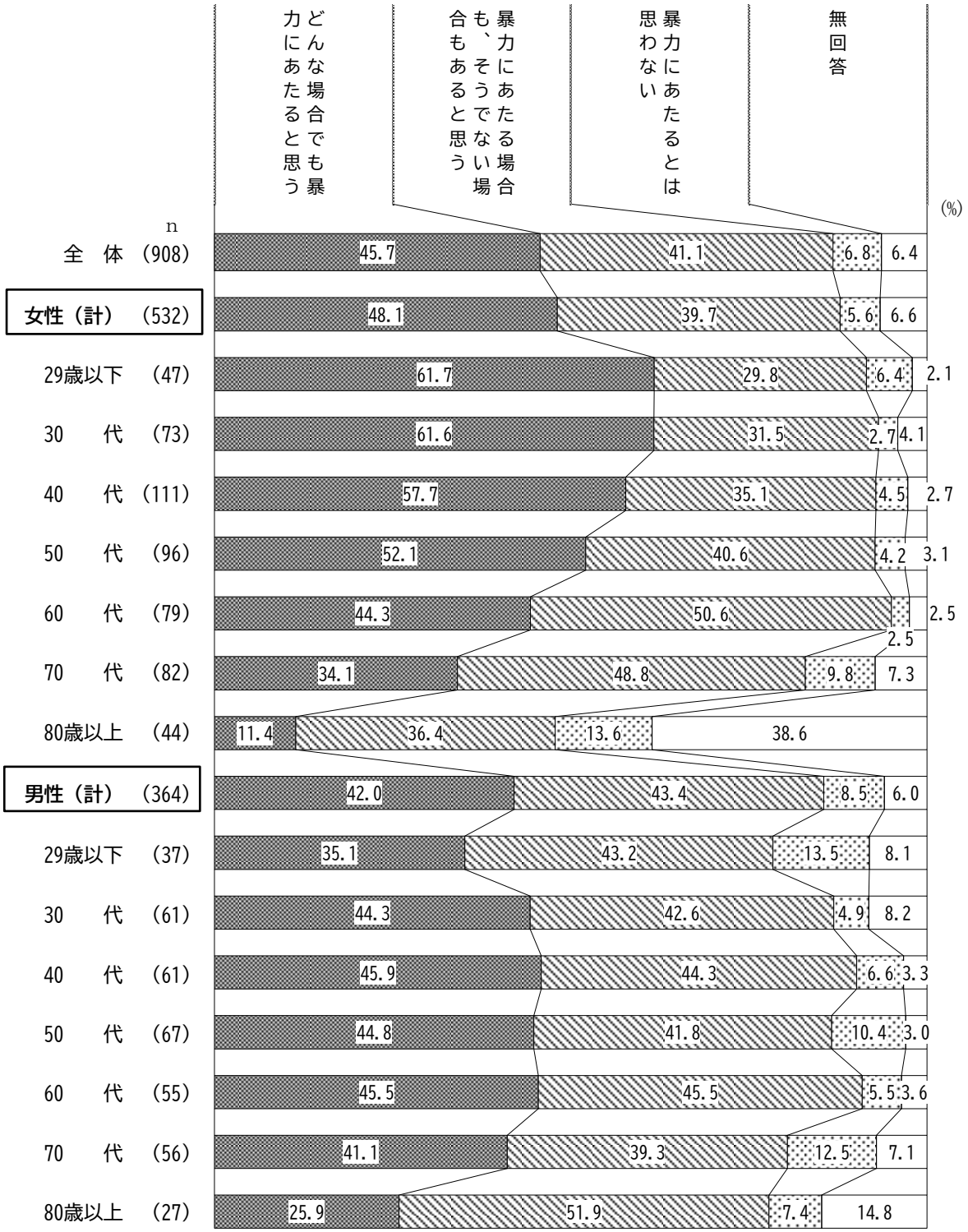


ウ　外出などを制限する（暴力にあたると思うか）

性別でみると、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が48.1％と最も多く、男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が43.4％と最も多い。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性29歳以下（61.7％）と30代（61.6％）で多く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は女性60代で50.6％と最も多い。

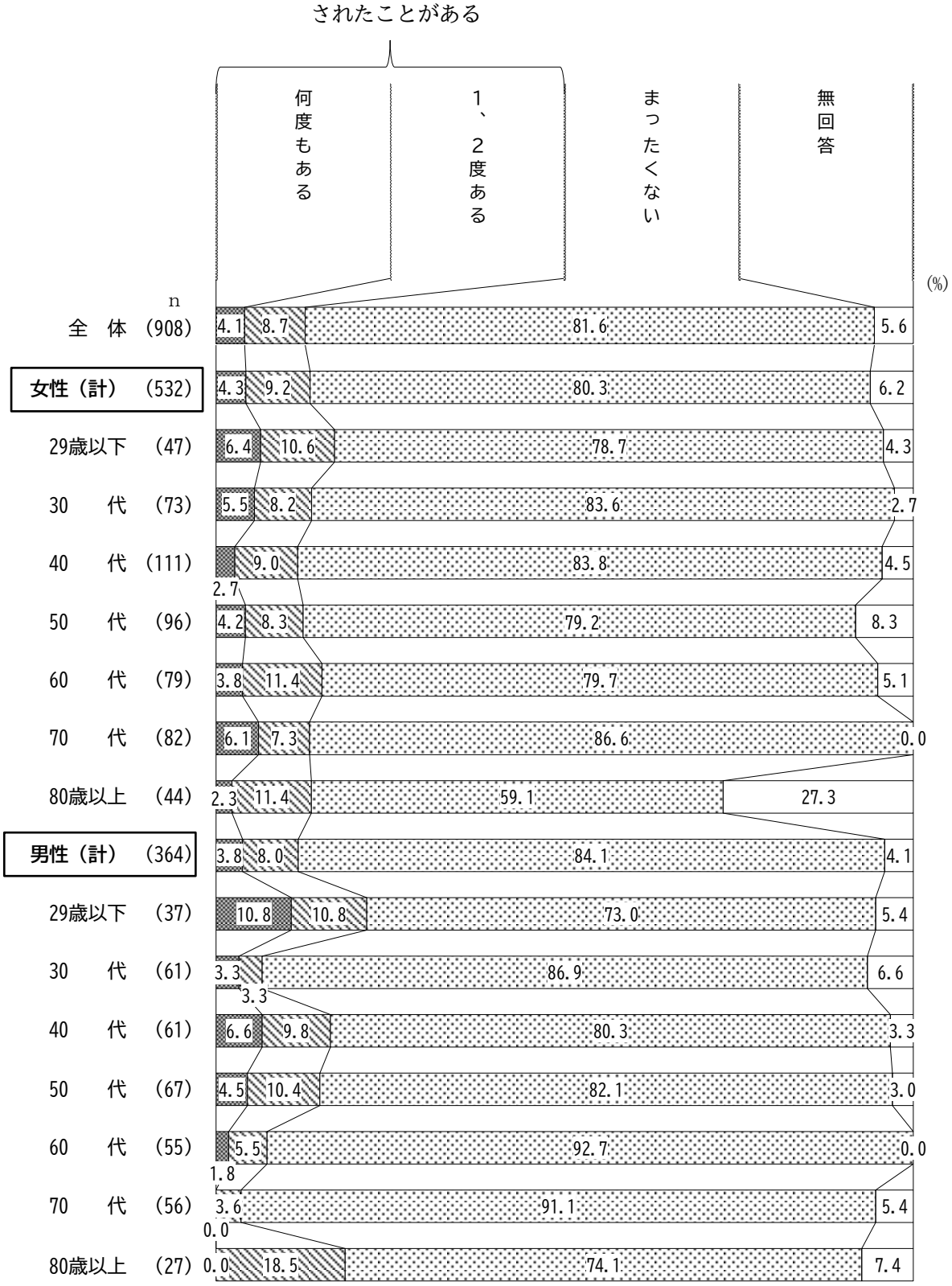
図表　暴力にあたると思うこと「ウ　外出などを制限する」（全体、性別、性・年代別）



ウ　外出などを制限する（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が13.5%、男性が11.8%である。
性・年代別では、＜されたことがある＞は男性29歳以下で21.6%と多い。

図表　暴力被害の経験「ウ　外出などを制限する」（全体、性別、性・年代別）

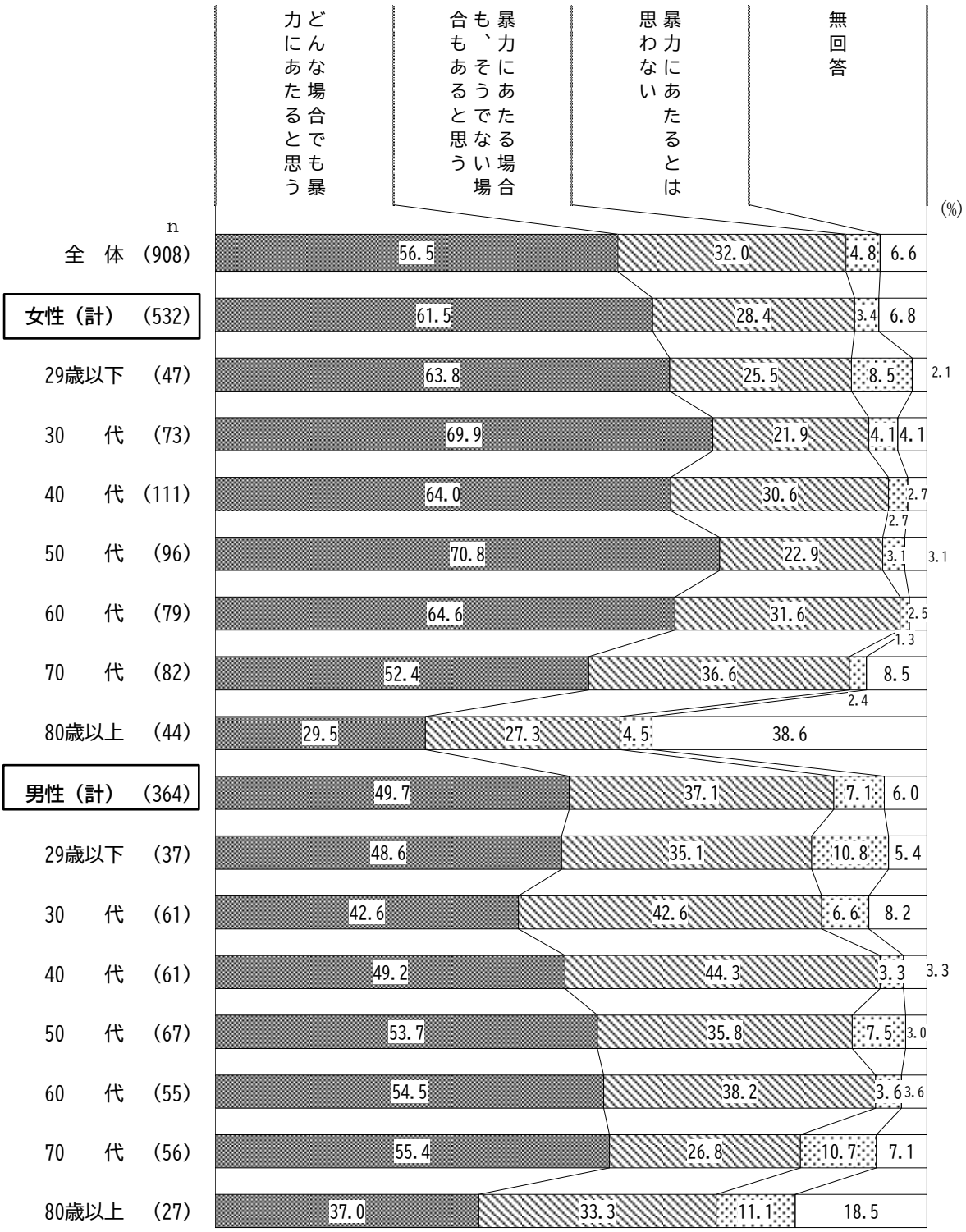


エ　交友関係や電話・メールを細かく監視する（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性61.5%、男性49.7%）の割合が多く、女性が男性を11.8ポイント上回っている。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の60代以下の年代は６割以上と多く、特に50代で70.8%と最も多い。

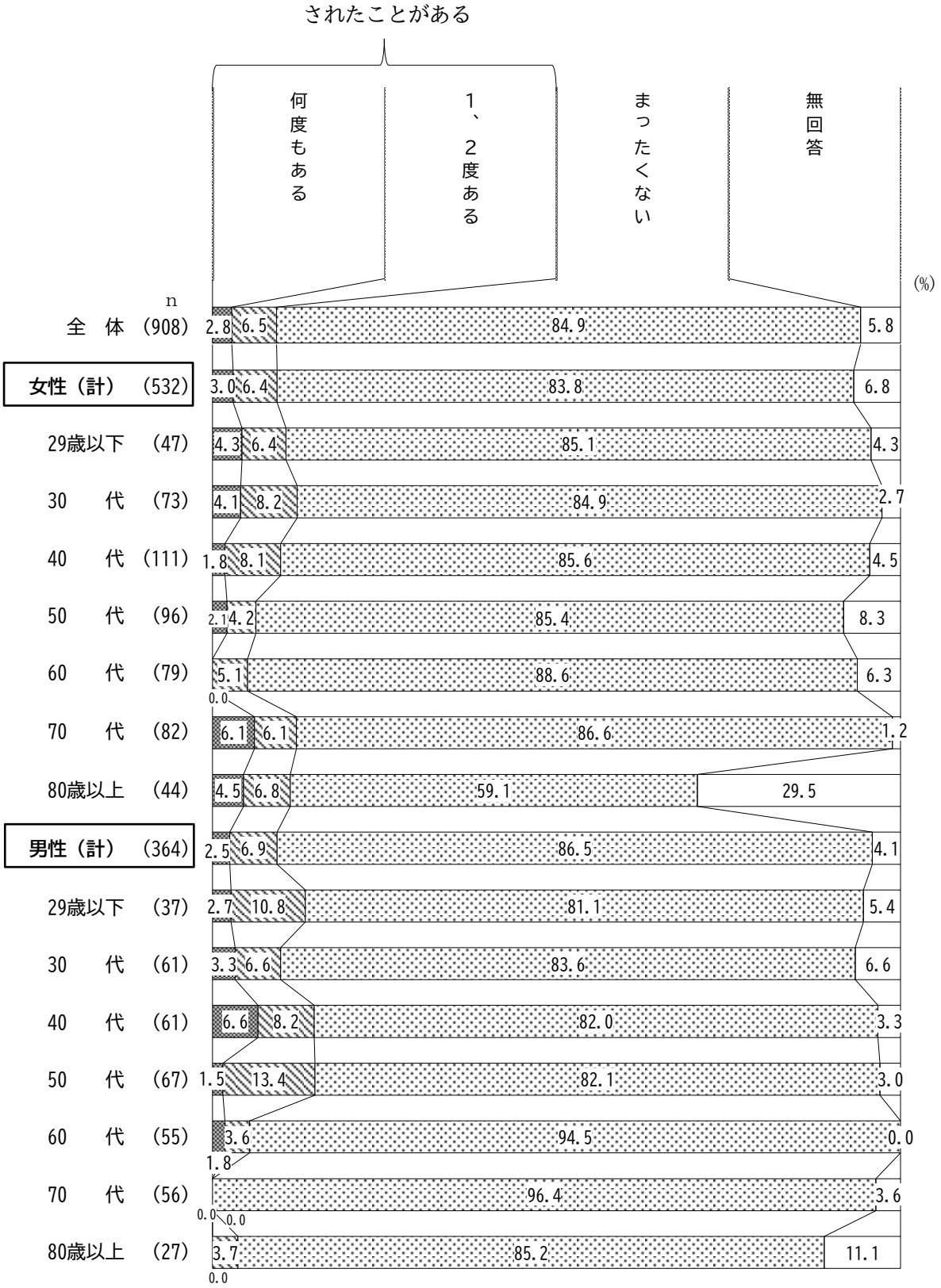
図表　暴力にあたると思うこと「エ　交友関係や電話・メールを細かく監視する」（全体、性別、性・年代別）



エ　交友関係や電話・メールを細かく監視する（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は男女ともに9.4％である。
性・年代別では、＜されたことがある＞は男性40代（14.8％）と50代（14.9％）で多い。

図表　暴力被害の経験「エ　交友関係や電話・メールを細かく監視する」（全体、性別、性・年代別）

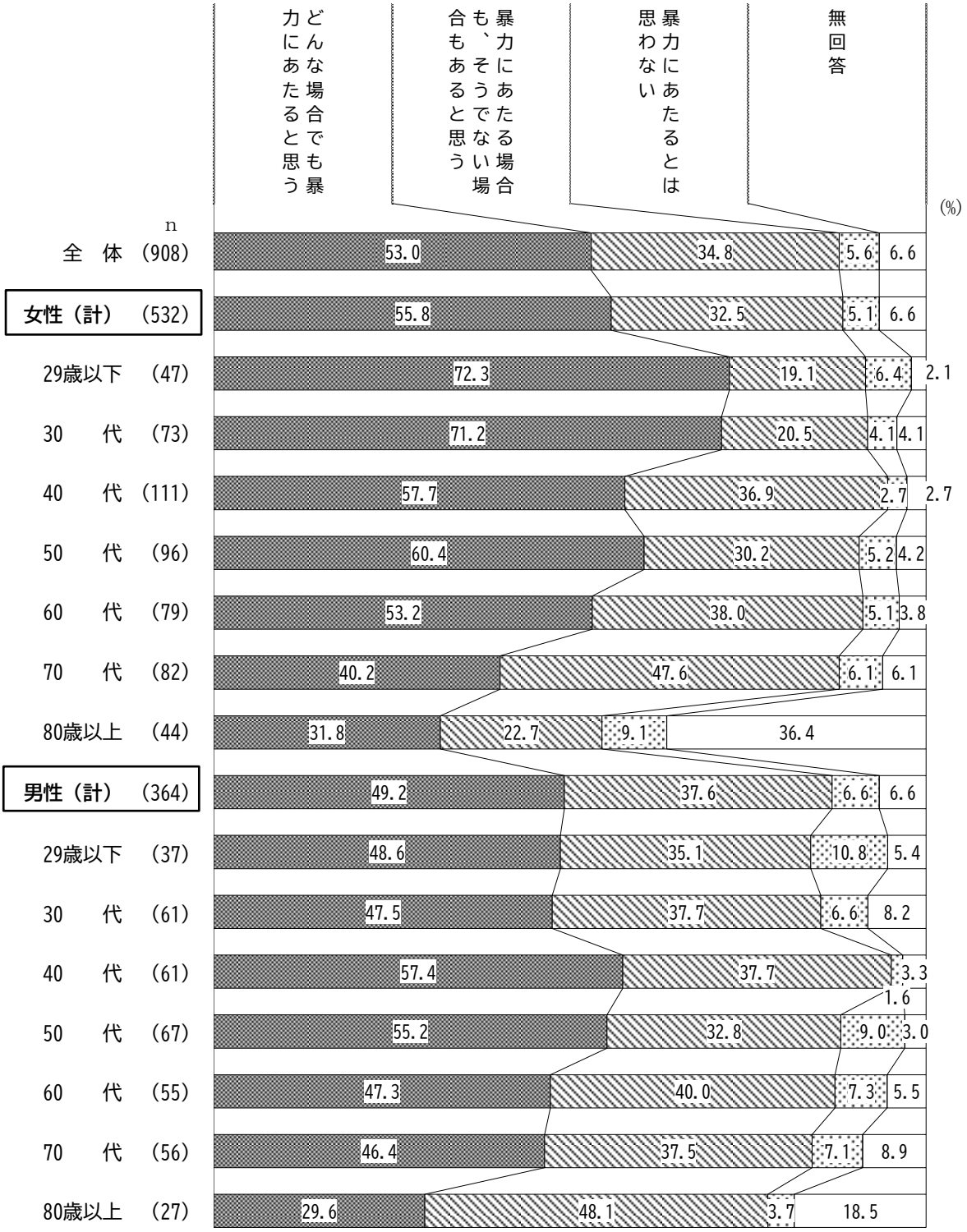


オ　何を言っても無視する（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性55.8%、男性49.2%）の割合が多い。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の29歳以下（72.3%）、30代（71.2%）で７割以上と多い。

図表　暴力にあたると思うこと「オ　何を言っても無視する」（全体、性別、性・年代別）

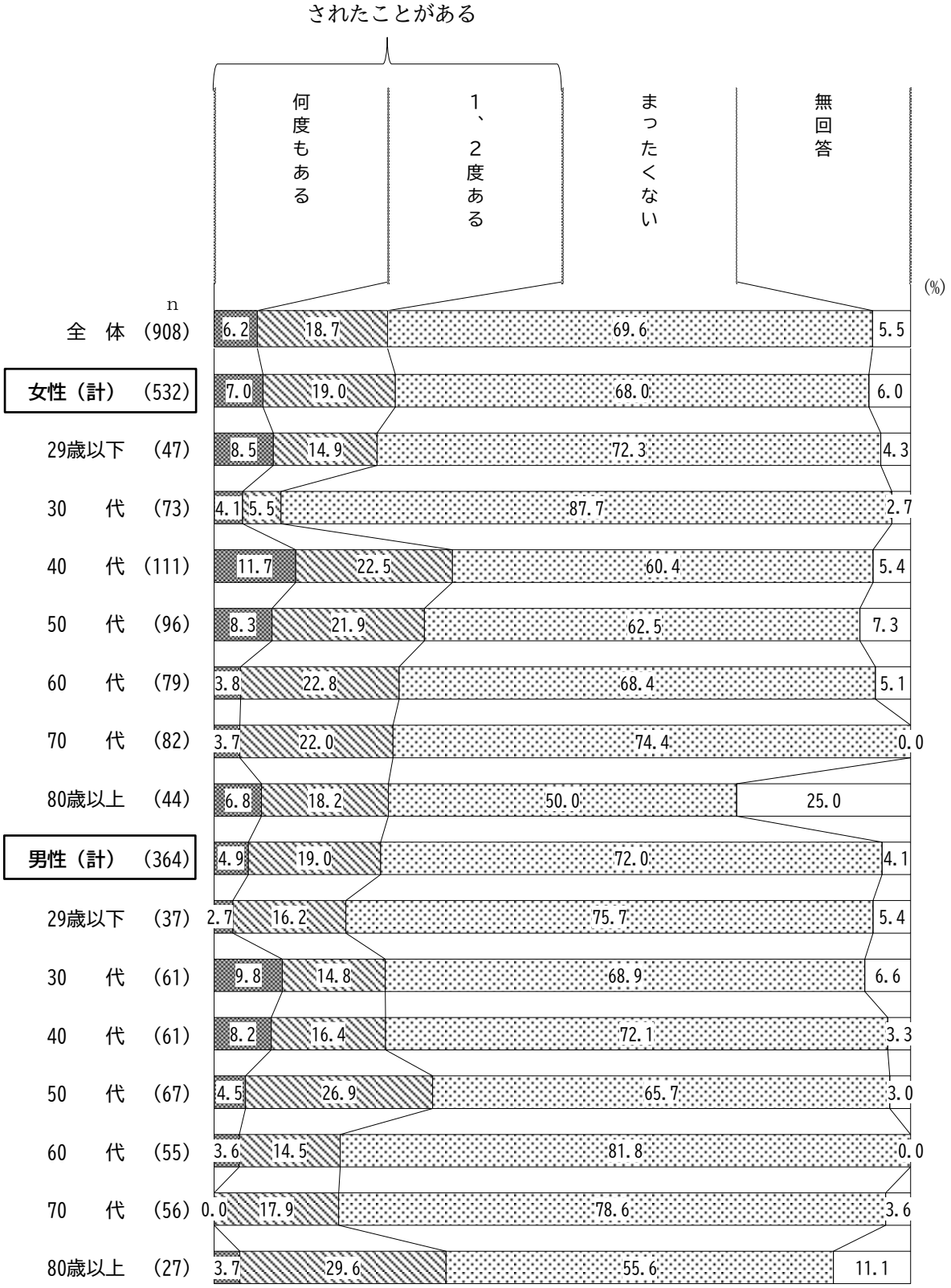


オ　何を言っても無視する（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が26.0%、男性が23.9%である。

性・年代別では、＜されたことがある＞は女性の40代（34.2%）、50代（30.2%）、男性50代（31.4%）で３割以上と多い。

図表　暴力被害の経験「オ　何を言っても無視する」（全体、性別、性・年代別）

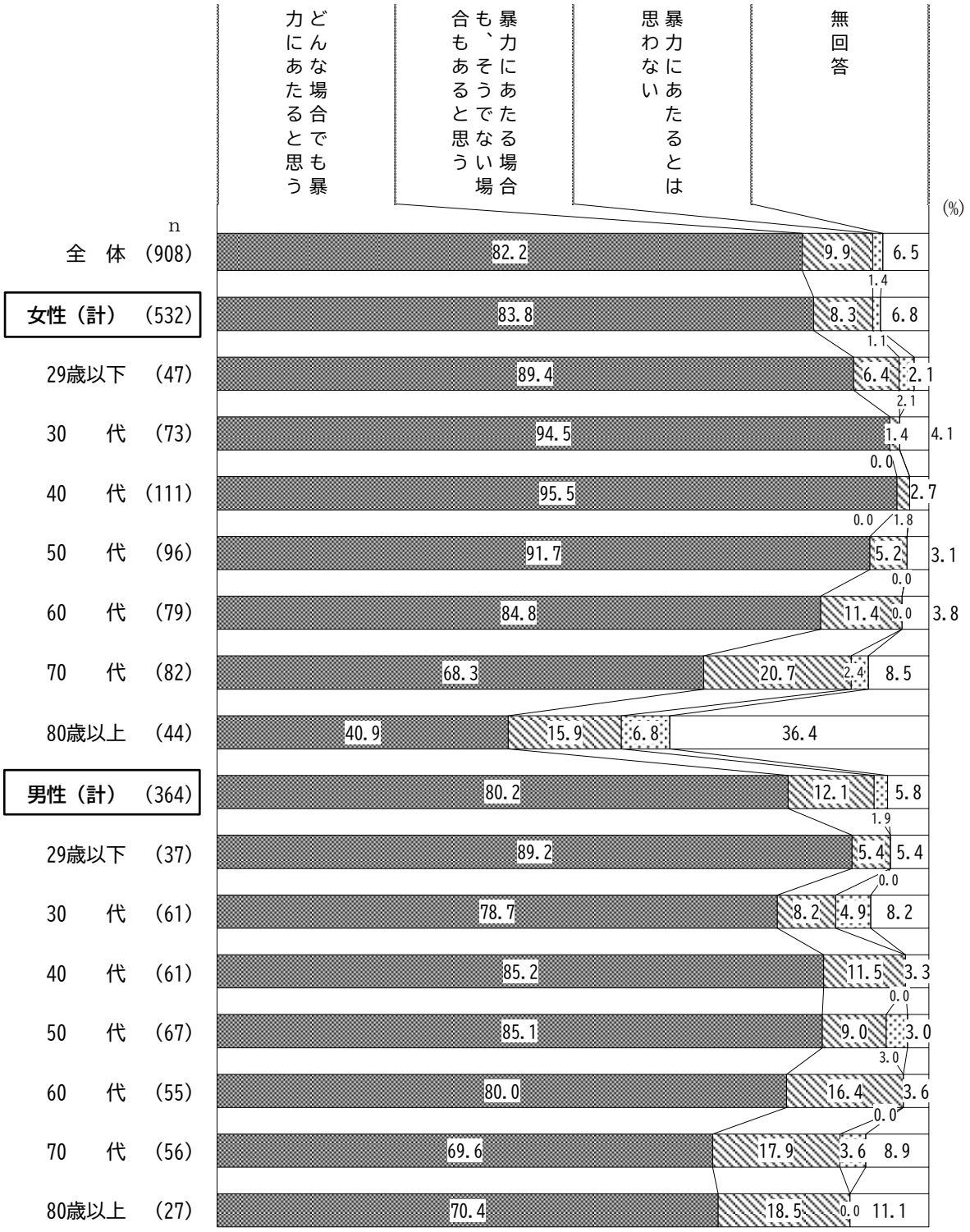


カ　相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性83.8%、男性80.2%）の割合が多い。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の30代（94.5%）、40代（95.5%）、50代（91.7%）で９割以上と多い。

図表　暴力にあたると思うこと「カ　相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない」（全体、性別、性・年代別）

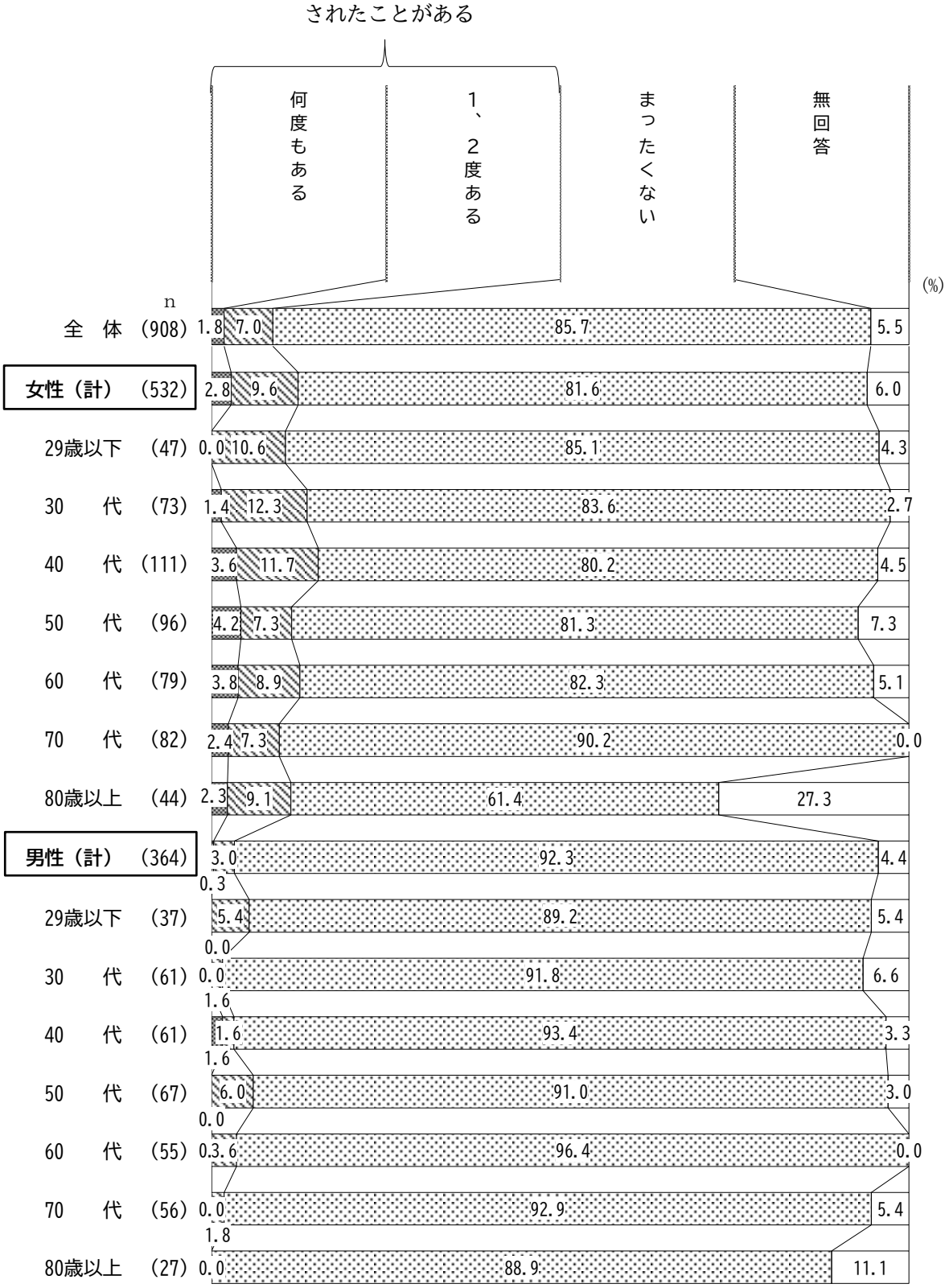


カ　相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が12.4%、男性が3.3%で、女性が男性を9.1ポイント上回っている。

性・年代別では、＜されたことがある＞は女性の40代で15.3%と最も多い。

図表　暴力被害の経験「カ　相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない」（全体、性別、性・年代別）

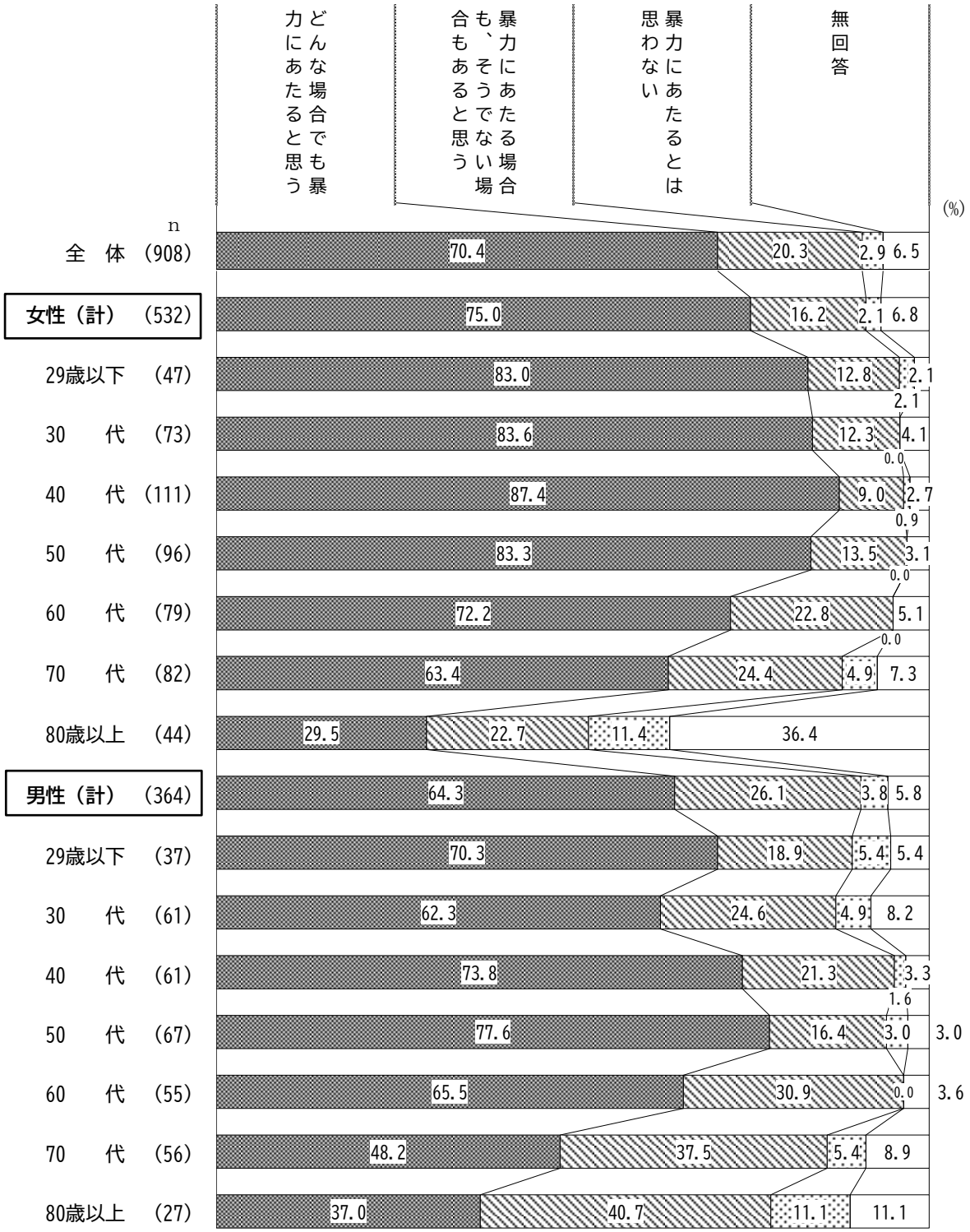


キ　なぐるふりをしておどす（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性75.0%、男性64.3%）の割合が多く、女性が男性を10.7ポイント上回っている。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の29歳以下（83.0%）、30代（83.6%）、40代（87.4%）、50代（83.3%）で８割以上と多い。

図表　暴力にあたると思うこと「キ　なぐるふりをしておどす」（全体、性別、性・年代別）

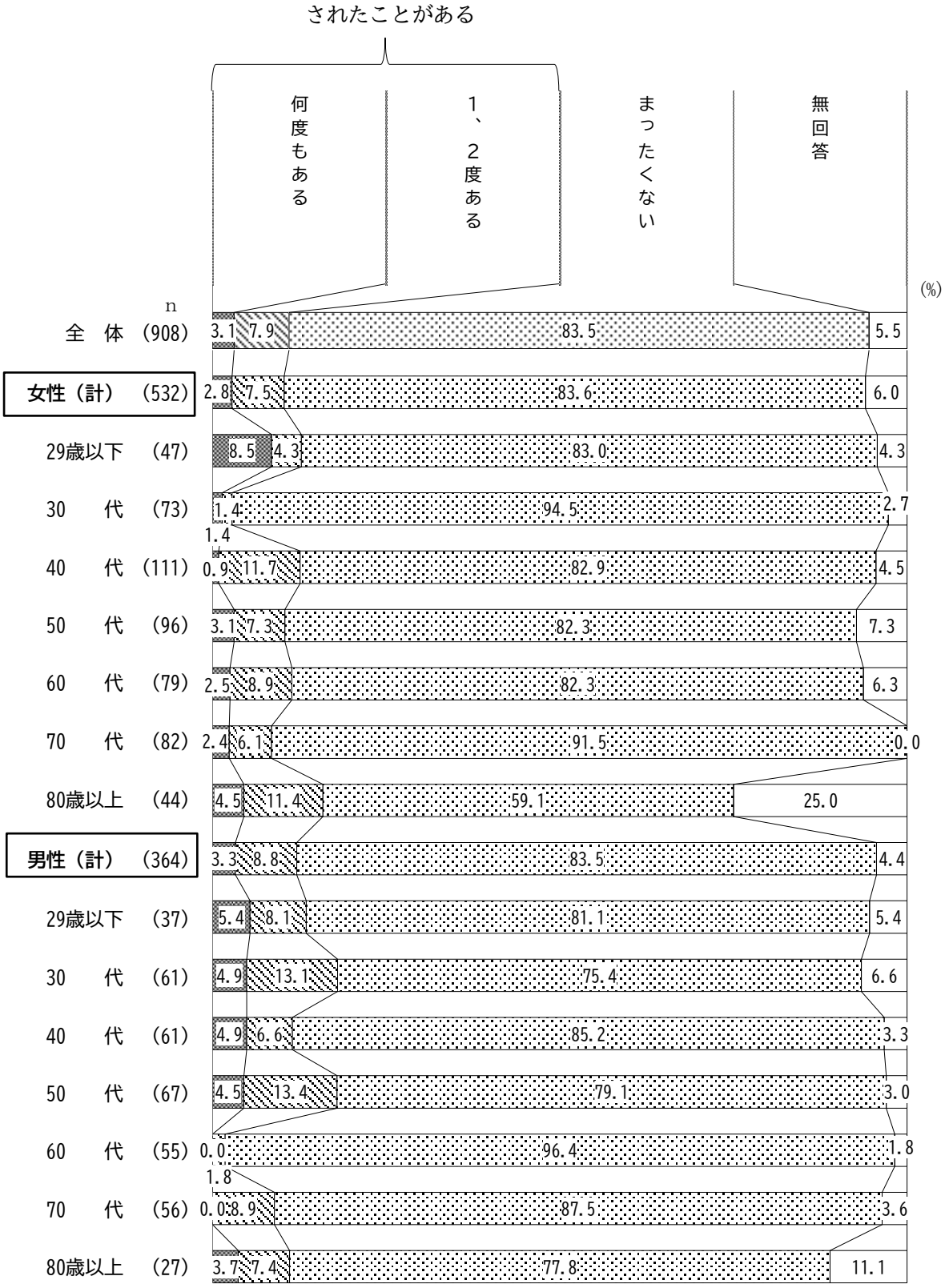


キ　なぐるふりをしておどす（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が10.3%、男性が12.1%である。

性・年代別では、＜されたことがある＞は女性80歳以上（15.9%）、男性50代（17.9%）で多い。

図表　暴力被害の経験「キ　なぐるふりをしておどす」（全体、性別、性・年代別）

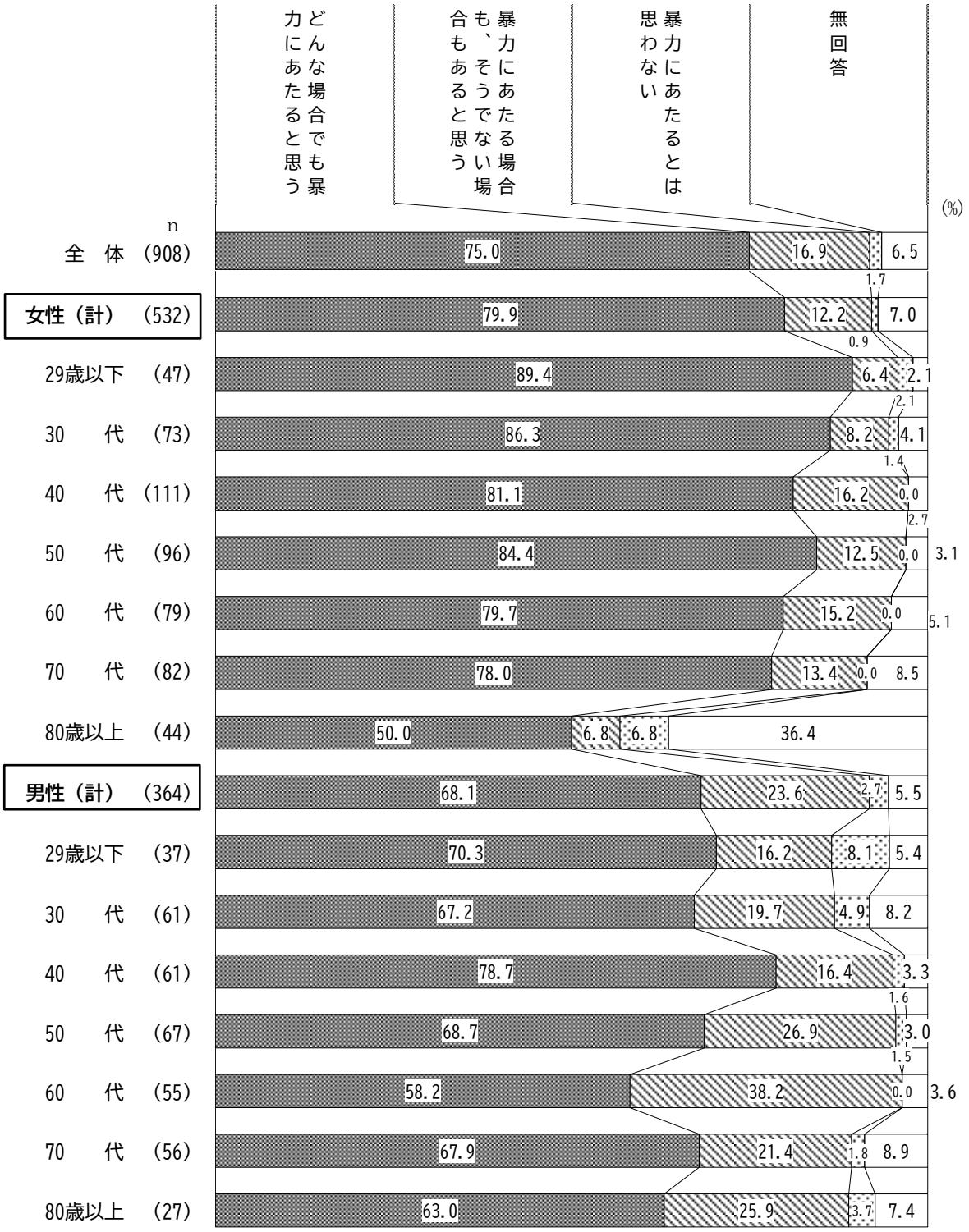


ク　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性79.9%、男性68.1%）の割合が多く、女性が男性を11.8ポイント上回っている。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の29歳以下（89.4%）、30代（86.3%）、40代（81.1%）、50代（84.4%）で８割以上と多い。

図表　暴力にあたると思うこと「ク　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう」（全体、性別、性・年代別）

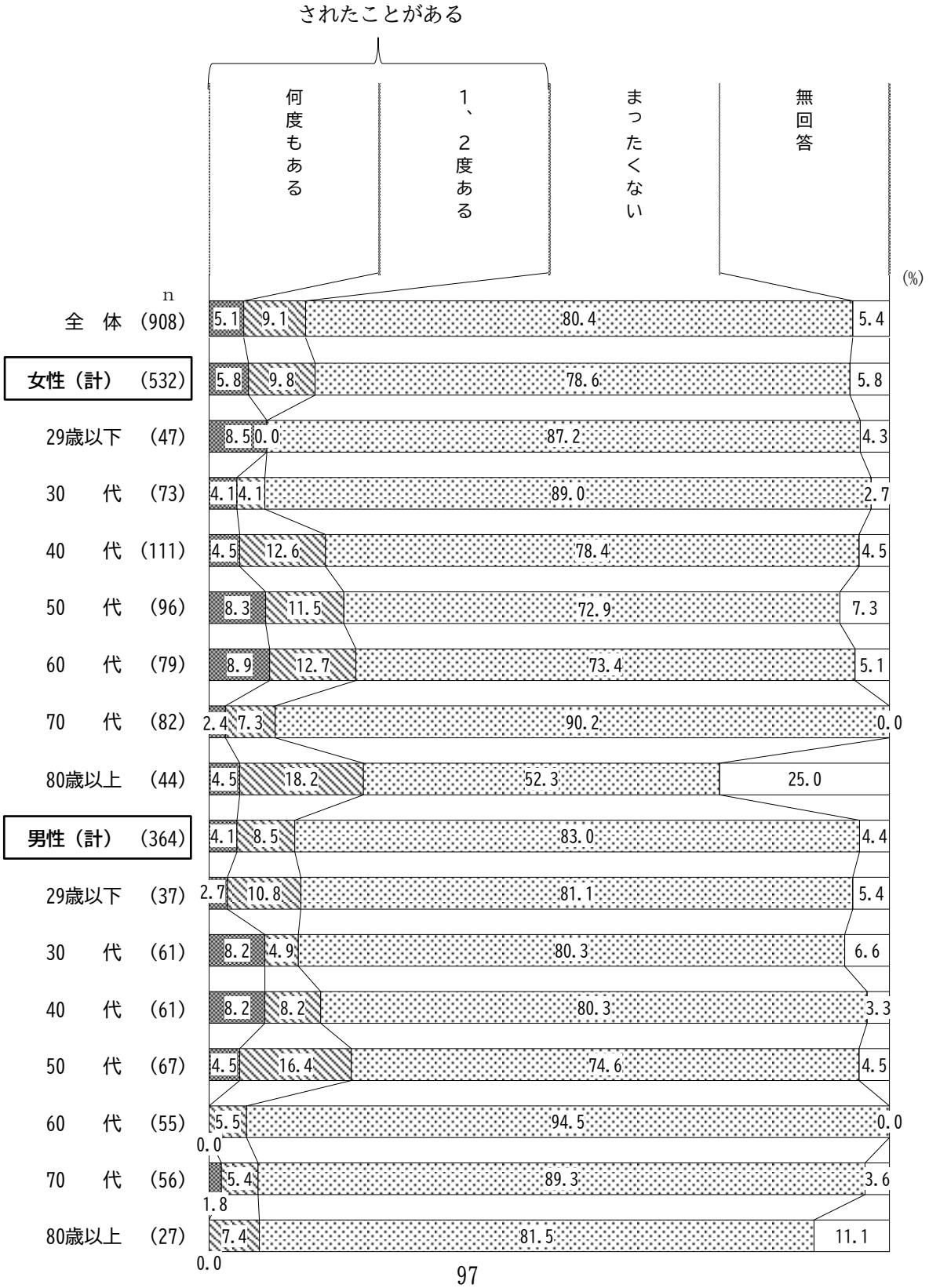


ク　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が15.6％、男性が12.6％である。

性・年代別では、＜されたことがある＞は女性の60代（21.6％）と80歳以上（22.7％）、男性50代（20.9％）で２割以上と多い。

図表　暴力被害の経験「ク「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう」（全体、性別、性・年代別）

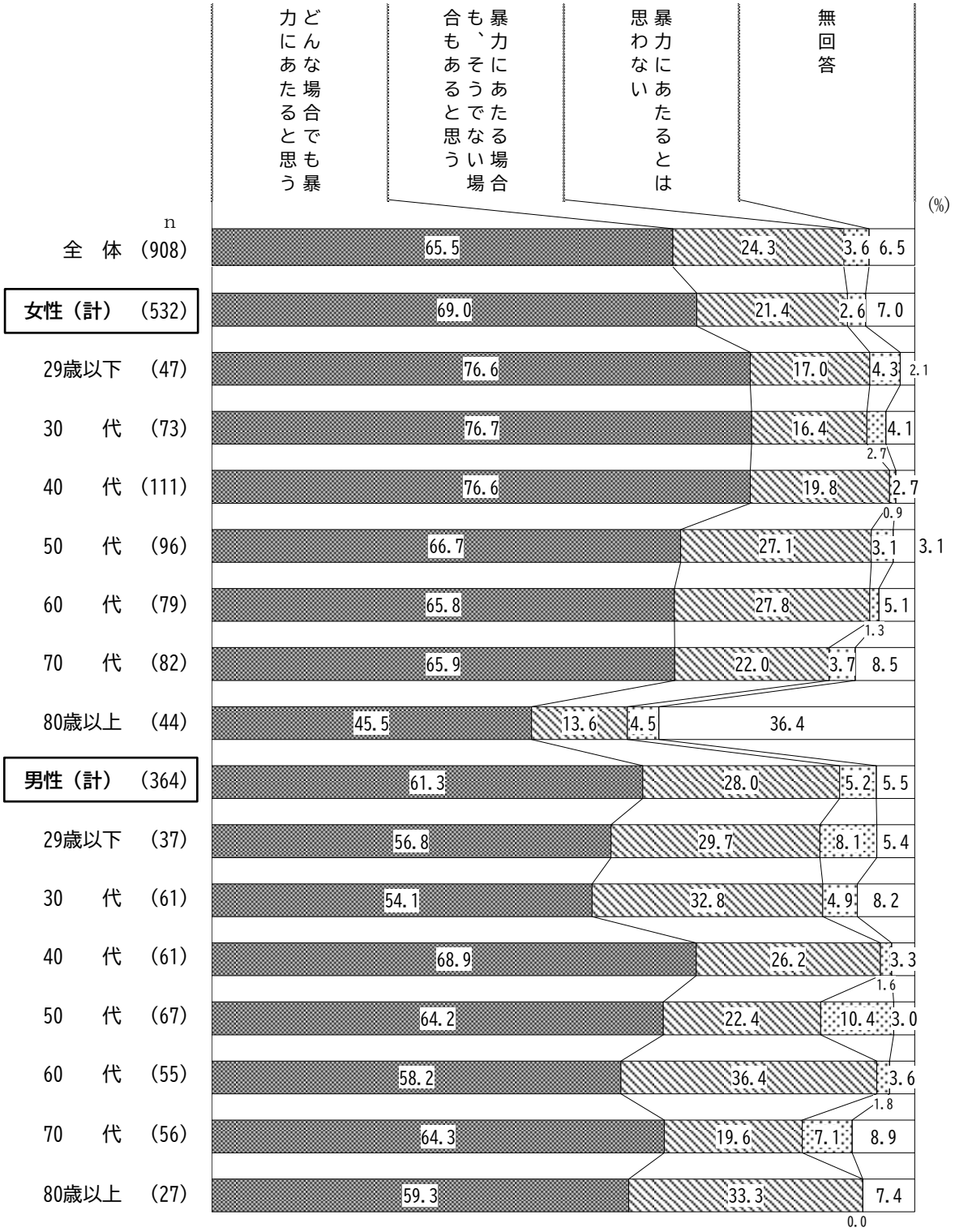


ケ　生活費を十分に渡さない（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性69.0%、男性61.3%）の割合が多い。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の29歳以下（76.6%）、30代（76.7%）、40代（76.6%）で７割以上と多い。

図表　暴力にあたると思うこと「ケ　生活費を十分に渡さない」（全体、性別、性・年代別）

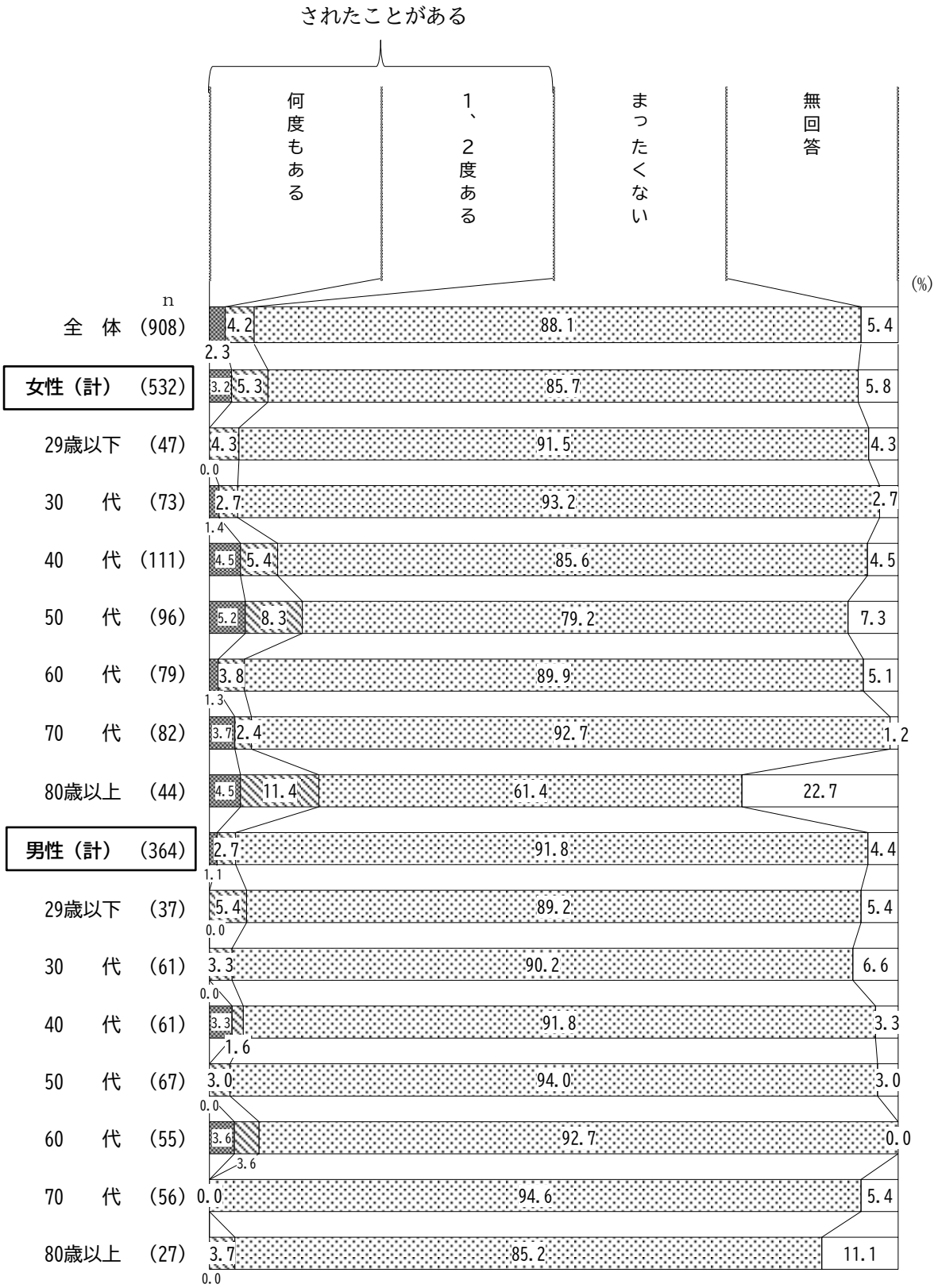


ケ　生活費を十分に渡さない（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が8.5%、男性が3.8%である。

性・年代別では、＜されたことがある＞は女性の50代（13.5%）と80歳以上（15.9%）で多い。

図表　暴力被害の経験「ケ　生活費を十分に渡さない」（全体、性別、性・年代別）

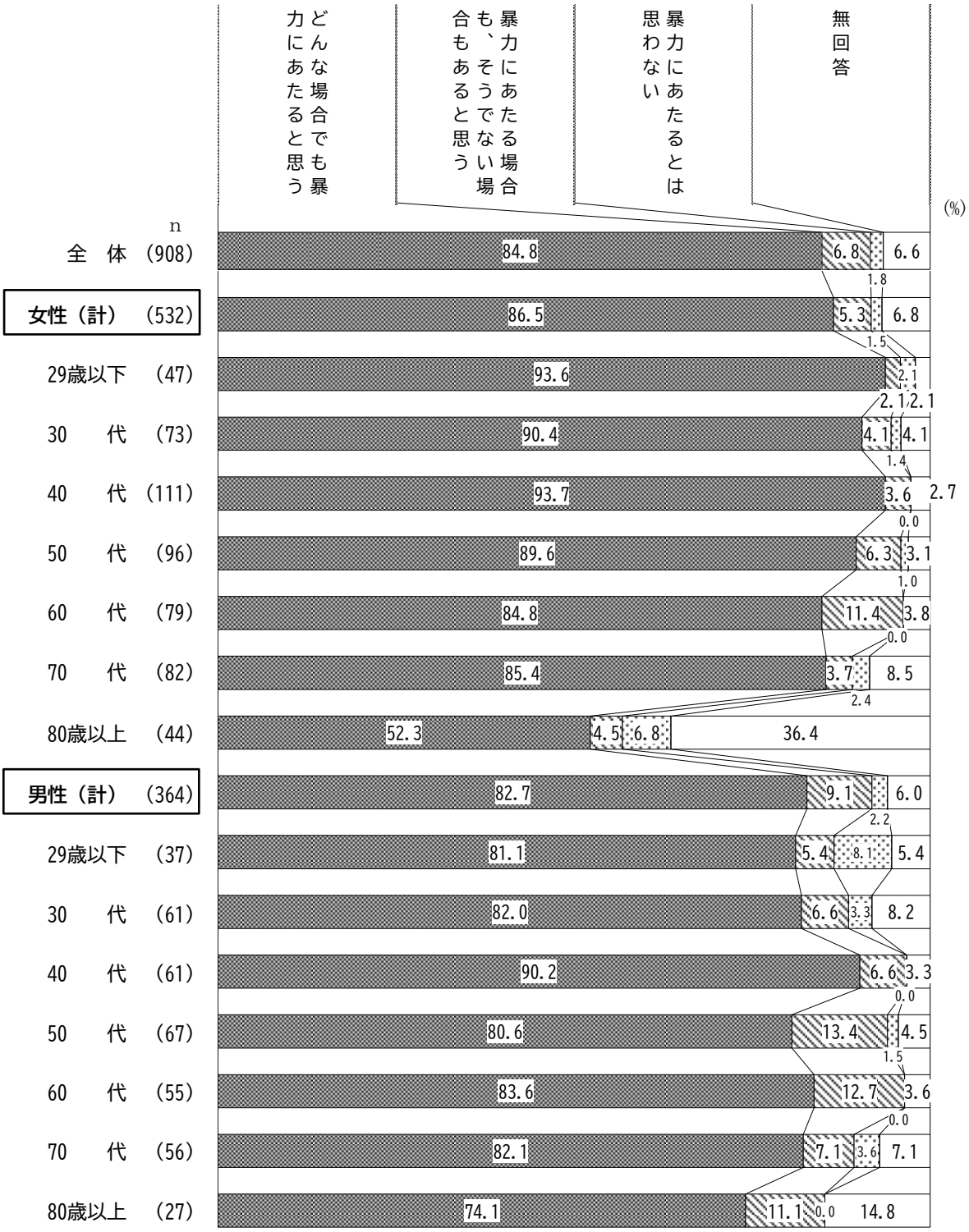


コ　ＳＮＳやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為（暴力にあたると思うか）

性別でみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」（女性86.5%、男性82.7%）の割合が多い。

性・年代別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性の29歳以下（93.6%）、30代（90.4%）、40代（93.7%）、男性の40代（90.2%）で９割以上と多い。

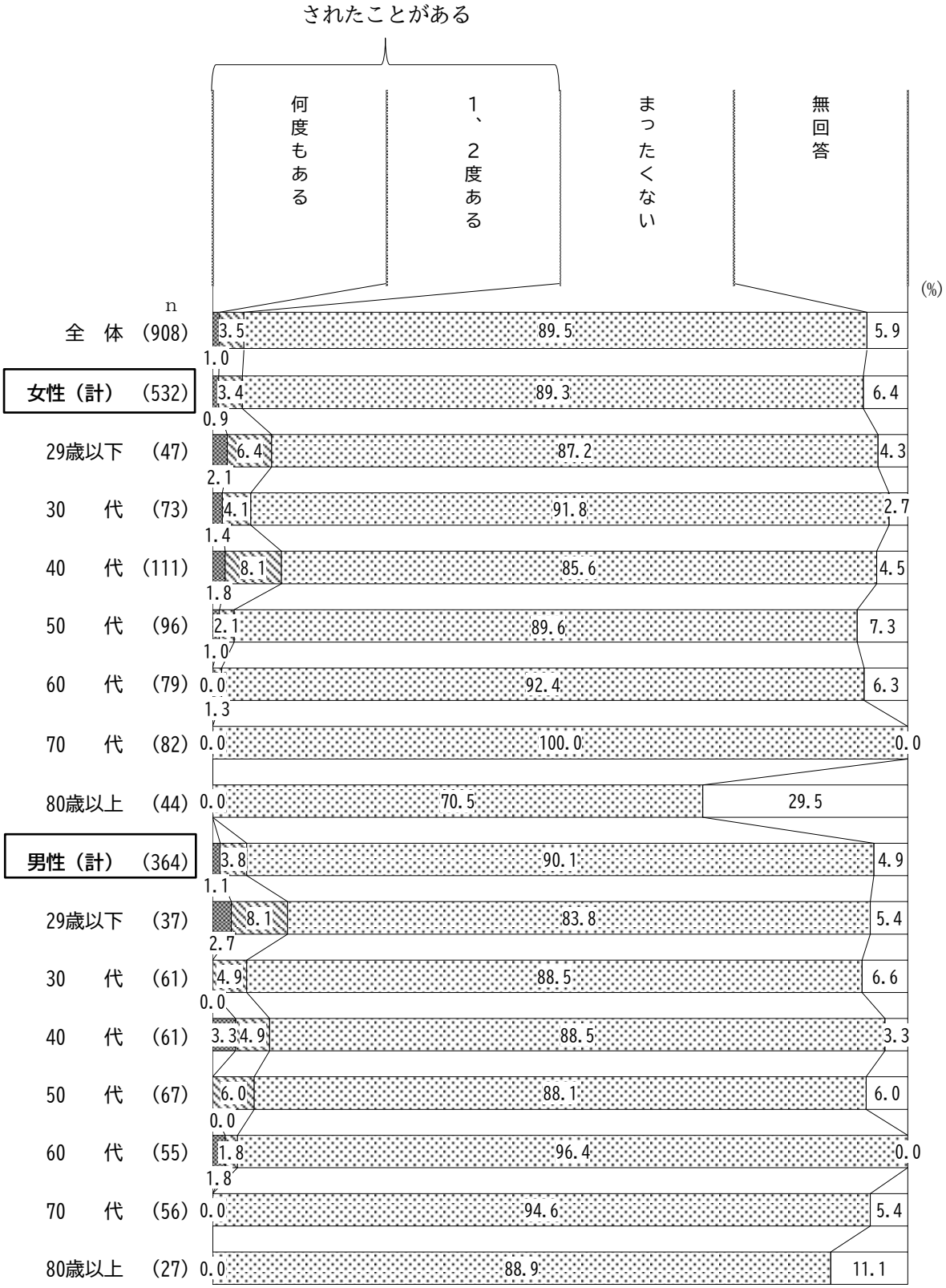
図表　暴力にあたると思うこと「コ　SNSやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為」（全体、性別、性・年代別）



コ　ＳＮＳやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為（されたことがあるか）

性別でみると、＜されたことがある＞は女性が4.3%、男性が4.9%である。
性・年代別では、＜されたことがある＞は男性29歳以下で10.8%と最も多い。

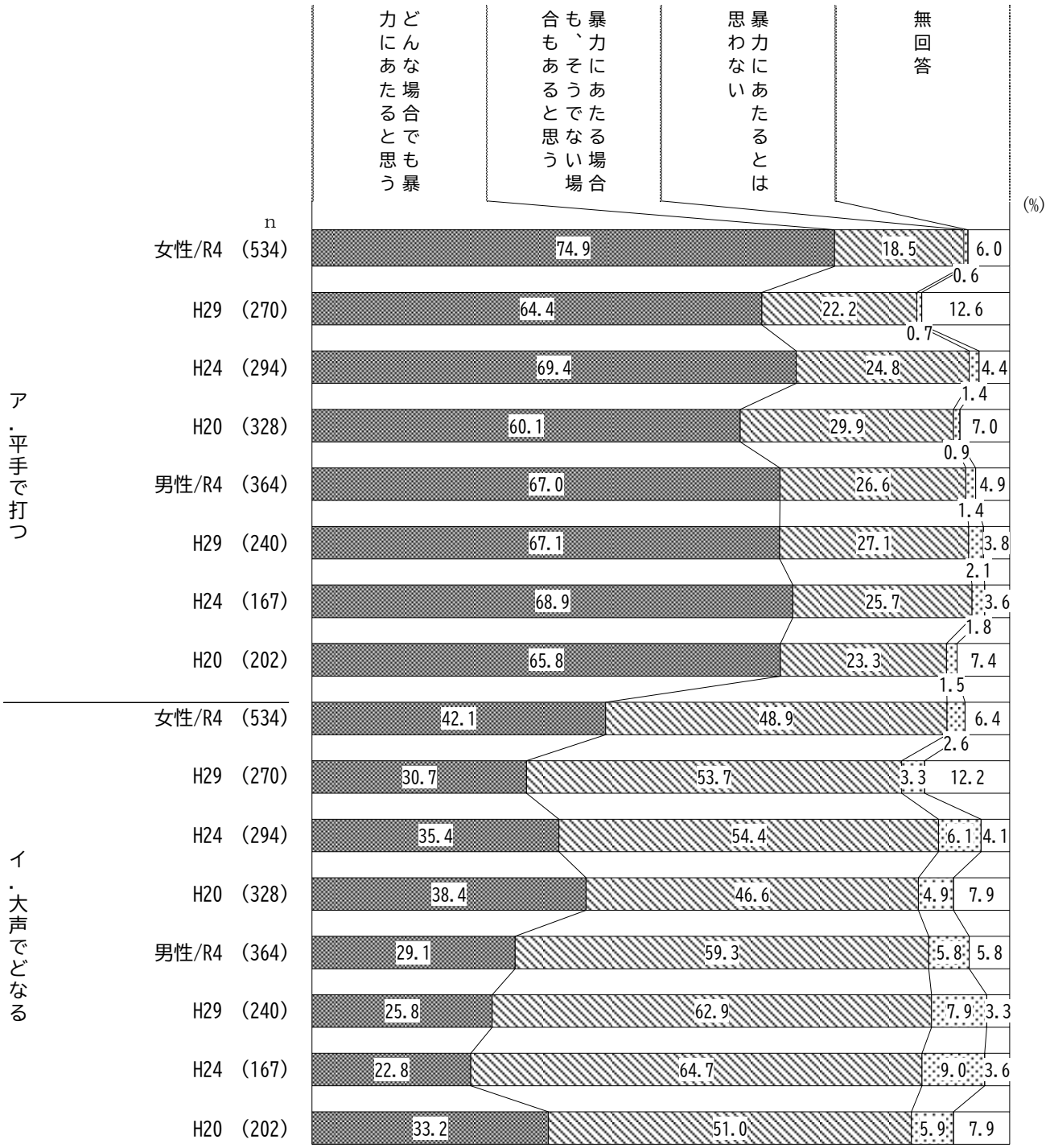
図表　暴力被害の経験「コ　SNSやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為」
（全体、性別、性・年代別）



経年比較

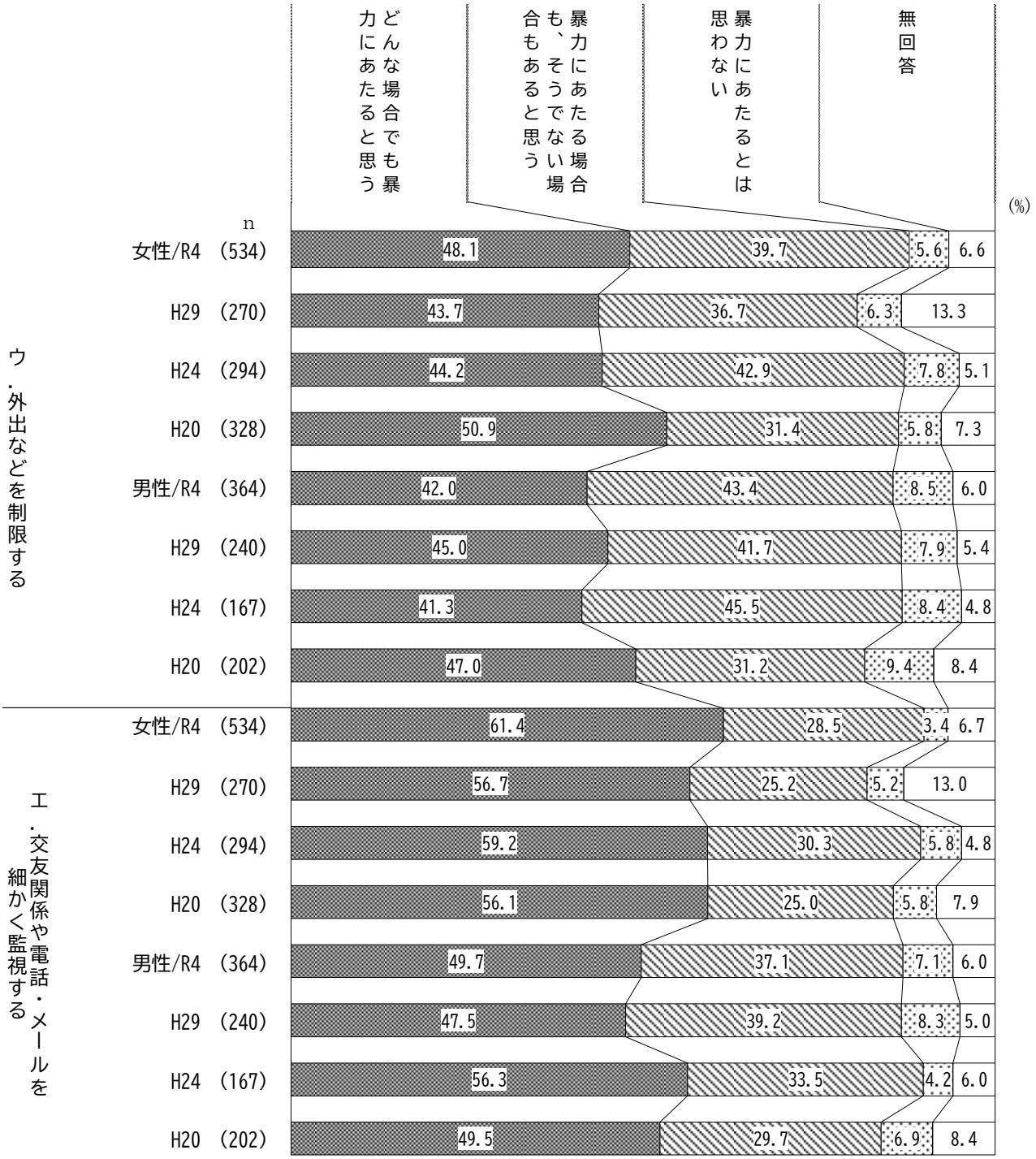
「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、平成29年調査との比較では、男性の「ア　平手で打つ」と「ウ　外出などを制限する」、女性と男性の「オ　何を言っても無視する」以外の全ての項目で増加している。平成20年調査との比較では、男性の「イ　大声でどなる」、女性と男性の「ウ外出などを制限する」、「キ　なぐるふりをしておどす」以外の全ての項目で増加している。

図表　暴力にあたると思うこと（経年比較）



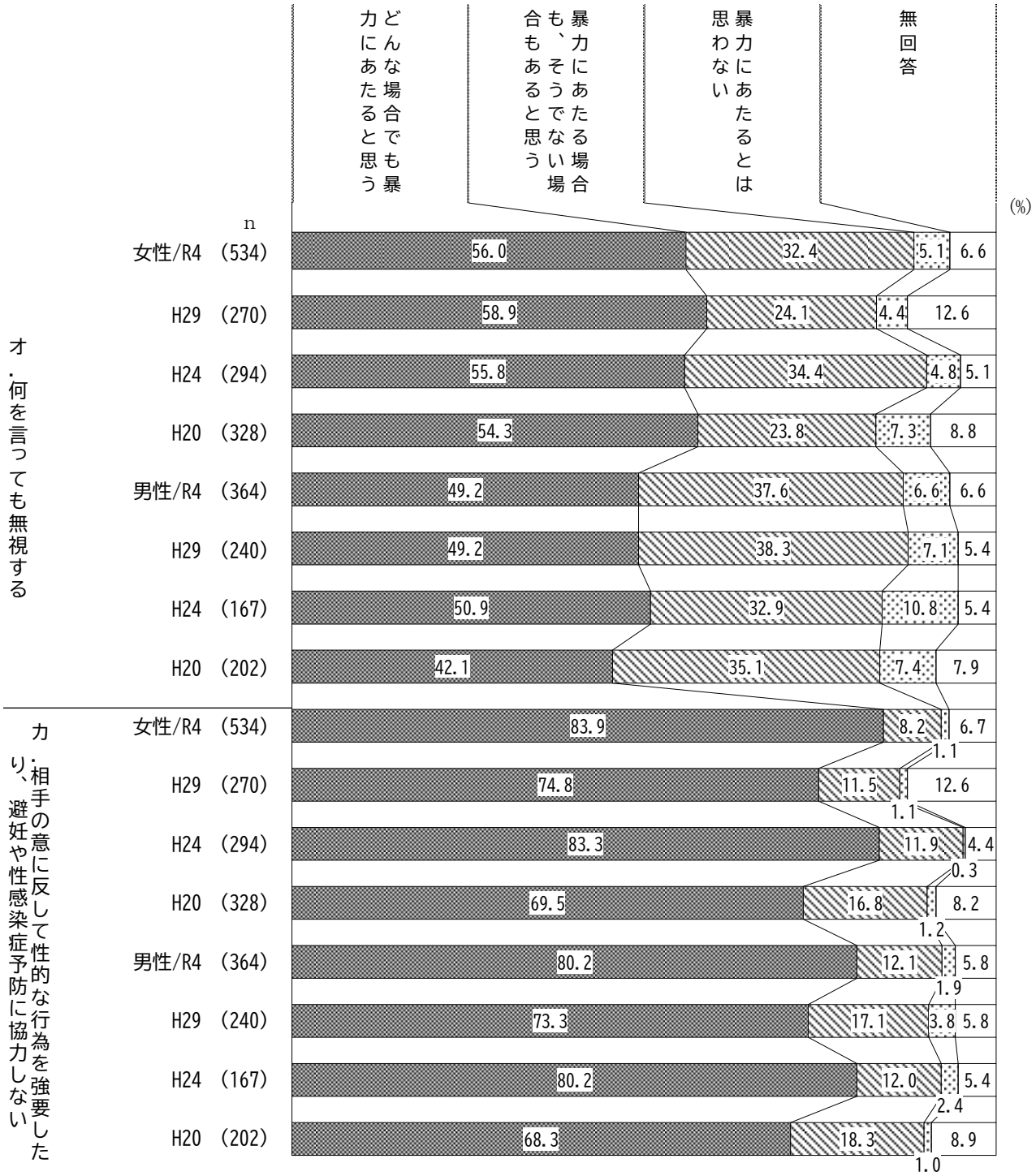
経年比較

図表　暴力にあたると思うこと（経年比較）



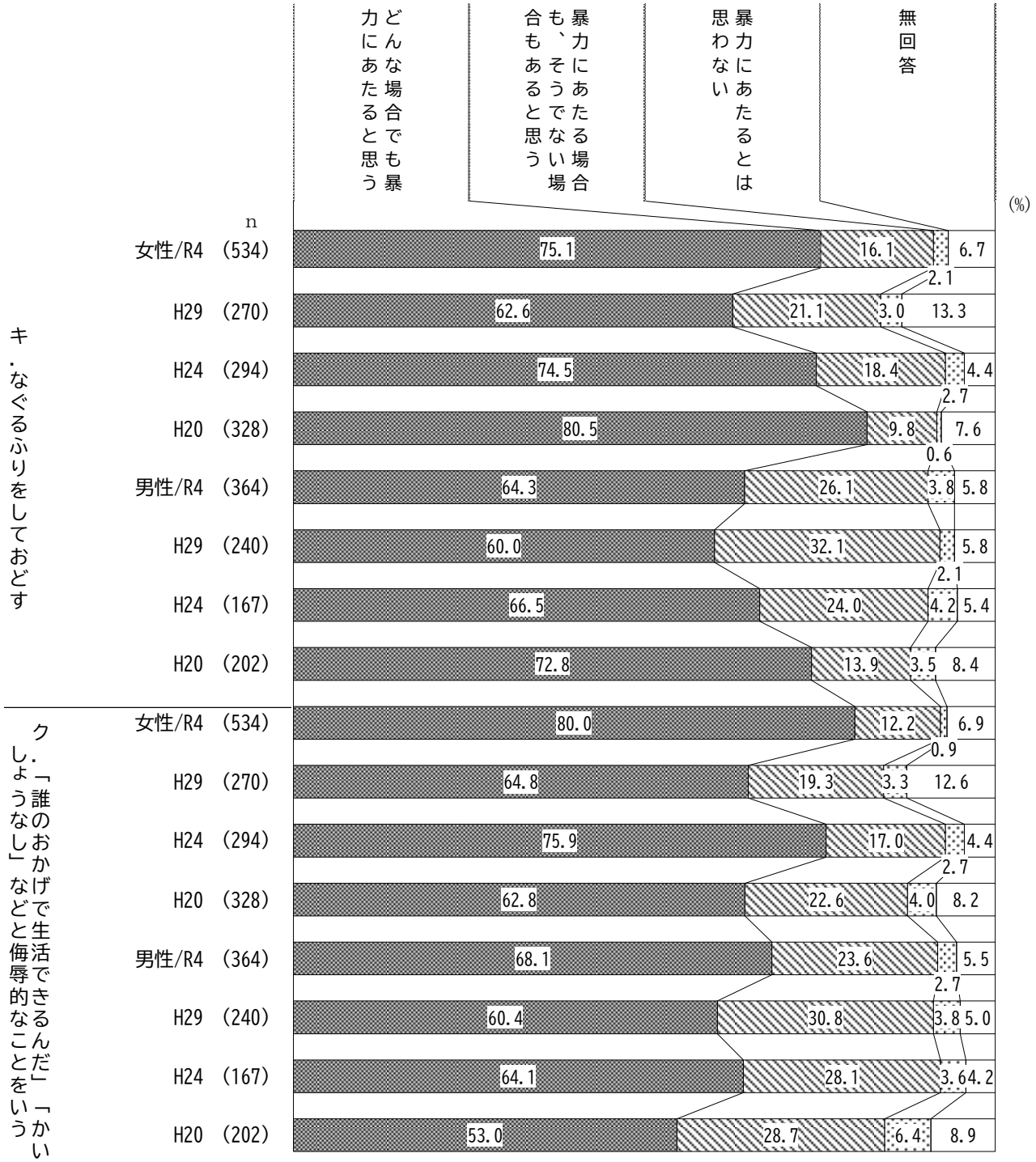
経年比較

図表　暴力にあたると思うこと（経年比較）



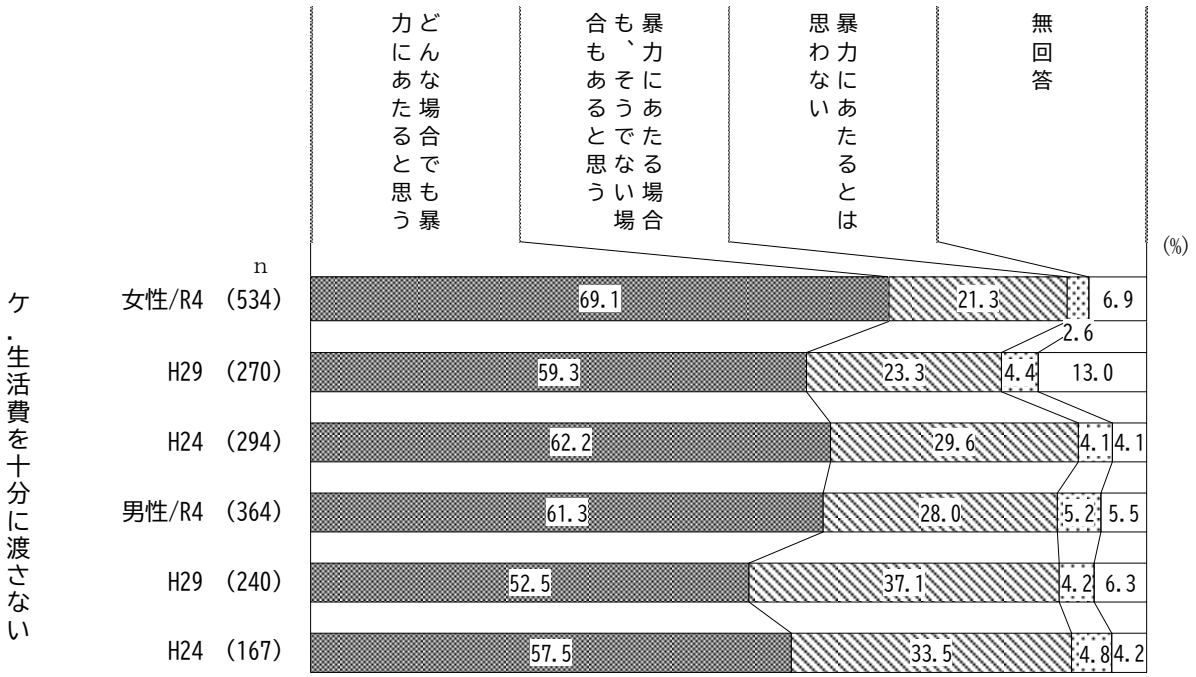
経年比較

図表　暴力にあたると思うこと（経年比較）



経年比較

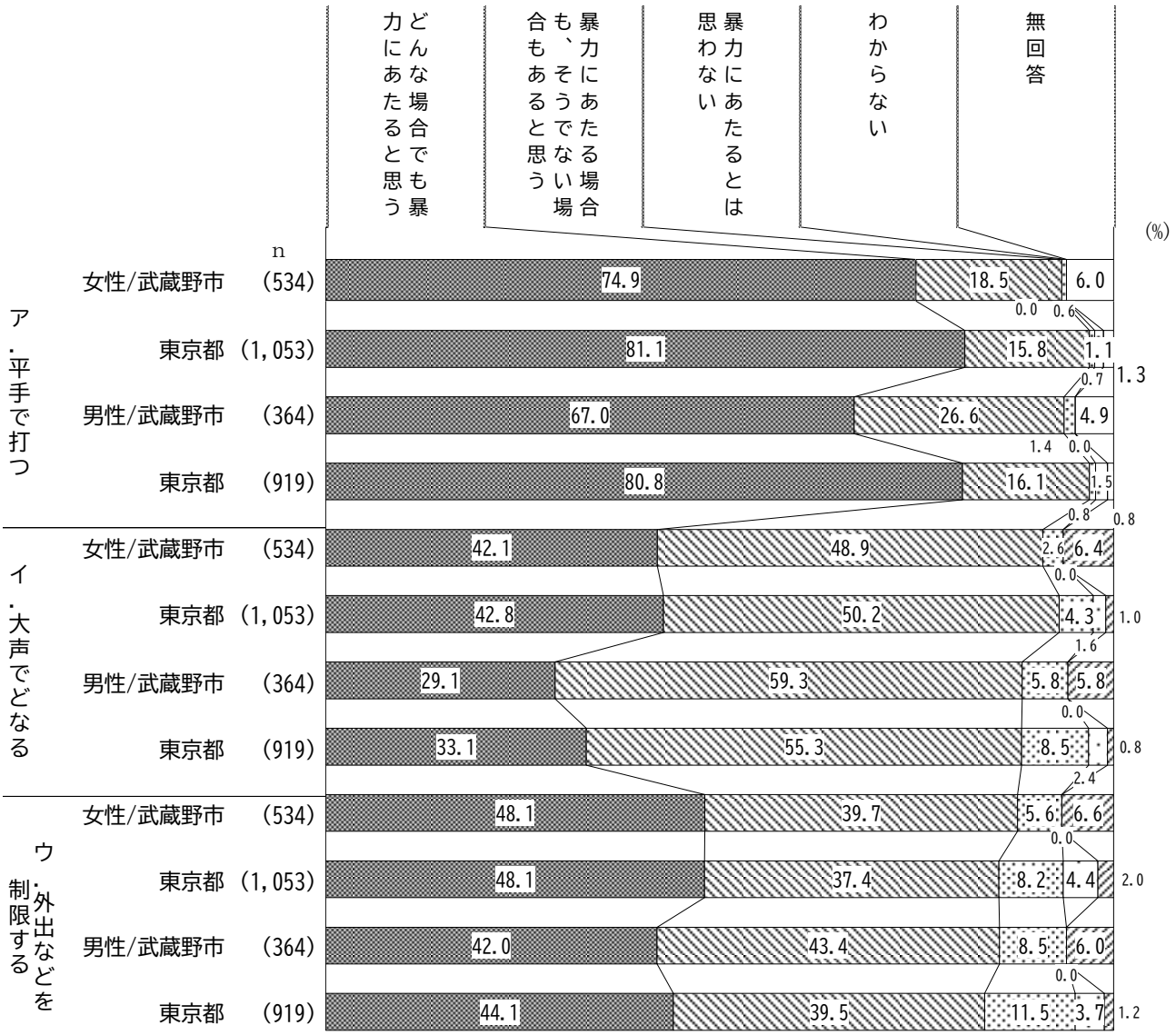
図表　暴力にあたると思うこと（経年比較）



類似調査との比較

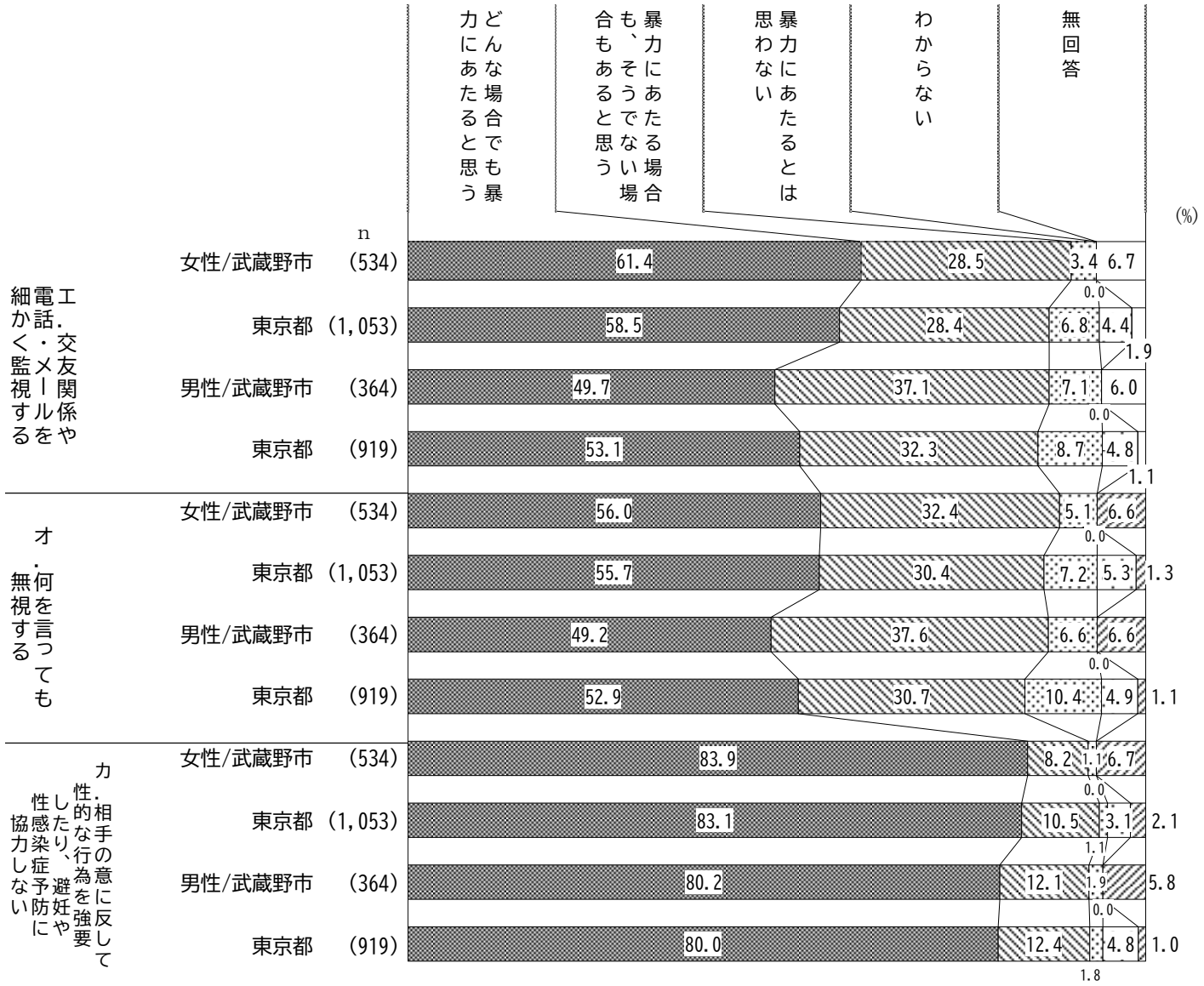
東京都の「男女平等参画に関する世論調査（令和２(2020)年)」と比較すると、女性の「エ　交友関係や電話・メールを細かく監視する」、「オ　何を言っても無視する」、「キ　なぐるふりしておどす」、「ケ　生活費を十分に渡さない」、男女ともに「カ　相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない」では「どんな場合でも暴力にあたると思う」について都より市の方が多くなっている。

図表　暴力にあたると思うこと(東京都調査比較)



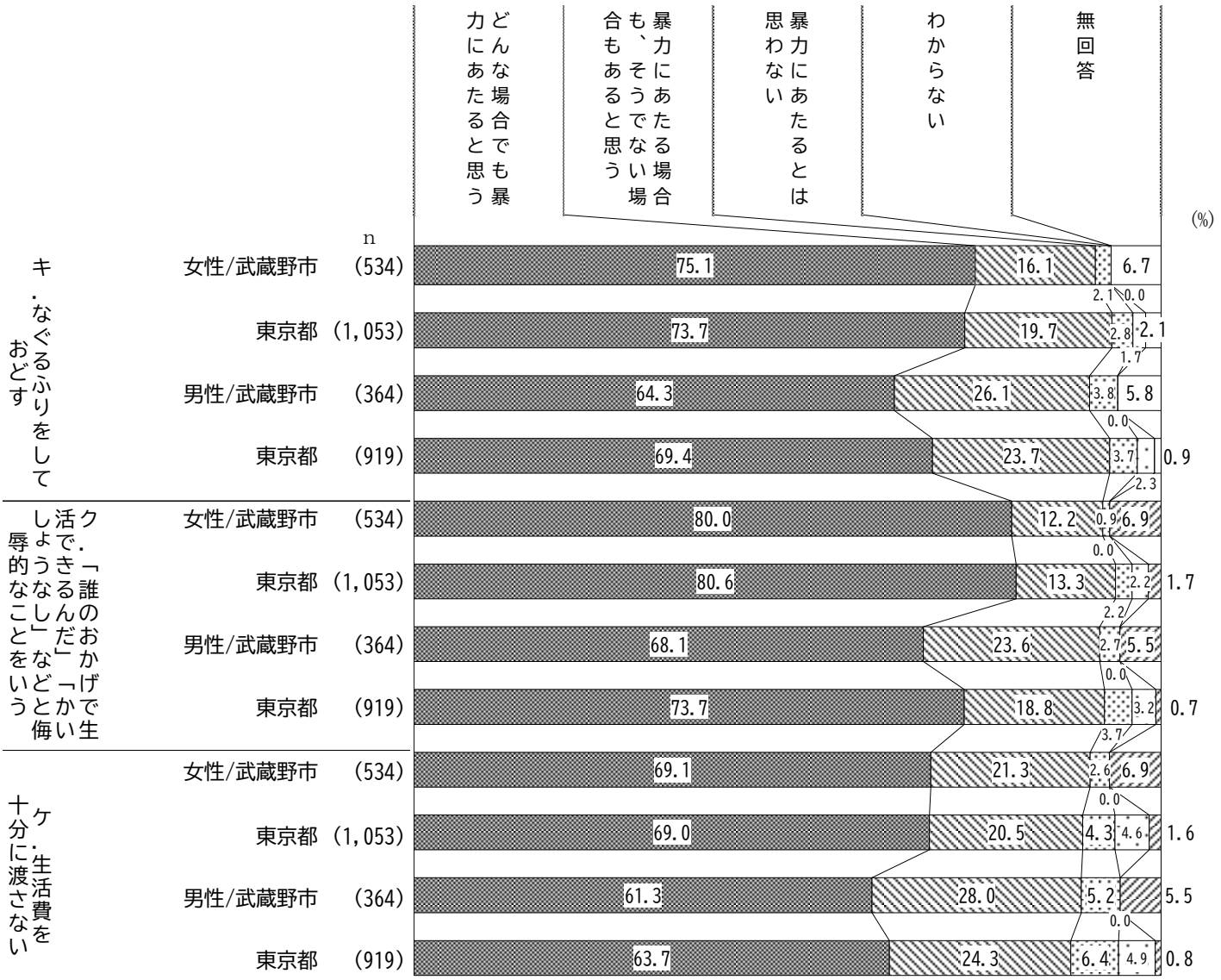
類似調査との比較

図表　暴力にあたると思うこと（東京都調査比較）



類似調査との比較

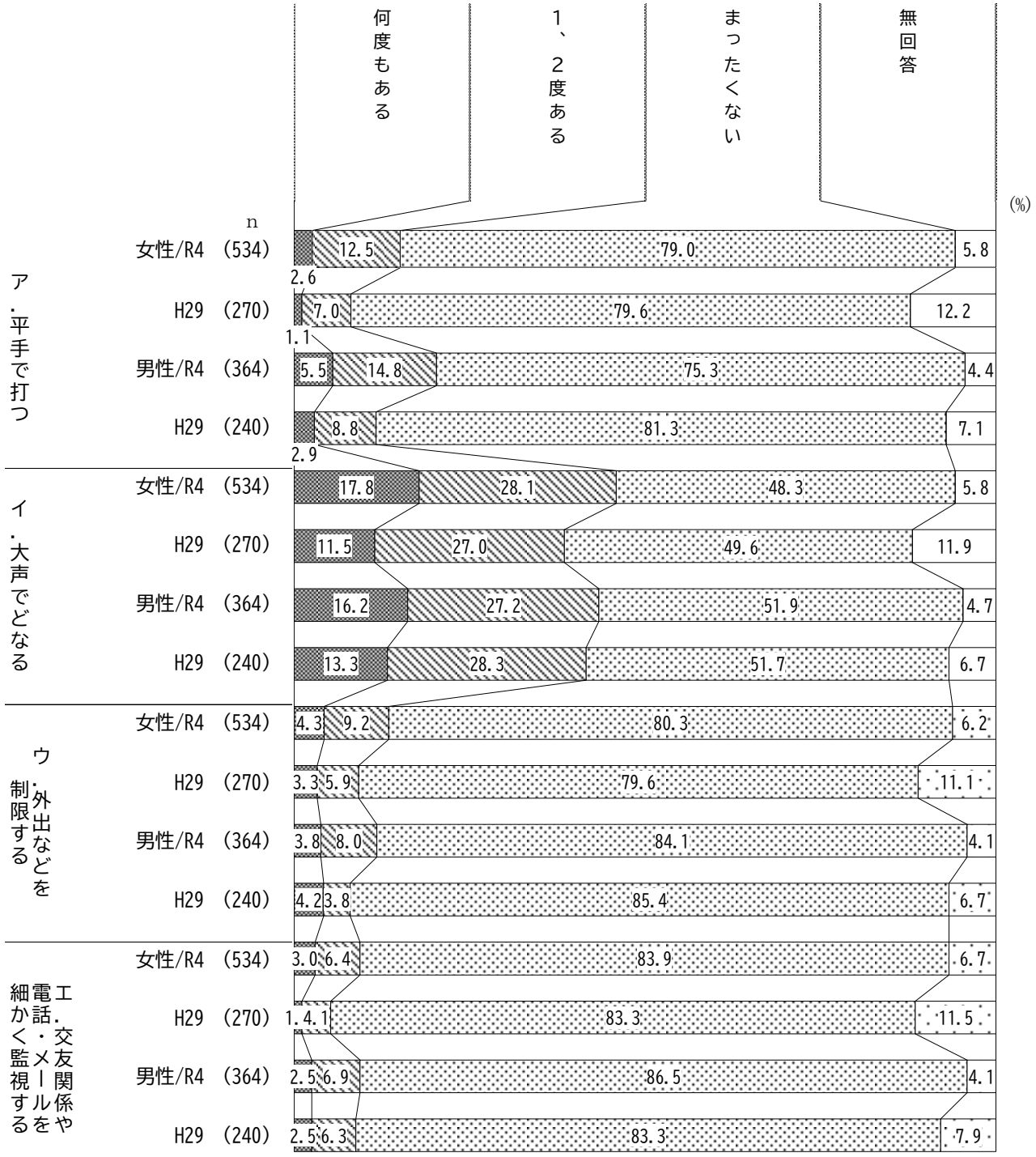
図表　暴力にあたると思うこと（東京都調査比較）



経年比較

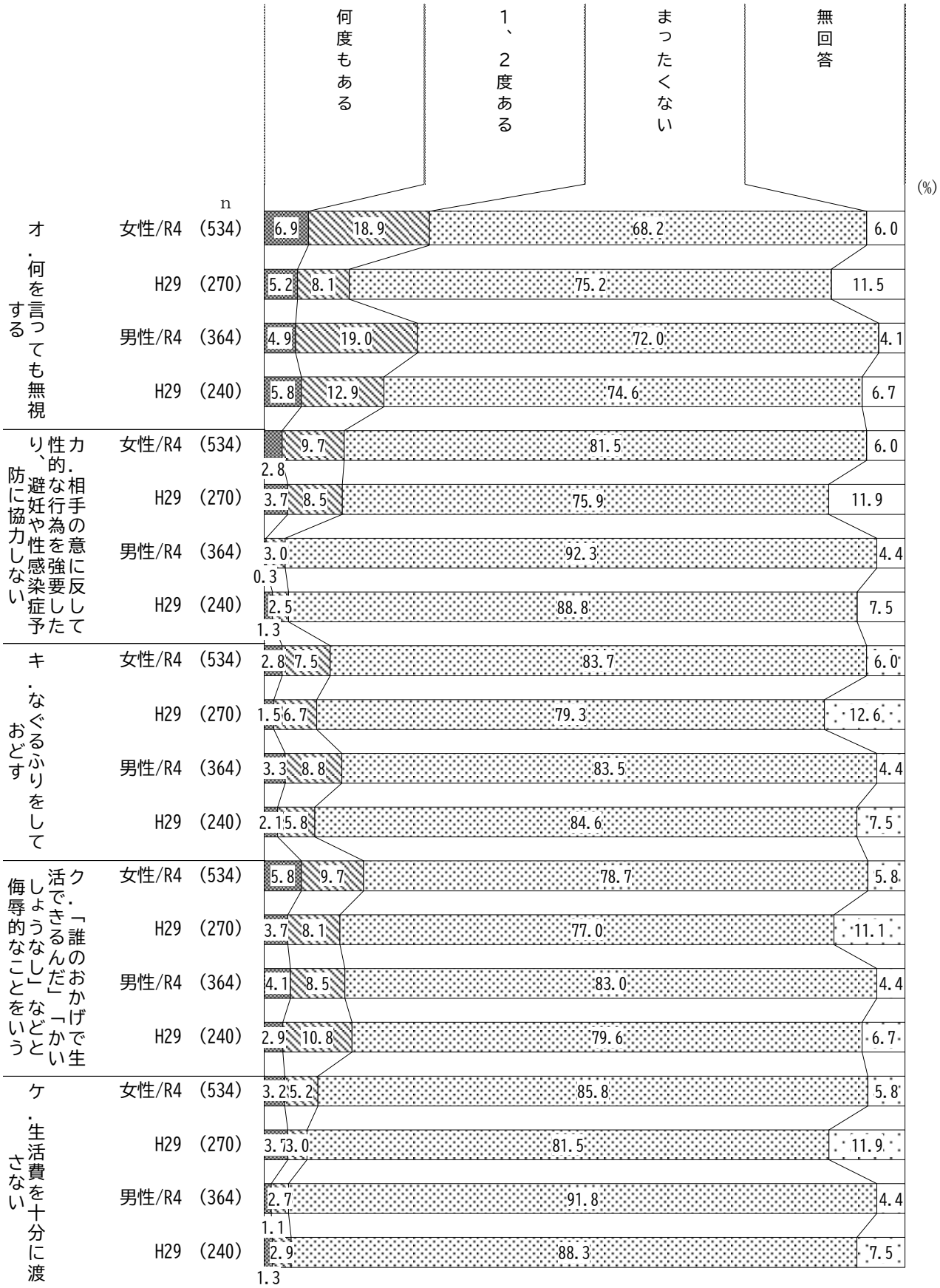
平成29年調査と比較すると、男性の「カ　相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない」「ク　「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう」「ケ　生活費を十分に渡さない」を除いたすべての項目で男女ともに＜されたことがある＞が増加している。

図表　暴力被害の経験(経年比較)



経年比較

図表　暴力被害の経験（経年比較）



（２）ハラスメントを受けた経験

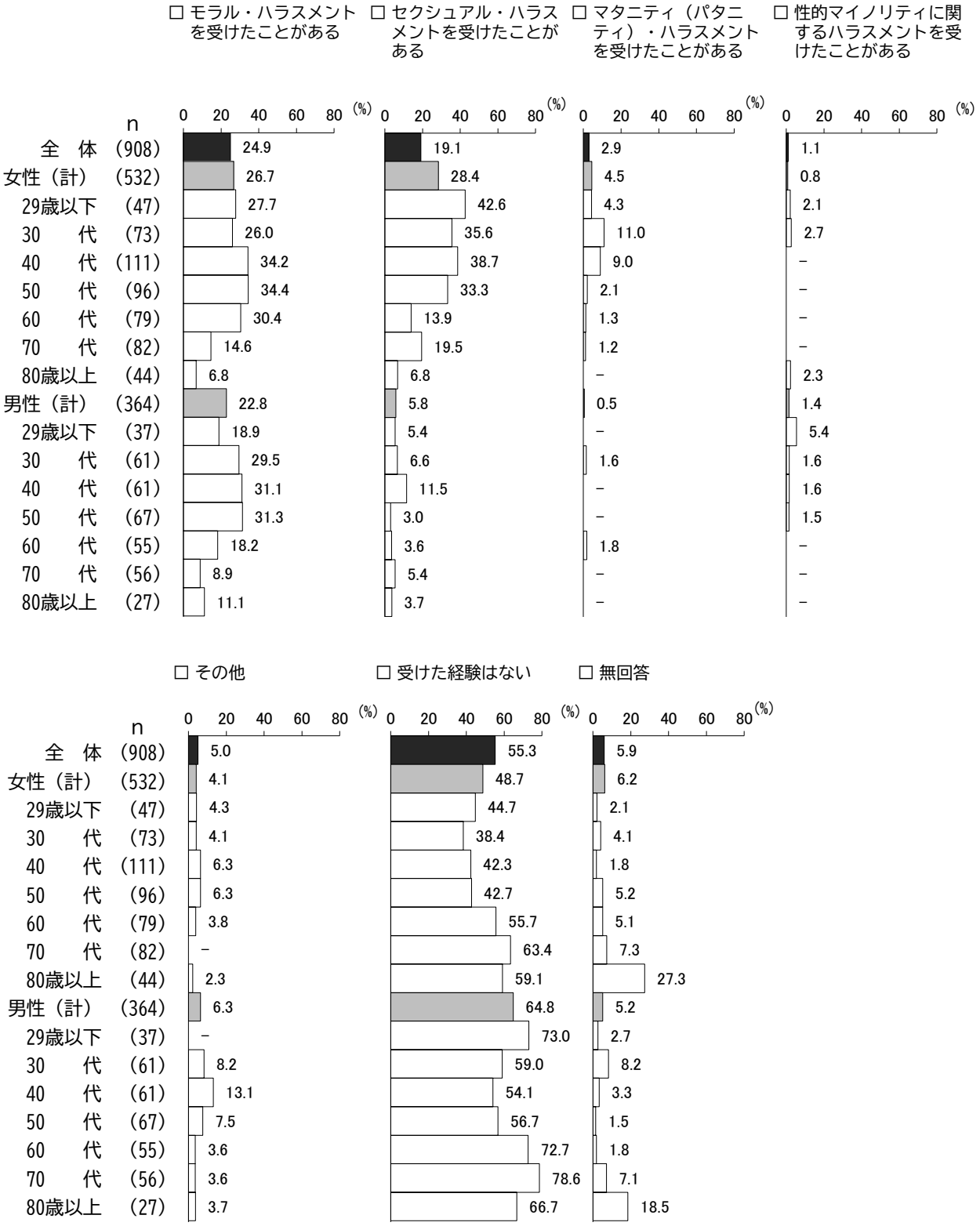
問15　あなたは、ハラスメントを受けた経験がありますか。（○はいくつでも）

ハラスメントを受けた経験は、全体では「受けた経験はない」が55.3％で最も多い。被害内容では、「モラル・ハラスメントを受けたことがある」が24.9％で最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」（19.1％）、「マタニティ（パタニティ）・ハラスメントを受けたことがある」（2.9％）となっている。

性別でみると、女性は「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」が28.4％と最も多く、男性は「モラル・ハラスメントを受けたことがある」が22.8％と最も多い。一方、「受けた経験はない」では男性が女性を16.1ポイント上回っている。

性・年代別では、「モラル・ハラスメントを受けたことがある」は女性の40代から60代、男性の40代と50代で３割以上と多い。「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は女性の29歳以下から50代で３割以上と多い。

図表　ハラスメントを受けた経験（全体、性別、性・年代別）



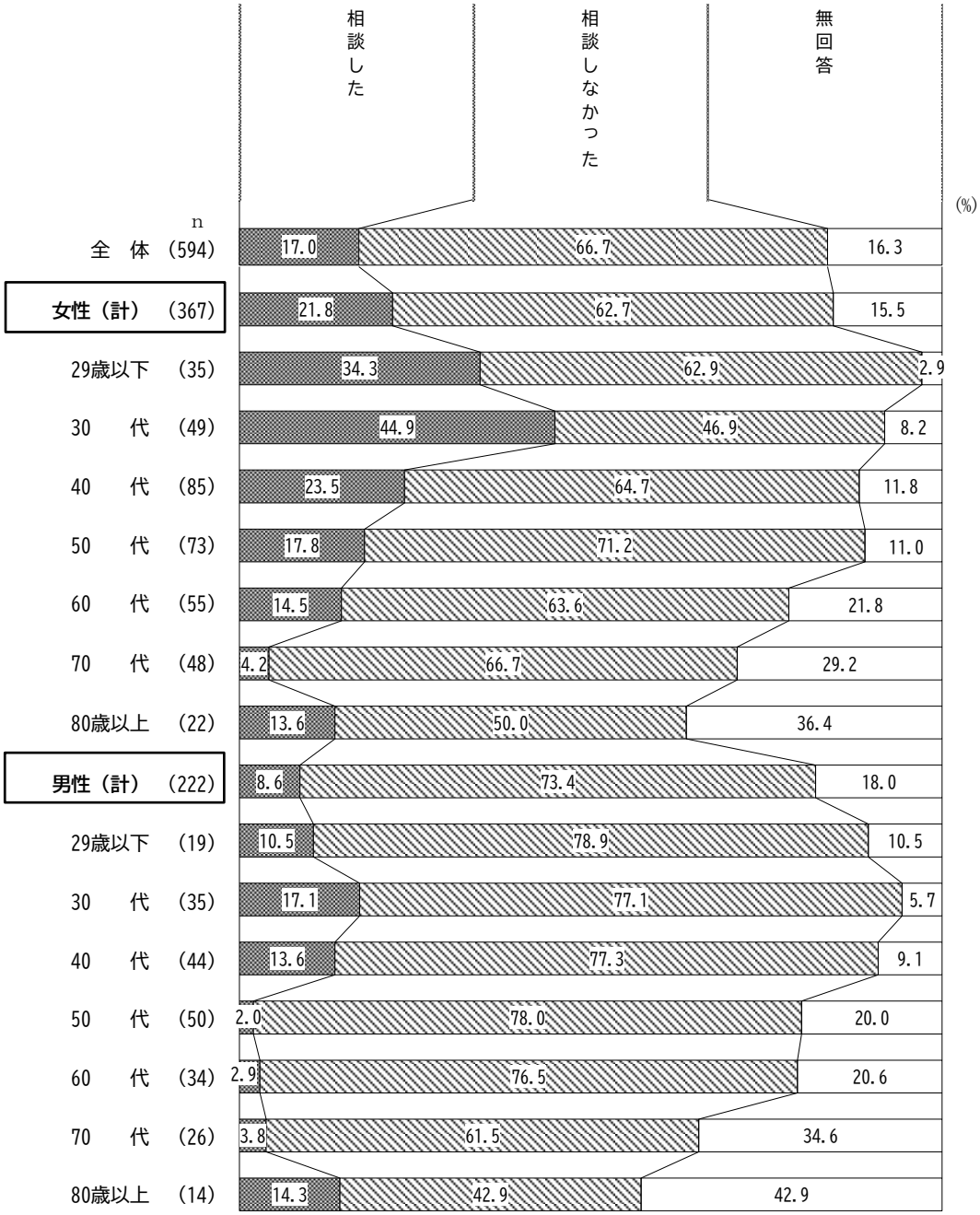
（３）受けた暴力やハラスメントについて相談をしたか

問14で「ＡまたはＢ」といずれかの項目で回答した方、問15で「１から５」のいずれかを回答した方にお聞きします。

問16　あなたが受けた暴力やハラスメントについて、どこか（誰か）に相談しましたか。（○は１つ）

問14で「何度もある」または「１、２度ある」、問15で何らかのハラスメントを受けた経験があると回答した方に、受けた暴力やハラスメントについてどこか（誰か）に相談したかを聞いた。
全体では、「相談しなかった」が66.7％と最も多く、「相談した」は17.0％である。
性別でみると、男女ともに「相談しなかった」（女性62.7％、男性73.4％）が最も多く、男性が女性を10.7ポイント上回っている。
性・年代別では、「相談した」は女性30代（44.9％）で最も多く、次いで女性29歳以下（34.3％）である。

図表　受けた暴力やハラスメントについて相談をしたか（全体、性別、性・年代別）



（４）相談しなかった理由

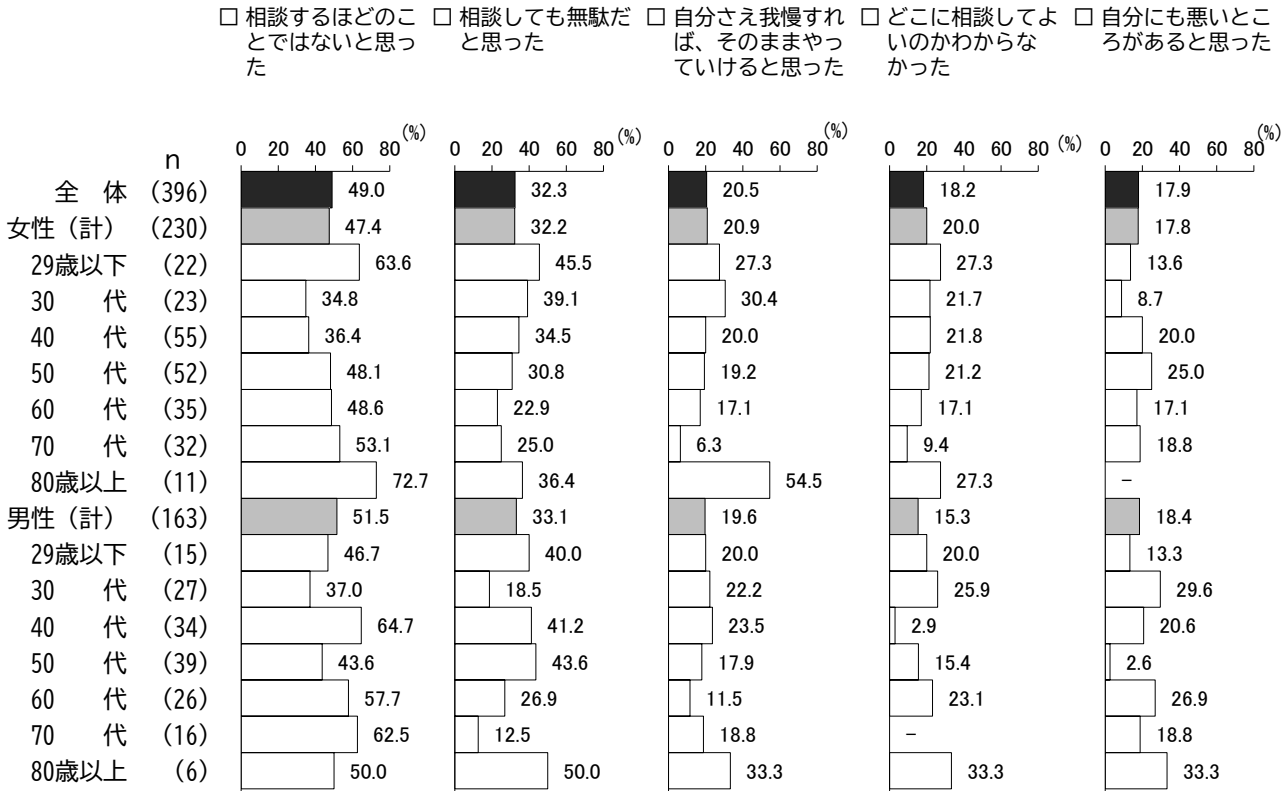
問16で「２．相談しなかった」と回答した方にお聞きします。
問16－１　相談しなかった理由としてあなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）

相談しなかった理由は、全体では「相談するほどのことではないと思った」という回答が49.0％で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思った」（32.3％）、「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」（20.5％）、「どこに相談してよいのかわからなかった」（18.2％）となっている。

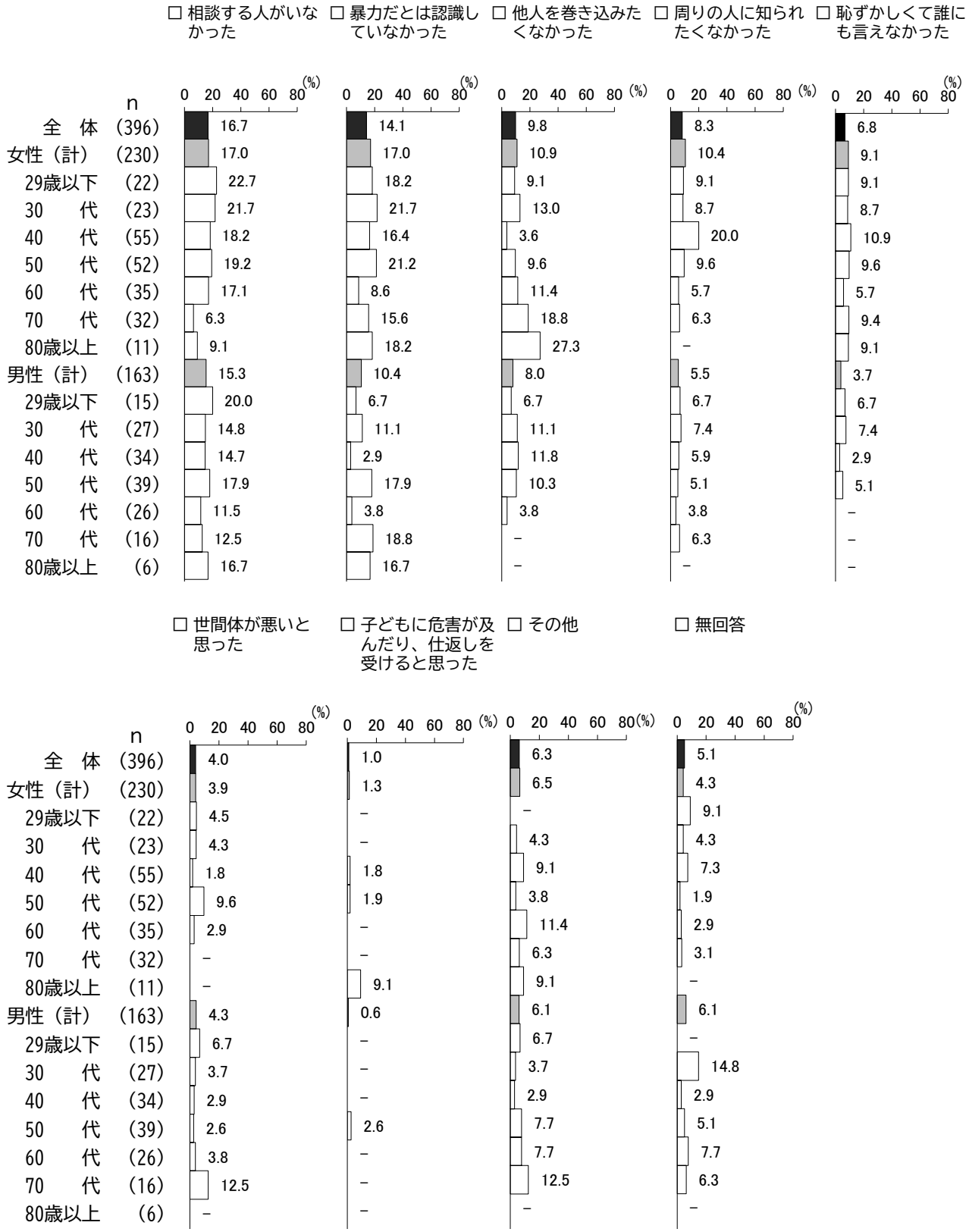
性別でみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思った」（女性47.4％、男性51.5％）が最も多く、男性が女性を4.1ポイント上回っている。「暴力だとは認識していなかった」（女性17.0％、男性10.4％）では女性が男性を6.6ポイント上回っている。

性・年代別では、「相談するほどのことではないと思った」が男性40代で64.7％と多く、「相談しても無駄だと思った」は男性の40代（41.2％）と50代（43.6％）で４割以上と多い。

図表　相談しなかった理由(全体、性別、性･年代別)①



図表　相談しなかった理由（全体、性別、性・年代別）②



（５）知っている相談窓口

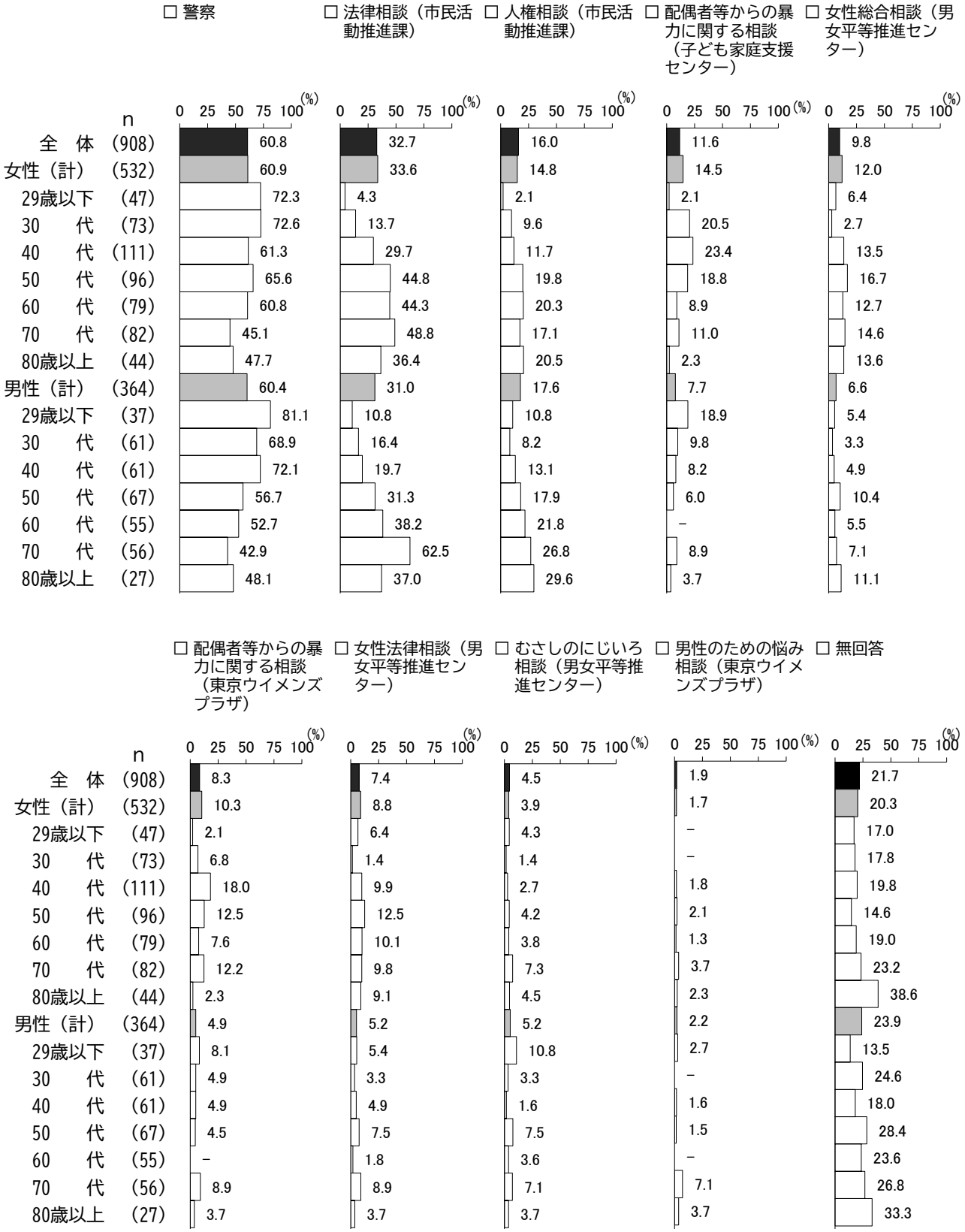
問17　あなたは、下記の相談窓口などを知っていますか。（○はいくつでも）

知っている相談窓口は、全体では「警察」という回答が60.8%で最も多く、次いで「法律相談（市民活動推進課）」（32.7%）、「人権相談（市民活動推進課）」（16.0%）、「配偶者等からの暴力に関する相談（子ども家庭支援センター）」（11.6%）となっている。「女性総合相談（男女平等推進センター）」は9.8%、「女性法律相談（男女平等推進センター）」は7.4%である。

性別でみると、男女ともに「警察」（女性60.9%、男性60.4%）が最も多く、次いで「法律相談（市民活動推進課）」（女性33.6%、男性31.0%）となっている。

性・年代別では、「警察」は男性29歳以下（81.1%）で最も多く、女性の29歳以下（72.3%）、30代（72.6%）、男性40代（72.1%）でも７割以上と多い。「法律相談（市民活動推進課）」は男性70代（62.5%）で最も多く、女性の50代から70代でも４割以上と多い。

図表　知っている相談窓口（全体、性別、性・年代別）



（６）配偶者間での暴力（ＤＶ）やデートＤＶの対策や防止のために必要な施策

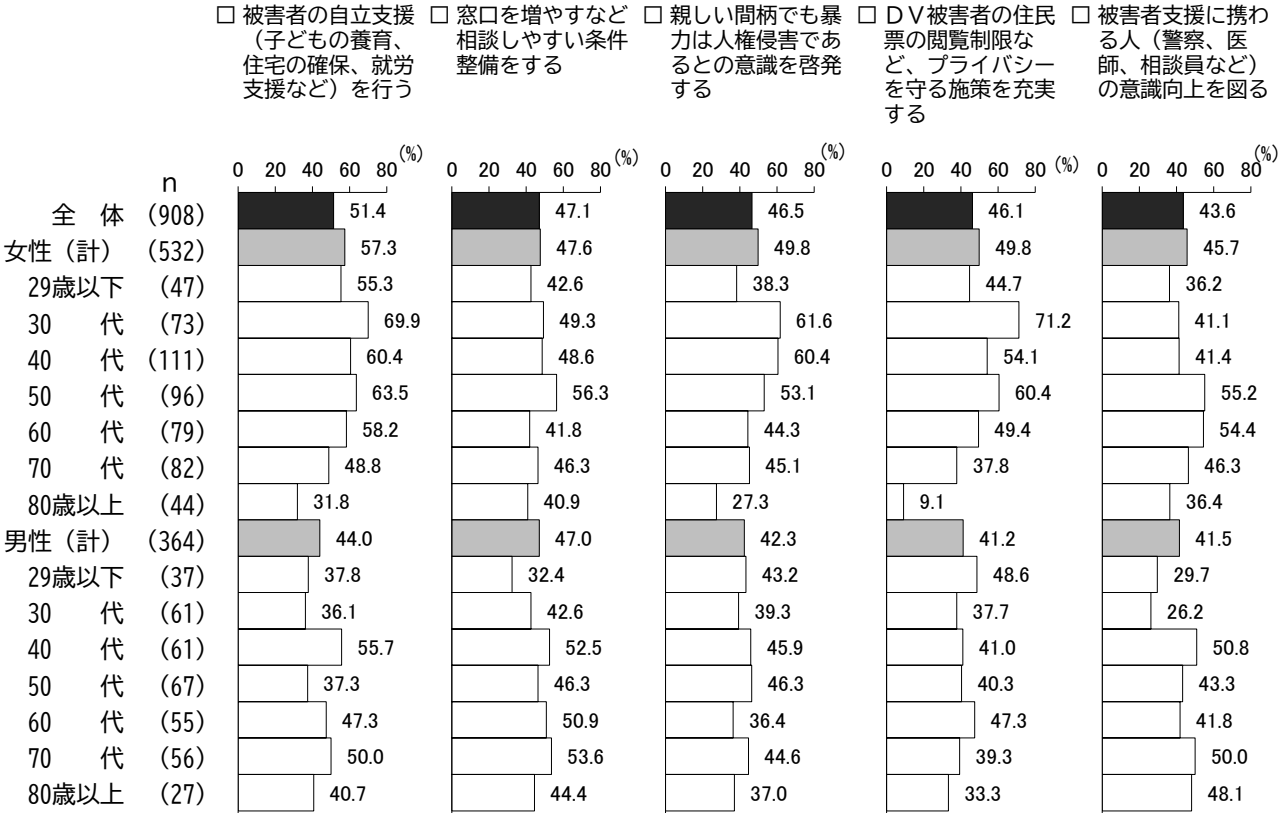
問18　あなたは、配偶者間での暴力（ＤＶ）やデートＤＶの対策や防止のために、武蔵野市の施策として何が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

配偶者間での暴力（ＤＶ）やデートＤＶの対策や防止のために必要だと思う武蔵野市の施策は、全体では「被害者の自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う」という回答が51.4％で最も多く、次いで「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」（47.1％）、「親しい間柄でも暴力は人権侵害であるとの意識を啓発する」（46.5％）、「ＤＶ被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する」（46.1％）となっている。

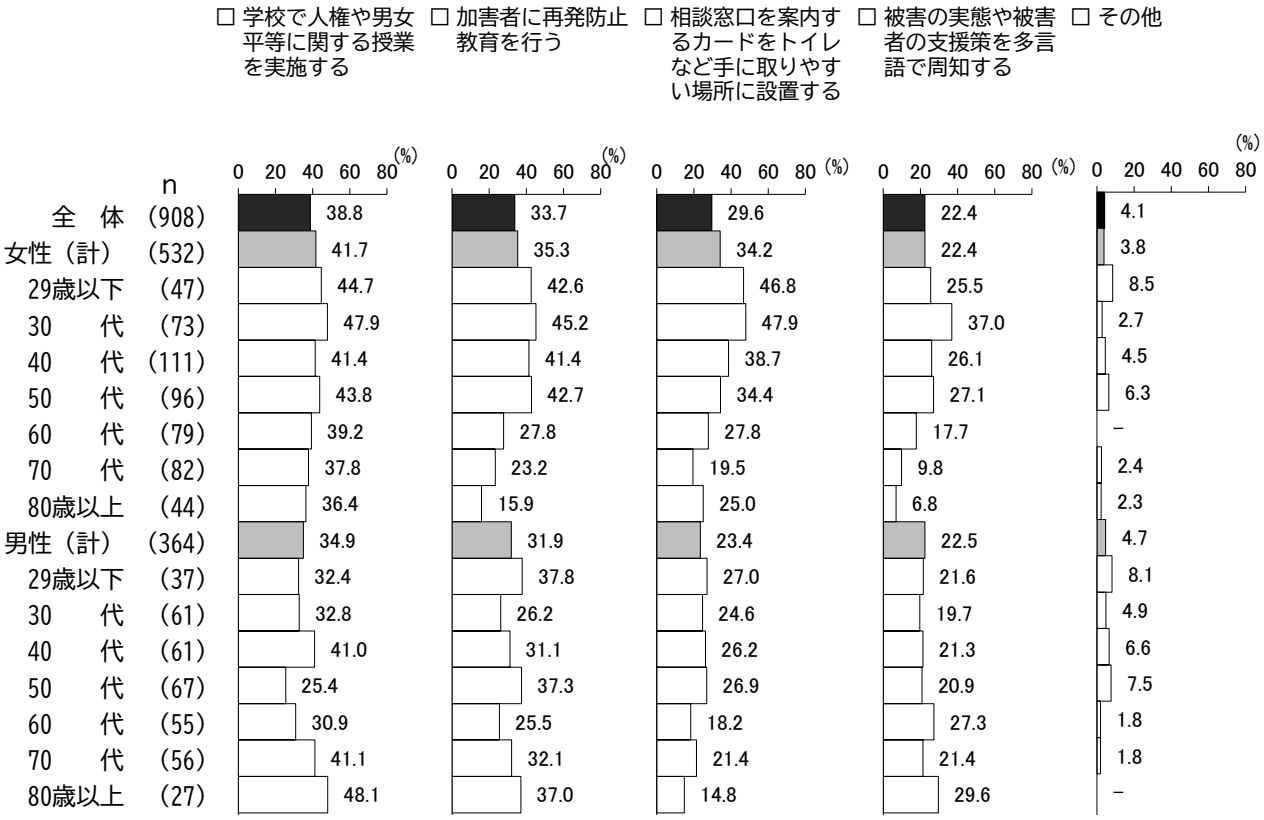
性別でみると、女性では「被害者の自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う」が57.3％、男性では「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」が47.0％とそれぞれ多くなっている。

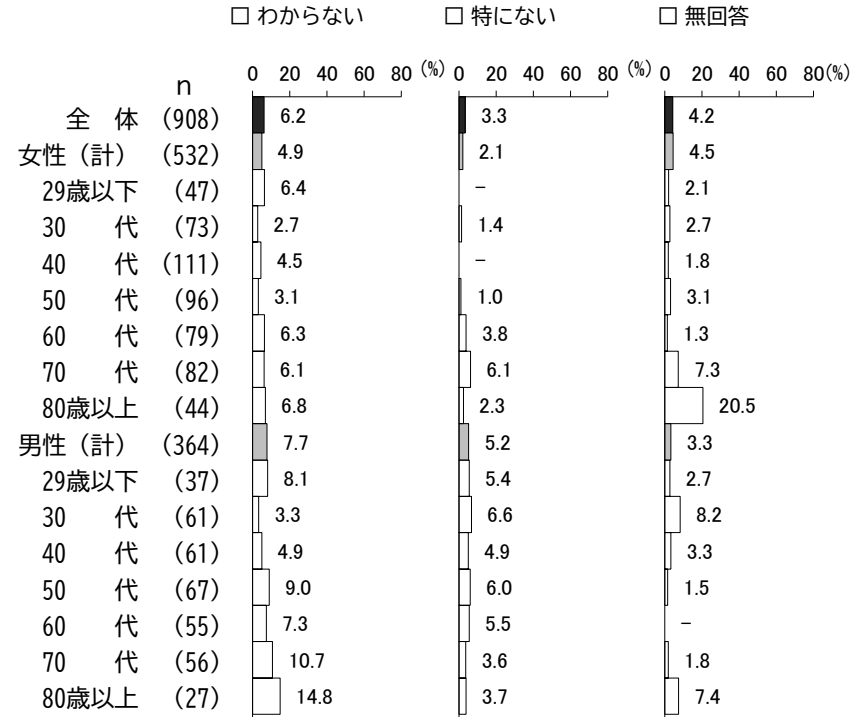
性・年代別では、「被害者の自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う」は女性の30代から50代で６割以上と多い。「親しい間柄でも暴力は人権侵害であるとの意識を啓発する」は女性30代（61.6％）と40代（60.4％）で６割以上と多い。「ＤＶ被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する」は女性30代で71.2％と最も多い。

図表　配偶者間での暴力(DV)やデートDVの対策や防止のため必要な施策
（全体、性別、性・年代別）①



図表　配偶者間での暴力（DV）やデートDVの対策や防止のため必要な施策
（全体、性別、性・年代別）②

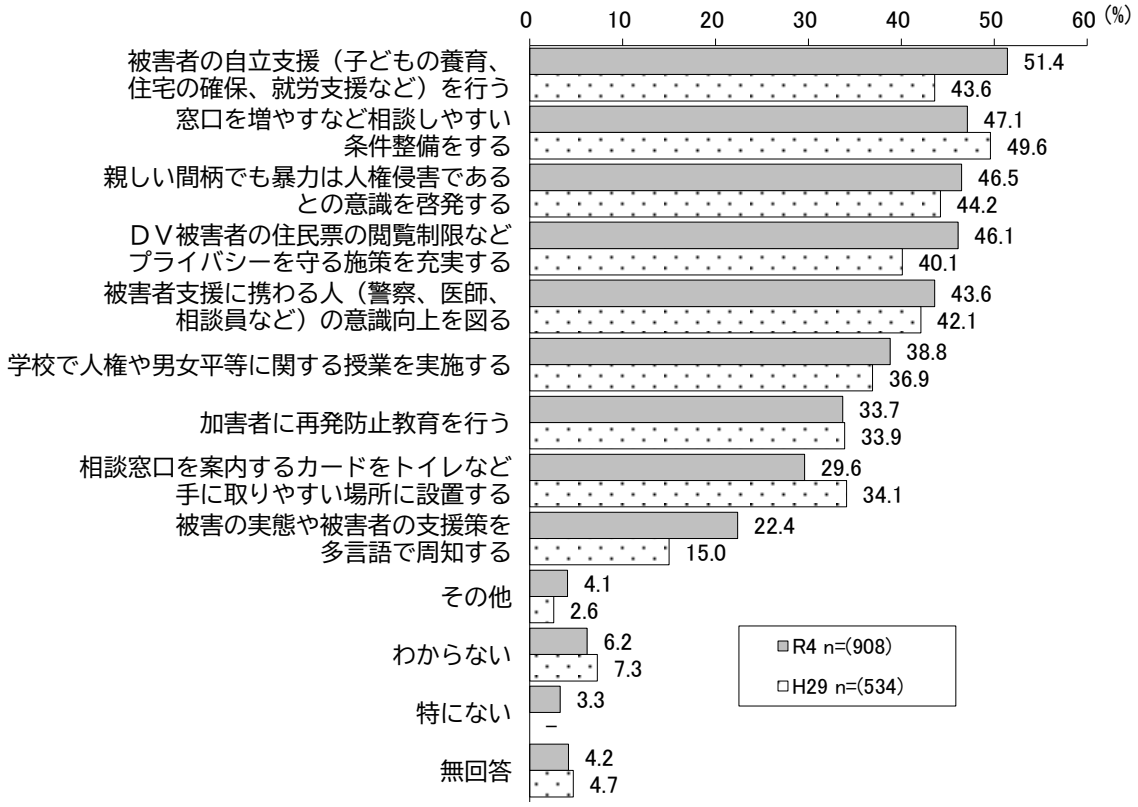




経年比較

平成29年調査と比較すると、「被害者の自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う」（平成29年43.6％、令和４年51.4％）は7.8ポイント、「被害の実態や被害者の支援策を多言語で周知する」（平成29年15.0％、令和４年22.4％）は7.4ポイント増加している。「相談窓口を案内するカードをトイレなど手に取りやすい場所に設置する」（平成29年34.1％、令和４年29.6％）は4.5ポイント減少している。

図表　配偶者間での暴力（DV）やデートDVの対策や防止のため必要な施策（経年比較）



８　市の施策について

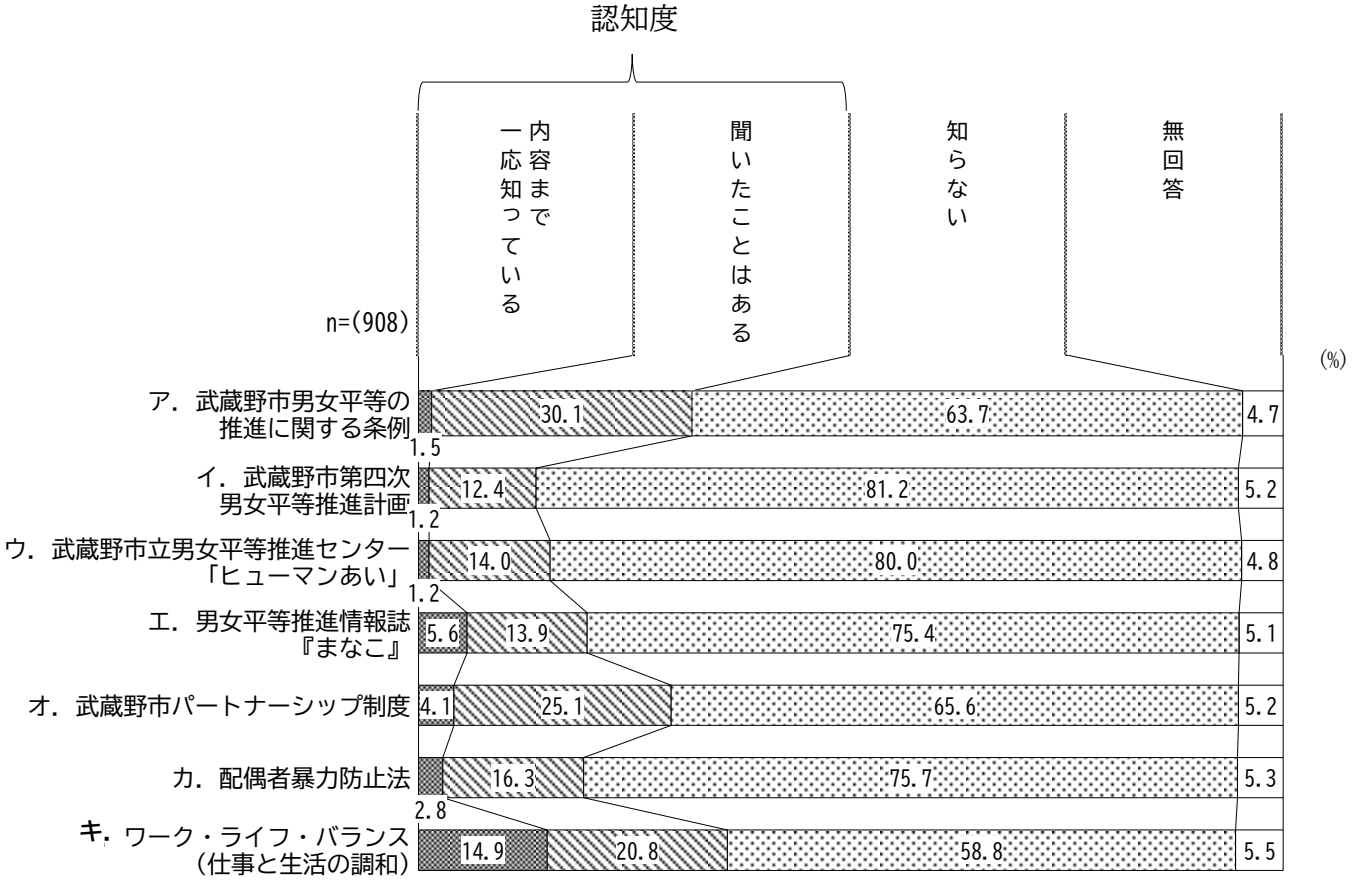
（１）知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み

問 19　あなたは、次の言葉や武蔵野市の取り組みを知っていますか。（○はそれぞれ１つずつ）

知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組みについて、武蔵野市の取り組みの＜認知度※＞については「ア　武蔵野市男女平等の推進に関する条例」が31.6%、「オ　武蔵野市パートナーシップ制度」が29.2%、「エ　男女平等推進情報誌『まなこ』」が19.5%「ウ　武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」」が15.2%、「イ　武蔵野市第四次男女平等推進計画」が13.6%である。言葉の＜認知度＞については、「キ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が35.7%、「カ　配偶者暴力防止法」が19.1%である。

※「内容まで一応知っている」と「聞いたことはある」の合計

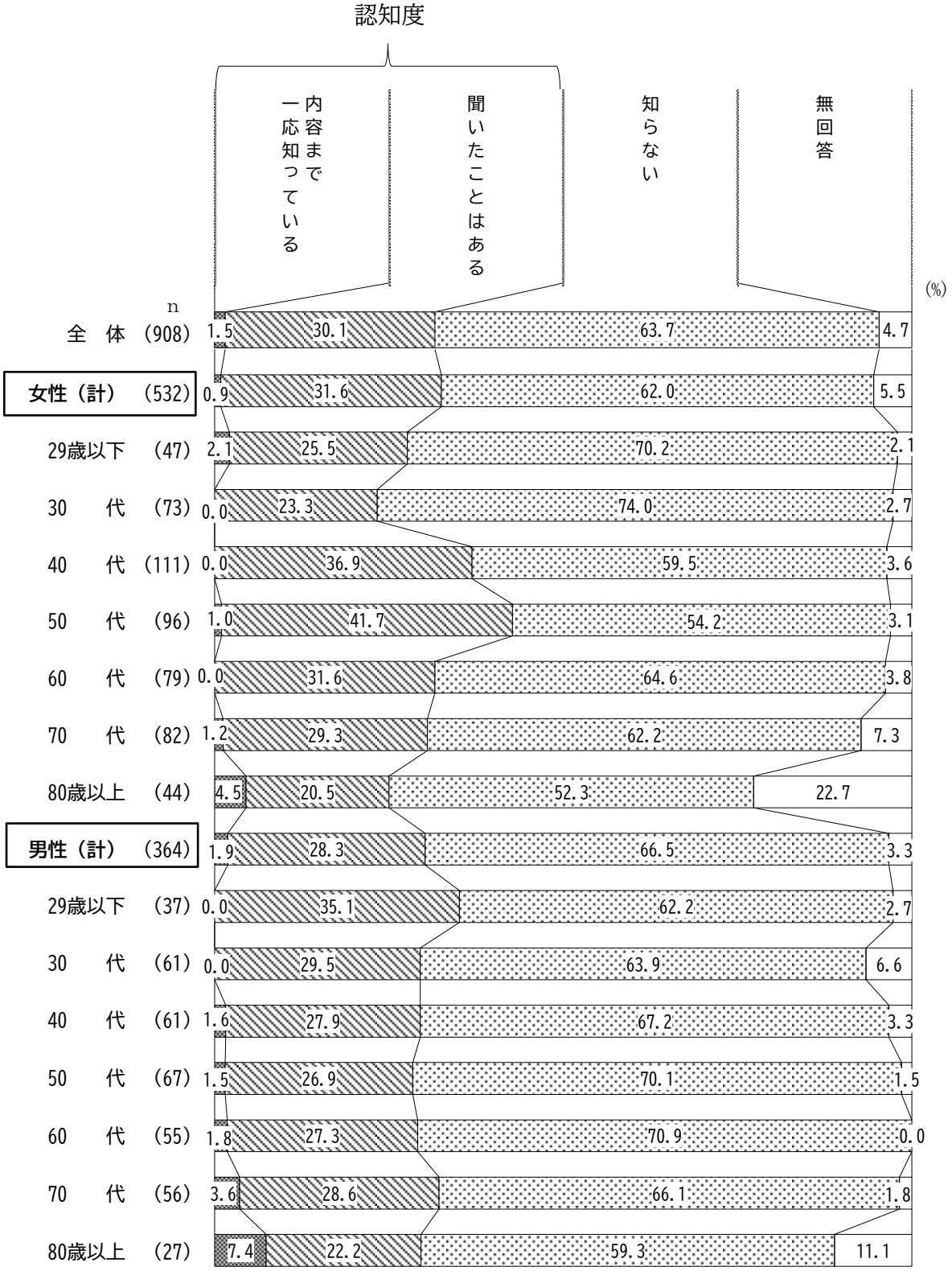
図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み（全体）



ア　武蔵野市男女平等の推進に関する条例

性別でみると、＜認知度＞が女性は32.5%、男性は30.2%である。
性・年代別では、＜認知度＞が女性の50代で42.7%と最も高く、次いで40代で36.9%である。

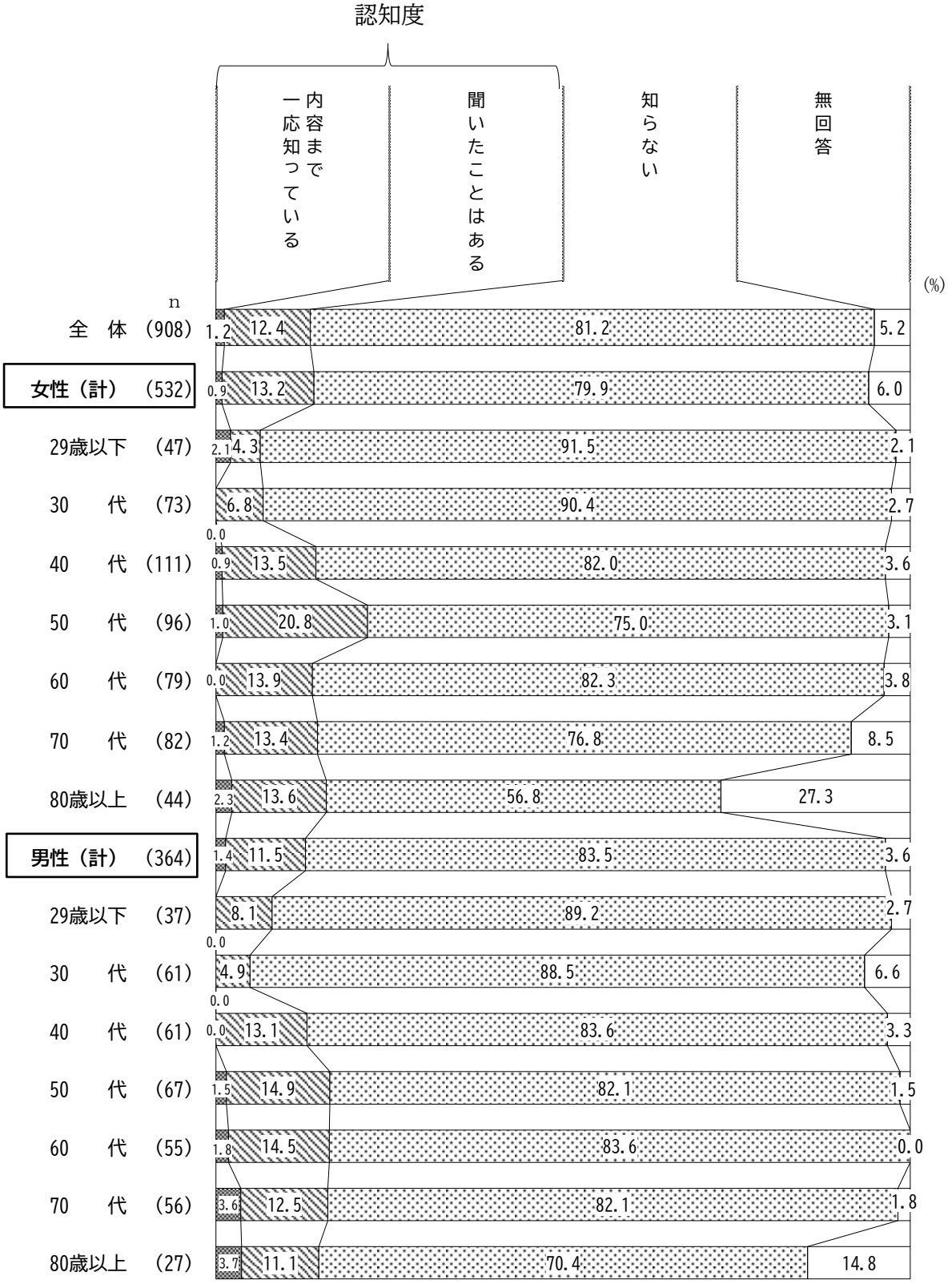
図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み
「ア　武蔵野市男女平等の推進に関する条例」（全体、性別、性・年代別）



イ　武蔵野市第四次男女平等推進計画

性別でみると、＜認知度＞が女性は14.1%、男性は12.9%である。
性・年代別では、＜認知度＞は男女ともに50代（女性21.8%、男性16.4%）で最も高い。

図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み
「イ　武蔵野市第四次男女平等推進計画」(全体、性別、性・年代別)

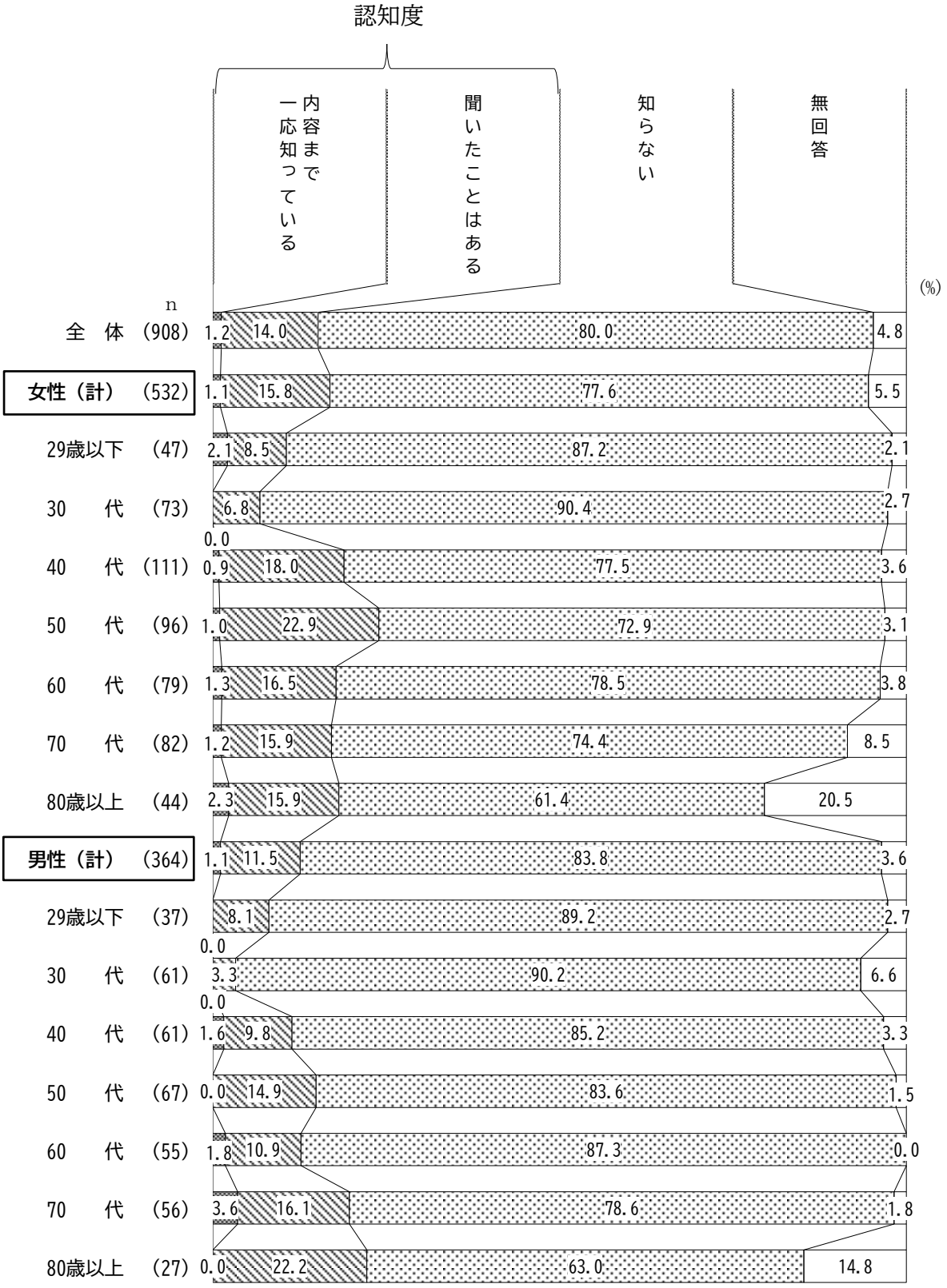


ウ　武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」

性別でみると、＜認知度＞が女性は16.9%、男性は12.6%である。

性・年代別では、＜認知度＞は女性の50代で23.9%と最も高く、男性70代以上でも２割前後である。

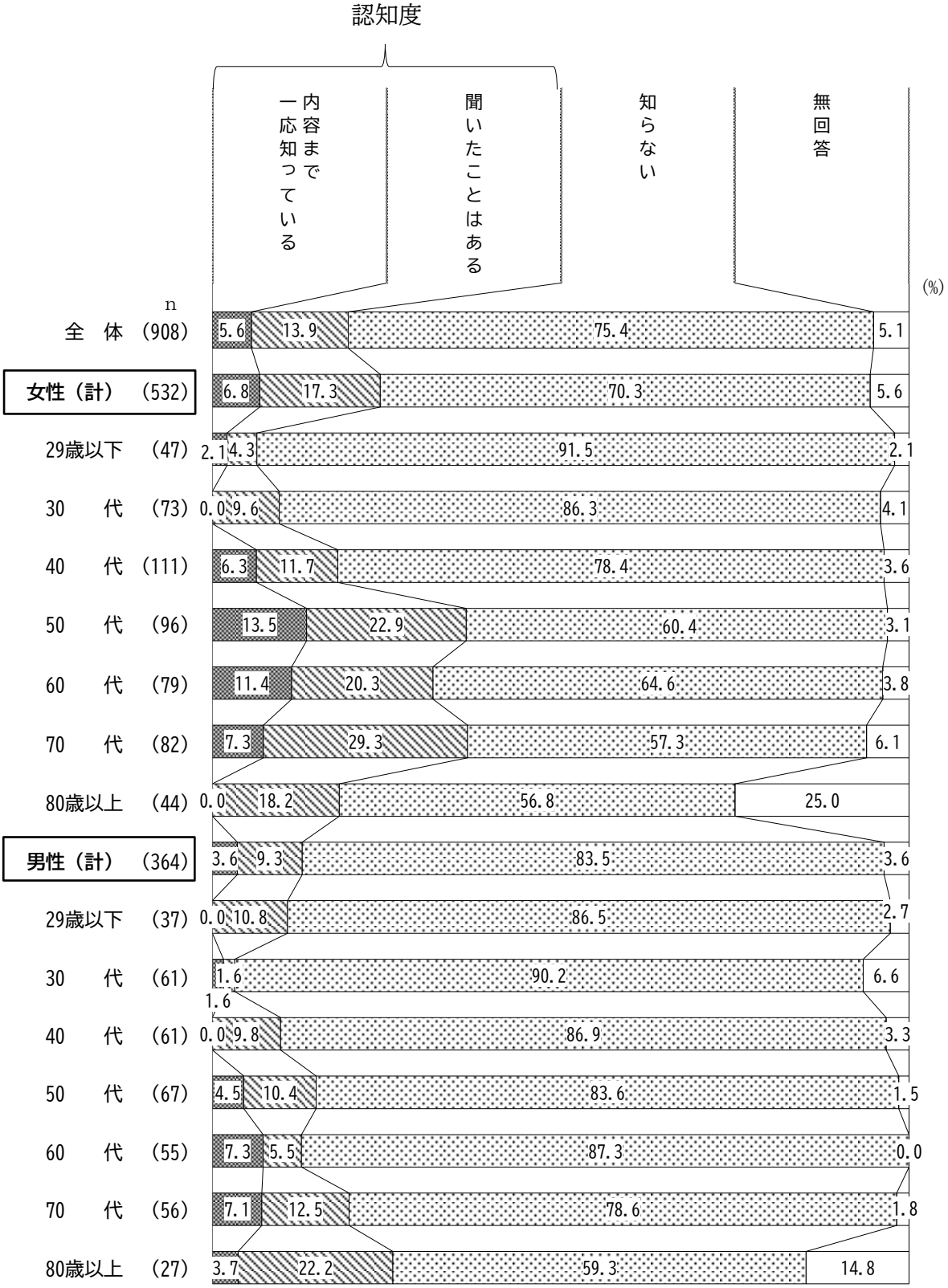
図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み
「ウ　武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」」（全体、性別、性・年代別）



エ　男女平等推進情報誌『まなこ』

性別でみると、＜認知度＞が女性は24.1%、男性は12.9%である。
性・年代別では、＜認知度＞は女性の70代（36.6%）、50代（36.4%）で高い。

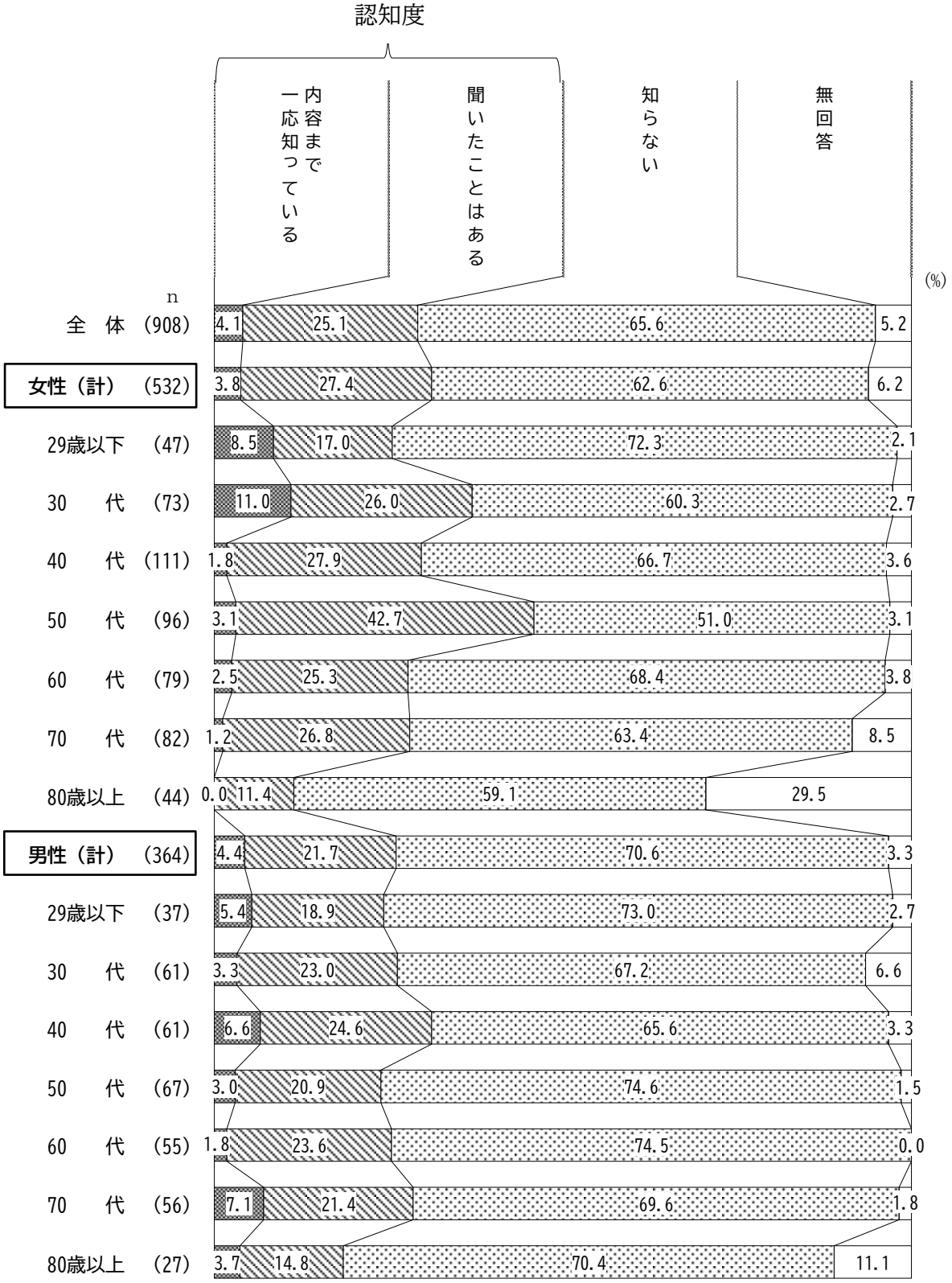
図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み
「エ　男女平等推進情報誌『まなこ』」（全体、性別、性・年代別）



オ　武蔵野市パートナーシップ制度

性別でみると、＜認知度＞が女性は31.2%、男性は26.1%である。
性・年代別では、＜認知度＞は女性の50代で45.8%と最も高く、次いで30代で37.0%である。

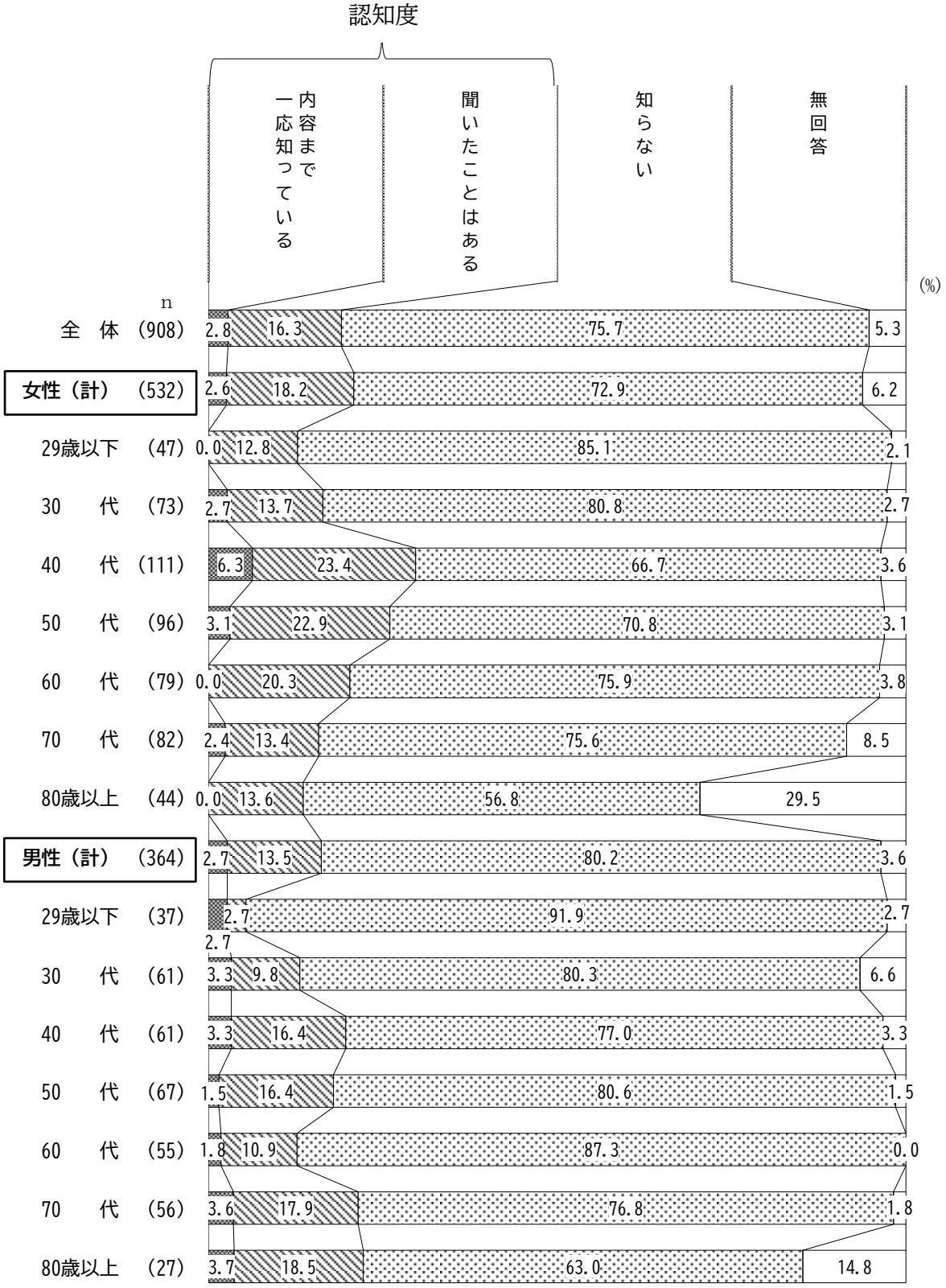
図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み
「オ　武蔵野市パートナーシップ制度」(全体、性別、性・年代別)



カ　配偶者暴力防止法

性別でみると、＜認知度＞が女性は20.8%、男性は16.2%である。
性・年代別では、＜認知度＞は女性の40代で29.7%と最も高く、次いで50代で26.0%である。

図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み
「カ　配偶者暴力防止法」(全体、性別、性・年代別)

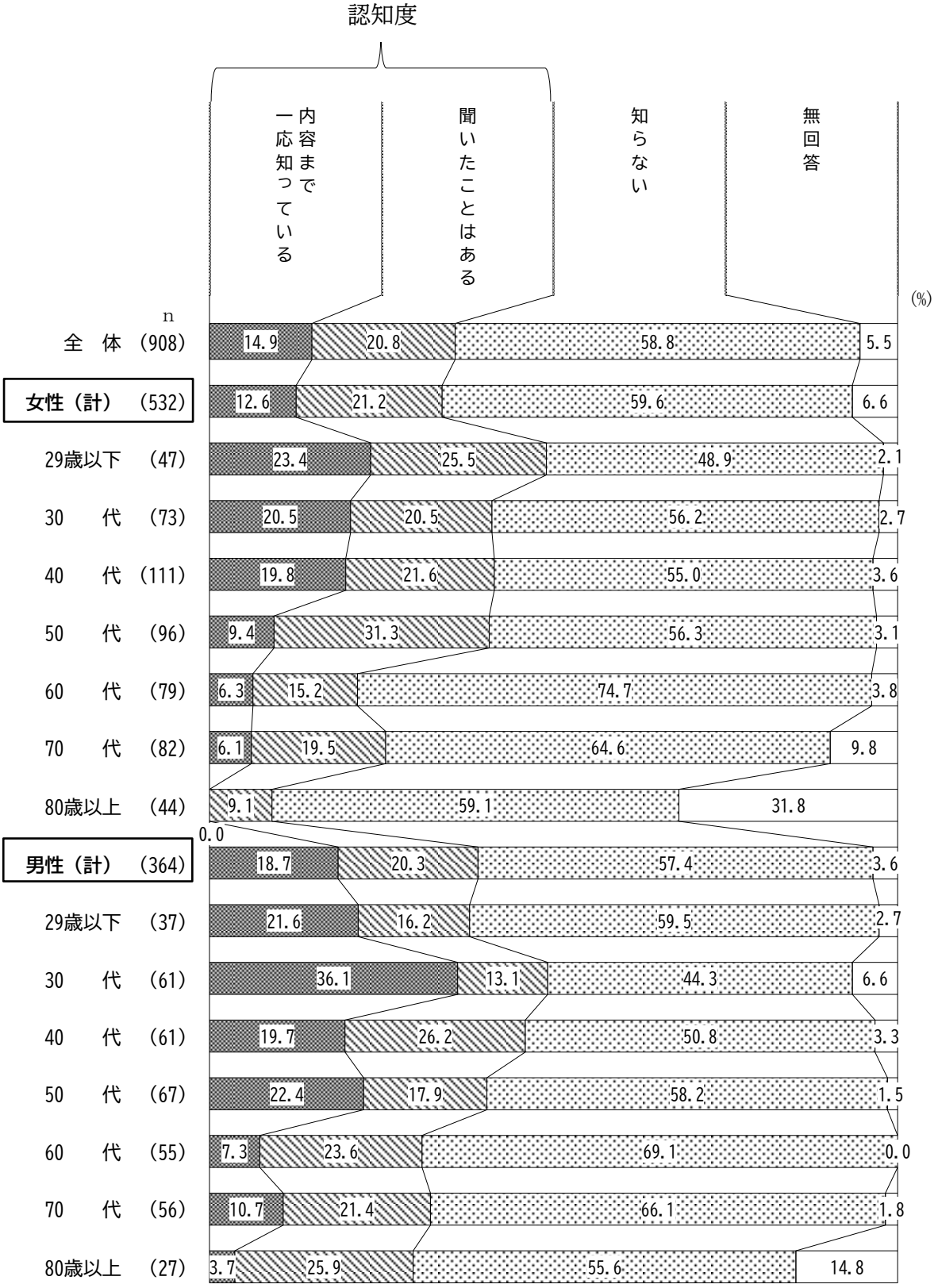


キ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

性別でみると、＜認知度＞が女性は33.8%、男性は39.0%である。

性・年代別では、＜認知度＞は男性30代で49.2%と最も高く、次いで女性29歳以下が48.9%である。

図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み
「キ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（全体、性別、性・年代別）



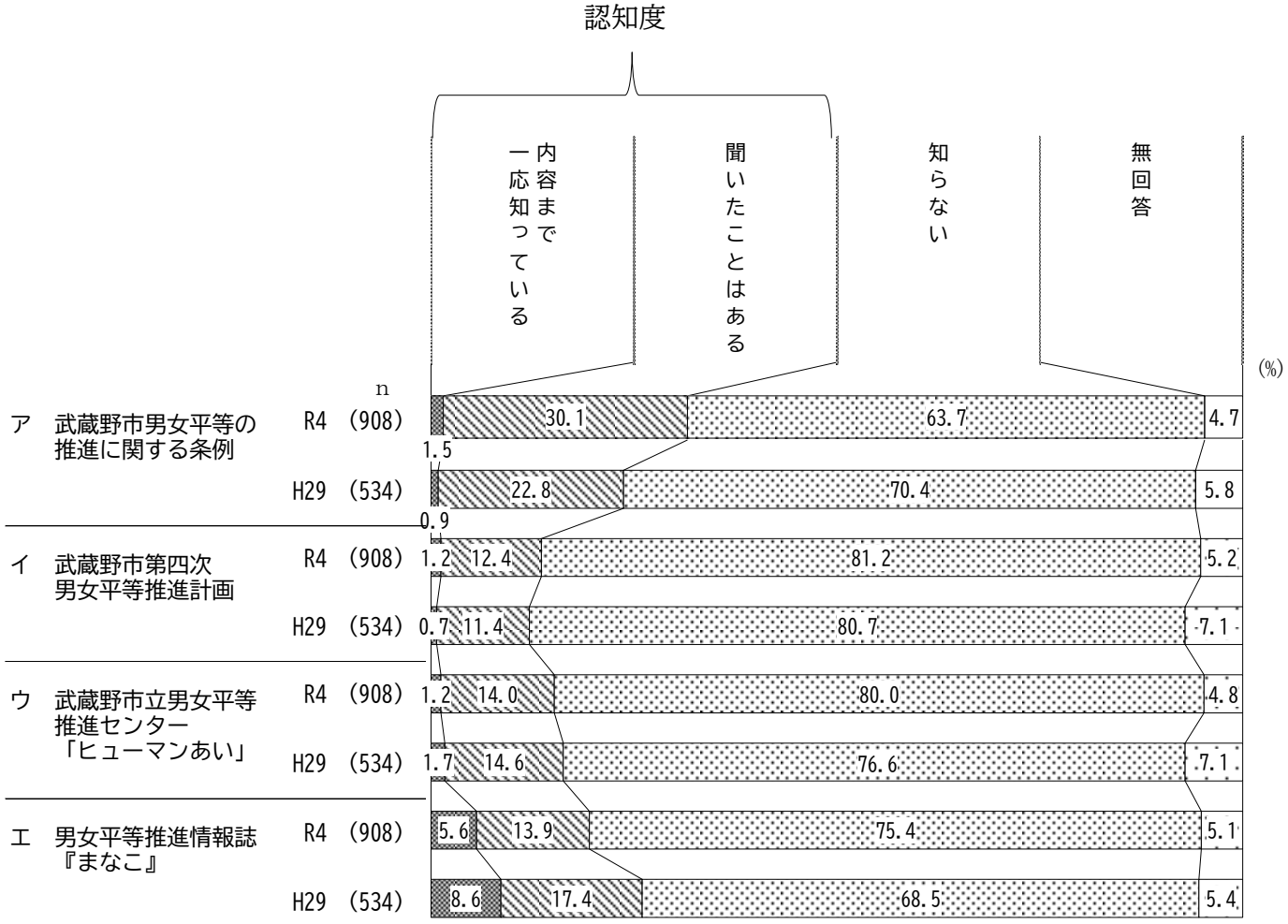
経年比較

平成29年調査と比較すると、「ア　武蔵野市男女平等の推進に関する条例」では、＜認知度＞（平成29年23.7%、令和４年31.6%）は7.9ポイント増加している。「知らない」（平成29年70.4%、令和４年63.7%）は6.7ポイント減少している。

一方、「エ　男女平等推進情報誌『まなこ』」では、＜認知度＞（平成29年26.0%、令和４年19.5%）は6.5ポイント減少している。

「イ　武蔵野市第四次男女平等推進計画」、「ウ　武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」」では、平成29年調査と比較して大きな差は見られない。

図表　知っている言葉や知っている武蔵野市の取り組み（経年比較）



（２）男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと

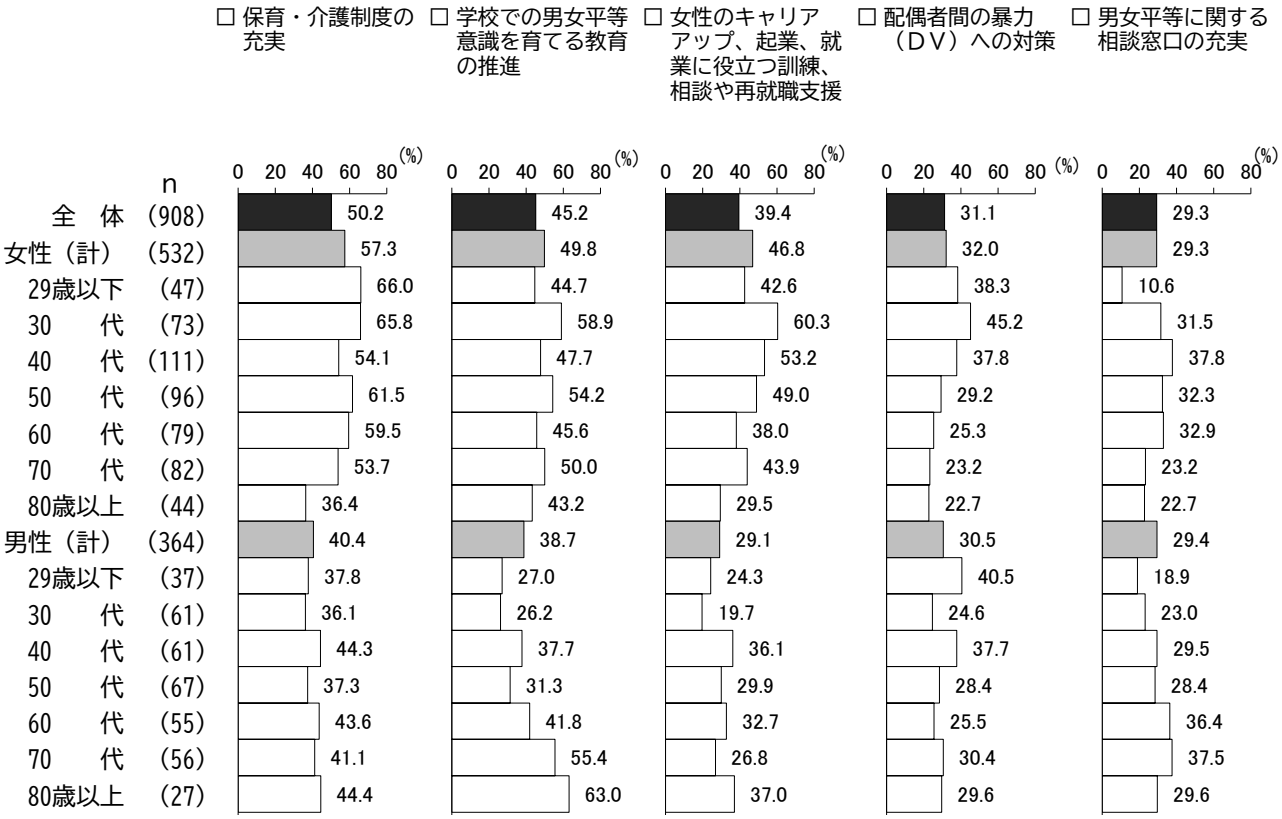
問20　あなたは、男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。（○はいくつでも）

男女平等社会を実現するために市の施策に望むことは、全体では「保育・介護制度の充実」という回答が50.2％で最も多く、次いで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」（45.2％）、「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」（39.4％）、「配偶者間の暴力（ＤＶ）への対策」（31.1％）となっている。

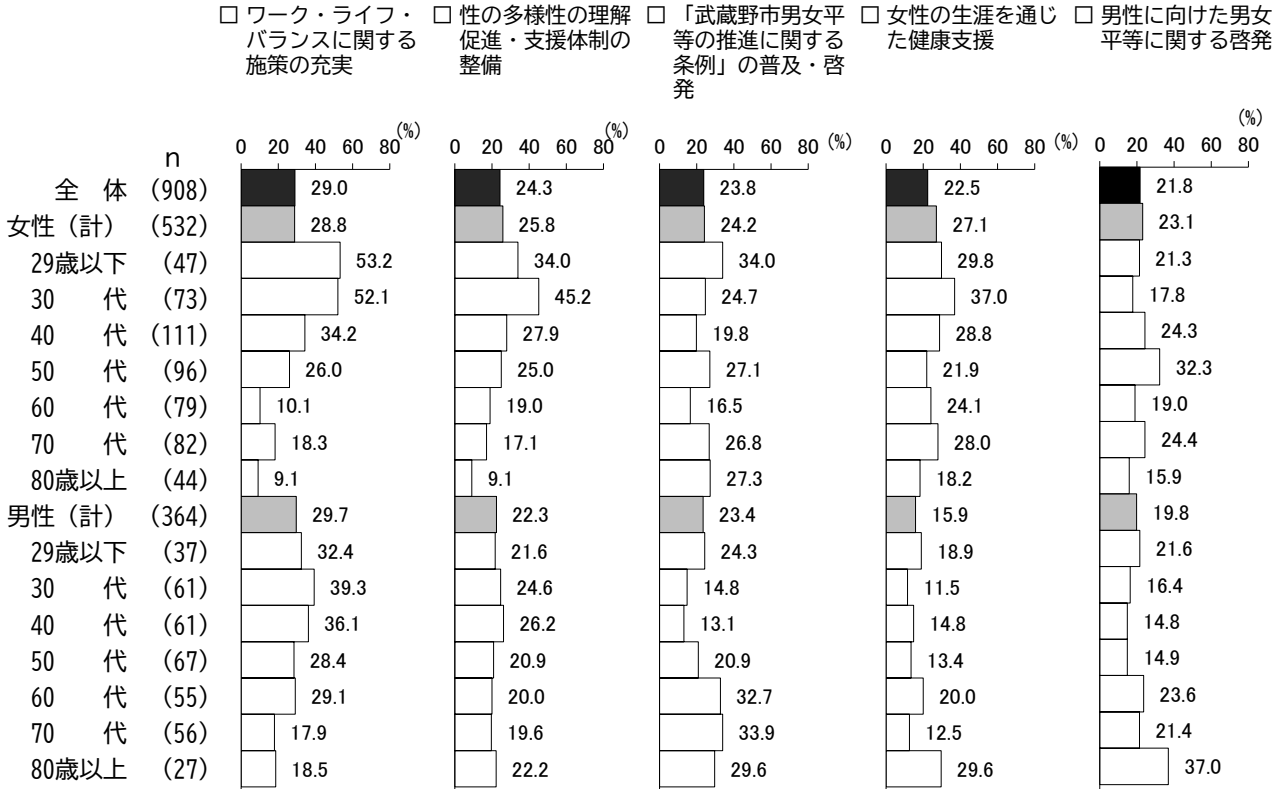
性別でみると、男女ともに「保育・介護制度の充実」（女性57.3％、男性40.4％）が最も多く、女性が男性を16.9ポイント上回っている。次いで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」（女性49.8％、男性38.7％）では、女性が男性を11.1ポイント上回り、「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」（女性46.8％、男性29.1％）では、女性が男性を17.7ポイント上回っている。

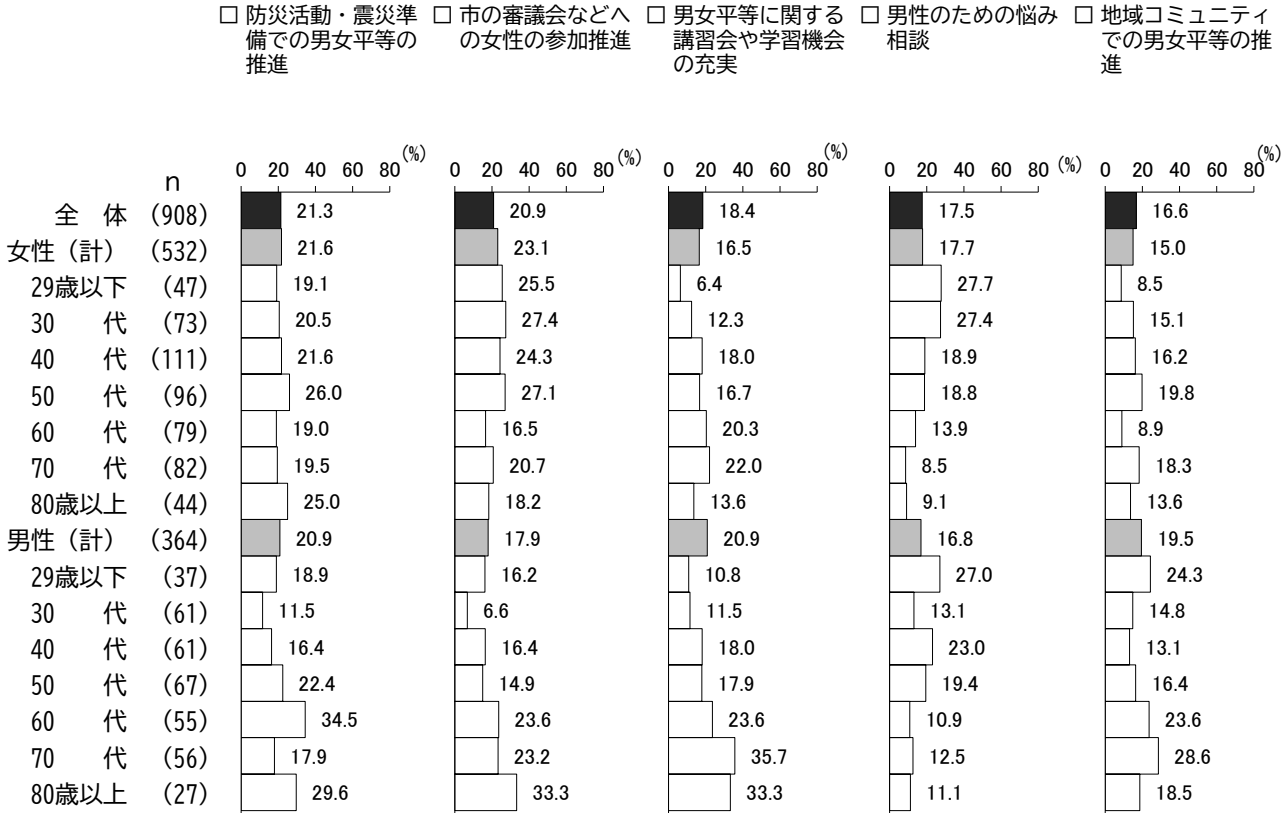
性・年代別では、「保育・介護制度の充実」は女性29歳以下（66.0％）、30代（65.8％）、50代（61.5％）で６割以上と多い。「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」は女性30代（58.9％）と50代（54.2％）で５割以上と多い。「女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」は女性30代で60.3％と多い。「ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実」は女性の30代以下で５割台と多い。

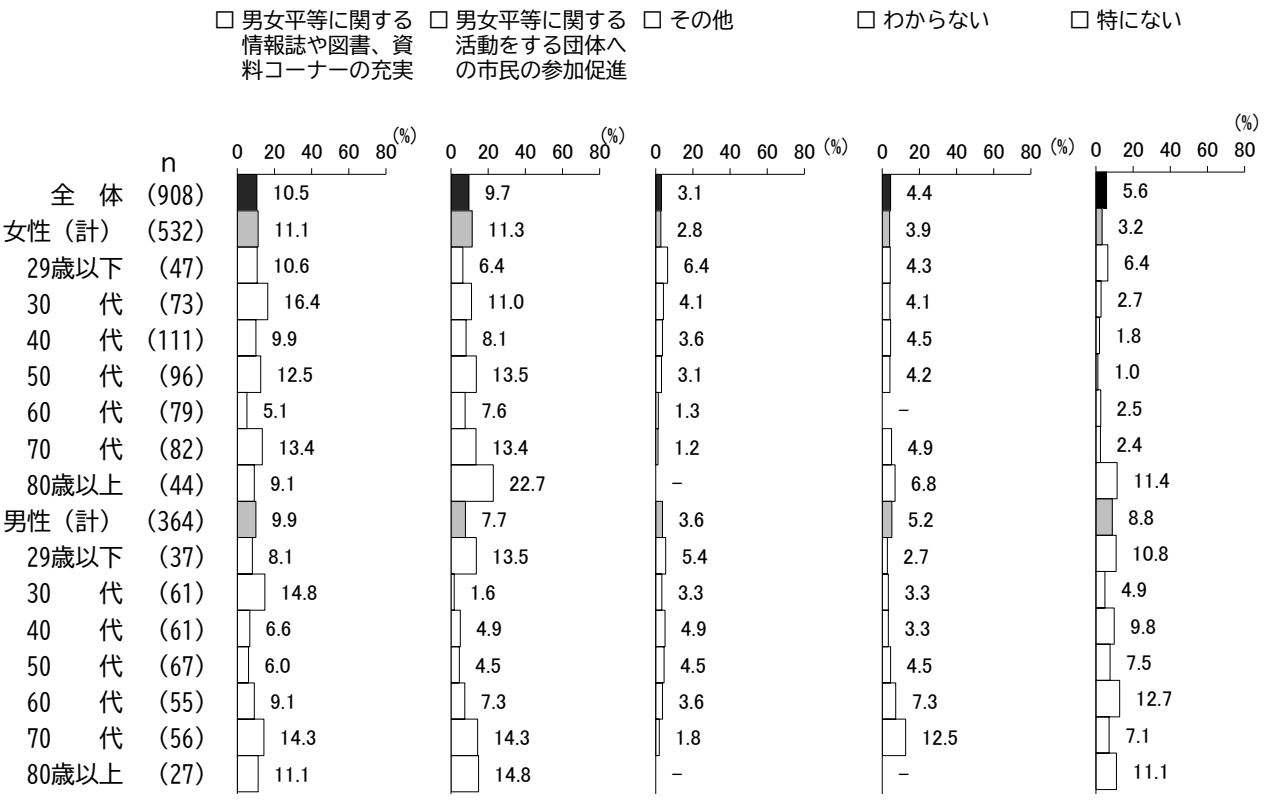
図表　男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと（全体、性別、性・年代別）①

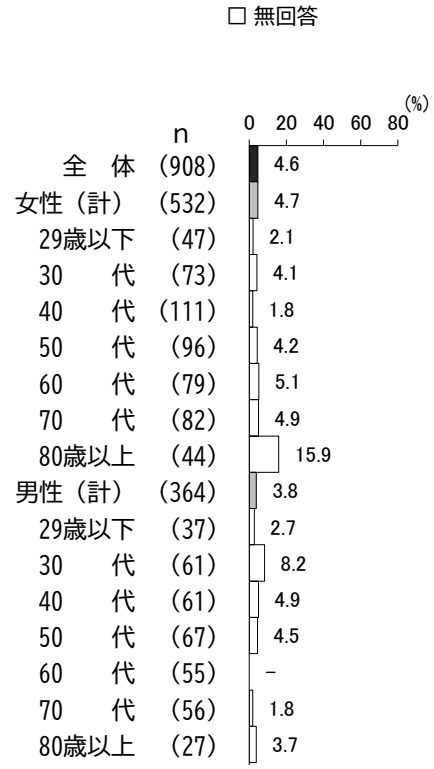


図表　男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと（全体、性別、性・年代別）②






□ 男女平等に関する情報誌や図書、資料コーナーの充実
□ 男女平等に関する活動をする団体への市民の参加促進
□ その他
□ わからない
□ 特にない
n
0 20 40 60 80 (%)
全　体 (908) 10.5 9.7 3.1 4.4 5.6
女性（計） (532) 11.1 11.3 2.8 3.9 3.2
29歳以下 (47) 10.6 6.4 6.4 4.3 6.4
30　代 (73) 16.4 11.0 4.1 4.1 2.7
40　代 (111) 9.9 8.1 3.6 4.5 1.8
50　代 (96) 12.5 13.5 3.1 4.2 1.0
60　代 (79) 5.1 7.6 1.3 – 2.5
70　代 (82) 13.4 13.4 1.2 4.9 2.4
80歳以上 (44) 9.1 22.7 – 6.8 11.4
男性（計） (364) 9.9 7.7 3.6 5.2 8.8
29歳以下 (37) 8.1 13.5 5.4 2.7 10.8
30　代 (61) 14.8 1.6 3.3 3.3 4.9
40　代 (61) 6.6 4.9 4.9 3.3 9.8
50　代 (67) 6.0 4.5 4.5 4.5 7.5
60　代 (55) 9.1 7.3 3.6 7.3 12.7
70　代 (56) 14.3 14.3 1.8 12.5 7.1
80歳以上 (27) 11.1 14.8 – – 11.1


□ 無回答
n
0 20 40 60 80 (%)
全　体 (908) 4.6
女性（計） (532) 4.7
29歳以下 (47) 2.1
30　代 (73) 4.1
40　代 (111) 1.8
50　代 (96) 4.2
60　代 (79) 5.1
70　代 (82) 4.9
80歳以上 (44) 15.9
男性（計） (364) 3.8
29歳以下 (37) 2.7
30　代 (61) 8.2
40　代 (61) 4.9
50　代 (67) 4.5
60　代 (55) –
70　代 (56) 1.8
80歳以上 (27) 3.7

（３）自由意見

問21　あなたが日ごろから男女平等について感じていることや、市の施策についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見としては、「男女平等意識」に関するものが最も多く121件、ついで「市の施策」に関するものが59件、「女性活躍」に関するものが24件、「性の多様性等について」に関するものが20件、「ワーク・ライフ・バランス」に関するものが18件、「ＤＶ・ハラスメント」に関するものが８件などとなっている。

分類	ご意見（主要な意見を一部抜粋）	性別	年代
男女平等意識について	女性には男性には無い体の機能があり、また、男性には男性の、女性には女性の脳の構造があり、思考がある。にも関わらず、不向きな事をして、相応な評価を受け「不平等」というのはおかしいと思う場面がある。平等にするために、不平等な策を講じていると思わざるを得ないし、女性が平等を盾にハラスメントを主張しすぎていると思う。	男性	10代
	差別や平等、色々意見はあると思うけど、正直なんでもいい…。「あぁそうなんだ」と楽に捉えられる様な思考を育む方が良いと思う。そういうのは人にもよるだろうけれど、経験にもよるだろうけれど、すべてを平等にし過ぎるのも良くないとも思う。	女性	10代
	性別という区別がある以上、必ずしも平等というのはできないが、男女・その他の性についての理解を深め、互いに助け合うことが大切だと思う。偏見をなくす。	男性	20代
	男女平等は進めて欲しいが、同時に男は仕事、女は家（反対も）をしたい人も否定しない施策であって欲しい。8時間働けば子を普通に養える賃金を皆がもらえて欲しい。	女性	20代
	日本は男女平等が実現していない国であるとの認識のもと、議会や会社役員、公務員の中で男女比を設定して従わせるという強制的な手法は、初期の段階としては認められると思いますが、そんな制度はいわゆる逆差別であって、あくまで初期的な短期的な手段であることを政策立案側も、それを受ける国民も理解すべきである。そうでなければ、別の差別が発生するだけだと考えます。このような大きな問題に、市政レベルで対応できることは限られると思いますが、最も重要な子どもたちの教育を司っているところで、ぜひ力を発揮していただきたいと思います。	男性	30代
	子どもが小さいため、現在仕事はしていませんが、専業主婦という存在がとても軽く見られている印象を受けます。女性が仕事をする＝男女平等ではなく、それぞれの人が自分の望んだ生活ができ、お互いその選択を批判し合わない様な社会になって欲しいです。	女性	30代
	「男女平等」は広義・広域すぎるが、具体的な場面・ケースから考えて欲しい。言葉の上での理解ではなく、実感することが、特に年配の方々の理解を助ける。そうでないと変わらない人が多そう。アンケートももっと具体的な場面を提示して、どうするのかを問う形式で良いと思います。	男性	40代
	男女平等に対しては、ほとんどの人が当たり前の様に男性優位意識を持っていることが原因。上に立つ人が男性ばかりなので、現状をそもそも問題だと思わない人が多いことも原因なのかと思う。女性の管理職を増やす必要性を感じる。	女性	40代
	小さい頃からの公共教育、家庭での姿が世の中を築くので、まずは家族の中での教育かと思ったりします。子どもがいる家庭、または婚姻したら…、どのタイミングでも今は啓発し続けることが大切なのではと思います。	男性	50代
	女性側からの、男性側からの男女平等をしっかり考えるべき。どうしても女性側からの平等というと、男性側に負担がかかる場合もあるのでは。「男性だから」と言ってばかりだと、今後は男性が困る世の中になりそうな気がします。本当の男女平等って何でしょうか。よくわかりません。	女性	50代

分類	ご意見（主要な意見を一部抜粋）	性別	年代
男女平等意識について	現在、社会で見られる男女平等のための活動や制度・施策は、結果的に男女どちらか一方に何かを求めたり負担を押し付ける、または優遇するようなものが多い。特に結果のために数字に拘った目標を設定し、それを達成させるような取り組みでは、その数字のために機会の不平等が生じており、それでは本当に平等になったとは言えない。真の男女平等とは物事に取り組んだ結果の数字が等しくなることではなく、男女問わず等しく取り組む機会があることのはずである。本当の意味での男女平等になるような施策を強く望む。	男性	60代
	まだまだ家庭内での男女平等にはなってないと考えます。これからは子どもに対して男女平等という視点で物事を女の子みたい、男の子みたいな表現がなくなっていけば良いと思います。	女性	60代
	「男女平等の推進」は「手段」であると思う。何を改善すべきか「目的」を明確にすべき。そうすると「平等」という言葉を使わず、解決できるかもしれない。今のままでは間口が広がり過ぎ、ボヤけていて、対策を絞り込めない。	男性	70代
	私の子どもの頃は明らかに男尊女卑の時代であり、女の子だからそこまでの必要はないなどと言われ、私は真っ向からその考え方に対抗し、戦って生きてきた。その時代から考えると、今の女子は自分の考えを持って、堂々と生きていける時代であり、やる気があれば力が発揮できる時代だと思っている。ところが今回のアンケートが送られてきて、何故今男女平等に対して問題とするか驚いた。どうも男女平等という言葉に引っ掛かる。人様々で個々皆違う事を認め合い、助け合い、協力し合える社会が重要。男女平等とは男も女も平等に生きる権利があるということであって、男と女は違うということを認めなくてはいけない。	女性	70代
	現在は平等になっている事に驚いてさえいます。昭和初期～戦後とはまるで別世界の様で、自分も変わらなければいけない、といつも思っています。	女性	80歳以上
ワーク・ライフ・バランスについて	育児や介護から女性が復職しやすい制度や、出産に伴う支援や保育の充実を望んでいます。上記が充実しなければ、現代日本の女性への家事負担は高いまま、改善はしづらいのではないかと思いました。	女性	20代
	保育士をしています。「子どもがいるから（育児があるから）働きたくても働けない」「仕事が決まらないと保育園に入れない」、育児で不安な中、社会で頑張りたい女性もたくさんいる様に感じます。やっと入れた園でも２～３か月以内に仕事を決めなくてはいけない。仕事先が良い環境とは保障もされていない中、不安は大きい様に思う。就労に関わらず受入れを広げれば親に余裕も生まれ、虐待も防げ、働きたい意欲にもつながり、経済も豊かになると思う。女性の活躍の機会も増えると思います。	女性	40代
	学童保育の時間を保育園並みに広げる（朝早く、そして夜遅くまで預かってもらえる）等、是非、中学入学までの子どもを抱える共働き家庭に対する支援を充実してほしい。朝の出勤が登校時間よりも早く、夜の退勤時間が下校時間よりも遅く、ひとりぼっちで家にいる子どものことが心配。	男性	40代
	ワーク・ライフ・バランスの項目にも記しましたとおり、家庭で夫の家事分担が増えればかなり楽になると思うのですが、夫の意識が変わらず苦労しています。もっと家事を手伝って欲しいし、「男（夫）は女性（妻）に暴力を多少ふるってもいい」的な考えがある様で、コロナ禍で家で過ごす時間が長い時期以降、暴力的な発言や行動が増えており、大変困っています。	女性	50代
	出産、育児という大きな仕事がある。ただそのために社会人として正規ではない仕事を選ぶ女性の多さ。仕事、家事、育児を日々こなす若い女性と共に、当たり前に家事、育児をしてくれる若い男性を育てて頂きたい。	女性	50代
女性活躍について	男女平等と言うと、女性の比率を増やすとよく言われますが、そうではなく、本人の能力に合った仕事に就けば良いのであって、数合わせの女性を多くするといった行為は必要ないと思います。極端ですが、すべて男性、すべて女性の職場があっても良いと思います。	男性	60代
	まだまだ男性優位の社会の様に思う。大臣はじめ女性を登用できない政治こそ改革すべきと思う。項目だけの取り組みとなっていないか、実現していることについては宣伝して欲しいし、知らない事ばかりである。	男性	70代
	権利だけを主張される方が多く感じます。 女性の管理職を登用されるのでしたら、転勤等も男女で平等にして欲しいと思います。ご家庭の問題もあろうかと思われますが、都合の良い時だけ権利を主張されても困ります。	女性	30代

分類	ご意見（主要な意見を一部抜粋）	性別	年代
女性活躍について	女性から見て管理職の割合や給与などで男女平等ではない、という話が中心になることが多いですが、逆に男性側からみて女性が優遇されている社会通念も多くあると思っています。そういった点を解決していくのが大事かなと思います。私くらいの世代だと家事は分担して男性が料理もする、というのがある程度普及しており、それを出来るような会社側の理解や支援、勤務時間短縮などがあれば良いと思います。	男性	40代
	例えば役員などに女性を増やそうということはよく言われている気がしますが、女性だからという理由で増やすのではなく、男女平等に有能な方を順番に選んで結果的に女性が3割になることもあると思う。男性でも女性のことを考え意見できる人もいるはず。	女性	40代
DV・ハラスメントについて	制度をどんなに充実させても家庭・会社・組織内でのことまでは手がとどきません。個人の意識が変わることが大切だと思います。お子さんについては学校教育等、人生のなかでかかわりを持つことからの影響が大きいと思うので、お子さんに関することは手厚くしてほしいです。一方で大人の意識を変えることは難しいです。困っているほうがなんとかしのいでいけるように、大きな枠組みを整えるばかりではなく、アクセスしやすい現実的なちょっとした手助けがあるとよいのではないかと思います。加害者的立場の人へは、何がその人をそうさせているのか、その人の行動や発言の根本原因を探り、事態をときほぐしていけるようなことができたらよいと思います。加害者的立場の人も実は何か困ったことを抱えていて、その反動での行動かもしれないと思うのです。そういう人の心を救うことができるとよいかもしれません。	男性	30代
	夫から週末の度にモラハラを受けて、子どもにも悪影響が出ているが、どこに相談しても解決できていない。夫は自分が正しいと思っているので、第三者から夫に間違った事をしているとはっきり伝えて欲しい。そうでない限り続くし、悪化していく。	女性	40代
	「暴力はダメ」「STOP暴力」では全く伝わらないと思います。「男女平等」だけでも伝わらないと思います。具体例を挙げて、身近に潜んでいる人権侵害に気づかせる様にしていきたいです。	女性	40代
	女性からのDVも増えているのが現実です。男性に対しても救いの場を。子どもが安心して逃げられる場を。発達障害への対策を（大人、子ども問わず）。	男性	50代
性の多様性等について	LGBTの当事者です。武蔵野市のパートナーシップ制度に感謝しています。今のところ使用する予定がなく、もしパートナーができても利用するかはわかりません（実際、法的効力がないもののため）。でも、利用することによる明確なメリットを感じたら利用するかと思います。（事業者への指導の有効性）パートナーシップの利用者が少ないのは、上記のような理由の他にも、シンプルに当事者が関係を公にすることが、まだかなりハードルが高いのも理由です。でも、制度があることで「自分の権利が社会で認められている」という空気のような安心感につながるので、ぜひ維持していただきたいです。差別禁止条例の作成もぜひご検討ください。	女性	10代
	性的マイノリティの人権は守られるべきだともちろん思うが、その情報を無闇矢鱈に知りたくないと思う私の気持ちも同じくらい尊重して欲しいと感じる。当事者達にとっては、最近の制度改正はようやくここからという気持ちなんだろうけど、私は知りたくもない事をテレビや電車の広告、スマホニュースで見たり聞いたりしているうちに、苦しくなる。知りたい人のもとにだけ届くような情報発信をお願いしたい。	女性	20代
	パートナーシップ制度を利用することの利点をもっと告知しても良いと思います。男性らしさ女性らしさという考えも尊重できるような、男性や女性らしくありたい人やそのような考えにとらわれたくない人両方が理解しあえるようになると良いです。	男性	30代
	私は武蔵野市の公立小学校、中学校に通っていましたが、教育者にこそ男女平等、性の多様性についてもっと学んでもらいたいと思っていました。学校における大人たちの行動を見て、子どもたちはジェンダーに対する価値観を学んでいきます。社会的な女性の立場、男性の立場がどのようになっているのか、学校という環境を通して学んでいくからこそ、教育機関は常に見本となる社会であるべきだと思います。	女性	40代

分類	ご意見（主要な意見を一部抜粋）	性別	年代
市の施策について	市外で働く人や学生をしている人にとって、市の男女平等施策を知るチャンスが少ないと感じています。より広くそうした施策を知ることができるよう、普及・啓発の方法が変わると良いのではないかと思います。	女性	20代
	ホームページ等で市の施策を見やすく、わかりやすく伝えて欲しい。	男性	30代
	相談窓口を増やす、設けることで、どの程度効果がある（あった）か知りたい。私自身も含め、相談に至るまでにまず自身の人権感覚が鈍いです。自分がこれまでに言われたこと、されたことは人権侵害だという感覚を人々が感じ取れる様にする必要があると感じます。私は教育関係者で比較的敏感な方だとは思いますが、異業種の方々はどうなのか気になります。	女性	30代
	武蔵野市でも色々な取り組みをされていることを今回初めて知りました。是非広めて、皆が知れて気楽に相談できたら変わっていく事も多いと思います。	女性	40代
	どのような施策を行おうとしても、議員の多数が高齢男性である場合、変えるのは難しいように感じる。ある程度は仕方のないことかもしれないが、少しでも早くこれらのことが解消できるよう、さまざまな取り組みを市には行って欲しい。特に10～30代に向けて効果的な取り組みは何か、考えて行って欲しい。	男性	50代
	市報むさしの、市ホームページ以外で市の施策の情報が得られる様に市民、市来訪者に向けた街中での広報宣伝の場を増やす。	男性	60代

第３章　調査票及び集計結果

※集計結果の数字は％をあらわしている

令和４年度 武蔵野市男女平等に関する意識調査

日頃から、武蔵野市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

武蔵野市では、すべての人が互いに人権を尊重し、性別等にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮して、生涯にわたり、いきいきと暮らせるまちを目指し、男女平等を推進する施策に取り組んでいます。

来年度、「武蔵野市第五次男女平等推進計画」の策定を予定しておりますが、その基礎資料とするため、このたび、「武蔵野市男女平等に関する意識調査」を実施いたします。

調査の対象者は、住民基本台帳から無作為に令和４年８月１日現在、満18歳以上の市民の方2,000人を選ばせていただきました。調査結果はすべて統計的に処理いたしますので、個々の方のご回答内容や個人情報が特定されることは一切ございません。ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

男女平等社会の実現に向けて、ぜひ、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和４年８月　　武 蔵 野 市 長　松下 玲子

【回答のしかた】　次の２つの方法からいずれか1つを選び回答してください。

１．調査票（この冊子）に直接記入し郵送（返送用封筒を同封しております。）
　→下記＜調査票記入上の注意事項＞をご覧いただきご記入ください。

２．パソコン・タブレット・スマートフォンでオンライン回答
　→別紙「インターネットによる回答方法」をご覧いただきご回答ください。

＜調査票記入上の注意事項＞

- ◆ 封筒の宛名のご本人がお答えください。
- ◆ ご記入は、濃いえんぴつまたはボールペン・万年筆でお願いいたします。
- ◆ この調査は、令和４年８月現在の状況でお答えください。
- ◆ お答えは、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、（　　）内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- ◆ お答えは、設問ごとに（○は１つ）（○はいくつでも）などと指定されていますので、ご確認のうえご回答ください。
- ◆ 設問によっては、回答していただく方が限られる場合があります。注意書きに沿ってお答えください。

ご記入が済みました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、

９月２１日（水）までに ご投函ください。

お問合せ先
武蔵野市　市民部　市民活動推進課　男女平等推進センター 電　話：０４２２－３７－３４１０（直通） ＦＡＸ：０４２２－３８－６２３９

※紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません。
※回答の重複を避けるためにIDを付番しています。個人を特定することはありません。
※「紙の調査票によるご回答」と「インターネットによるご回答」の両方をしていただいた場合、前者が優先されます。

ID:

１．あなた自身について

Ｆ１　自認する性別

１．男性　40.1　　２．女性　58.8　　３．それ以外　0.1　　４．回答しない 0.4　　無回答　0.6

Ｆ２　年齢

	全体	女性	男性
１．18～19 歳	0.8	0.9	0.5
２．20～24 歳	3.6	3.2	4.1
３．25～29 歳	5.0	4.7	5.5
４．30～34 歳	7.5	6.2	9.6
５．35～39 歳	7.5	7.5	7.1
６．40～44 歳	9.3	9.4	9.1
７．45～49 歳	9.8	11.4	7.7
８．50～54 歳	7.8	8.2	7.4
９．55～59 歳	10.1	9.7	11.0
10．60～64 歳	7.7	7.7	8.0
11．65～69 歳	7.2	7.1	7.1
12．70～74 歳	8.8	8.4	9.6
13．75～79 歳	6.4	6.9	5.8
14．80 歳以上	7.9	8.2	7.4
無回答	0.7	0.4	－

Ｆ３　職業

	全体	女性	男性
１．自営業主（家族従業員を含む）、自由業	11.0	8.4	14.6
２．正社員、正職員	37.2	26.6	53.6
３．パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	15.6	22.1	6.3
４．その他	2.2	1.9	2.7
５．学生	3.1	2.6	3.6
６．家事専業	14.4	24.5	－
７．無職	15.6	13.5	19.0
無回答	0.8	0.4	0.3

Ｆ４　結婚の有無

	全体	女性	男性
１．未婚	24.2	23.2	25.3
２．結婚している（事実婚、パートナー含む）	66.0	64.2	69.8
３．離別・死別	8.8	12.2	4.1
無回答	1.0	0.4	0.8

Ｆ４で「２　結婚している（事実婚、パートナー含む）」と回答した方にお聞きします。

Ｆ４－１　配偶者（事実婚含む）・パートナーの現在の就労状況

	全体	女性	男性
１．共働き（パート・アルバイトを含む）である	50.1	50.1	50.4
２．共働きではない	46.7	45.5	48.4
無回答	3.2	4.4	1.2

Ｆ５　世帯構成

	全体	女性	男性
１．ひとり暮らし	19.4	20.6	17.3
２．自分と配偶者(事実婚含む)・パートナー	35.0	32.0	40.1
３．自分と子（２世代世帯）	31.3	33.0	29.7
４．自分と親（２世代世帯）	6.8	5.6	8.8
５．自分と子と孫（３世代世帯）	1.1	1.7	0.3
６．親と自分と子（３世代世帯）	1.9	2.1	1.4
７．祖父母と親と自分（３世代世帯）	0.9	0.9	0.5
８．その他	2.2	3.2	0.8
無回答	1.4	0.9	1.1

２．日頃の生活について

問１　あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護をしていますか。また、している場合は、どの程度時間をかけていますか。（○はそれぞれ１つずつ）

【ア　育児】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

	全体	女性	男性
１．している	22.1	25.0	18.4
２．していない	33.0	32.7	33.8
３．該当しない（育児の対象となる家族がいない）	40.6	37.4	45.6
無回答	4.2	4.9	2.2

		1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答
1日の平均時間	全体	16.4	16.9	17.9	8.0	11.4	3.5	2.5	4.0	17.9	1.5
	女性	9.8	10.5	15.0	8.3	14.3	4.5	3.8	6.0	27.1	0.8
	男性	29.9	29.9	22.4	7.5	6.0	1.5	－	－	－	3.0

【イ　介護】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

	全体	女性	男性
１．している	7.7	9.2	5.2
２．していない	46.6	49.2	43.4
３．該当しない（介護の対象となる家族がいない）	38.8	33.6	46.7
無回答	6.9	7.9	4.7

		1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答
1日の平均時間	全体	38.6	18.6	18.6	4.3	2.9	5.7	2.9	－	8.6	－
	女性	36.7	16.3	22.4	6.1	－	6.1	2.0	－	10.2	－
	男性	47.4	26.3	5.3	－	10.5	5.3	－	－	5.3	－

【ウ　家事】（食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れなど）

	全体	女性	男性
１．している	81.7	86.8	75.0
２．していない	11.0	5.3	19.2
無回答	7.3	7.9	5.8

		1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	無回答
1日の平均時間	全体	19.9	27.1	22.1	13.3	7.1	3.0	2.6	0.5	3.9	0.4
	女性	7.4	21.0	26.0	18.8	11.0	4.8	3.9	0.9	5.8	0.4
	男性	41.8	37.7	15.4	4.0	0.7	－	－	－	－	0.4

問２　あなたは、職業以外の社会活動、地域活動（ボランティア、NPO、コミュニティセンター、PTA、趣味・サークル・スポーツ等の活動）に参加していますか。（○は１つ）

	全体	女性	男性
１．参加している	32.5	35.2	29.1
２．参加したいができていない	32.9	34.0	31.6
３．参加するつもりがない	33.3	29.7	38.5
無回答	1.3	1.1	0.8

問２で「２.参加したいができていない」と回答した方にお聞きします。

問２-１　あなたが参加できていないのはなぜですか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．仕事が忙しいから	50.5	45.3	58.3
２．参加方法がわからない、きっかけがないから	33.8	28.2	42.6
３．経済的余裕がないから	16.1	17.7	12.2
４．どのような活動があるかわからないから	30.1	29.3	32.2
５．家事や育児・介護などが忙しいから	26.1	32.0	15.7
６．一緒に活動する仲間がいないから	19.4	16.6	23.5
７．近くに活動の場がないから	12.0	12.7	11.3
８．参加したいと思う活動がないから	11.4	11.6	11.3
９．家族の理解や協力がないから	2.7	4.4	－
10．その他	14.7	18.2	9.6
無回答	－	－	－

３．ワーク・ライフ・バランスについて

＊ワーク・ライフ・バランスとは…
「仕事と生活の調和」と訳され、やりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。

問３　あなたは、性別にかかわらず、すべての人がともに働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．長時間労働を是正する	42.5	39.5	47.5
２．短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる	62.6	66.0	58.8
３．ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる	45.2	46.4	44.5
４．働くことについて家族や職場の理解と協力がある	48.3	52.3	42.6
５．育児・介護休業時の経済的補償を充実する	41.2	39.8	43.4
６．育児や介護で退職しても、同じ条件で復職できる制度がある	39.5	40.6	38.5
７．育児や介護について職場の理解と協力がある	50.3	53.4	47.0
８．保育サービスの充実	46.1	47.0	46.2
９．介護サービスの充実	43.9	44.5	44.0
10．育児や介護について地域で助け合う	21.8	20.9	23.9
11．再就職・再チャレンジがしやすくなる	43.2	44.2	42.0
12．「男は仕事、女は家事・育児」という社会通念を改める	43.7	47.9	37.6
13．その他	5.8	4.7	7.4
14．わからない	1.7	1.1	2.5
15．特にない	1.4	1.3	1.6
無回答	2.8	3.2	1.6

問４　あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

(1)あなたの「理想」に近いものを選んで回答欄に数字をご記入ください。(記入は1つ)

	全体	女性	男性
１．「仕事」を優先	1.2	0.8	1.9
２．「家庭生活」を優先	6.9	7.5	6.3
３．「個人の生活」を優先	11.0	11.5	10.4
４．「仕事」と「家庭生活」を優先	10.7	8.1	14.6
５．「仕事」と「個人の生活」を優先	6.6	5.5	8.2
６．「家庭生活」と「個人の生活」を優先	19.6	20.1	18.4
７．「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて	36.7	38.7	34.3
無回答	7.3	7.9	5.8

(2)あなたの「現実」に近いものを選んで回答欄に数字をご記入ください。(記入は1つ)

	全体	女性	男性
１．「仕事」を優先	24.7	18.4	34.1
２．「家庭生活」を優先	18.6	26.1	8.2
３．「個人の生活」を優先	5.2	5.1	4.9
４．「仕事」と「家庭生活」を優先	20.8	21.4	20.3
５．「仕事」と「個人の生活」を優先	6.6	5.8	7.7
６．「家庭生活」と「個人の生活」を優先	8.7	9.6	7.1
７．「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて	7.4	4.9	11.0
無回答	8.0	8.6	6.6

問４で理想と現実が異なっている方にお聞きします。

問４-１　理想に近づくにはどうしたら良いか、あなたのお考えがあればご記入ください。
（なければ記入は不要です）

問５　あなたは、男性が家事等（家事・育児・介護・地域活動）に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．男性自身の抵抗感をなくす	47.5	54.7	37.4
２．男性の家事等への参加について女性の抵抗感をなくす	19.7	21.6	17.0
３．夫婦や家族でコミュニケーションをよくとる	57.5	58.1	56.9
４．年配者などまわりの人が、当事者の考え方を尊重する	26.2	31.4	18.7
５．男性の家事等について社会的な評価を高める	33.3	37.0	28.6
６．ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる	35.1	35.3	35.7
７．長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができる	52.4	53.8	51.4
８．啓発や、相談窓口の設置、研修を行う	9.5	9.4	9.9
９．男性の仲間作り	15.0	16.4	12.9
10．その他	7.4	7.0	7.7
11．わからない	2.2	2.1	2.5
12．特にない	3.0	1.9	4.4
無回答	2.1	2.3	1.6

問６　あなたは、職場や地域の団体などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．必要な知識や経験を持つ女性が少ない	20.9	17.1	26.4
２．女性自身がリーダーになることを希望しない	30.7	27.6	34.6
３．職場や地域の団体のメンバーが女性のリーダーを望まない	26.4	29.7	22.0
４．顧客など外部の関係者が女性のリーダーを望まない	20.4	25.9	12.4
５．長時間労働の改善が十分ではない	38.5	42.9	33.0
６．管理職になると広域異動が増える	20.5	23.1	16.5
７．家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではない	53.9	61.8	42.6
８．保育や介護の公的支援が十分ではない	43.5	45.5	41.8
９．その他	6.4	5.1	8.2
10．わからない	5.3	5.6	4.7
11．特にない	2.8	1.9	3.8
無回答	2.9	3.4	1.9

４．男女平等意識について

問７　あなたは、次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。（○はそれぞれ１つずつ）

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
ア．家庭生活の場で	全体	9.1	39.9	24.2	11.1	1.9	9.8	4.0
	女性	12.4	46.4	17.9	8.6	0.8	9.2	4.7
	男性	4.1	30.8	34.1	14.8	3.6	10.2	2.5
イ．職場で	全体	15.9	45.3	18.9	3.6	1.3	9.9	5.1
	女性	19.0	46.2	15.0	1.5	0.8	11.3	6.2
	男性	11.5	44.2	24.7	6.6	2.2	7.7	3.0
ウ．学校教育の場で	全体	2.3	18.5	43.6	3.2	1.0	26.2	5.2
	女性	2.6	19.0	44.2	1.7	0.2	25.9	6.4
	男性	1.9	17.9	43.1	4.9	2.2	26.9	3.0
エ．地域社会（町会、自治会など）で	全体	8.6	29.0	25.1	3.5	0.4	28.9	4.5
	女性	9.6	32.7	22.2	3.2	0.4	26.5	5.5
	男性	7.4	23.4	29.4	3.8	0.5	32.7	2.7
オ．政治の場で	全体	49.9	31.8	4.4	1.8	0.6	7.5	4.1
	女性	55.8	29.9	1.5	0.9	0.4	7.0	4.5
	男性	42.0	34.3	8.8	2.5	0.8	8.5	3.0

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
カ．法律や制度の上で	全体	17.6	34.5	22.8	4.7	0.9	14.8	4.7
	女性	22.6	36.3	16.5	2.6	0.2	16.2	5.6
	男性	10.2	32.7	32.1	7.7	1.6	12.9	2.7
キ．社会通念・習慣・しきたりなどで	全体	31.2	48.8	6.9	2.0	0.6	7.0	3.5
	女性	37.4	45.5	4.5	1.1	0.4	7.3	3.8
	男性	22.0	54.7	10.4	3.0	0.8	6.3	2.7
ク．社会全体で	全体	18.2	58.3	8.9	2.4	1.0	7.4	3.9
	女性	21.6	58.8	5.6	1.5	0.4	7.9	4.1
	男性	12.9	58.8	14.0	3.3	1.9	6.0	3.0

問８　あなたは、次にあげるような考え方について、どのように思いますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
ア．夫は働き、妻は家庭を守るべきである	全体	1.7	9.5	20.4	21.7	44.1	2.8
	女性	2.1	6.4	23.1	19.7	46.1	2.6
	男性	1.1	13.5	16.5	24.7	41.8	2.5
イ．男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい	全体	5.6	16.4	21.1	19.9	33.8	3.1
	女性	2.8	13.2	20.1	22.6	38.3	3.0
	男性	9.9	20.9	22.0	16.8	27.7	2.7
ウ．希望する者には夫婦別姓を認めてもよい	全体	50.8	16.7	16.0	6.8	6.8	2.9
	女性	53.0	15.6	15.8	7.0	5.8	2.8
	男性	47.8	19.0	16.2	6.6	8.0	2.5
エ．男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい	全体	39.0	19.2	20.7	9.1	8.9	3.1
	女性	43.2	18.8	21.6	6.6	6.6	3.2
	男性	33.2	20.3	19.8	12.1	12.1	2.5

問９　あなたは、児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思いますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ	55.7	57.0	54.4
２．ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ	72.5	76.5	67.3
３．命の大切さや性の多様性など人権尊重の視点に立った性教育を充実させる	58.3	63.7	50.0
４．家庭や家族の多様なありかたについて学ぶ	45.0	49.6	38.7
５．ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)について学ぶ	45.7	47.0	44.8
６．学校生活において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	59.0	62.6	54.1
７．性に関する相談機能の充実	29.5	32.7	25.3
８．デートＤＶ（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者や被害者となることを防ぐための教育を早期から行う	40.5	44.9	34.6
９．性産業に巻き込まれないための教育を早期から行う	34.6	37.2	31.0
10．望まない妊娠や性感染症などを防ぐための教育を早期から行う	50.4	55.8	42.9
11．子どもの健全な育成に向けてメディア・リテラシーの能力を高める	35.0	33.5	37.6
12．教職員を対象とした男女平等の研修を実施する	37.7	38.7	36.3
13．管理職（校長や副校長）に女性を増やしていく	31.7	34.8	27.7
14．その他	5.4	3.9	7.4
15．わからない	2.5	1.7	3.6
16．特にない	0.8	0.2	1.6
無回答	3.1	3.4	2.2

問 10　あなたは、性別にとらわれない災害対策を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．防災分野の委員会などに、より多くの女性が参加できるようにする	40.6	41.0	40.9
２．災害対応や復興に女性の視点が生かされるよう、女性リーダーを育成する	47.7	50.6	44.0
３．災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等の視点を入れる	41.1	42.5	39.8
４．避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする	72.4	79.3	62.6
５．女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する	46.3	51.7	37.9
６．消防職員・消防団隊員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分配置されるよう、採用や登用を含めて留意する	48.9	50.9	46.7
７．その他	2.4	2.4	2.5
８．わからない	5.2	3.2	7.7
９．特にない	2.8	1.7	4.4
無回答	3.0	3.0	2.5

５．コロナ禍での行動変化について

問11　あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大により、生活や行動に次のような変化がありましたか。（○はそれぞれ１つずつ）

		とても増えた	少し増えた	どちらともいえない	少し減った	とても減った	無回答
ア．仕事の負担	全体	10.1	18.7	49.7	8.8	3.6	9.0
	女性	10.3	18.4	50.9	6.8	3.4	10.2
	男性	10.2	19.2	47.8	12.1	3.8	6.9
イ．収入	全体	0.9	4.3	61.9	16.0	7.9	9.0
	女性	0.8	3.2	60.9	15.6	9.2	10.3
	男性	1.1	6.0	64.0	16.2	6.0	6.6
ウ．精神的な不安やイライラすること	全体	15.3	40.4	32.5	5.2	1.4	5.2
	女性	17.7	41.5	29.5	4.3	1.5	5.5
	男性	12.1	38.5	37.1	6.3	1.4	4.7
エ．育児・介護の負担	全体	4.2	13.2	66.9	1.8	1.0	13.0
	女性	6.0	13.2	61.8	2.1	1.5	15.4
	男性	1.6	13.2	74.5	1.4	0.3	9.1
オ．家事（食事の準備や掃除等）の負担	全体	7.0	24.6	57.7	3.2	1.0	6.5
	女性	11.1	26.7	50.4	3.4	1.5	7.0
	男性	1.4	21.7	67.9	3.0	0.3	5.8

		とても悪化した	少し悪化した	どちらともいえない	少し良くなった	とても良くなった	無回答
カ．家族との関係	全体	1.8	7.8	66.1	13.2	4.5	6.6
	女性	2.4	7.9	65.0	13.2	4.5	7.0
	男性	0.5	7.1	67.9	13.7	4.7	6.0

６．性の多様性について

問 12　あなたは、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなどで悩んだことがありますか。（○は１つ）

	全体	女性	男性
１．ある	3.3	3.2	2.7
２．ない	93.7	93.6	94.8
無回答	3.0	3.2	2.5

問 13　あなたは、性の多様性を認め合う社会をつくるために、市にどのような施策を期待しますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．市民への啓発活動	21.5	19.9	24.2
２．学校における性の多様性を理解するための教育	53.7	56.8	49.5
３．行政職員や教職員の意識啓発	35.0	35.7	34.1
４．事業所等への啓発活動	15.9	15.4	16.5
５．性自認・性的指向に関する相談窓口の充実	28.9	31.0	25.8
６．パートナーシップ制度の普及	37.7	39.8	34.3
７．性的マイノリティやその周囲の人が安心して集まれる場	27.3	29.7	24.2
８．性別にかかわらず利用できる施設・設備(トイレ・更衣室など)を整備する	43.8	47.6	38.2
９．性的マイノリティに関する医療サポートの充実	27.3	30.3	22.5
10．その他	3.3	2.4	4.4
11．わからない	7.9	8.8	6.9
12．特にない	8.0	6.6	10.2
無回答	3.7	3.8	3.3

＊性の多様性とは…
身体的性別(身体の性)、性自認(自認する性)、性的指向(好きになる性)、性表現(表現する性)の組み合わせは多様であること。

＊性的マイノリティーとは…
「身体的性別と性自認が一致し、性的指向が異性」というパターンに当てはまらない人々の総称。

＊パートナーシップ制度(武蔵野市)とは…
性別等にかかわりなく、お互いを人生のパートナーとして、日常生活において、互いに協力し、及び扶助し合うことを約した２人が、安心して暮らし続けられることを目的とした制度。届出に基づいて、市長がパートナーシップ届受理証を交付する。

７．暴力やハラスメントについて

問 14　あなたは、親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。（○はそれぞれの数字に１つずつ）

また、これまでに配偶者（事実婚や元配偶者を含む）や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（○はそれぞれのアルファベットに１つずつ）

		どう思うか				されたことがあるか			
		どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答	何度もある	1、2度ある	まったくない	無回答
ア．平手で打つ	全体	71.4	22.0	0.9	5.7	3.7	13.4	77.4	5.4
	女性	74.8	18.6	0.6	6.0	2.6	12.4	79.1	5.8
	男性	67.0	26.6	1.4	4.9	5.5	14.8	75.3	4.4
イ．大声でどなる	全体	36.7	53.3	3.9	6.2	17.1	27.5	49.8	5.6
	女性	41.9	49.1	2.6	6.4	17.7	28.2	48.3	5.8
	男性	29.1	59.3	5.8	5.8	16.2	27.2	51.9	4.7
ウ．外出などを制限する	全体	45.7	41.1	6.8	6.4	4.1	8.7	81.6	5.6
	女性	48.1	39.7	5.6	6.6	4.3	9.2	80.3	6.2
	男性	42.0	43.4	8.5	6.0	3.8	8.0	84.1	4.1
エ．交友関係や電話・メールを細かく監視する	全体	56.5	32.0	4.8	6.6	2.8	6.5	84.9	5.8
	女性	61.5	28.4	3.4	6.8	3.0	6.4	83.8	6.8
	男性	49.7	37.1	7.1	6.0	2.5	6.9	86.5	4.1
オ．何を言っても無視する	全体	53.0	34.8	5.6	6.6	6.2	18.7	69.6	5.5
	女性	55.8	32.5	5.1	6.6	7.0	19.0	68.0	6.0
	男性	49.2	37.6	6.6	6.6	4.9	19.0	72.0	4.1
カ．相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊や性感染症予防に協力しない	全体	82.2	9.9	1.4	6.5	1.8	7.0	85.7	5.5
	女性	83.8	8.3	1.1	6.8	2.8	9.6	81.6	6.0
	男性	80.2	12.1	1.9	5.8	0.3	3.0	92.3	4.4
キ．なぐるふりをしておどす	全体	70.4	20.3	2.9	6.5	3.1	7.9	83.5	5.5
	女性	75.0	16.2	2.1	6.8	2.8	7.5	83.6	6.0
	男性	64.3	26.1	3.8	5.8	3.3	8.8	83.5	4.4
ク．「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう	全体	75.0	16.9	1.7	6.5	5.1	9.1	80.4	5.4
	女性	79.9	12.2	0.9	7.0	5.8	9.8	78.6	5.8
	男性	68.1	23.6	2.7	5.5	4.1	8.5	83.0	4.4
ケ．生活費を十分に渡さない	全体	65.5	24.3	3.6	6.5	2.3	4.2	88.1	5.4
	女性	69.0	21.4	2.6	7.0	3.2	5.3	85.7	5.8
	男性	61.3	28.0	5.2	5.5	1.1	2.7	91.8	4.4
コ．SNSやメールなどを使った誹謗中傷、嫌がらせ等の行為	全体	84.8	6.8	1.8	6.6	1.0	3.5	89.5	5.9
	女性	86.5	5.3	1.5	6.8	0.9	3.4	89.3	6.4
	男性	82.7	9.1	2.2	6.0	1.1	3.8	90.1	4.9

問 15　あなたは、ハラスメントを受けた経験がありますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある	19.1	28.4	5.8
２．モラル・ハラスメントを受けたことがある	24.9	26.7	22.8
３．マタニティ（パタニティ）・ハラスメントを受けたことがある	2.9	4.5	0.5
４．性的マイノリティに関するハラスメントを受けたことがある	1.1	0.8	1.4
５．その他	5.0	4.1	6.3
６．受けた経験はない	55.3	48.7	64.8
無回答	5.9	6.2	5.2

問14で「ＡまたはＢ」といずれかの項目で回答した方、問15で「１から５」のいずれかを回答した方にお聞きします。

問 16　あなたが受けた暴力やハラスメントについて、どこか（誰か）に相談しましたか。（○は１つ）

	全体	女性	男性
１．相談した	17.0	21.8	8.6
２．相談しなかった	66.7	62.7	73.4
無回答	16.3	15.5	18.0

問16で「２．相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

問 16－１　相談しなかった理由としてあなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．相談するほどのことではないと思った	49.0	47.4	51.5
２．相談しても無駄だと思った	32.3	32.2	33.1
３．どこに相談してよいのかわからなかった	18.2	20.0	15.3
４．相談する人がいなかった	16.7	17.0	15.3
５．他人を巻き込みたくなかった	9.8	10.9	8.0
６．恥ずかしくて誰にも言えなかった	6.8	9.1	3.7
７．世間体が悪いと思った	4.0	3.9	4.3
８．周りの人に知られたくなかった	8.3	10.4	5.5
９．自分にも悪いところがあると思った	17.9	17.8	18.4
10．自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った	20.5	20.9	19.6
11．暴力だとは認識していなかった	14.1	17.0	10.4
12．子どもに危害が及んだり、仕返しを受けると思った	1.0	1.3	0.6
13．その他	6.3	6.5	6.1
無回答	5.1	4.3	6.1

問 17　あなたは、下記の相談窓口などを知っていますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．女性総合相談（男女平等推進センター）	9.8	12.0	6.6
２．女性法律相談（男女平等推進センター）	7.4	8.8	5.2
３．むさしのにじいろ相談（男女平等推進センター）	4.5	3.9	5.2
４．法律相談（市民活動推進課）	32.7	33.6	31.0
５．人権相談（市民活動推進課）	16.0	14.8	17.6
６．配偶者等からの暴力に関する相談（子ども家庭支援センター）	11.6	14.5	7.7
７．配偶者等からの暴力に関する相談（東京ウイメンズプラザ）	8.3	10.3	4.9
８．男性のための悩み相談（東京ウイメンズプラザ）	1.9	1.7	2.2
９．警察	60.8	60.9	60.4
無回答	21.7	20.3	23.9

問 18　あなたは、配偶者間での暴力（ＤＶ）やデートＤＶの対策や防止のために、武蔵野市の施策として何が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする	47.1	47.6	47.0
２．相談窓口を案内するカードをトイレなど手に取りやすい場所に設置する	29.6	34.2	23.4
３．ＤＶ被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する	46.1	49.8	41.2
４．被害の実態や被害者の支援策を多言語で周知する	22.4	22.4	22.5
５．被害者の自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援など）を行う	51.4	57.3	44.0
６．被害者支援に携わる人（警察、医師、相談員など）の意識向上を図る	43.6	45.7	41.5
７．加害者に再発防止教育を行う	33.7	35.3	31.9
８．学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	38.8	41.7	34.9
９．親しい間柄でも暴力は人権侵害であるとの意識を啓発する	46.5	49.8	42.3
10．その他	4.1	3.8	4.7
11．わからない	6.2	4.9	7.7
12．特にない	3.3	2.1	5.2
無回答	4.2	4.5	3.3

８．市の施策について

問 19　あなたは、次の言葉や武蔵野市の取り組みを知っていますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

		内容まで一応知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
ア．武蔵野市男女平等の推進に関する条例	全体	1.5	30.1	63.7	4.7
	女性	0.9	31.6	62.0	5.5
	男性	1.9	28.3	66.5	3.3
イ．武蔵野市第四次男女平等推進計画	全体	1.2	12.4	81.2	5.2
	女性	0.9	13.2	79.9	6.0
	男性	1.4	11.5	83.5	3.6
ウ．武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」	全体	1.2	14.0	80.0	4.8
	女性	1.1	15.8	77.6	5.5
	男性	1.1	11.5	83.8	3.6
エ．男女平等推進情報誌『まなこ』	全体	5.6	13.9	75.4	5.1
	女性	6.8	17.3	70.3	5.6
	男性	3.6	9.3	83.5	3.6
オ．武蔵野市パートナーシップ制度	全体	4.1	25.1	65.6	5.2
	女性	3.8	27.4	62.6	6.2
	男性	4.4	21.7	70.6	3.3
カ．配偶者暴力防止法	全体	2.8	16.3	75.7	5.3
	女性	2.6	18.2	72.9	6.2
	男性	2.7	13.5	80.2	3.6
キ．ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	全体	14.9	20.8	58.8	5.5
	女性	12.6	21.2	59.6	6.6
	男性	18.7	20.3	57.4	3.6

問 20　あなたは、男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。（○はいくつでも）

	全体	女性	男性
１．男女平等に関する講習会や学習機会の充実	18.4	16.5	20.9
２．男女平等に関する相談窓口の充実	29.3	29.3	29.4
３．男性のための悩み相談	17.5	17.7	16.8
４．男女平等に関する情報誌や図書、資料コーナーの充実	10.5	11.1	9.9
５．女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援	39.4	46.8	29.1
６．「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普及・啓発	23.8	24.2	23.4
７．保育・介護制度の充実	50.2	57.3	40.4
８．女性の生涯を通じた健康支援	22.5	27.1	15.9
９．ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実	29.0	28.8	29.7
10．男性に向けた男女平等に関する啓発	21.8	23.1	19.8
11．地域コミュニティでの男女平等の推進	16.6	15.0	19.5
12．防災活動・震災準備での男女平等の推進	21.3	21.6	20.9
13．学校での男女平等意識を育てる教育の推進	45.2	49.8	38.7
14．配偶者間の暴力（ＤＶ）への対策	31.1	32.0	30.5
15．市の審議会などへの女性の参加推進	20.9	23.1	17.9
16．性の多様性の理解促進・支援体制の整備	24.3	25.8	22.3
17．男女平等に関する活動をする団体への市民の参加促進	9.7	11.3	7.7
18．その他	3.1	2.8	3.6
19．わからない	4.4	3.9	5.2
20．特にない	5.6	3.2	8.8
無回答	4.6	4.7	3.8

問 21　あなたが日ごろから男女平等について感じていることや、市の施策についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました。

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

切手を貼らずに、**９月２１日（水）**までに、ポストに投函してください。

紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません

武蔵野市男女平等に関する意識調査報告書
令和５(2023)年３月
編集・発行：武蔵野市市民部市民活動推進課

武蔵野市立男女平等推進センター
〒180-0022　東京都武蔵野市境２丁目３番７号
電話　０４２２－３７―３４１０